このたびは、スズキ ハスラー を
お買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 「**必読！ 安全なドライブのために**」は、とくに重要な項目です。しっかりお読みください。
- 本書では、次の記号を使用しています。
  ⚠警告 、 **⚠注意** 、 **注 記** 、 **アドバイス** は、とくにしっかりお読みください。

⚠警告	**取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害につながるおそれがある内容です。**
⚠注意	**取扱いを誤ると、傷害につながるおそれがある内容です。**
注 記	**取扱いを誤ると、物的損害につながるおそれがある内容です。**
アドバイス	お車を使ううえで知っておいていただきたい、または知っておくと便利な内容です。

- イラストの中で「✕」または「⃠」の記号があるときは、図示されている行為の禁止を示しています。

- 保証や点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。本書とあわせてお読みください。
- 本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車につけてお渡しください。
- 限定車の装備品や、スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。

本書の見かた

操作説明（3章～7章）の基本的な読みかたについて説明しています。

運転する前に/各部の調節

ヘッダー
ページの内容を案内しています。

タイトル
階層により区別しています。

チルトステアリング

タイプ別装備

タイプ別装備
お車のグレードなどにより装備の有無が異なる事を示しています。

ハンドルの高さ調節

参照先
関連する内容が記載されているページを案内しています。

→ **2-11 ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）**

1 ハンドルの固定を解除します。
- 片手でハンドルをささえながら、ハンドル下のレバーを押し下げます。

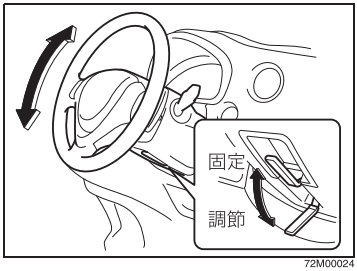
2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置に調節します。

3 調節後は、ハンドルを固定します。
- その位置でハンドルを押さえたまま、レバーをもとの位置まで確実にもどします。

3

章番号
各章の番号を案内しています。

操作要領
装備の取扱いかたなどを説明しています。



⚠注意

調節後はハンドルを上下にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

警告・注意・注記・アドバイス
前ページをお読みください。

お知りになりたいことをさがすときは

次のような方法で検索されますと、すばやくさがせます。

■ タイトルからさがす

- ♦ 総合目次
- ♦ 各章のはじめの目次
- ♦ ヘッダー

■ 取り付け位置、警告灯・表示灯からさがす

- ♦ イラスト目次 → **1-2ページ**

■ ブザー音からさがす

- ♦ 警告ブザーが鳴ったときは → **1-16ページ**

■ 名称からさがす

- ♦ さくいん → **9-1ページ**

■ 4WD車特有の記載をさがす

- ♦ 4WD車を運転するときは → **2-31ページ**
- ♦ タイヤチェーン → **6-17ページ**
- ♦ けん引してもらうときは → **7-33ページ**

■ オイルや、交換部品をさがす

- ♦ お車との上手なつきあいかた → **6-1ページ**
- ♦ 万一のとき → **7-1ページ**
- ♦ サービスデータ → **8-1ページ**

■ よくあるご質問（Q & A）からさがす

- ♦ よくあるご質問（Q & A） → **1-24ページ**

ご愛車に関するメモ

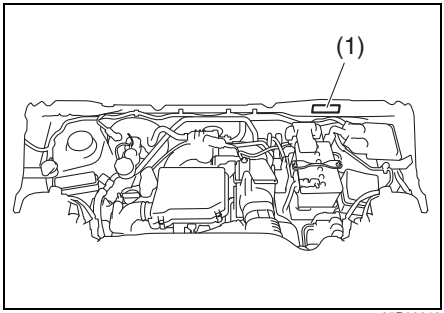
記入される記号・番号は、車検証、IDラベルをご覧ください。

ご　愛　車　の　メ　モ	
車名および車両型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	R06A型
車体色記号	
機種記号	
トランスミッション	□マニュアルトランスミッション □オートマチックミッション(※)
ナンバープレート（車両番号）	
ご購入年月日	年　月　日

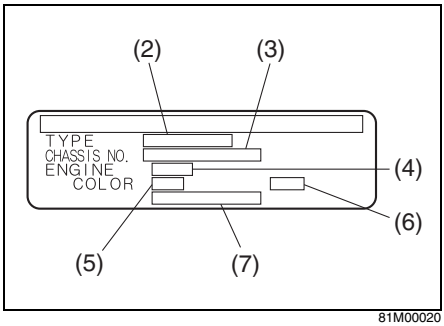
※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

IDラベル（1）

エンジンルームに貼付してあります。



65P00010



81M00020

(2) 車両型式　　(3) 車台番号
(4) エンジン型式　(5) 車体色記号
(6) 車体色と内装色の組合せコード
(7) 機種記号

総 合 目 次

1 クイックガイド

イラスト目次 ····· 1-2
警告ブザーが鳴ったときは ····· 1-16
よくあるご質問（Q & A） ····· 1-24

2 必読！安全なドライブのために

必読！ 安全なドライブのために ····· 2-2

3 運転する前に

ドアの開閉 ····· 3-2
警報装置 ····· 3-17
ウインドーの開閉 ····· 3-20
各部の調節 ····· 3-24
シートの調節 ····· 3-30
シートベルト ····· 3-40
SRSエアバッグ ····· 3-46
お子さま用シート ····· 3-54
メーター ····· 3-64
スイッチの使いかた ····· 3-103

4 運転するときは

エンジン始動・停止 ····· 4-2
パーキングブレーキ ····· 4-14
オートマチック車 ····· 4-16
チェンジレバー ····· 4-26
ABS ····· 4-27

ESP® ····· 4-32
運転支援機能 ····· 4-41
アイドリングストップシステム ····· 4-52

5 装備の取扱い
主な装備 ····· 5-2
エアコン、ヒーター ····· 5-23
オーディオ ····· 5-38

6 お車との上手なつきあいかた
お手入れ ····· 6-2
寒冷時の取扱い ····· 6-12

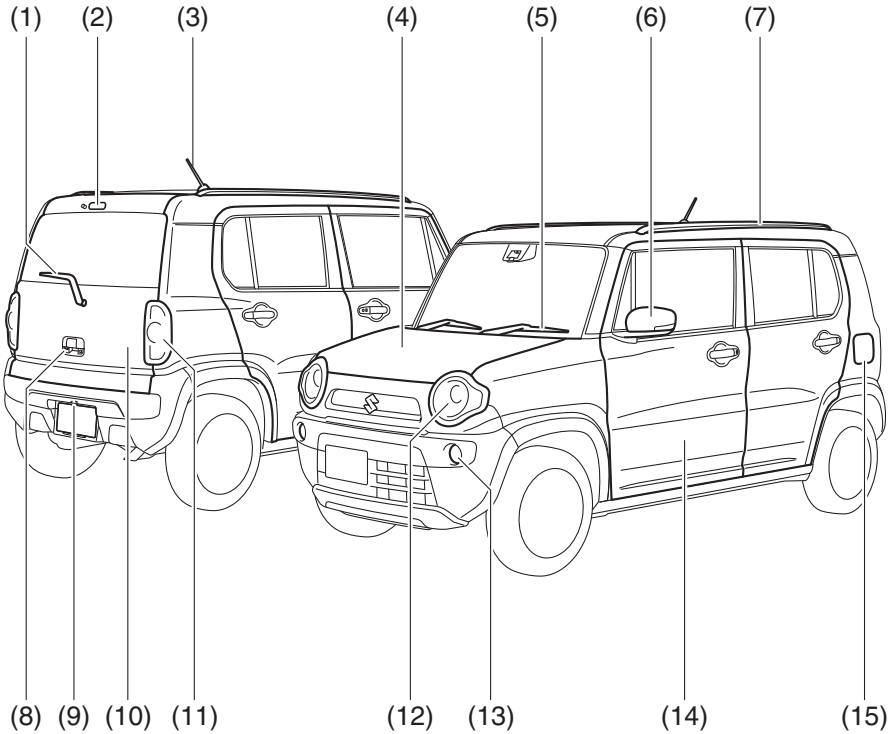
7 万一のとき
パンク ····· 7-2
バッテリーあがり ····· 7-16
ヒューズ切れ ····· 7-20
電球切れ ····· 7-25
オーバーヒート ····· 7-30
そのほか ····· 7-31

8 サービスデータ
サービスデータ ····· 8-1

9 さくいん
さくいん ····· 9-1

イラスト目次

■ 外観

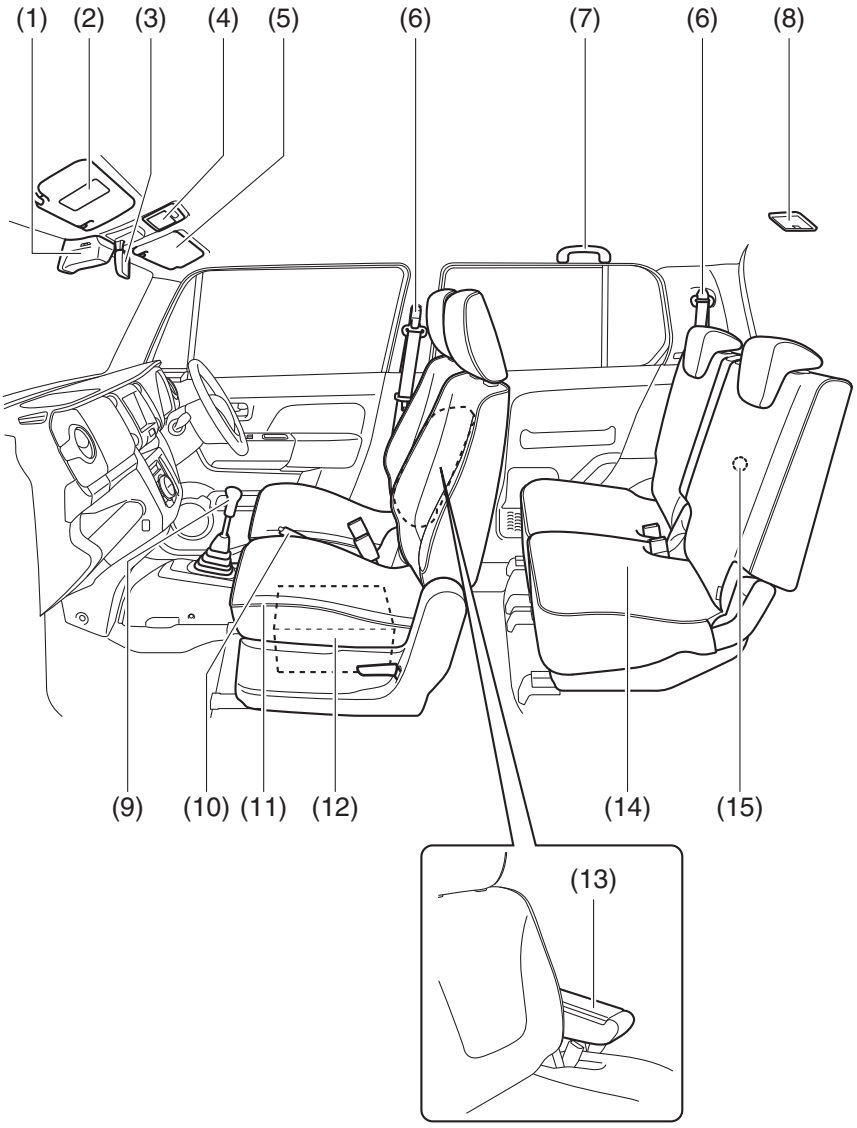


65P10010

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　リヤワイパー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-109
(2)　ハイマウントストップランプ　・・・・・・・・・・・・・・・　7-28
(3)　アンテナ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-38
(4)　ボンネット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-3
(5)　フロントワイパー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-109
(6)　ドアミラー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-25
(7)　ルーフレール　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-22
(8)　バックアイカメラ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-41
(9)　番号灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-29
(10) バックドア　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-13
(11) リヤコンビネーションランプ　・・・・・・・・・・・・・・・　7-29
(12) ヘッドライト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-103、7-26
(13) フォグランプ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-105、7-27
(14) ドア　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-12
(15) 燃料給油口(フューエルリッド)　・・・・・・・・・・・・・・・　5-2

■ 内装1



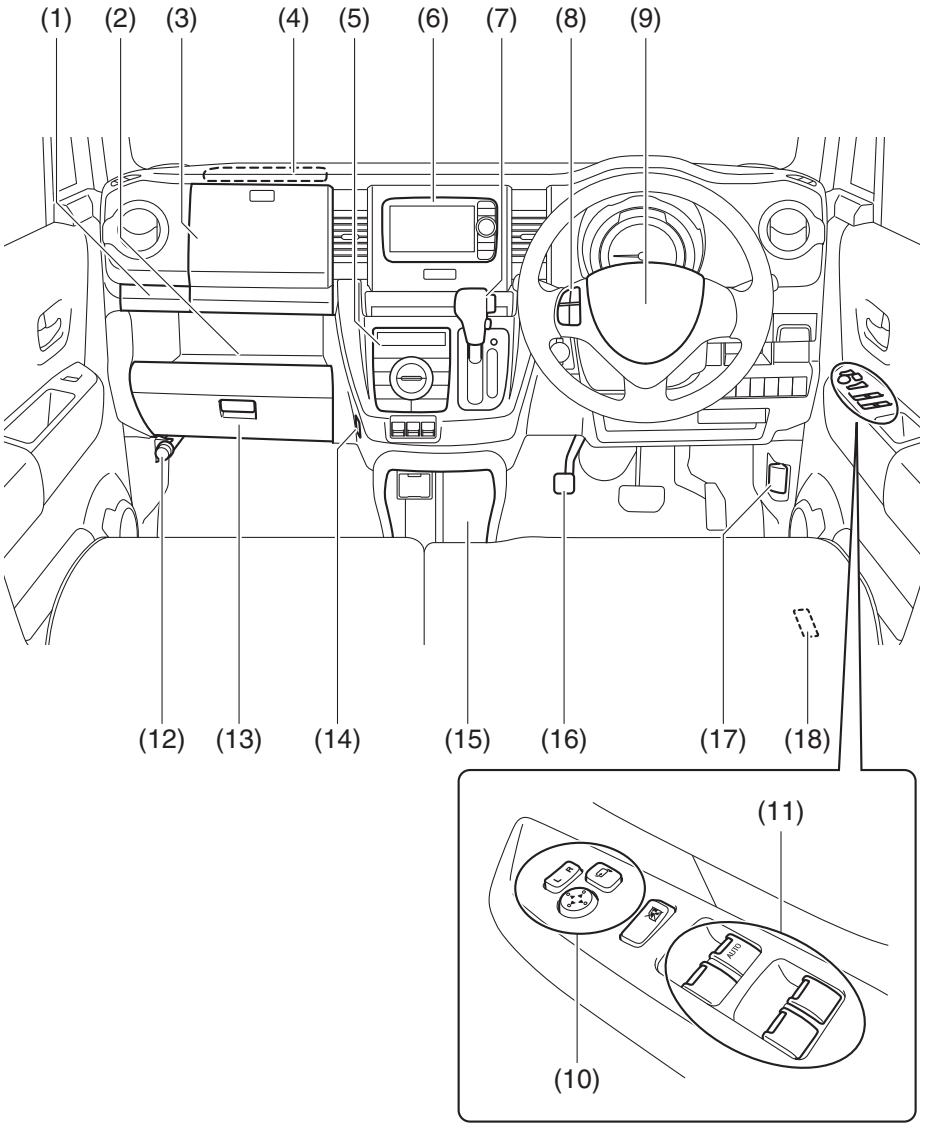
65P10020

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　レーザーレーダー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-50
(2)　助手席SRSエアバッグに関する
　　警告ラベル(※)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2-30
(3)　ルームミラー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-24
(4)　前席室内灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-7
(5)　サンバイザー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-5
(6)　シートベルト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-40
(7)　アシストグリップ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-20
(8)　荷室室内灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-7
(9)　チェンジレバー(マニュアル車)　・・・・・・・・・・・・・・　4-26
　　クラッチスタートシステム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-9
(10) パーキングブレーキ(レバー式)　・・・・・・・・・・・・・・　4-14
(11) 前席シート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-30
(12) シートアンダーボックス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-17
(13) アームレスト(ひじ掛け)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-20
　　アームレストボックス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-16
(14) 後席シート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-33
(15) アクセサリーソケット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-19

※お子さま用シートをご使用になる前に、必ずお読みください。

■ 内装2

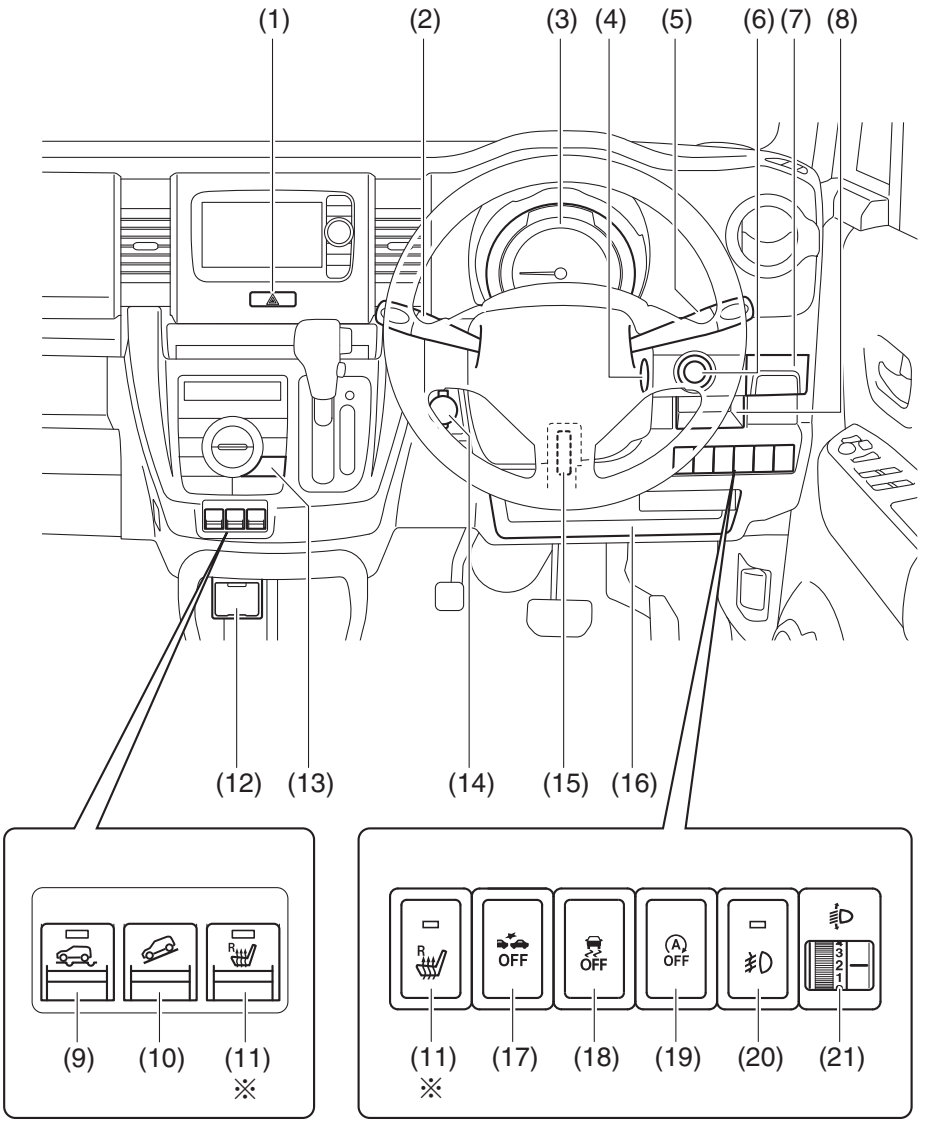


65P10030

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) ドリンクホルダー(助手席) ····· 5-12
(2) インパネトレー(助手席) ····· 5-9
(3) リッド付インパネボックス ····· 5-10
(4) 助手席SRSエアバッグ ····· 3-46
(5) エアコン、ヒーター ····· 5-23
(6) オーディオ／
スマートフォン連携ナビゲーション ····· 5-39
(7) セレクトレバー(オートマチック車) ····· 4-16
(8) ステアリングオーディオスイッチ ····· 5-40
(9) 運転席SRSエアバッグ ····· 3-46
ホーンスイッチ ····· 3-110
(10) ドアミラー角度調節スイッチ ····· 3-25
ドアミラー格納スイッチ ····· 3-26
(11) パワーウインドースイッチ ····· 3-20
(12) 発炎筒 ····· 7-31
(13) グローブボックス ····· 5-11
(14) ショッピングフック ····· 5-18
(15) センターロアポケット ····· 5-9
(16) パーキングブレーキ(ペダル式) ····· 4-14
(17) ボンネットオープナー ····· 5-3
(18) フューエルリッドオープナー ····· 5-2

■ 運転席まわり



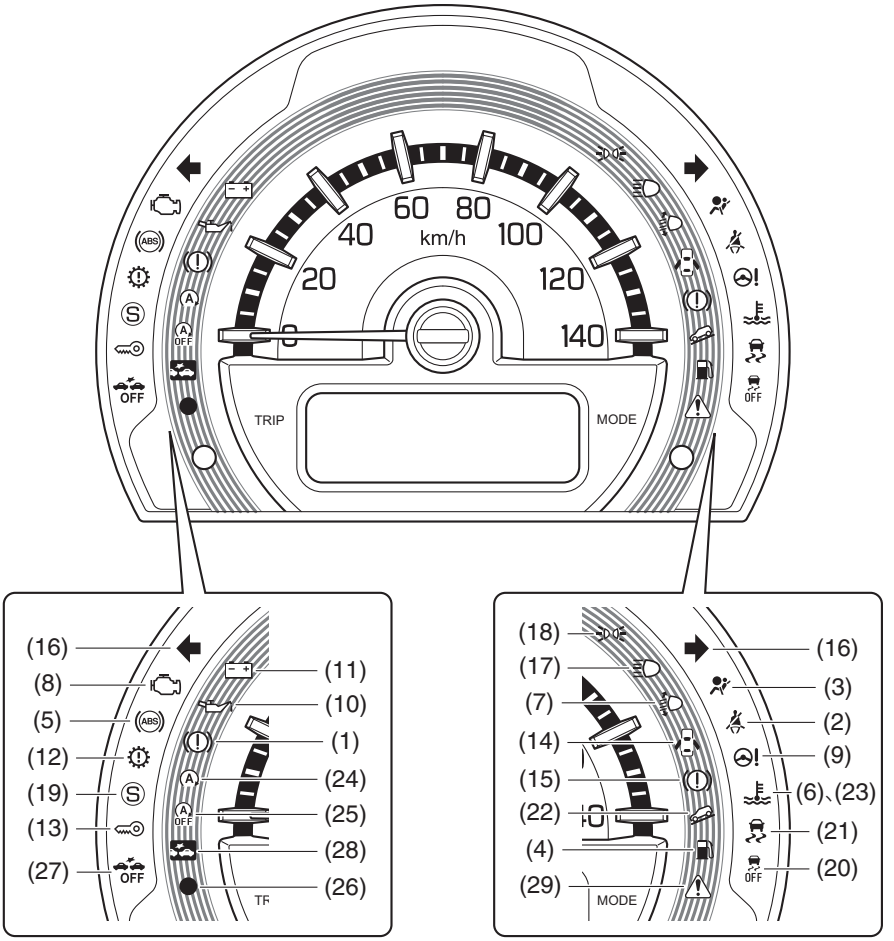
65P10041

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

- ※印のスイッチはお車のタイプにより、位置が異なります。

(1) 非常点滅表示灯スイッチ ····· 3-107
(2) ワイパー／ウォッシャースイッチ ····· 3-108
(3) メーター ····· 3-64
(4) エンジンスイッチ(キーレスプッシュスタート
システム非装備車) ····· 4-2
(5) ライトスイッチ ····· 3-103
方向指示器スイッチ ····· 3-107
(6) エンジンスイッチ(キーレスプッシュスタート
システム装備車) ····· 4-2
(7) ドリンクホルダー(運転席) ····· 5-12
(8) インパネポケット(運転席) ····· 5-9
(9) グリップコントロールスイッチ ····· 4-39
(10) ヒルディセントコントロールスイッチ ····· 4-35
(11) シートヒータースイッチ(運転席のみ) ····· 3-32
(12) USB/HDMI/VIDEOソケット ····· 5-18
(13) ドアミラーヒータースイッチ ····· 3-29、5-35
リヤデフォッガースイッチ ····· 5-35
(14) アクセサリーソケット ····· 5-19
(15) チルトステアリング(レバー) ····· 3-29
(16) インパネアンダートレー ····· 5-9
(17) レーダーブレーキサポート(RBS)
OFF スイッチ ····· 4-49
(18) ESP® OFFスイッチ ····· 4-34
(19) アイドリングストップシステム
OFFスイッチ ····· 4-63
(20) フォグランプスイッチ ····· 3-105
(21) 光軸調整ダイヤル(ハロゲン仕様車) ····· 3-106

■ 警告灯・表示灯



65P10050

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

- 警告灯が点灯または点滅し続けた場合は、車両またはシステムの異常が考えられます。次の参照先をよくお読みのうえ、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  → **3-65ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

- 警告灯・表示灯が点灯または点滅すると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。
  → **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

- ※印の警告灯・表示灯は、エンジンスイッチを ON にしたときに初期点灯するのが正常です。（「水温警告灯／低水温表示灯」の初期点灯は赤色に点灯します。）点灯しない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- 「水温警告灯（赤色）／低水温表示灯（青色）」は点灯する色で表示を切り替えています。
- アイドリングストップシステム装備車には、特有の点灯条件があります。
  → **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**

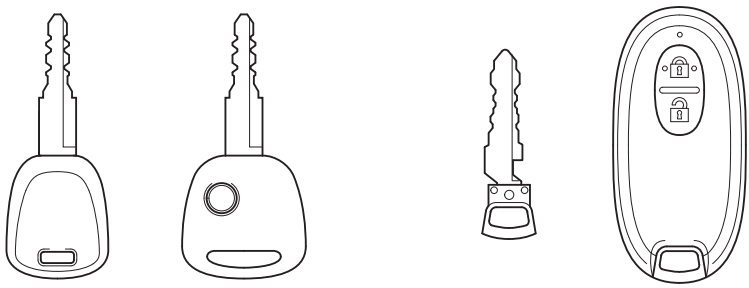
警告灯			色	警告灯名
(1)		※	赤	ブレーキ警告灯
(2)			赤	シートベルト警告灯
(3)		※	赤	SRSエアバッグ警告灯
(4)			オレンジ	燃料残量警告灯
(5)		※	オレンジ	ABS警告灯
(6)		※	赤	水温警告灯
(7)		※	オレンジ	オートレベリング警告灯 （タイプ別装備）
(8)		※	オレンジ	エンジン警告灯

警告灯			色	警告灯名
(9)		※	オレンジ	パワーステアリング警告灯
(10)		※	赤	油圧警告灯
(11)		※	赤	充電警告灯
(12)		※	オレンジ	トランスミッション警告灯 （オートマチック車）
(13)		※	オレンジ	イモビライザー警告灯
(14)			赤	半ドア警告灯
(15)		※	オレンジ	ブレーキシステム警告灯

表示灯			色	表示灯名
(16)			緑	方向指示器表示灯
(17)			青	ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯
(18)			緑	ライト点灯表示灯
(19)			オレンジ	S（スポーツ）モード表示灯 （オートマチック車）
(20)		※	オレンジ	ESP® OFF表示灯 （タイプ別装備）

表示灯			色	表示灯名
(21)		※	オレンジ	ESP®作動表示灯 （タイプ別装備）
(22)		※	緑	ヒルディセントコントロール表示灯 （タイプ別装備）
(23)		※	青	低水温表示灯
(24)		※	緑	アイドリングストップ表示灯 （タイプ別装備）
(25)		※	オレンジ	アイドリングストップシステムOFF表示灯 （タイプ別装備）
(26)			赤	セキュリティアラームインジケーター
(27)		※	オレンジ	レーダーブレーキサポート（RBS） OFF表示灯（タイプ別装備）
(28)		※	オレンジ	レーダーブレーキサポート（RBS） 作動表示灯（タイプ別装備）
(29)			オレンジ	マスターウォーニング

■ キー

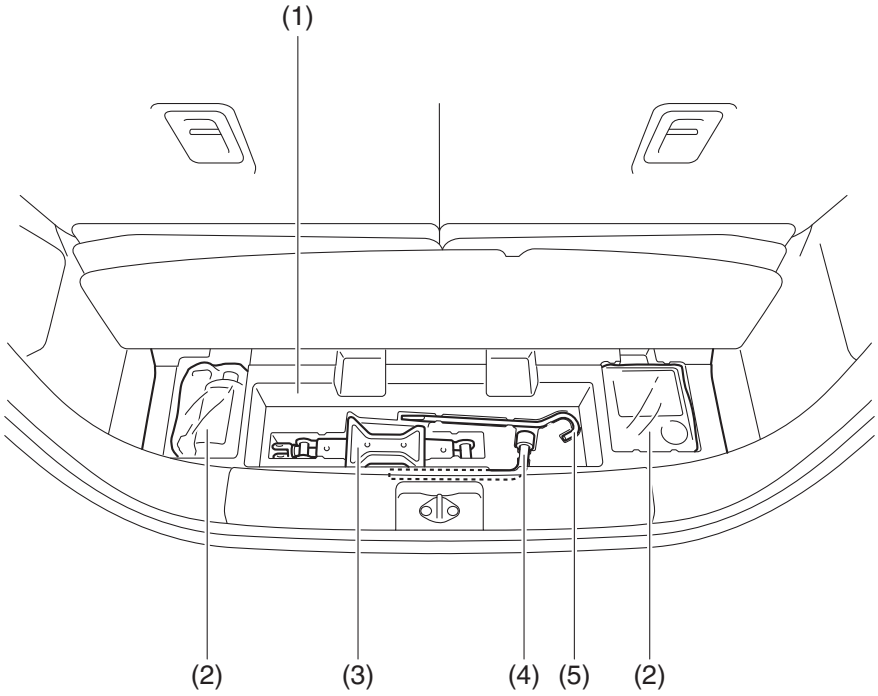


72M1008

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

キー ····· 3-2
キーレスエントリー ····· 3-4
携帯リモコン ····· 3-7
ドア ····· 3-12
キーレスプッシュスタートシステム ····· 4-5
エンジンのかけかた ····· 4-9

■ 荷室



65P10060

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　ツールボックス　・・・

警告ブザーが鳴ったときは

標準装備による警告ブザー

- ※1は、⚠（マスターウォーニング）が点滅するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに車両状態や対処方法などをお知らせするメッセージが表示されます。
- ※2は、マルチインフォメーションディスプレイに車両状態や対処方法などをお知らせするメッセージが表示されます。
  → **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

■ 全車共通

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
いずれかのドアを開けたとき	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（約10秒間）	● 2秒間隔で点滅	セキュリティアラームの警報が作動しています。エンジンスイッチを ON にすると、警報を途中で停止できます。 → **3-17ページ（セキュリティアラーム）**
エンジンスイッチを ON にしたとき	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（4回）	● 約8秒間 小刻みに点滅	駐車時にセキュリティアラームの警報が作動したことを示しています。盗難にあってないか車の中を確認してください。 → **3-17ページ（セキュリティアラーム）**
	室内ブザー ●**ポーン**（1回）	※1	ハンドルロックが解除されていません。ハンドルを左または右にまわして負荷がかからない状態としながら、エンジンスイッチの操作をやり直してください。 → **4-4ページ（ハンドルロック未解除警告）**
エンジンスイッチが ON のとき	室内ブザー ●**ポーン**（1回）	 点灯（赤色） ※1	ブレーキ液の不足、またはブレーキシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **3-65ページ（ブレーキ警告）**
	室内ブザー ●**ポーン**（1回）	 点灯 ※2	燃料の残量が少なくなっています。すみやかに給油してください。 → **3-67ページ（燃料残量警告灯）**

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
走行中	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（約95秒間）	 点滅 ※1	運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、ベルトを着用してください。 → **3-40ページ（シートベルト警告ブザー）**
	室内ブザー ●**ピピピッ、ピピピッ、**	 点灯（赤色） ※1	パーキングブレーキが解除されていません。安全な場所に停車して、パーキングブレーキを解除してください。 → **4-15ページ（パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー）**
	室内ブザー ●**ポーン**（1回）	 点灯 ※1	いずれかのドアが完全に閉まっていません。安全な場所に停車して、完全に閉めてください。 → **3-71ページ（半ドア警告灯）**
運転席ドアを開けたとき	室内ブザー ●**ピーーー**	 点灯 ※1	ヘッドライトまたは車幅灯が点灯したままです。これらを消してください。 → **3-104ページ（ライト消し忘れ警告ブザー）**

■ オートマチック車のみ

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
停車中/後退中	室内ブザー ●**ピー、ピー、**	R 表示	セレクトレバーが R に入っています。セレクトレバーの位置を確認してください。 → **4-20ページ（R（リバース）ポジション警告ブザー）**
エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどそうとしたとき	室内ブザー ●**ポーン**（1回）	※1	セレクトレバーの故障などによりエンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせません。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-13ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**

タイプ別装備による警告ブザー

- 次の各装備には特有の警告ブザーがあります。
  - アイドリングストップシステム装備車 …… **1-18ページ**
  - キーレスプッシュスタートシステム非装備車 …… **1-21ページ**
  - キーレスプッシュスタートシステム装備車 …… **1-21ページ**
  - 運転支援機能装備車 …… **1-23ページ**

- ※1は、⚠（マスターウォーニング）が点滅するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに車両状態や対処方法などをお知らせするメッセージが表示されます。
- ※2は、マルチインフォメーションディスプレイに車両状態や対処方法などをお知らせするメッセージが表示されます。
  → **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

■ アイドリングストップシステム装備車

共通

- 下記以外にも警告ブザーが鳴り、エンジンが自動再始動する場合があります。
  → **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**

いつ	ブザー音	メーター	再始動の理由
アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中	室内ブザー ●**ピー**（1回）	※2	次のいずれかの状態になったため、エンジンが再始動しました。 ●エアコンの設定温度と室内の温度の差が大きくなった ●デフロスタースイッチを押した → **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**
	室内ブザー ●**ピー**（1回）	※2	ブレーキ倍力装置の負圧が低下したため、エンジンが再始動しました。 → **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**
	室内ブザー ●**ピー**（1回）	※2	バッテリーの放電が進んだため、エンジンが再始動しました。 → **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**

マニュアル車のみ

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（2回）	※2	ボンネットが開いたためエンスト状態（※3）になりました。次の手順で対処してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、チェンジレバーをN（ニュートラル）に入れる ②ボンネットを完全に閉める ③エンジンスイッチを操作して再始動する → **4-9ページ（エンジンのかけかた）** → **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**
	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（2回）	※2	チェンジレバーがN（ニュートラル）以外になっています。N（ニュートラル）にもどしてください。 → **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**
	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（5回）	 点灯 ※2	運転席シートベルトが外れ、運転席ドアが開いたためエンスト状態（※3）になりました。ドアを閉め、シートベルトを着用し、エンジンスイッチを操作して再始動してください。 → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**
	室内ブザー ●**ピー**（1回）	※2	車両が動いたため、エンジンが再始動しました。 → **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**

※3　エンスト状態になると、上記以外にも次の警告灯が点灯します。
- エンジン警告灯、パワーステアリング警告灯、油圧警告灯、充電警告灯

→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

オートマチック車のみ

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中	室内ブザー ●**ピー、ピー、**	※2	ボンネットが開いたためエンスト状態（※3）になりました。次の手順で対処してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れる ②ボンネットを完全に閉める ③エンジンスイッチを操作して再始動する → **4-9ページ（エンジンのかけかた）** → **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**
	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（約5秒間）	 いずれか点灯 ※2	次のいずれかの操作をしたため、エンジンが自動で再始動しました。 ●運転席シートベルトを外す ●運転席ドアを開ける 発進する前に、ドアを閉め、シートベルトを着用してください。また、車外に出るときは、事前に次の手順を実施してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れます。 ②長時間停車するときや車から離れるときは、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止します。 → **4-11ページ（エンジンを止めるときは）**

※3　エンスト状態になると、上記以外にも次の警告灯が点灯します。
- エンジン警告灯、パワーステアリング警告灯、油圧警告灯、充電警告灯

→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

■ キーレスプッシュスタートシステム非装備車

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
運転席ドアを開けたとき	室内ブザー ●**ピー、ピー、**	—	エンジンスイッチにキーが差さっています。キーを抜いてください。 → **4-13ページ（キー抜き忘れ警告ブザー）**

■ キーレスプッシュスタートシステム装備車

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
エンジンスイッチが ON のとき	室内ブザー ●**ポーン**（1回）	● 1秒間隔で点滅 ※1	キーレスプッシュスタートシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **3-76ページ（セキュリティアラームインジケーター）**
エンジンスイッチを操作したとき	室内ブザー ●**ポーン**（2回）	 点灯 ※1	携帯リモコンが検知できない、またはリモコンの電池が切れています。リモコンを車内の検知できる位置にするか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 → **4-5ページ（車内の作動範囲）** → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**
いずれかのドアを開閉したとき	室内/車外ブザー ●**ピー、ピー、**（5回）	 点滅 ※1	携帯リモコンが検知できなくなりました。リモコンを車内の検知できる位置にしてください。 → **4-8ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）**
エンジンを始動しようとしたとき	室内/車外ブザー ●**ピー、ピー、**（5回） そのあとに室内ブザー ●**ポーン**（1回）	 点滅 ※1	エンジンスイッチを ACC または ON にしたときは携帯リモコンを検知していましたが、始動時に検知できなくなりました。リモコンを車内の検知できる位置でエンジンスイッチを操作してください。 → **4-5ページ（車内の作動範囲）** → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
運転席ドアを開けた	室内ブザー ●**ピー、ピー、**	—	エンジンスイッチが ACC になっています。LOCK（OFF）にもどしてください。 → **4-13ページ（エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー）**
	室内ブザー ●**ピッ、ピッ、**	—	エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどしていずれかのドアを開閉してもハンドルがロックされていません。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-13ページ（ハンドルロック未作動警告ブザー）**
リクエストスイッチを押したとき	車外ブザー ●**ピー** （約2秒間）	—	エンジンスイッチが ACC または ON になっています。LOCK（OFF）にもどしてください。 → **3-11ページ（リクエストスイッチ未作動警告ブザー）**
		—	携帯リモコンが車内にあります。リモコンを車外に持ち出してください。
		 点灯 ※2	いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。
携帯リモコンのロックスイッチを押したとき	車外ブザー ●**ピー** （約2秒間）	 点灯 ※2	いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。 → **3-4ページ（キーレスエントリー）**

■ 運転支援機能装備車

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
走行中	室内ブザー ●ピピピピピ	 点滅	レーダーブレーキサポート（RBS）が作動しています。ブレーキペダルを強く踏み込んでください。 → **4-41ページ（レーダーブレーキサポート（RBS））**
停車中/徐行中	室内ブザー ●ピピピピピ	 点滅	誤発進抑制機能が作動しています。すみやかにアクセルペダルから足を離してください。 → **4-46ページ（誤発進抑制機能）**

よくあるご質問（Q & A）

お問い合わせの多い、よくあるご質問についてご案内します。

ドアの開閉

Q. キーレスエントリーが作動しない。

A. キーレスエントリーが作動しない状況にあるおそれがあります。
3-4ページ（**キーレスエントリー**）をお読みください。

A. リモコンキーの電池が消耗しているときは、交換してください。
→ **6-8ページ（リモコンキーの電池交換）**

Q. ドアを開けたら警報が鳴る。

A. 警報装置（セキュリティアラーム）が作動しています。
エンジンスイッチを ON にして警報を止めてください。
正しい取扱い方法や設定切替えについては、**3-17 ページ**（**セキュリティアラーム**）をお読みください。

窓ガラス

Q. フロントガラスやドアガラス内側のくもりを取りたい。

A. 吹出し口切替えダイヤル（**5-25 ページ**）で、くもりを取る位置に切替えてください。（マニュアルエアコン）

A. デフロスタースイッチ（**5-34ページ**）をご使用ください。（オートエアコン）

Q. バックドアガラス内側のくもりを取りたい。

A. リヤデフォッガースイッチ（**5-35ページ**）をご使用ください。

タイヤ

Q. パンクした。

A. パンクの状態によっては、タイヤパンク応急修理セットをご使用いただくことで、応急修理ができます。
→ **7-2ページ（パンク）**

バッテリーあがり

Q. バッテリーがあがり、エンジンが始動できない。

A. 救援車のバッテリーとブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。
→ **7-16ページ（鉛バッテリーあがりのときは）**

エンジンオイル

Q. エンジンオイルを交換したい。

A. 次の項目をお読みください。
→ **2-35ページ（エンジンオイルを交換するときは）**
→ **8-1ページ（サービスデータ）**

電装品

Q. ヘッドライトまたは制動灯が点灯しなくなった。

A. 電球を点検してください。
→ **7-25ページ（電球の点検）**
→ **7-25ページ（電球を交換するときは）**
→ **8-4ページ（電球の容量）**

Q. 電気装置が使用できなくなった。

A. ヒューズを点検してください。
→ **7-20ページ（ヒューズが切れたときは）**

Q. 運転席パワーウインドーがオートで全開／全閉しなくなった。

A. パワーウインドーのはさみ込み防止機能の初期設定が必要です。**3-23ページ**（**初期設定のしかた**）をお読みください。

スマートフォン連携ナビゲーション タイプ別装備

Q. 時計の表示を変えたい。

A. 別冊のオーディオマニュアルをお読みください。また、時刻は自動で調整されます。

MEMO

2. 必読！ 安全なドライブのために

とくに重要な項目ですのでしっかりお読みください。

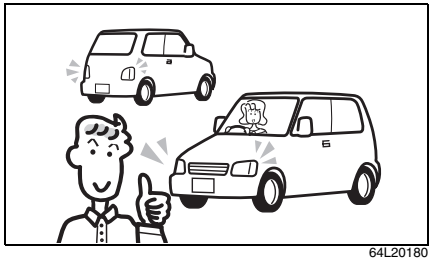
安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

出発の前に（お車の確認）…… 2-2
荷物を積むときは…… 2-6
お子さまを乗せるときは…… 2-7
運転席にすわって…… 2-13
エンジンをかけるときは…… 2-15
走行するときは…… 2-16
駐車するときは…… 2-22
給油するときは…… 2-25
オートマチック車を運転するときは…… 2-26
SRSエアバッグ車を運転するときは…… 2-28
4WD車を運転するときは …… 2-31
ターボ車を運転するときは…… 2-31
こんなことにも注意して…… 2-32
エコドライブをしましょう…… 2-36

出発の前に（お車の確認）

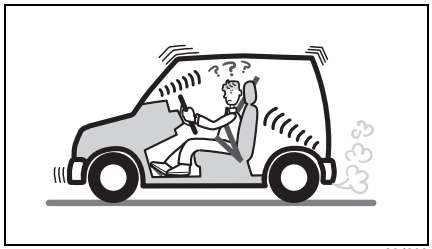
日常点検を確実に



64L20180

車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

こんな症状に気づいたときは



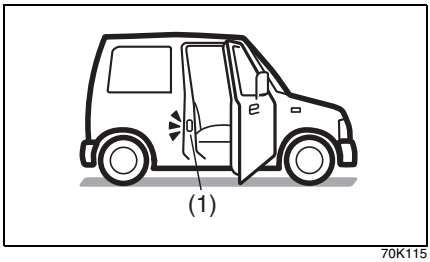
80J009

⚠注意

次のような場合はスズキサービス工場で点検を受けてください。
- **地面に油や液の漏れたあとが残っている**
- **ブレーキ液が不足している**
- **いつもと違うにおい、音、振動がある**
- **ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う**

タイヤの空気圧をチェック

- 定期的に点検・調整してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」（1）で確認できます。
  → **メンテナンスノート（日常点検）**

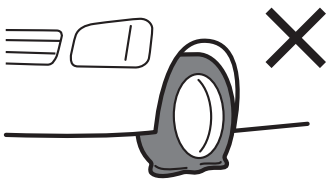


70K115

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。
- 偏平タイヤ（165/60R15 77H）は、見た目では空気圧の不足がわかりにくいので注意が必要です。

⚠警告

空気圧が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。



72J20040

⚠ 警告

指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。

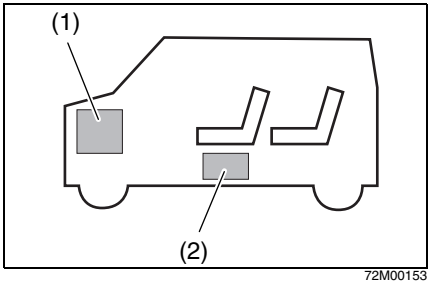
- **走行安定性が悪化する**
- **ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる**
- **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しなくなる**
  - **ABS**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）（タイプ別装備）**
  - **ESP®（タイプ別装備）**
  - **ヒルディセントコントロール（タイプ別装備）**
  - **グリップコントロール（タイプ別装備）**
  - **レーダーブレーキサポート（RBS）（タイプ別装備）**
  - **誤発進抑制機能（タイプ別装備）**
- **4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえる**

バッテリーについて

この車は、次のバッテリーを搭載しています。

- **鉛バッテリー（全車共通）**
  車の電源供給に使用されています。

- **リチウムイオンバッテリー（エネチャージ装備車のみ）**
  車の電装品に電気を供給するために使用されています。
  → **4-64ページ（エネチャージ）**



72M00153

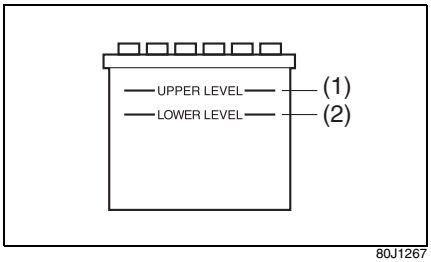
(1) 鉛バッテリー
(2) リチウムイオンバッテリー

各バッテリーについて、次の「**鉛バッテリー**」および「**リチウムイオンバッテリー**」をお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

- バッテリーは少しずつ放電します。バッテリーあがりを防ぐためには、1 か月に一度は連続して 30 分以上走行して充電する必要があります。

■ 鉛バッテリー

鉛バッテリーの液面を点検する
液面が下限（2）より下にあるときは、バッテリー補充液を上限（1）まで補充してください。バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。
→ **メンテナンスノート（日常点検）**



80J1267

⚠警告

- **バッテリー液が不足すると、発熱して爆発のおそれがあります。**
- **バッテリー端子を外して再び接続するときは、確実に締め付けてください。ゆるみがあると、火災や故障の原因となります。**

注記

アイドリングストップシステム装備車は、高性能な専用の鉛バッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないとアイドリングストップシステムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

- **バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）**
  → **7-18 ページ（鉛バッテリーを交換するときは）**
  → **8-2ページ（サービスデータ）**
- **バッテリー端子から電気製品の電源をとらない**

■ リチウムイオンバッテリー

タイプ別装備

エネチャージ装備車専用のバッテリーで助手席下（シートアンダーボックス下）にあります。

→ **5-17ページ（シートアンダーボックス）**

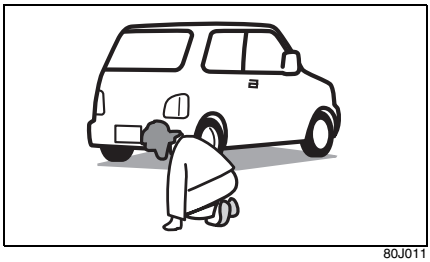
- リチウムイオンバッテリーは点検不要です。
- リチウムイオンバッテリーの交換または廃棄については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠警告

リチウムイオンバッテリーの取扱いを誤ると、火災や感電などを起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあるため、次のことをお守りください。

- **取り外したり分解したりしない**
- **水などで濡らさない**
- **強い衝撃をあたえない**
- **上に乗ったり、荷物を載せたりしない**
- **バッテリー端子を外したり、端子から電気製品の電源をとらない**

排気管も点検



80J011

排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

⚠警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

荷物を積むときは

荷物の積みすぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

⚠警告

- **燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。引火や爆発のおそれがあります。**

80J021

- **インパネの上にものを置かないでください。運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席 SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、助手席 SRS エアバッグがふくらんだときに飛ばされたりして、けがのおそれがあります。**

80J070

⚠注意

- **車内に荷物を積み重ねないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

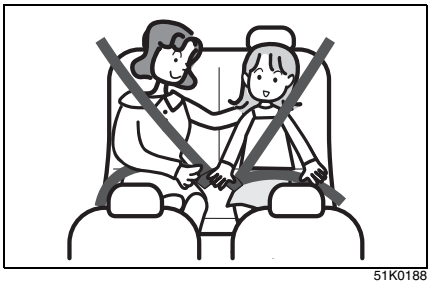
80J022

- **動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。**

お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまは後席に乗せる



51K0188

- できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。
- 助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
  → **2-8ページ（お子さま用シートの使用について）**
  → **3-54ページ（お子さま用シートの選択について）**

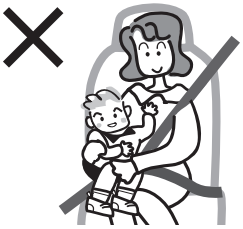
⚠ 警告

- **後席のお子さまが走行中にドアを開けないように、チャイルドプルーフをご使用ください。**
  → 3-17ページ（チャイルドプルーフ）
- **お子さま用シートを必要としないお子さまをやむをえず助手席に乗せるときは、次のことをお守りください。**
  - **助手席を一番後ろに下げてください。助手席を前に出していると、助手席 SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **お子さまがアームレストやシート下のレール部分など車内の可動部に手や足などを近付けないように注意してください。はさまれてけがをするおそれがあります。**

お子さまもシートベルトを着用

⚠ 警告

●ひざの上にお子さまを抱かないでください。しっかり抱いていても、衝突のときなどに十分にささえることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J081

●必ずシートベルトを着用させてください。

●一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。

●シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

80J082

●首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまには、ベビーシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。

シートベルトで遊ばせない

80J028

⚠ 警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

お子さま用シートの使用について

- ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートは、助手席で使用することができません。後席に取り付けてください。
- 安全のため、チャイルドシートおよびジュニアシートも後席に取り付けてください。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

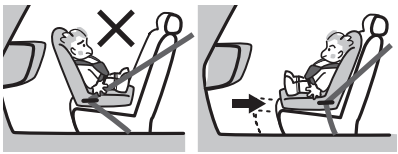
→ **3-54ページ（お子さま用シートの選択について）**

- 助手席サンバイザーの両面には、助手席 SRS エアバッグ装備車にお子さま用シートを取り付ける場合の禁止事項などを示した警告ラベルが貼られています。お子さま用シートをご使用の前に、**2-30ページ**の「**助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル**」を必ずお読みください。
- この車には、次のタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。
  - シートベルトで固定するタイプのお子さま用シート
    → **3-59ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**
  - ISOFIXタイプのお子さま用シート
    → **3-61ページ(ISOFIX対応お子さま用シートの固定)**
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。
- お子さま用シートには、スズキ純正品をおすすめします。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- お子さま用シートを使用していても、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。

⚠警告

●助手席には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命に関わる重大な傷害を受けるおそれがあります。

●やむをえず助手席にチャイルドシートおよびジュニアシートを取り付けるときは、助手席を一番後ろに下げ、前向きに取り付けてください。



80J027

●走行する前に、お子さま用シートが確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどがないことを確認してください。

●お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。

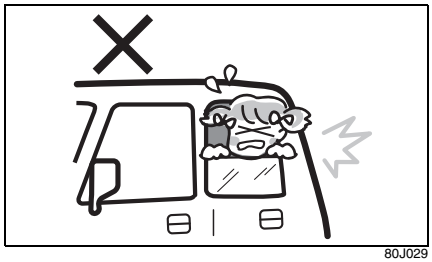
●万一の事故でお子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。いざというときに性能を十分発揮できないおそれがあります。

⚠注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員やものに当たるおそれがあります。

ドアやウインドーの開閉、シートの調節は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。

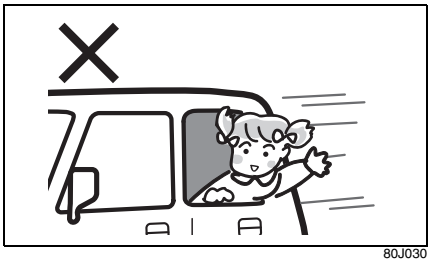


80J029

⚠ 警告

パワーウインドーは、お子さまが自分で操作しないように、ウインドーロックスイッチをご使用ください。
→ 3-21ページ
（ウインドーロックスイッチ）

窓から顔や手を出さない



80J030

⚠ 警告

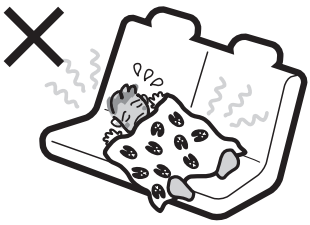
お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外のものなどに当たって重大な傷害を受けるおそれがあります。

車から離れるときは

⚠警告

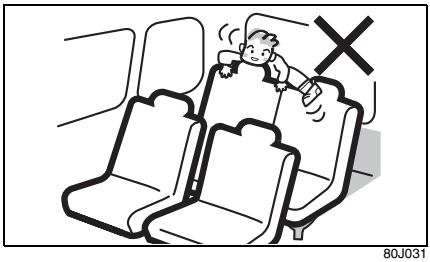
車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱射病にかかるおそれがあります。エアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。



80J032

お子さまを荷室に乗せない



80J031

⚠警告

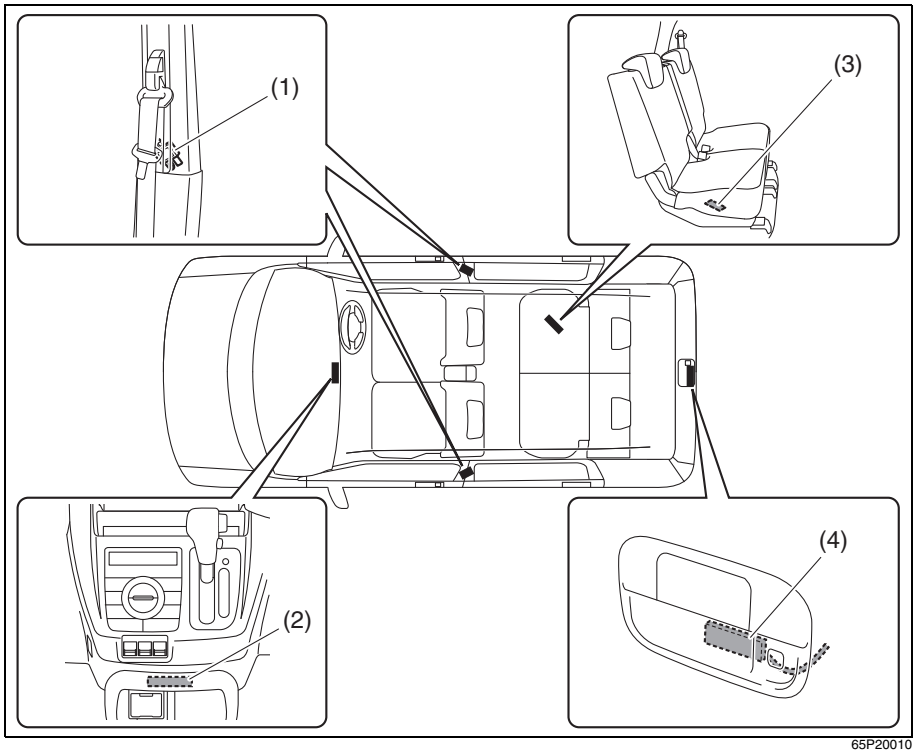
荷室は人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。
道路上での停車中も、お子さまを荷室で遊ばせないでください。

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

キーレスプッシュスタートシステム装備車

⚠警告

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、キーレスプッシュスタートシステム装備車の各発信機（下図参照）から約22 cm 以内の範囲に、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。**
- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、キーレスプッシュスタートシステム装備車の電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。**
- **詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。**

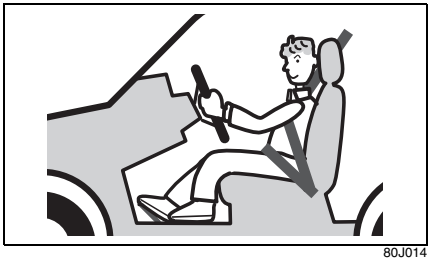


65P20010

(1) 前席ドア車外発信機（※イラストは運転席ドア側）
(2) 車室内発信機
(3) 荷室発信機
(4) バックドア車外発信機

運転席にすわって

ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に



80J014

⚠警告

●走行中にハンドルの調節（タイプ別装備）やシートの調節、ルームミラーやドアミラーの調節をしないでください。ハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ 3-29ページ（チルトステアリング）
→ 3-30ページ（前席シート）
→ 3-24ページ（ルームミラー、ドアミラー）

●背もたれを必要以上に倒さないでください。ヘッドレストやシートベルトが本来の機能を発揮できません。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすきまのないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。
- 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。

82K183

⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

シートベルトは正しく着用

70K216

- シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。
- ベルトがねじれないように着用します。
- 腰ベルトは、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩ベルトは、首と肩先の中央にかけます。
- ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

→ **2-13ページ（正しい運転姿勢）**

⚠警告

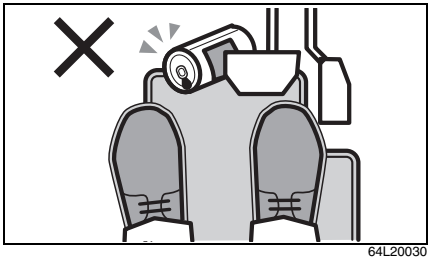
●走行前にシートベルトを正しく着用してください。走行中に着用したり調節したりすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

●背もたれを必要以上に倒さないでください。また、洗たくばさみやクリップなどでベルトをたるませないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

●助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。

81M20040

運転席の足元付近にものを置かない

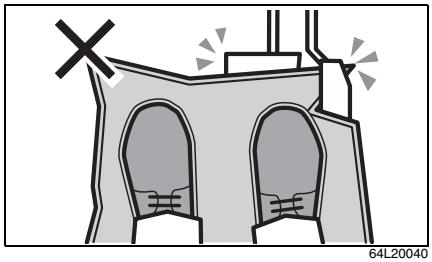


64L20030

⚠警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

車にあったフロアマットを適切に使用する



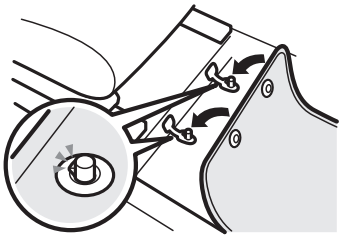
64L20040

⚠警告

ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

- **足元の形にあわないフロアマットを使わない**
- **フロアマットを重ねて敷かない**
- **フロアマットは固定具などで確実に固定する**

スズキ純正フロアマットの例



72M10201

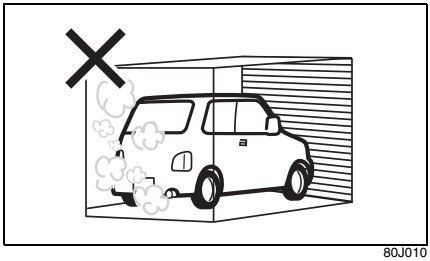
※運転席および助手席側のフロア（カーペット下）には、スズキ純正フロアマットに付属する固定具を取り付ける穴があります。

アドバイス

この車専用のスズキ純正フロアマットのご使用をおすすめします。

エンジンをかけるときは

換気が悪いところでエンジンをかけたままにしない



80J010

⚠警告

- **車庫の中など、換気が悪いところでエンジンをかけたままにすると、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入します。**
- **車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切り替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。**

窓越しのエンジン始動はしない

72J20240

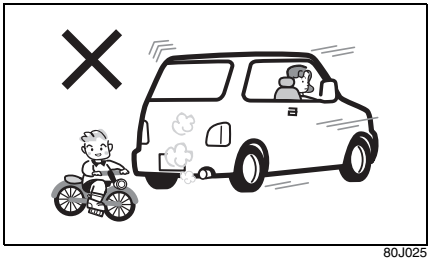
運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。

⚠警告

窓越しのエンジン始動はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
→ 4-9ページ
（エンジンのかけかた）

走行するときは

周囲をよく確認してから発進する

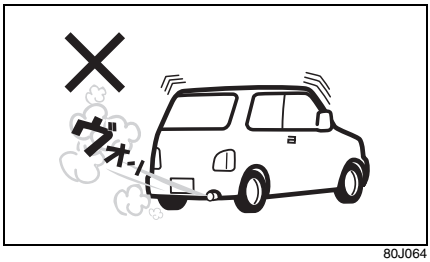


80J025

⚠注意

- **周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。**
- **バックミラーやバックアイカメラ（タイプ別装備）だけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、車から降りて自分の目で後方を確認してください。**

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速をしない



80J064

エコドライブのため、空ぶかしや急発進、急加速はしないでください。
→ 2-36ページ
（エコドライブをしましょう）

注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

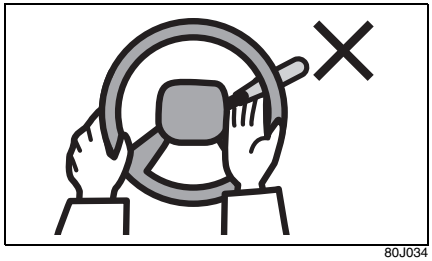
携帯電話やナビゲーションなどに気を取られないで

80J071

⚠ 警告

- **運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを操作しないでください。電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **運転者は、走行中にテレビを見たり、ナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。**

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない



80J034

⚠ 警告

ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

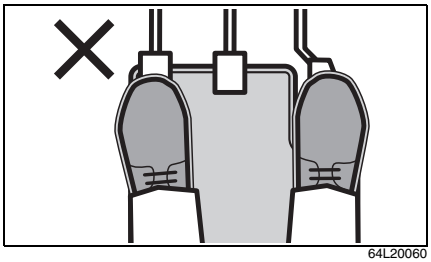
ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しない

⚠ 注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない

マニュアル車



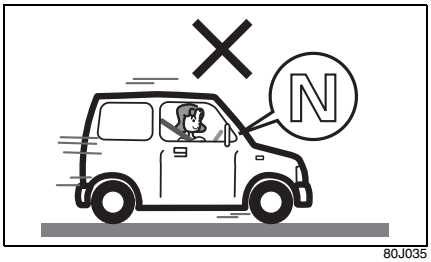
64L20060

⚠ 注意

クラッチが早く摩耗したり過熱したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行なわないでください。

走行中はニュートラルにしない



80J035

⚠注意

緊急時以外は、走行中にチェンジレバーまたはセレクトレバーをニュートラルに入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足を離し、走行速度にあわせて、次のようにシフトダウンします。

オートマチック車

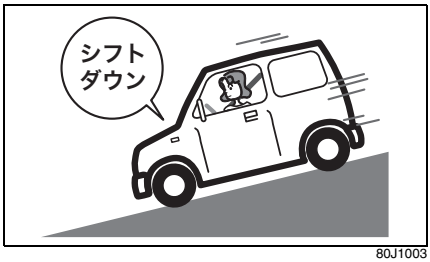
S（スポーツ）モードスイッチをONにするか、セレクトレバーを L にします。

マニュアル車

ギヤを1速ずつおとします。

→ **4-26ページ**
（チェンジレバーの操作）

※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足を離したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。

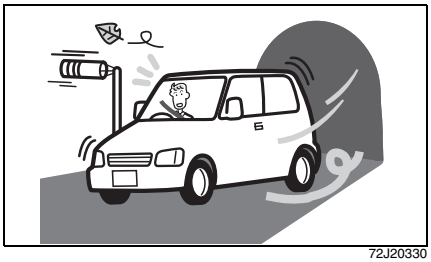


80J1003

⚠警告

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

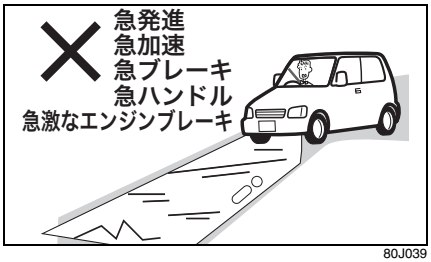
横風が強いときは



72J20330

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通り過ぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

滑りやすい路面ではゆっくり走る

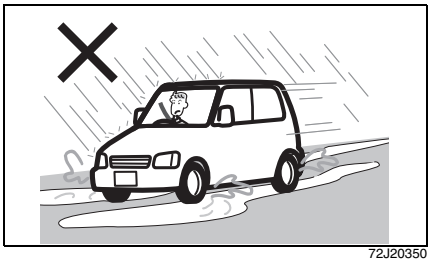


80J039

⚠注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

水たまりを高速で通り抜けない

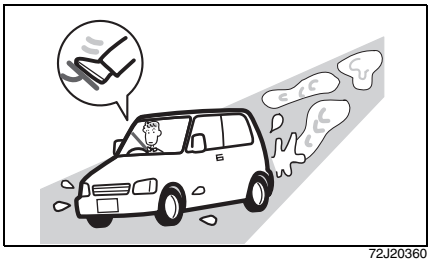


72J20350

⚠注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

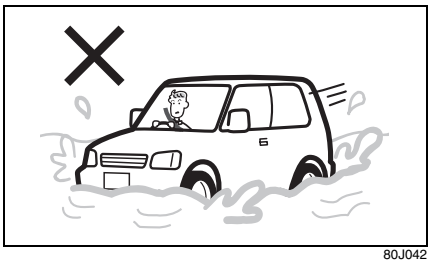
水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認



72J20360

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冠水した場所は走行しない



80J042

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

注 記

冠水した場所や、深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。

スタック（立ち往生）したときは

- ぬかるみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。
- 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
  - オートマチック車 は、セレクトレバーを確実に入れてからアクセルを軽く踏んでください。
  - 数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。
- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。

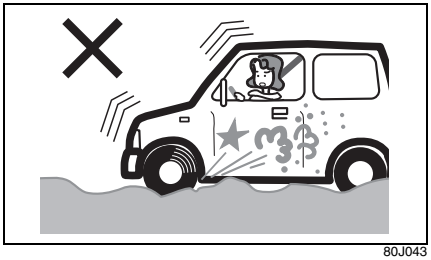
- ESP®装備車／グリップコントロール装備車では、トラクションコントロール／グリップコントロールが脱出に適さないときがあります。そのようなときは、ESP® OFF スイッチを操作してトラクションコントロール／グリップコントロールを作動停止の状態にしてください。
  → **4-32ページ（ESP®装備車の取扱い）**
  → **4-38ページ（グリップコントロール）**

⚠警告

脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。

注記

タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。



80J043

こんなときどうする？

- **警告灯が点灯したら？**
  警告メッセージが表示されたら？
  ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。
  → **1-10ページ（警告灯・表示灯）**
  → **3-95 ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

- **床下に強い衝撃を受けたら？**
  ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- **タイヤが突然パンクしたら？**
  ハンドルをしっかり握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
  → **7-2ページ（パンク）**

- **ブレーキペダルが重く感じたら？**
  車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じることがありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。

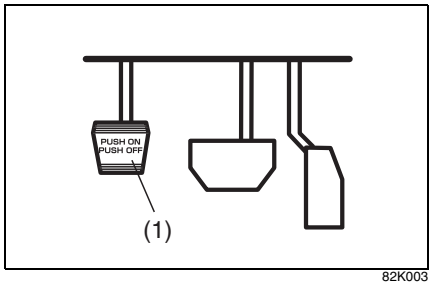
駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて

■ 平らな場所に駐車するときは

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。
→ 4-14ページ
（パーキングブレーキの操作）

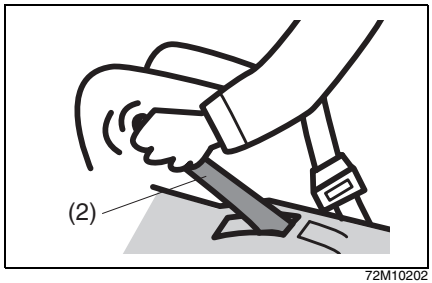
オートマチック車



82K003

(1) パーキングブレーキペダル

マニュアル車



72M10202

(2) パーキングブレーキレバー

2 オートマチック車 は、セレクトレバーを P に入れます。
マニュアル車 は、チェンジレバーを R（リバース）または 1 速に入れます。

- ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、車が動き出さないことを確認してください。
→ 4-16ページ
（セレクトレバーの操作）
→ 4-26ページ
（チェンジレバーの操作）

⚠注意

●平らな場所に少しの間駐車するときでも、安全のため、セレクトレバーを P に入れるか、チェンジレバーをRまたは1速に入れてください。
●寒冷時にパーキングブレーキをかけると、凍結して解除できなくなるおそれがあります。坂道を避け、平らな場所に駐車してください。
→ 6-16ページ
（パーキングブレーキ）

■ 坂道に駐車するときは

1、2 は、平らな場所で駐車するときと同じ操作です

- マニュアル車 は、下り坂ではチェンジレバーを R（リバース）、上り坂では 1 速に入れてください。

3 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠警告

急な坂道には駐車しないでください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン停止後に冷却ファンが作動することがあります

エンジン冷却水温が高い場合、エンジンを停止させたあとでもエンジンルーム内の冷却ファンが駆動しますが、異常ではありません。冷却水の温度が下がると、自動的にファンが停止します。

⚠注意

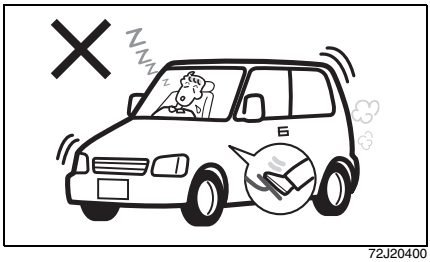
動いているファンに近づかないでください。手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

車を移動するときはエンジンをかけて

⚠注意

坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンをかけたまま仮眠しない



72J20400

⚠警告

- **周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **無意識にセレクトレバーやチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。**
- **無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。**

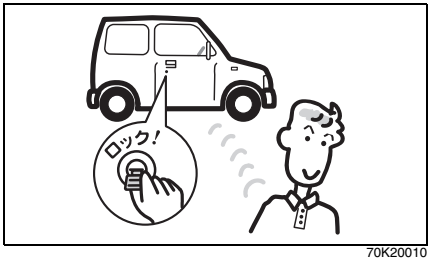
燃えやすいものの近くに駐車しない

80J046

⚠ 警告

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

車から離れるときはエンジンを止めてドアを施錠



70K20010

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置しない

80J1004

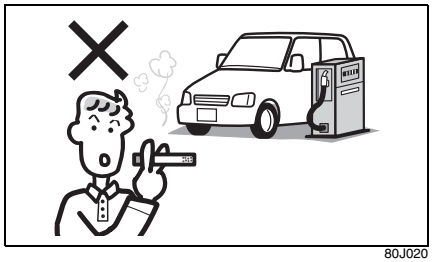
⚠ 警告

- **炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。**
- **操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすきまに落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。**

給油するときは

→ 5-2ページ（燃料給油口）

火気に気をつけて



80J020

⚠ 警告

必ず次のことをお守りください。
- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

セルフスタンドで給油するときは

⚠ 警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。
- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。
  また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。
- 給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

  ※空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 給油口に給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでください。ノズルを確実に差し込まないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

⚠警告

- **給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。**
- **給油ノズルの自動停止（オートストップ）機能が作動したら、給油を終了してください。自動停止後に継ぎ足し給油をすると、燃料があふれ出るおそれがあります。**

※給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示にしたがってください。

- **燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。**
- **給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。**
- **燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。**
- **そのほか、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。**

無鉛ガソリン以外は使用しない

注 記

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、そのほかの燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

オートマチック車を運転するときは

オートマチック車には特有の操作上の注意があります。**4-16ページ**の「**オートマチック車**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT 車」を示しています。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

- **セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。**
- **エンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。**

アドバイス
CVT車もクリープ現象があります。

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス
R（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

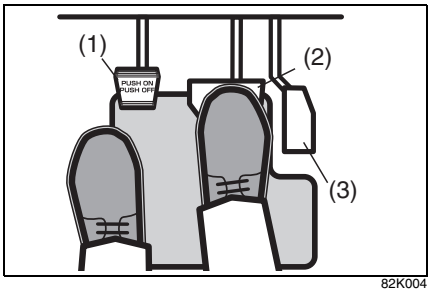
ペダルの踏み間違いに注意

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながります。

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

ブレーキペダルは右足で踏む



82K004

(1) パーキングブレーキ
(2) ブレーキペダル
(3) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

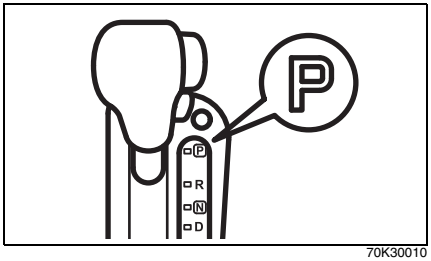
⚠警告

アクセルペダルを踏んだままでセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R に入っていることを目で確認してください。

車から離れるときは



70K30010

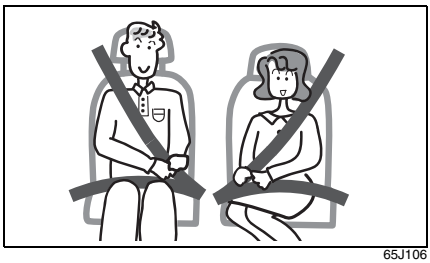
⚠警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、**3-46 ページ**の「**SRS エアバッグ**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

シートベルトは必ず着用



65J106

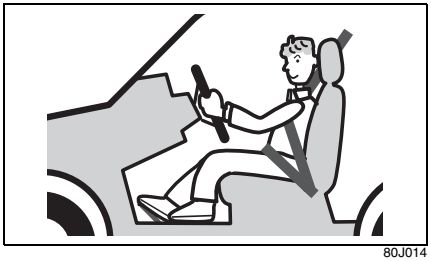
⚠警告

SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席 SRS エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。

→ **2-13ページ（正しい運転姿勢）**

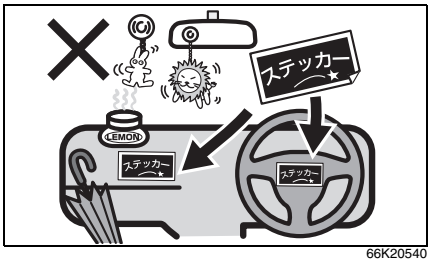


80J014

⚠警告

ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。SRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために



66K20540

⚠警告

- **ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。**
- **インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。**
- **フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（スズキ純正用品を除く）などを取り付けないでください。**

助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル

助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。このラベルは、助手席 SRS エアバッグが作動したときにお子さま用シートにあたえる影響と、お子さま用シートの取り付けに関する禁止事項を示しています。この車の助手席にお子さま用シートを取り付ける場合は、警告ラベルの説明および参照先の項目をよくお読みになり、適切に取り付けてください。

72M00150

警告ラベルの説明

シンボルマーク	シンボルマークの意味
	助手席SRSエアバッグ装備車の助手席に、後ろ向きのお子さま用シートを取り付けて、お子さまを乗せることを禁止
	助手席SRSエアバッグがふくらむと、後ろ向きお子さま用シートおよびお子さまに強い衝撃が加わることを表示
	詳しくは、取扱説明書（本書）を読むことを指示 → **2-8 ページ（お子さま用シートの使用について）** → **3-54 ページ（お子さま用シートの選択について）**

⚠ 警告

助手席には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命に関わる重大な傷害を受けるおそれがあります。

4WD車を運転するときは

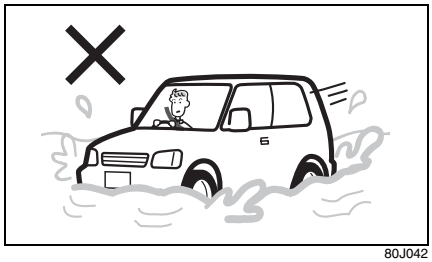
4WD車には特有の操作上の注意があります。正しい取扱いをしてください。

路面の状況に注意して走行する

⚠注意

4WD 車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

- **砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。**
- **ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。**
- **渡河走行や水中走行をしないでください。**



80J042

ターボ車を運転するときは

ターボ車には特有の注意があります。次の内容をよく読み、正しい取扱いをしてください。

ターボ車の取扱い

ターボとは、通常のエンジンより大きな馬力を引き出す精密装置です。ターボ装置内のタービン（羽根）が、排気ガスの圧力で超高速回転することで、エンジンに多量の圧縮空気を送り込みます。タービンを含むターボ装置は700℃以上の高温になり、その潤滑と冷却はエンジンオイルによって行なわれています。

ターボ装置の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- エンジンオイル、オイルフィルターは定期的に交換してください。
  劣化したオイルのまま運転を続けると、ターボ装置の潤滑と冷却が適切に行なわれず、タービン軸受部の固着や異音の原因となります。
  → **2-35ページ（エンジンオイルを交換するときは）**

- 高速走行直後や登坂走行直後は、すぐにエンジンを停止しないでください。
  次の表にしたがってアイドリング運転を行ない、高温になったターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。

エンジン停止直前の走行状況	アイドリング運転時間の目安
高速走行、登坂走行	約1分（※）
市街地、郊外などの一般走行	不要

※アイドリングストップシステム装備車の場合、エンジンが自動停止するときはターボ装置が所定温度内にあるため、アイドリング運転は不要です。

- エンジンが冷えているときに、空ぶかしや急加速をしないでください。

注 記

前記にしたがって適切に取り扱わないと、ターボ装置の故障や破損の原因となります。

こんなことにも注意して

車検を受けるときの注意

ESP® 装備車をテスターに載せる場合は、ESP® OFF スイッチを操作して、次の機能を作動停止（OFF）の状態にしてください。

→ **4-34ページ**
（ESP® OFFスイッチ）

- トラクションコントロールおよびスタビリティコントロール
- レーダーブレーキサポート（RBS）
- 誤発進抑制機能
- グリップコントロール

詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アドバイス

RBS OFF スイッチを操作しても、ESP®は作動停止（OFF）しません。

外装部品に力をかけすぎない

注 記

スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

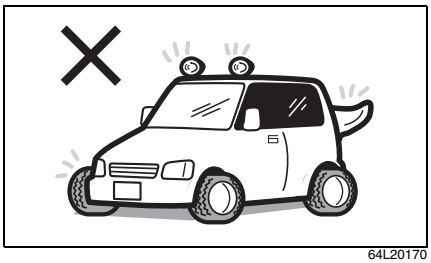
段差などに注意して

注 記

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

- 路肩など段差がある場所への乗り入れ
- わだちやくぼみなどがある道路の走行

不正改造はしない



64L20170

⚠警告

- この車に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線をしたりしないでください。思いがけない火災や事故を起こしたり、不正改造になったりすることがあります。
- 無線機、ナビゲーション、オーディオ、ETC車載器などの電気製品の取り付け、取り外しをするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。また、バッテリー端子から電気製品の電源をとったり、アース線を直接つなげたりしないでください。電子部品のはたらきをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。
- ホイール、ホイールナットは指定のスズキ純正品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。

注 記

ディスチャージヘッドライト装備車では、次のような改造をするとオートレベリング機能（自動光軸調整機能）が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- サスペンションの改造（車高やサスペンションの硬さ変更）
- 指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着

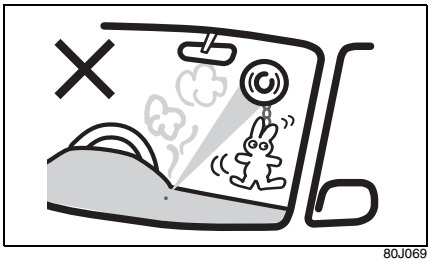
部品の取り付け、取り外し、修理をするときは

⚠ 警告

SRS エアバッグ、 シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなかったりすることがあります。
次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など
- センターコンソールの修理、インパネまわり、前席下の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取り付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- 前席の交換およびシートまわりの修理
- センターピラーまわりの修理

アクセサリーの取り付けに気をつけて



80J069

⚠ 警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーが飛んでけがのおそれがあります。

飲み物などをこぼしたときは

⚠ 警告

車内に水などをかけたり、飲み物などをこぼしたりしないでください。
次のような部品が故障したり、火災の原因になったりするおそれがあります。万一、飲み物などをこぼした場合は、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

- SRSエアバッグシステム
- ナビゲーションまたはオーディオ
- スイッチ、配線などの電気部品
- セレクトレバー、シートベルトバックルなどの可動部分

エンジンオイルを交換するときは

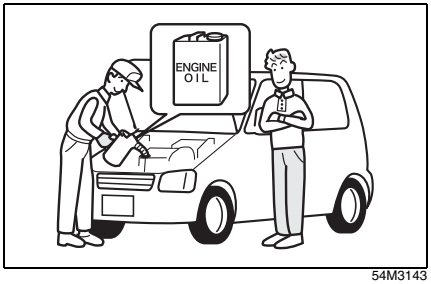
■ 定期的に交換する

- 標準的な使用方法では、エンジンオイルは**10,000 km**（ターボ車は**5,000 km**）ごと、または**6か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは**10,000 km**ごとに交換してください。
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。

→ **メンテナンスノート**

注 記

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。



54M3143

■ エンジンオイルの規格／粘度

使用するエンジンオイルにより燃費などの性能は左右されるため、次の表 1、表 2 をそれぞれみたすオイルを使用してください。オイルは、スズキ純正オイルのご使用をおすすめします。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**

表1

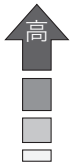
規格		オイル性能
API(※1)/ ILSAC(※2)	SN/GF-5	
	SM/GF-4	
	SL/GF-3	

表2

規格	ターボなし車	ターボ車
SAE粘度 (※3)	0W-20	5W-30
	5W-30	

※1 API 規格とは、アメリカ石油協会が定めた規格でエンジンオイルの品質グレードを表しています。

※2 ILSAC 規格とは、国際潤滑油標準化認証委員会が定めた自動車用エンジンオイルの規格で、API 規格をベースに省燃費・耐久性などの性能がさらに優れたオイルであることを示します。

※3 SAE粘度とは、潤滑油の粘度を定めた規格です。
左側の数字(Wの付く数字)は低温時の粘度を意味し、この数字が小さいほど寒さに強くエンジンの始動性が良いことを示します。右側の数字は高温時の粘度を意味し、この数字が大きいほど熱に強く、エンジンの保護性能に優れています。

アドバイス

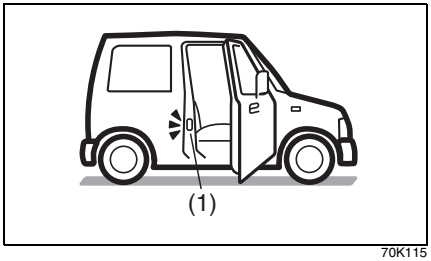
0W-20は新車時に充填されている燃費性能に優れたオイルです。
（ターボなし車）

エコドライブをしましょう

→ 3-64ページ
（エコドライブアシスト照明）
→ 4-65ページ（エコ運転表示機能）

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」(1) で確認のうえ、調整してください。



70K115

不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行なってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（－10℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

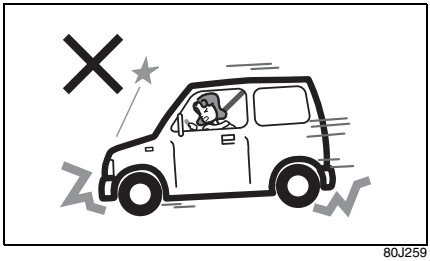
注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

アドバイス

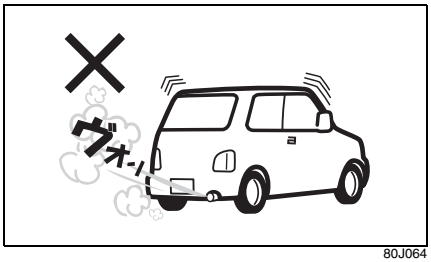
状況によって異なりますが、一般的に暖機運転によって、5 分間で 160 mL程度の燃料を消費するといわれています。

急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない



80J259

空ぶかしをしない



80J064

燃料を消費するだけで、何の効果もありません。

車速に応じたギヤで走行する

低速ギヤを使って高いエンジン回転で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。

3. 運転する前に

● **ドアの開閉**
キー ····· 3-2
キーレスエントリー ····· 3-4
携帯リモコン ····· 3-7
ドア ····· 3-12

● **警報装置**
セキュリティアラーム（警報装置） ····· 3-17

● **ウインドーの開閉**
パワーウインドー ····· 3-20

● **各部の調節**
ルームミラー ····· 3-24
ドアミラー ····· 3-25
チルトステアリング ····· 3-29

● **シートの調節**
前席シート ····· 3-30
後席シート ····· 3-33
シートの便利な使いかた ····· 3-36

● **シートベルト**
シートベルトについて ····· 3-40
シートベルトの着用のしかた ····· 3-42
シートベルトの取扱いとお手入れ ····· 3-43
シートベルトプリテンショナー（前席のみ） ··· 3-44
シートベルト可変フォースリミッター
（前席のみ） ····· 3-45

● **SRSエアバッグ**
SRSエアバッグ車を運転するときは ····· 3-46
SRSエアバッグシステムの取扱い ····· 3-48
SRSエアバッグシステムの作動 ····· 3-50
SRSエアバッグ警告灯 ····· 3-53
廃棄と廃車 ····· 3-53
イベントデータレコーダー（EDR）とは ····· 3-53

● **お子さま用シート**
お子さま用シートの選択について ····· 3-54
お子さま用シートのシートベルトによる固定 ··· 3-59
ISOFIX対応お子さま用シートの固定 ····· 3-61

● **メーター**
メーターの見かた ····· 3-64
警告灯・表示灯の見かた ····· 3-65
マルチインフォメーションディスプレイ ····· 3-78

● **スイッチの使いかた**
ライトスイッチ ····· 3-103
フォグランプスイッチ ····· 3-105
光軸調整ダイヤル ····· 3-106
方向指示器スイッチ ····· 3-107
非常点滅表示灯スイッチ ····· 3-107
ワイパー／ウォッシャースイッチ ····· 3-108
ホーンスイッチ ····· 3-110

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

キー

キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。

⚠警告

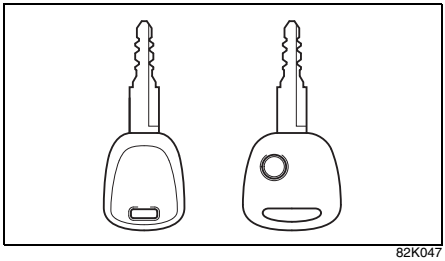
リモコンキーを航空機内へ持ち込む場合は、機内で操作ボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単に操作ボタンが押されないように収納してください。操作ボタンが押されると、電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。
※リモコンキーは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

アドバイス

盗難などを防ぐため、キーを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーレスプッシュスタートシステム非装備車

- キーが2本ついています。
- キーは、エンジンの始動・停止のほかに、ドアの施錠・解錠に使用します。
- すべてのキーにイモビライザー機能（車両盗難防止装置）がついています。
  → **4-4ページ（イモビライザーシステム）**



82K047

⚠注意

キーホルダーのアクセサリーなどは必要最小限にしてください。アクセサリーを多数付けたり、重いものを付けたりすると、走行中の振動などでエンジンスイッチに差したキーがまわるおそれがあります。
また、大きなアクセサリーを付けていると、ひざや手などが当たってキーをまわしてしまうおそれがあります。
→ **4-2ページ（エンジンスイッチの各位置のはたらき）**

注 記

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない**
- **テレビやオーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かない**
- **電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない**

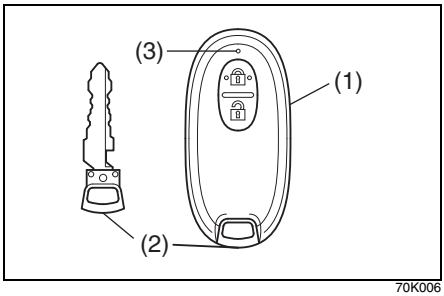
アドバイス

- ホームセンターなどでスペアキーを作成しても、イモビライザー機能がないため、ドアの施錠・解錠はできても、エンジンの始動ができません。イモビライザー機能付のスズキ純正のキーにて暗証コードを登録（最大4本）する必要があります。
- キーのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーレスプッシュスタートシステム装備車

- キーはドアの施錠・解錠に使えますが、エンジンの始動・停止には使えません。エンジンの始動・停止には携帯リモコンをご使用ください。
  → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**

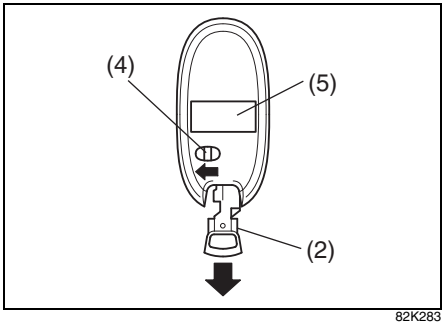
- 携帯リモコン（1）が2個、リモコンに格納可能なキー（2）が2本ついています。
  → **3-7ページ（携帯リモコン）**



70K006

(3) 作動表示灯

- リモコンに格納されているキー（2）は、ロック解除レバー（4）を ◀ 方向に引きながら取り出します。



82K283

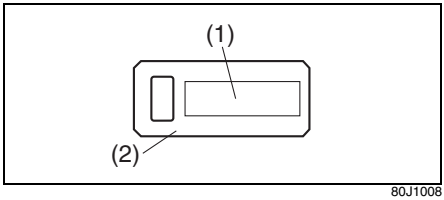
(5) 適合証明マーク

アドバイス

- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- キーのご購入については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーナンバープレート

キーナンバープレート（2）には、キー作成時に必要なキーナンバー（1）が打刻されています。



80J1008

アドバイス

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないよう、キーナンバープレートは車両以外の場所に、大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のために、キーナンバープレートをお車のキーとともにお渡しください。

キーレスエントリー

車から約 2 m 以内の範囲で、リモコンキーの操作部を押すと、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。

⚠ 警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めてドアを施錠してください。

注 記

リモコンキーには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**

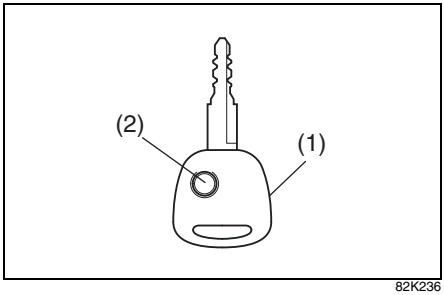
アドバイス

- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- リモコンキーでドアの施錠・解錠ができないときは、キーを使って施錠・解錠をしてください。
- キーレスエントリーが正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。

→ **6-8ページ**
（リモコンキーの電池交換）

- リモコンキーを必要以上に操作すると、電池の消耗が早まります。
- リモコンキーのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーレスプッシュスタートシステム非装備車



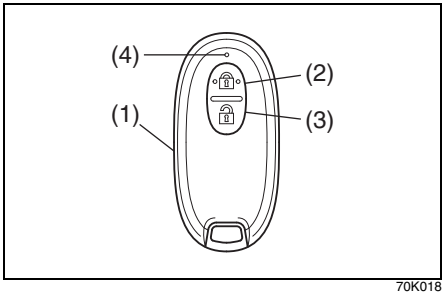
82K236

(1) リモコンキー　(2) 操作部

アドバイス

- 次のようなときは、キーレスエントリーが作動しません。
  - いずれかのドアが開いていると、施錠できません。（解錠はできます）
  - エンジンスイッチにキーを差し込んでいるとき。
- 1 台の車両で、4 個のリモコンキーまで登録できます。

キーレスプッシュスタートシステム装備車



70K018

(1) リモコンキー(携帯リモコン)
(2) 操作部(ロックスイッチ)
(3) 操作部(アンロックスイッチ)
(4) 作動表示灯

アドバイス

- 次のようなときは、キーレスエントリーが作動しません。
  - いずれかのドアが開いていると、施錠できません。(解錠はできます)
    車外ブザーが“ピー”と約2秒間鳴ります。
  - エンジンスイッチが ACC または ON のとき。
- 1台の車両で、4個のリモコンキー(携帯リモコン)まで登録できます。

アンサーバック機能

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

アンサーバック機能	初期設定(工場出荷時)		設定切替え時	
	ロック(施錠)	アンロック(解錠)	ロック(施錠)	アンロック(解錠)
非常点滅表示灯	1回点滅	2回点滅		
室内灯(スイッチがDOOR位置)		約10秒間点灯	2回点滅	約10秒間点灯

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯または点滅させたい場合は、室内灯スイッチをDOOR位置にします。
- 室内灯が約 10 秒間点灯したあとは、徐々に減光しながら消灯します。
  → **5-7ページ(室内灯)**

- キーレスプッシュスタートシステム装備車の場合、車外ブザーも鳴ります。

アンサーバック機能	初期設定(工場出荷時)		設定切替え時	
	ロック(施錠)	アンロック(解錠)	ロック(施錠)	アンロック(解錠)
車外ブザー	1回吹鳴	2回吹鳴		

- ディスチャージヘッドライト装備車は、解錠したとき車幅灯と尾灯も 15 秒間点灯します。また、フォグランプ装備車は、フォグランプスイッチが ON の位置にあるとフォグランプも点灯します。

アドバイス

- アンサーバック機能の設定切替え（カスタマイズ）については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- キーレスプッシュスタートシステム装備車は、リクエストスイッチで施錠・解錠したときにも、アンサーバック機能が作動します。また、次の合図が別々にカスタマイズできます。
  - 非常点滅表示灯／室内灯による合図
  - 車外ブザーによる合図

タイマーロック機能

盗難防止のため、自動的にドアを施錠する機能です。

- キーレスエントリーで解錠したあと、約 30 秒以内にいずれのドアも開けなかったときに自動的にドアを施錠します。
- タイマーロック機能が作動すると、セキュリティアラームが自動的にセットされます。（**警報なしモード**時を除く）
  → **3-17ページ（セキュリティアラーム）**

アドバイス

キーレスプッシュスタートシステム装備車は、リクエストスイッチで解錠したときにも、タイマーロック機能が作動します。

携帯リモコン

タイプ別装備

すべてのドアが閉まっているときに、前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチを押すと、所持している携帯リモコンが車両と電波で通信を開始し、照合がとれるとドアの施錠・解錠が可能となります。
また、そのほかに次の機能があります。

- キーレスエントリー
  → **3-4ページ（キーレスエントリー）**
- エンジンスイッチによる始動および電源の切替え
  → **4-5 ページ（キーレスプッシュスタートシステム）**
- イモビライザー（車両盗難防止装置）
  → **4-4ページ（イモビライザーシステム）**

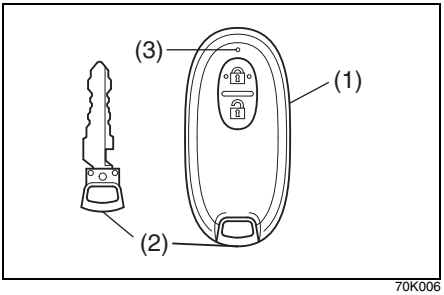
注 記

携帯リモコンが発信する電波が、携帯電話やほかのリモコンなどの無線通信機器に影響をあたえることがあります。必要以上に携帯リモコンやリクエストスイッチ、エンジンスイッチの操作をしないでください。

アドバイス

- 携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。車内にリモコンを置き忘れないでください。
- 盗難などを防ぐため、携帯リモコンを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンは車両と通信するとき、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では、正常に作動しないことがあります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある
  - 携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 近くで他車のキーレスエントリーが使用されている
  - コインパーキングに駐車している（車両検出用の電波の影響があるため）

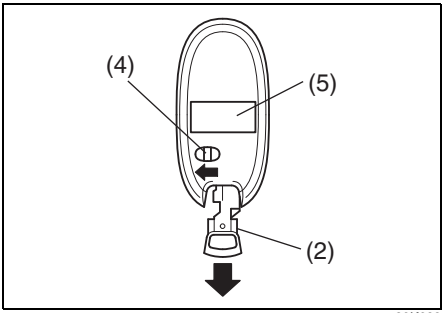
携帯リモコン（1）が2個、リモコンに格納可能なキー（2）が2本ついています。



70K006

(3) 作動表示灯

- リモコンに格納されているキー（2）は、ロック解除レバー（4）を ◀ 方向に引きながら取り出します。



82K283

(5) 適合証明マーク

⚠注意

携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造をしないでください。発火や感電、けがのおそれがあります。また、法律により処罰されることがあります。

注 記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない**
- **テレビやオーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かない**
- **電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない**

アドバイス

- 適合証明マークの消去、改ざんをしないでください。法律により処罰されることがあります。
- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 1 台の車両で、4 個の携帯リモコンまで登録できます。
- 電池の寿命は使用状況によりますが約2年です。

→ **6-8ページ（リモコンキーの電池交換）**

- 携帯リモコンは、車両と通信するために常時受信動作をしています。強い電波を受信し続けたとき、電池を著しく消耗することがあります。（テレビやパソコンなどの強い電波を発信する電化製品の近くに置いたときなど）
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ 携帯リモコン電池消耗警告

携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。電池交換のうえ、警告をリセットしてください。

→ **3-95 ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**
→ **6-8ページ（リモコンキーの電池交換）**

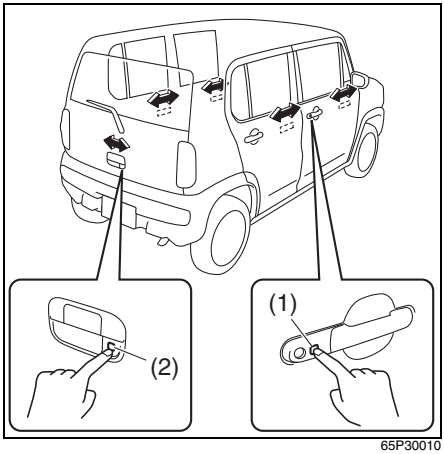
アドバイス

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、メッセージを表示させなくすることもできます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠

すべてのドアが閉まっているときに、所持している携帯リモコンが「**リクエストスイッチの作動範囲**」（**3-10 ページ**参照）に入っていると、リクエストスイッチを押すごとに、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



65P30010

(1) 前席ドアのリクエストスイッチ
(2) バックドアのリクエストスイッチ

⚠警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

アドバイス

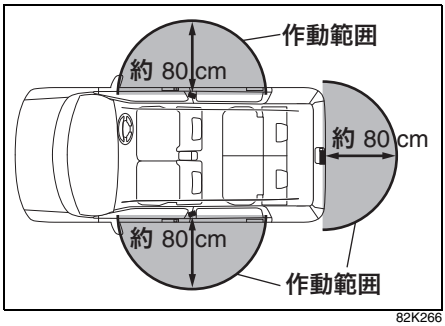
●次のようなときは、リクエストスイッチが作動しません。
- いずれかのドアが開いている
- エンジンスイッチが ACC または ON のとき

●リクエストスイッチでドアの施錠・解錠をすると、アンサーバック機能やタイマーロック機能が作動します。
→ **3-6ページ（アンサーバック機能）**
→ **3-7ページ（タイマーロック機能）**

●少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。

リクエストスイッチの作動範囲（車外）

前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチ付近から半球状に周囲約80 cm以内です。



82K266

アドバイス

●**「リクエストスイッチの作動範囲」**で携帯リモコンを所持していても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチが作動しない場合があります。
- 携帯リモコンの電池が消耗している
- 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
- 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
- 携帯リモコンがドアに近づきすぎている
- 携帯リモコンが地面の近くや高い位置にあったり、お尻のポケットの中などにあったりして、リクエストスイッチから離れている

●車内に予備の携帯リモコンがあると、そのリモコンが検知され、リクエストスイッチが正常に作動しなくなるおそれがあります。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー

次のようなときは車外ブザーが“ピー”と約２秒間鳴って、リクエストスイッチが未作動であることを警告します。

- エンジンスイッチが ACC または ON の状態で、すべてのドアを閉め、リクエストスイッチを押したとき
- エンジンスイッチを LOCK (OFF) にしたあと、次のような状況でリクエストスイッチを押したとき
  - 携帯リモコンを車内に置き忘れている
  - いずれかのドアが開いている
  → **3-71ページ（半ドア警告灯）**

エンジンスイッチを LOCK (OFF) にして携帯リモコンを車外に持ち出し、すべてのドアを完全に閉めたことを確認してから、再度リクエストスイッチを押してください。

携帯リモコン閉じ込み防止機能

「キーを使わない施錠」（3-15 ページ参照）で、携帯リモコンを閉じ込んでしまうのを防止する機能です。

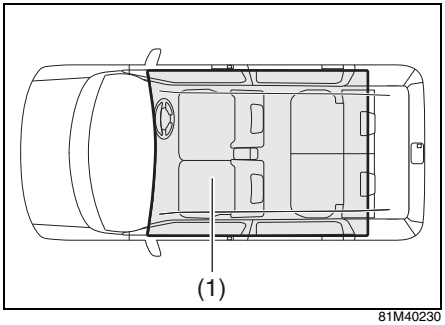
- 携帯リモコンを車内に置き忘れた状態で、**「キーを使わない施錠」**ですべてのドアを施錠しようとすると、自動的にすべてのドアが解錠されます。

アドバイス

- **「キーを使わない施錠」**をするときは、携帯リモコンが手元にあるか確認してください。リモコンを閉じ込むおそれがあります。
- エンジンスイッチが ACC または ON のときは、携帯リモコンの位置に関係なく、携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動します。
- 鉛バッテリーが完全にあがっているときや接続されていないときは、携帯リモコン閉じ込み防止機能は作動しません。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー／携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）

「車内の検知範囲」（1）は、インパネの上や荷室などを除く車室内です。



81M40230

アドバイス

●「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
- 携帯リモコンの電池が消耗している
- 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
- 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
- 携帯リモコンが奥まったところや収納スペースなどにある

→ **5-9ページ**
（インパネ収納スペース）
→ **5-12ページ**
（ドリンクホルダー）
→ **5-15ページ**
（そのほかの装備）

- 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床にある

●「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
- 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
- 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

ドア

⚠警告

●ドアを閉めるときは、シートベルトや荷物などをはさまないようにしてください。半ドア状態になって、走行中にドアが開くおそれがあります。
●エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
●火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

⚠注意

●ドアの開閉は、お子さまではなく大人が行ない、手、足、頭などをはさまないように気をつけてください。
●ドアを開けるときは、後ろからの車に注意してください。とくに風が強い日は注意してください。
●バックドアを開けるときは、完全に開けてください。開けかたが不十分な場合、思わぬときに閉まって、けがのおそれがあります。
●エンジンがかかっているときは、排気管の真後ろでバックドアを開閉しないでください。やけどなどのおそれがあります。

アドバイス

- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- セキュリティアラームのセット状態およびドアの開けかたによっては、警報が作動する場合があります。

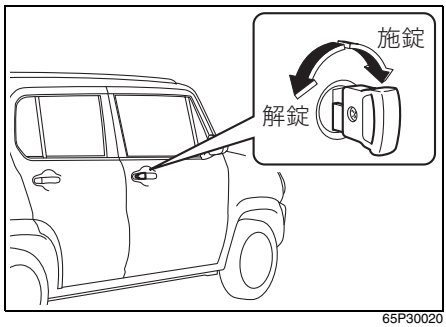
→ 3-17ページ（セキュリティアラーム）

キー操作による車外からの施錠・解錠

→ 3-4ページ（キーレスエントリー）
→ 3-7ページ（携帯リモコン）

■ 運転席ドア

キーを差し込んで車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。

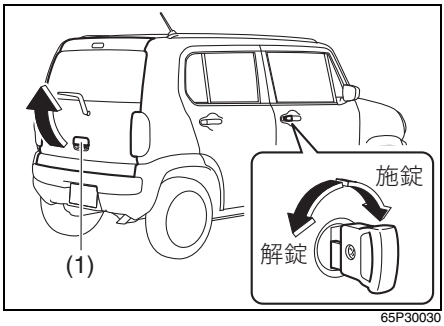


65P30020

■ バックドア

運転席ドアにキーを差し込んで車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。

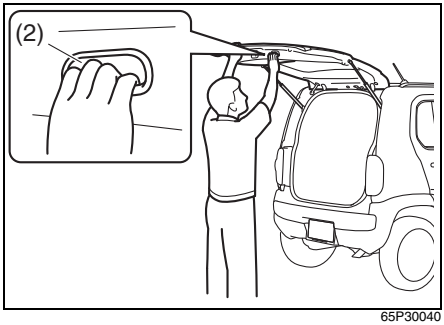
- バックドアを開けるときは、解錠後、ドアハンドル（1）を手前に引きながらドアを持ち上げます。



65P30030

バックドアを閉めるときは

ドア下面右側の手かけ部（2）を持って引き下げます。最後はドアを外側から手で、少し勢いをつけて押し付けます。

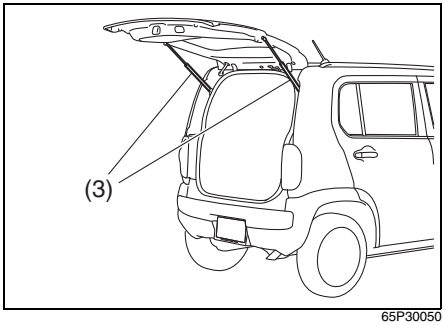


65P30040

⚠注意

バックドアをささえているダンパーステー（3）の損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。ステーが円滑に動かなくなったり、バックドアを開けたときに、保持できなくなったりするおそれがあります。

- **ステーのロッド部（ドア開閉時に摺動する棒部分）に傷をつけたり、泥やビニール片、テープなどの異物を付着させたりしないでください。**
- **ステーに手をかけたり、ものをかけたりしないでください。**

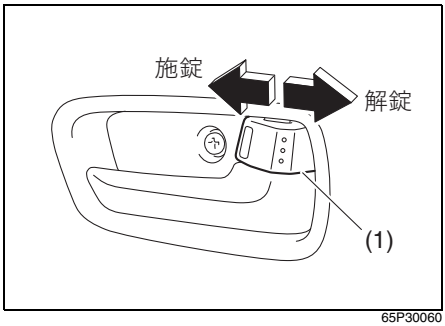


65P30050

車内からの施錠・解錠

■ 前席ドア、後席ドア

ドアを閉めてロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にすると施錠、解錠側（車の後ろ方向）にすると解錠できます。



65P30060

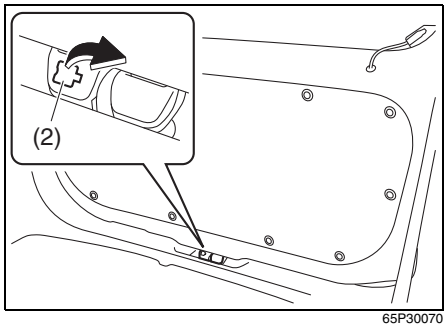
アドバイス

解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。

■ バックドア

故障や鉛バッテリーあがりなどでバックドアが解錠できないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。
緊急を要するときは、次の手順で解錠すると同時にドアを開けることができます。

1 バックドアのロック機構部にあるカバー（2）を開きます。

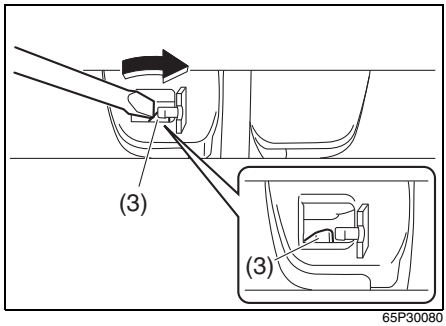


65P30070

アドバイス

カバーは小さい部品のため、紛失にご注意ください。

2 レバー（3）をマイナスドライバー（市販品）などで図の矢印方向に操作すると、バックドアが解錠と同時に開きます。



65P30080

キーを使わない施錠

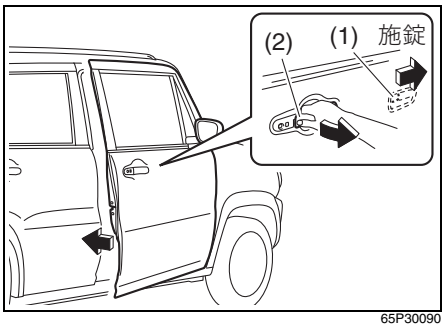
アドバイス

- **「キーを使わない施錠」**をするときは、キーが手元にあるか確認してください。キーを閉じ込むおそれがあります。
- キーレスプッシュスタートシステム装備車の場合、次のような状況では、**「キーを使わない施錠」**ができない場合があります。
  - 携帯リモコンが車内にある
  - エンジンスイッチが ACC または ON のとき

→ **3-11ページ**
（携帯リモコン閉じ込み防止機能）

■ 前席ドア

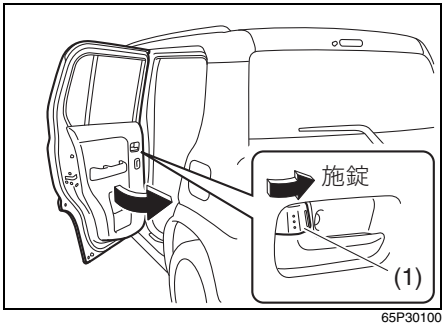
ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にして、ドアハンドル（2）を引いたままドアを閉めると施錠できます。



65P30090

■ 後席ドア

ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にして、ドアを閉めると施錠できます。

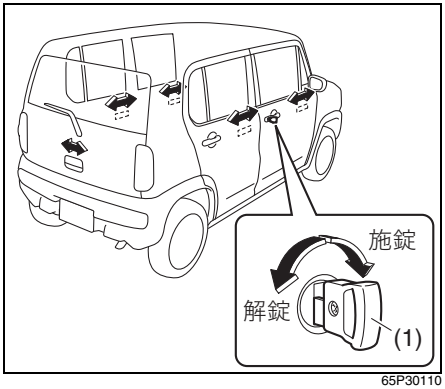


65P30100

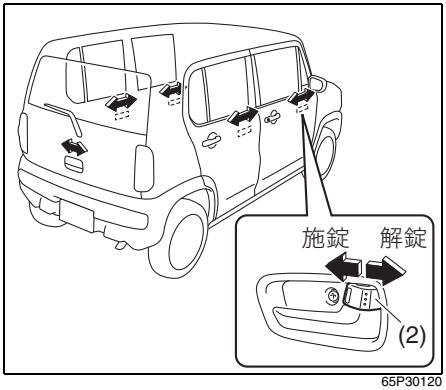
キーまたはロックレバー操作によるパワードアロック

→ **3-4ページ（キーレスエントリー）**
→ **3-7ページ（携帯リモコン）**

運転席ドアをキー（1）またはロックレバー（2）操作で施錠・解錠すると、助手席／後席／バックドアも同時に施錠・解錠します。



65P30110



65P30120

アドバイス

キーレスプッシュスタートシステム装備車の場合、いずれかのドアが開いていると、キーまたは運転席ドアのロックレバー操作で施錠できない場合があります。

→ **3-11ページ**
（携帯リモコン閉じ込み防止機能）

■ ドアロック解除機能

衝突などで SRS エアバッグが作動すると、自動的にすべてのドアロックを解除します。

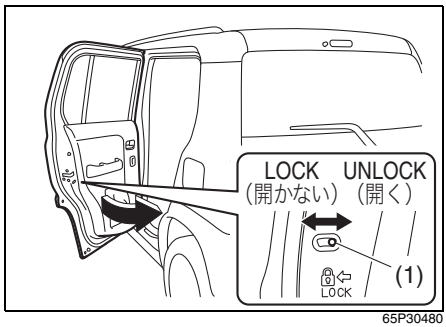
アドバイス

エアバッグが作動したときでも、ドアロックモーターの配線やモーター自体が損傷した場合は、ドアロック解除機能が作動しません。

チャイルドプルーフによる施錠・解錠

車内から後席ドアが開かないようにできます。お子さまなどによるドア誤開放を防止するために使用してください。

- 後席ドアにあるレバー（1）を **LOCK**（開かない）の位置にして、ドアを閉めます。車内からはドアが開きません。
- 外からドアを開けることは可能です。



65P30480

アドバイス

万一、車内から開ける場合は、窓から手を出して外側のドアハンドルをご使用ください。

セキュリティアラーム（警報装置）

セキュリティアラームは、ドアをキーレスエントリーまたはキーレスプッシュスタートシステム装備車のリクエストスイッチで施錠すると、約 20 秒後にセットされます。
セット状態にて、キーレスエントリーまたはリクエストスイッチ以外のもの（※）で解錠し、いずれかのドアを開けると、警報が作動して周囲に異常を知らせます。

※キーやロックレバーを含む

- 工場出荷時は、＜**警報モード**＞になっています。任意で＜**警報なしモード**＞に切り替えてください。
  → **3-19ページ（モード設定の切替えのしかた）**

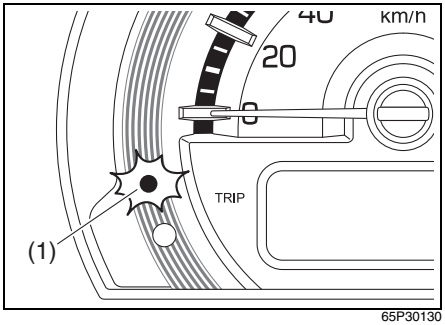
- 警報を誤作動させたときは
  → **3-18ページ（警報の停止のしかた）**

アドバイス

- セキュリティアラームは、一定の条件下で警報を発する機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- アラームのセット中は、ドアを必ずキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠してください。キーを使ってドアを解錠すると、警報が作動します。
- 車を貸すときや、セキュリティアラームを知らない方が運転するときは、作動についてよく説明するか、アラームを＜**警報なしモード**＞に切り替えてください。誤って警報を作動させると、周囲への迷惑になります。
- アラームをセットしていても、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

セキュリティアラームのセットのしかた（警報モード時）

ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠してください。セキュリティアラームインジケーター（1）が小刻みに点滅し、約20秒後にアラームがセットされます。
セット中は、セキュリティアラームインジケーターが2秒間隔で点滅します。



65P30130

アドバイス

- 警報の思わぬ作動を防ぐため、車内に人が残っているときはアラームをセットしないでください。車内の人がロックレバーで解錠し、ドアを開けた場合にも警報が作動します。
- すべてのドアをキーまたはロックレバーで施錠すると、アラームがセットされません。
- タイマーロック機能が作動すると、アラームが自動的にセットされます。（**警報なしモード**時を除く）
  → **3-7ページ（タイマーロック機能）**

セキュリティアラームの解除のしかた

ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠してください。アラームが解除され、セキュリティアラームインジケーターが消灯します。

警報の停止のしかた

警報を誤作動させたときは、エンジンスイッチを ON にしてください。警報を途中で停止できます。

アドバイス

- 警報を停止した場合でも、ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、約20秒後にアラームが再びセット状態となります。
- アラームセット状態または警報作動状態で鉛バッテリー端子を外すと、警報が停止します。ただし、再度バッテリー端子を接続すると、警報が作動します。
- 警報が終了しても、アラームの解除をせずにいずれかのドアを開けると、再び警報が作動します。

駐車時に警報が作動した場合

盗難などにより警報が作動した場合、エンジンスイッチを ON にすると、セキュリティアラームインジケーターが約8秒間小刻みに点滅し、室内ブザーが4回鳴ります。盗難にあっていないか車の中を確認してください。

セキュリティアラームモード

＜**警報モード**＞と＜**警報なしモード**＞の2つのモードがあります。警報の作動は次のようになります。

＜**警報モード**＞（工場出荷時）
非常点滅表示灯が約40秒間点滅するとともに、室内ブザーが約10秒間断続的に鳴ります。室内ブザーが鳴り終えると、ホーンが約30秒間断続的に鳴ります。作動中は、セキュリティアラームインジケーターも点滅します。

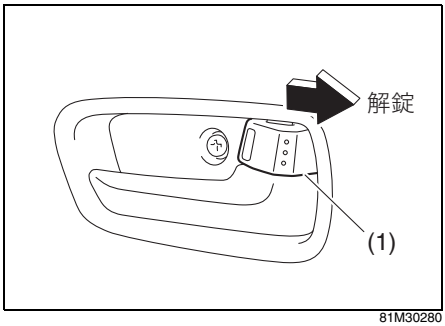
＜**警報なしモード**＞
警報は作動しません。

モード設定の切替えのしかた

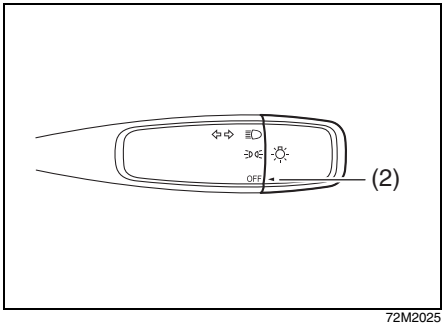
セキュリティアラームが解除されている状態で、次の手順で切り替えてください。

1 運転席にすわり、すべてのドアが閉まっているか確認します。
- いずれかのドアが開いていると、半ドア警告灯が点灯します。
  → **3-71ページ（半ドア警告灯）**

2 ロックレバー（1）を解錠側（車の後ろ方向）にします。ライトスイッチをOFF（2）の位置にします。



81M30280

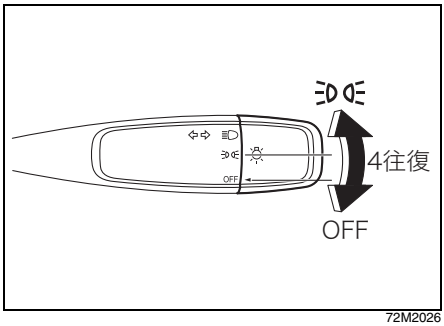


72M2025

- 上図のライトスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。
  → **3-103ページ（ライトスイッチ）**

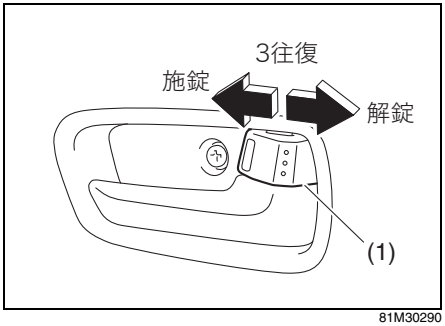
※次の3から4までの一連の手順は、15秒以内に完了してください。

3 ライトスイッチを ≡D◐ の位置にまわし、OFFの位置にもどします。この操作を4往復行ないます。



72M2026

4 ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にし、解錠側（車の後ろ方向）にもどします。この操作を3往復行ないます。



81M30290

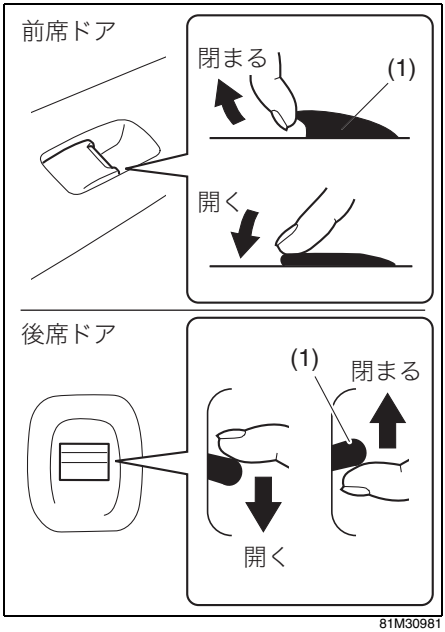
前記の手順を行なうと、モード設定が次表の順で切り替わります。また、設定確認ブザーの回数によって設定状態が確認できます。

モード設定状態	設定確認ブザー
警報なしモード	1回
警報モード	4回

- 3 から 4 までの操作が正しく行なわれなかったり、15秒以内にできなかったりしたときは、モード設定が切り替わらず、設定確認ブザーが鳴りません。はじめからやり直してください。

パワーウインドー

エンジンスイッチが ON のときに、パワーウインドースイッチ（1）を操作すると、ウインドーの開閉ができます。



81M30981

⚠警告

●パワーウインドーは強い力で開閉します。閉めるときは手や首をはさまないように注意してください。
●窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。手や首をはさむおそれがあります。

⚠注意

ウインドーガラスを開閉するときは、ガラスに触れないでください。巻き込まれるおそれがあります。

注 記

鉛バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときにウインドーを開閉してください。

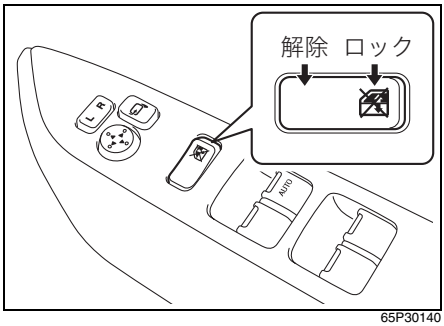
アドバイス

走行中に後席ウインドーだけを開けていると、耳を圧迫するような音が発生する場合があります。これは開いているウインドー周辺の気圧変動にともなう現象で、異常ではありません。空のビンなどの口に、横から息を吹きかけたときに音が鳴る現象と同じです。
後席ウインドーを開けたままでこの音を軽減したい場合は、次のような方法があります。
- 前席ウインドーも開ける。
- 後席ウインドーの開き具合を変える。例えばウインドーが全開なら半開にする。

ウインドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウインドーロックスイッチの ロック 側を押すと、助手席／後席ウインドーの開閉ができなくなります。

- ロックを解除するときは、ウインドーロックスイッチの 解除 側を押します。



65P30140

⚠警告

お子さまにはパワーウインドースイッチを操作させないでください。お子さまが誤って操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。

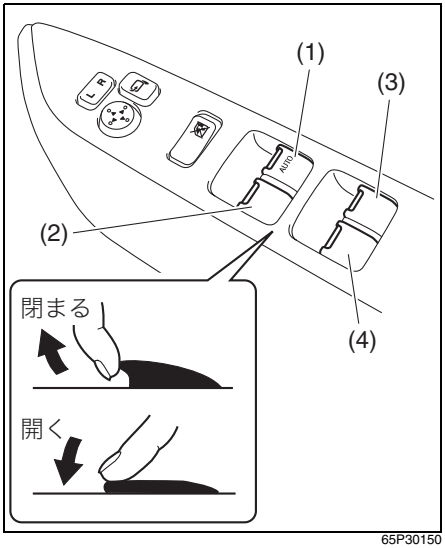
アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときでも、運転席ウインドーは開閉できます。

運転席での開閉

運転席で各席のウインドーの開閉ができます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。（運転席ウインドーのオート機構を除く）



65P30150

(1) 運転席ウインドースイッチ（オート機構付）
(2) 助手席ウインドースイッチ
(3) 右後席ウインドースイッチ
(4) 左後席ウインドースイッチ

■ 運転席ウインドーのオート機構

運転席ウインドースイッチを強く操作すると、オート機構が作動してスイッチから手を離しても自動で全開または全閉します。
途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

■ 運転席ウインドーのオフディレイタイマー機能

運転席ウインドーは、エンジンスイッチを ON の位置から ACC または LOCK（OFF）にしたあとでも、30 秒以内は開閉が可能です。

アドバイス

- 30 秒以内でも、運転席ドアを開けて閉めると、運転席ウインドーの開閉ができません。
- 運転席ウインドーの開閉が可能な間は、運転席ウインドースイッチの“AUTO”の文字が点灯しています。

■ はさみ込み防止機構

運転席ウインドーには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウインドーに一定以上の負荷がかかると、ウインドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

⚠警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行なってください。

⚠注意

はさみ込み防止機構は、スイッチを引き上げ続けた状態では作動しません。また、閉まりきる直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

アドバイス

- ウインドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウインドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウインドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウインドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ はさみ込み防止機構の初期設定が必要なとき

次のような場合は、運転席ウインドーが自動で開かなくなるとともに自動で閉めたときに、はさみ込み防止機構が作動しなくなってしまいます。

「**初期設定のしかた**」をお読みになり、初期設定を行なってください。

→ **3-23ページ（初期設定のしかた）**

- 鉛バッテリーの端子を外したとき
- 鉛バッテリーあがりがおきたとき
- 鉛バッテリーを交換したとき

→ **7-18 ページ（鉛バッテリーを交換するときは）**

- ヒューズを点検・交換したとき

→ **7-20ページ（ヒューズが切れたときは）**

⚠警告

はさみ込み防止機構は、必ず初期設定してください。初期設定が完了するまでは、はさみ込み防止機構が作動しません。

アドバイス

運転席ウインドーが自動で開くことも閉めることもできなくなった場合も、初期設定を行なってください。

■ 初期設定のしかた

はさみ込み防止機構の初期設定は次の手順で行なってください。

1 エンジンを始動します。

2 運転席ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。

3 運転席ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。

4 そのままスイッチを2秒以上引き上げ続けます。

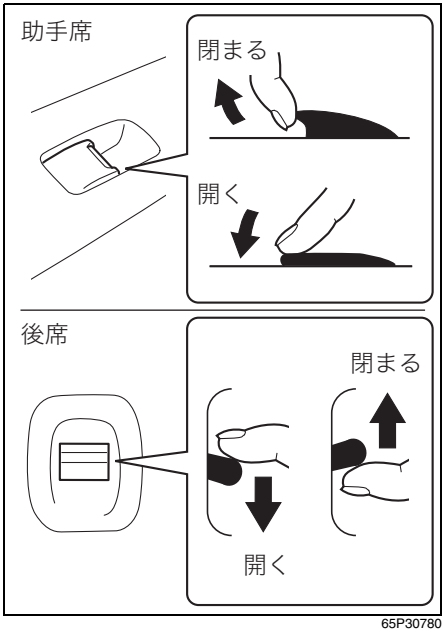
5 運転席ウインドーが自動開閉できるようになったか確認します。

- 手順 1 ～ 4 を何度繰り返しても運転席ウインドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

助手席、後席での開閉

自席のウインドーを開閉できます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアのウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。
  → **3-21ページ（ウインドーロックスイッチ）**



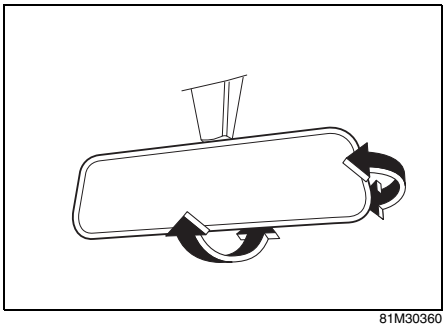
65P30780

アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときは、助手席／後席ウインドーの開閉ができません。

ルームミラー

ミラーの本体を持って角度を調節します。



81M30360

⚠警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラー

⚠警告

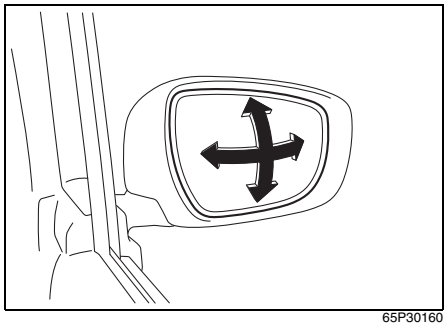
必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

角度の調節

■ 手動

タイプ別装備

ミラー鏡面を指で押して調節します。



65P30160

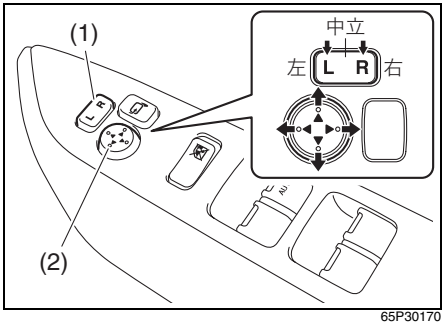
■ ドアミラー角度調節スイッチ

タイプ別装備

エンジンスイッチが ACC または ON の位置にあるときに使用できます。

1 左右切替えスイッチ（1）を、調節したいミラーの側に押します。

2 角度調節スイッチ（2）を押して、上下左右にミラーを動かします。



65P30170

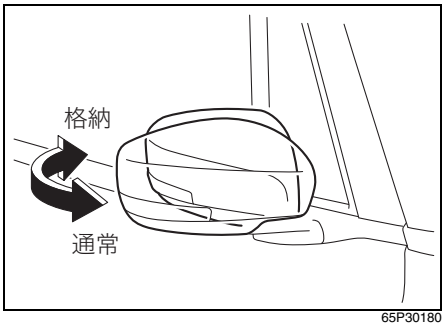
アドバイス

調節後は、左右切替えスイッチを中立の位置へもどしてください。

格納

狭い場所で駐車するときなどに、ドアミラーを車の後ろ方向に格納できます。

- 電動で格納するときは、次の「**ドアミラー格納スイッチ**」をお読みください。



65P30180

- 上図のドアミラーは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠注意

●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。
●ドアミラーは車体より張り出しています。ドアミラーを車外の人やものに当てないように気をつけてください。

注 記

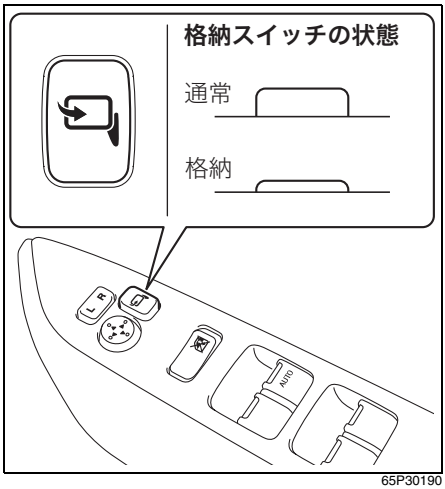
電動格納ドアミラー装備車の場合、エンジンスイッチが ACC または ON の位置にあるときは、手でドアミラーを動かさないでください。故障の原因となります。

■ ドアミラー格納スイッチ

タイプ別装備

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

- 格納スイッチを押すごとに、格納と通常の位置に切り替わります。



65P30190

- 格納スイッチが通常の位置で、ドアミラーが車の前方向に倒れていると、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーがさらに車の前方向に倒れてしまいます。ドアミラーをもとの状態にもどすときは、一度格納操作をしてください。

⚠注意

●ドアミラーを動かすときは、次のことに注意してください。けがをしたり、ミラーが破損したりする原因となります。
・ドアミラーの周囲に人やものがないか確認する
・動いているドアミラーに触れない

●格納スイッチでドアミラーを格納したときは、手でドアミラーを通常の位置にもどさないでください。ドアミラーの固定が不完全になるため、走行中の振動や走行風などでドアミラーが動くおそれがあります。
その場合は、スイッチを通常の位置に押して、確実にドアミラーを固定してください。

注 記

ドアミラーが凍結しているときは、手で動かすことが可能かを確認してから、格納スイッチの操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 6-14ページ（ドアミラーの凍結）

アドバイス

ドアミラーを手で動かすと、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーが動き出すことがあります。

リモート格納ミラー

タイプ別装備

ドアミラー格納スイッチが通常の位置にあるときは、ドアの施錠やエンジンスイッチの操作と連動して、ドアミラーが自動的に格納と通常の位置に切り替わります。

- リクエストスイッチまたはキーレスエントリーでドアを施錠すると、自動的にドアミラーが格納されます。
  → **3-4ページ（キーレスエントリー）**
  → **3-7ページ（携帯リモコン）**
- 通常の位置にもどすときは、エンジンスイッチを ACC または ON にします。
- 工場出荷時は、作動する設定になっています。任意で停止に切り替えてください。
  → **3-28ページ（リモート格納ミラーの停止・作動の切替えのしかた）**

注 記

ドアミラーが凍結するような寒冷時は、リモート格納ミラーの機能を停止してください。凍結したまま動作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 6-14ページ（ドアミラーの凍結）

アドバイス

- ドアをキーまたはロックレバーで施錠すると、ドアミラーが自動的に格納されません。
- ドアミラー格納スイッチが格納の位置にあるときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーが自動的に通常の位置にもどりません。
- タイマーロック機能が作動すると、ドアミラーが自動的に格納されます。
  → **3-7ページ（タイマーロック機能）**

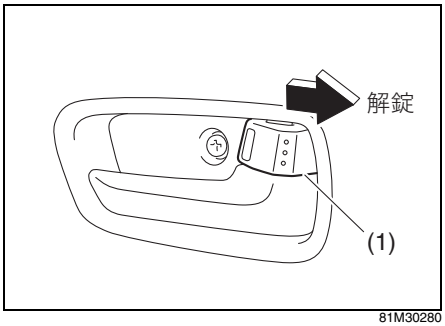
■ リモート格納ミラーの停止・作動の切替えのしかた

エンジンスイッチが LOCK（OFF）の位置にある状態で、次の手順で切り替えてください。

1 運転席にすわり、すべてのドアが閉まっているか確認します。

- いずれかのドアが開いていると、半ドア警告灯が点灯します。
  → **3-71ページ（半ドア警告灯）**

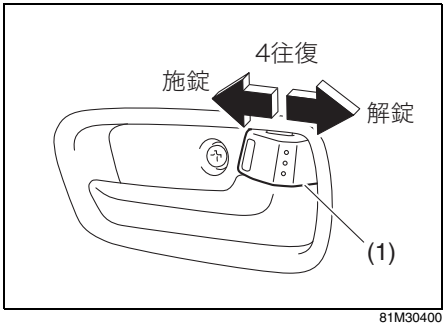
2 ロックレバー（1）を解錠側（車の後ろ方向）にします。



81M30280

※次の 3 から 4 までの一連の手順は、15秒以内に完了してください。

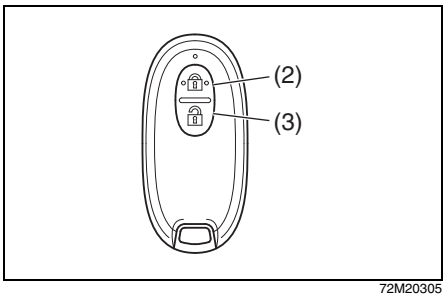
3 ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にし、解錠側（車の後ろ方向）にもどします。この操作を4往復行ないます。



81M30400

4 携帯リモコンの操作部を3回押します。

- 操作部はロック／アンロックスイッチのどちらでも結構です。
- 設定切替え中は、操作部を押してもドアの施解錠は行なわれません。



72M20305

(2) 操作部(ロックスイッチ)
(3) 操作部(アンロックスイッチ)

前記の手順を行なうと、リモート格納ミラーの設定が次表の順で切り替わります。また、設定確認ブザーの回数によって設定状態が確認できます。

リモート格納ミラーの設定状態	設定確認ブザー
停止	1回
⇕	⇕
作動	2回

- 3から4までの操作が正しく行なわれなかったり、15秒以内にできなかったりしたときは、設定が切り替わらず、設定確認ブザーが鳴りません。はじめからやり直してください。

ドアミラーヒータースイッチ

タイプ別装備

ドアミラーヒーターは、リヤデフォッガーと連動します。

→ **5-35ページ（リヤデフォッガースイッチ）**

チルトステアリング

タイプ別装備

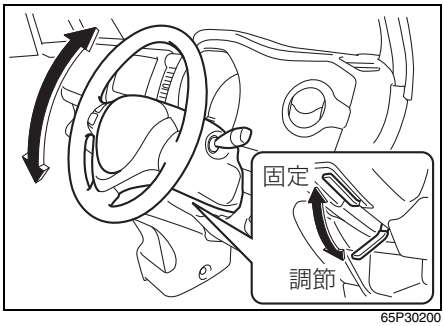
ハンドルの高さ調節

→ **2-13 ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）**

1 ハンドルの固定を解除します。
- 片手でハンドルをささえながら、ハンドル下のレバーを押し下げます。

2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置に調節します。

3 調節後は、ハンドルを固定します。
- その位置でハンドルを押さえたまま、レバーをもとの位置まで確実にもどします。



65P30200

⚠注意

調節後はハンドルを上下にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

前席シート

→ 5-20ページ（アームレスト）

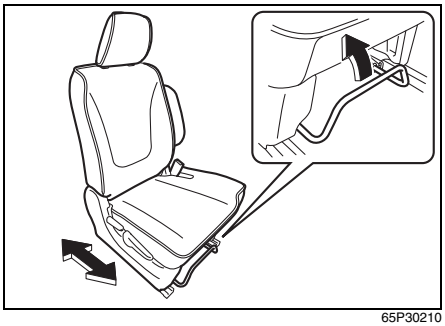
⚠注意

●シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。
→ 2-13ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）

●シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

前後位置の調節

スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。



65P30210

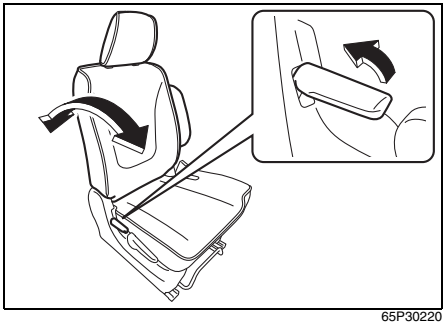
● 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

シートの下にものを置かないでください。（助手席のシートアンダーボックス内を除く）ものがはさまって、次のようなことが起きるおそれがあります。
●シートが固定されない
●エネチャージ装備車の助手席下（シートアンダーボックス下）にあるリチウムイオンバッテリーを損傷する
→ 2-3ページ（バッテリーについて）
→ 5-17ページ（シートアンダーボックス）

背もたれの角度調節

● 後方に倒すときは、リクライニングレバーを引き上げたまま、背中で軽く押します。
● 前方に起こすときは、背中を少し浮かせて、リクライニングレバーを引き上げます。



65P30220

● 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトや SRS エアバッグシステムが本来の効果を発揮できません。

⚠注意

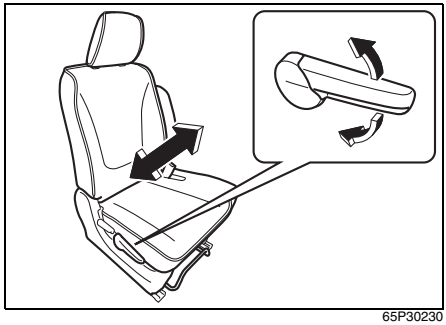
背もたれから離れてリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急に起きあがって前方に倒れることがあります。手などを添えて操作してください。

運転席シートの高さ調節

タイプ別装備

運転席シート右横のレバーを繰り返し操作します。

- レバーを引き上げると、シート全体が高くなるとともに前方に動きます。
- レバーを押し下げると、シート全体が低くなるとともに後方に動きます。



65P30230

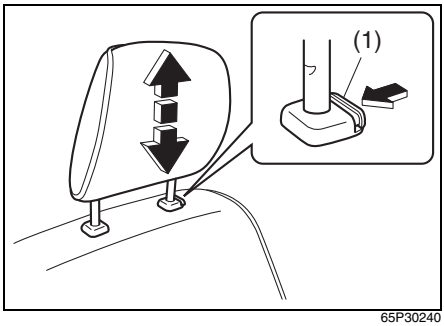
- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け

■ 高さの調節

走行前に、ヘッドレスト中央の高さが耳の位置になるように調節し、しっかりと固定します。背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

- 高くするときは、ヘッドレストを手で持ち上げます。
- 低くするときは、ロックボタン（1）を押したままヘッドレストを押し下げます。



65P30240

■ 取り外しかた

ロックボタンを押したまま引き抜きます。

⚠警告

ヘッドレストを外したまま、走行しないでください。

■ 取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

⚠警告

ヘッドレストは、しっかりと固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。
ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

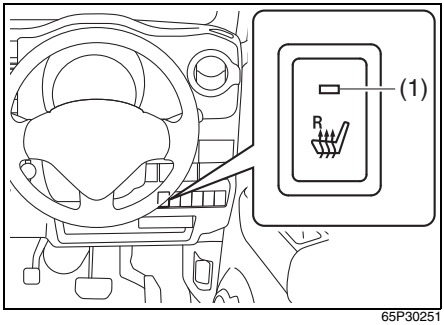
運転席シートヒータースイッチ

タイプ別装備

シート内にあるヒーターで座面をあたためることができます。

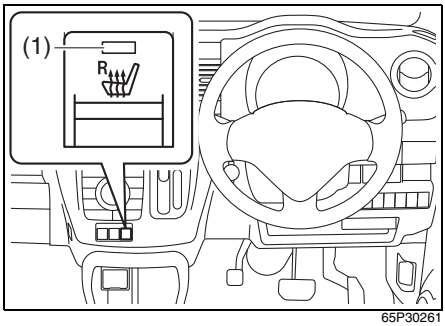
- エンジンスイッチが ON のときにスイッチを押すと、ヒーターが作動して、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。もう一度押すと、ヒーターが止まります。
- シートがお好みの温度になったら、ヒーターを止めてください。

ヒルディセントコントロール非装備車



65P30251

ヒルディセントコントロール装備車



65P30261

⚠注意

●長時間ヒーターを使用すると、低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。
●毛布や座ぶとんなど、保温性の高いものをシートにかけないでください。過熱の原因となります。

注 記

●シートの上に重い荷物を置いたり、針や釘などをシートに刺したりしないでください。
●シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面やヒーターが損傷する原因となります。
→ 6-4ページ（内装のお手入れ）

●水やジュースなどをこぼしたときは、やわらかい布などでふき取り、十分に乾かしてからご使用ください。
●鉛バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときに使用してください。

アドバイス

ヒーターは自動停止しません。スイッチを切らないと、作動し続けます。

後席シート

⚠注意

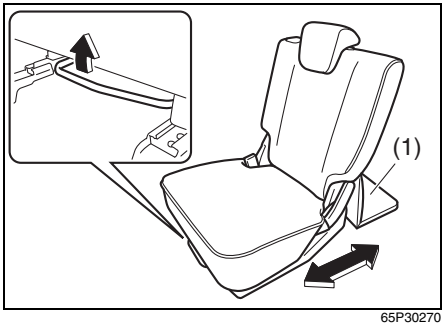
●シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。
●シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

前後位置の調節

スライド機構付後席

スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。

- ラゲッジフロアボード（1）も連動して前後に動きますので、ボード上に荷物がある場合はいったん降ろしてからシートを動かしてください。



65P30270

⚠警告

シートの下にものを置かないでください。ものがはさまって、シートが固定されないおそれがあります。

⚠注意

シートを動かすときは、ラゲッジフロアボードに指や手をはさまないようにご注意ください。また、荷物が倒れたり、はさまれたりすることがありますのでご注意ください。

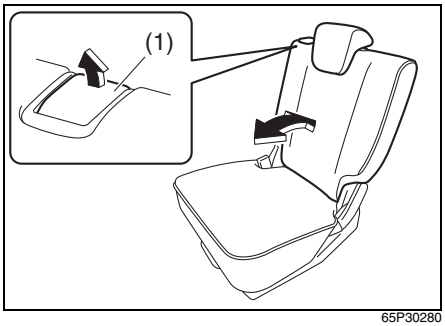
背もたれの角度調節

1 片方の手を背もたれに添え、もう一方の手で背もたれ上面のリクライニングレバー（1）をいっぱいに引き上げます。

- シートから降りて操作してください。シートにすわったままリクライニングレバーを引き上げると、背もたれが急に最大角度まで倒れ込むことがあります。
- リクライニングレバーは、いっぱいに引き上げてください。ロックが解除されないうちに背もたれを倒そうとすると、レバーの動きが重くなります。

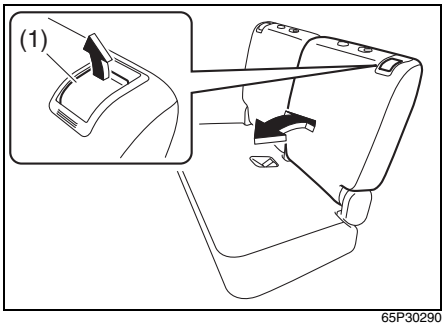
2 リクライニングレバーを引き上げたまま、背もたれを好みの角度の少し手前まで倒します。

スライド機構付後席



65P30280

スライド機構なし後席



65P30290

3 リクライニングレバーから手を離し、固定される位置まで背もたれを倒します。

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

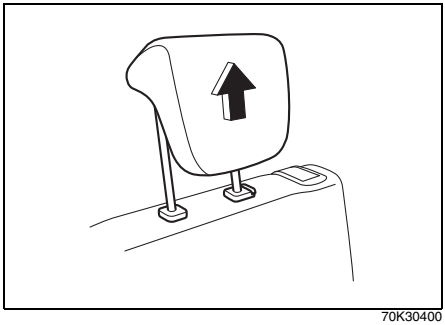
ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け

タイプ別装備

■ 使用時の位置

使用するときは、ヘッドレストを手で持ち上げ、しっかりと固定します。

使用時

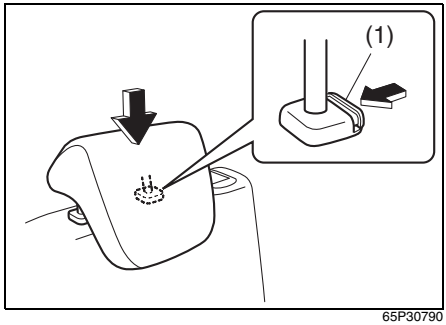


70K30400

■ 収納時の位置

収納するときは、ロックボタン（1）を押したままヘッドレストを一番下まで押し下げます。

収納時



65P30790

■ 取り外しかた

ロックボタン（1）を押したまま引き抜きます。

⚠警告

ヘッドレストを外したまま、後席に人を乗せないでください。（お子さま用シートの固定時を除く）

⚠注意

お子さま用シートの固定などで取り外したヘッドレストは、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員やものなどに当たって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

⚠警告

- **ヘッドレストは、しっかり固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。**
  ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。
- **お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節するか取り外してください。ヘッドレストが当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

シートの便利な使いかた

荷室を広げるとき(後席シート)

背もたれを前方へ倒すと、荷室が広く使えます。

⚠警告

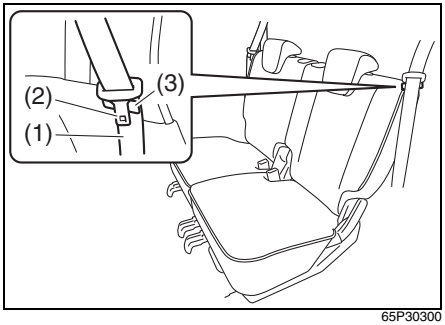
倒した背もたれの上や荷室に人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されてけがのおそれがあります。

⚠注意

シートを動かすときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。

■ 格納のしかた

1 シートベルト（1）およびタングプレート（2）を図のようにベルトガイド（3）にかけます。



65P30300

- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

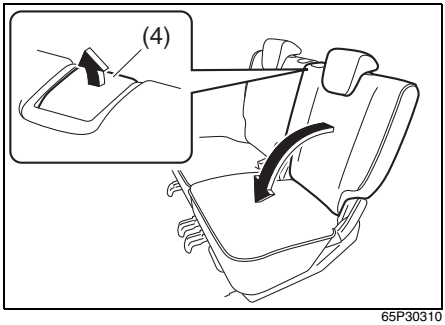
2 片方の手を背もたれに添え、もう一方の手で背もたれ上面のリクライニングレバー（4）を、いっぱいに引き上げます。

- リクライニングレバーはいっぱいに引き上げてください。ロックが解除されないうちに背もたれを倒そうとすると、レバーの動きが重くなります。

3 リクライニングレバーを引き上げたまま、背もたれを前方へ倒します。

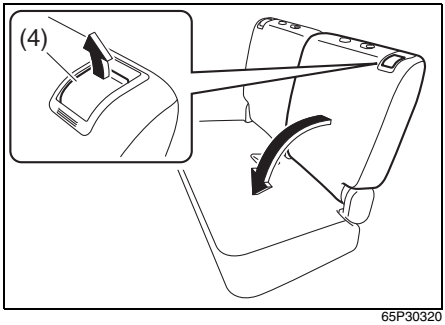
- 後席のヘッドレスト（タイプ別装備）が前席に当たる場合は、前席を前方へ動かしてください。

スライド機構付後席



65P30310

スライド機構なし後席

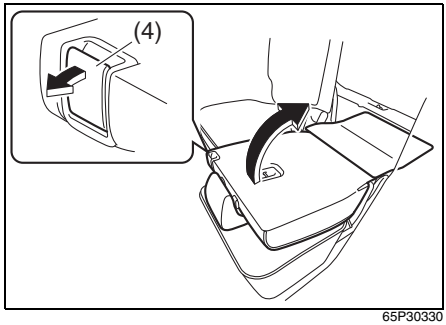


65P30320

■ もとにもどすときは

スライド機構付後席

1 リクライニングレバー（4）を車の前方向にいっぱいに倒し、そのまま背もたれを少し起こします。



65P30330

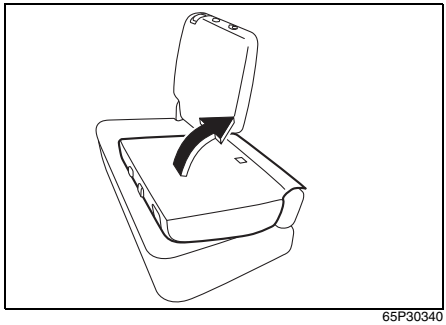
2 リクライニングレバーから手を離し、固定される位置まで背もたれを起こします。

- 背もたれを前後にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

スライド機構なし後席

背もたれを固定される位置まで車の後ろ方向へ倒します。

- 背もたれを前後にゆすって、確実に固定されているか確認してください。



65P30340

長い荷物を積むとき（助手席シート）

後席シートの格納のあとに、助手席の背もたれを前方へ倒すと、より長い荷物が積めます。

→ **3-36ページ**
（荷室を広げるとき（後席シート））

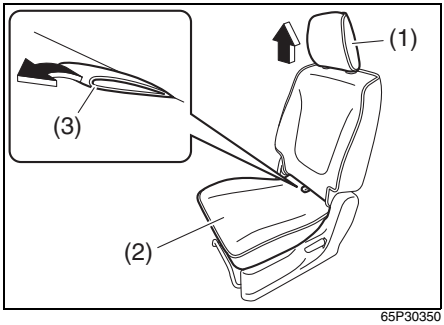
⚠ 警告

- **前方へ倒した背もたれの上に、人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに投げ出されてけがのおそれがあります。また、シートが破損する原因となります。**
- **背もたれを前方へ倒したときは、荷物を確実に固定してください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、荷物が飛び出して身体に当たるおそれがあります。**

■ 背もたれの前方への倒しかた

1 ヘッドレスト（1）を外します。クッション（2）の後部についているバンド（3）を引き上げて固定を外し、クッションを車の前方向へ起こします。

- バンドが引き上げにくいときは、背もたれを後方へ倒します。

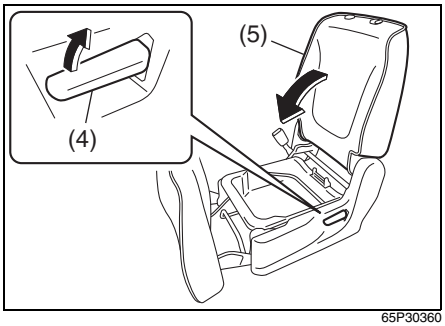


65P30350

注 記

前方へ起こしたクッションに、力を加えないでください。クッション取り付け部が損傷するおそれがあります。

2 リクライニングレバー（4）を引き上げ、背もたれ（5）を前方へいっぱいまで倒します。



65P30360

■ もとにもどすときは

「背もたれの前方への倒しかた」と逆の手順で行ないます。

フルフラットシート

前席と後席の背もたれを後方へ倒すと、室内に連続的な空間が作れます。

⚠警告

フルフラットにしたシートに、人や荷物を乗せて走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されたり、荷物が身体に当たったりして重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

- **フルフラットにしたシートの上を歩きまわらないでください。シートから足を踏み外すと、けがのおそれがあります。**
- **シートをもとにもどしたときは、クッションや背もたれをゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。シート自体の固定が不確実な場合、走行中に突然シートが動いたり背もたれが前方へ倒れたりして、思わぬけがをするおそれがあります。**

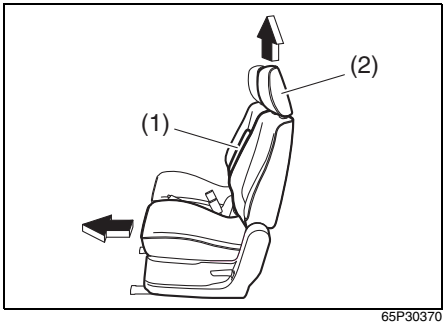
注 記

シートに強い衝撃をあたえないでください。シートが損傷することがあります。

■ フルフラットにするときは

1 前席ベンチシート装備車は、前席のアームレスト（1）を持ち上げ収納します。

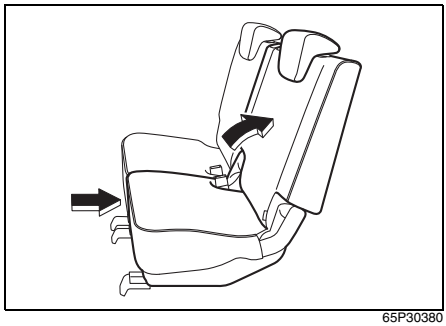
2 前席のヘッドレスト（2）を外し、前席を前方へいっぱいまでスライドさせます。



65P30370

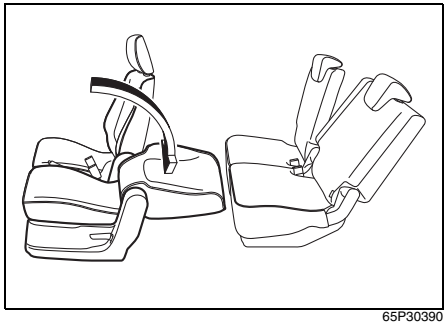
3 スライド機構付後席の場合、後席を後方へいっぱいまでスライドさせます。

4 後席の背もたれを、後方へいっぱいまで倒します。後席はフラットになりません。



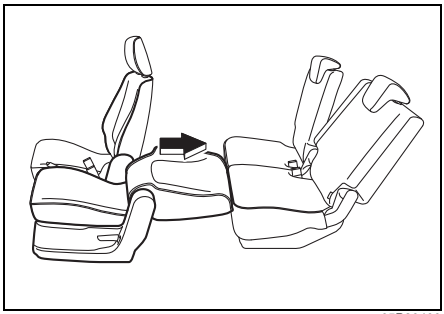
65P30380

5 前席の背もたれを、後方へいっぱいまで倒します。



65P30390

6 後席に当たるまで、前席を後方へスライドさせます。



65P30400

もとにもどすとき

「**フルフラットにするときは**」と逆の手順で操作します。

シートベルトについて

正しい姿勢でシートにすわり、正しくシートベルトを着用しないと、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトは、**2-14ページ**の「**シートベルトは正しく着用**」を参照のうえ、正しく着用するとともに、同乗者がいる場合は、安全のため全員着用しましょう。

お子さまもシートベルトを着用

→ **2-7ページ**
（お子さまを乗せるときは）

⚠警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合はハサミでベルトを切断してください。

80J028

妊娠中や疾患のある方は

⚠警告

- **妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。**
- **妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。**

80J075

シートベルト警告ブザー

運転席のシートベルト着用忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していないと、メーター内のシートベルト警告灯が点灯から点滅に切り替わるとともに、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴ります。

→ **3-66ページ**
（シートベルト警告灯）

- 警告ブザーの作動中は、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
  → **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

アドバイス

- 運転者がベルトを着用すると、警告灯は消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がベルトを着用しなくても、約95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にするまで消灯しません。

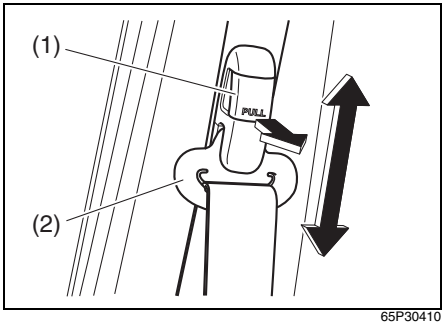
シートベルトの長さ調節

シートベルトは、長さ調節が必要ありません。身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

肩ベルトの高さ調節（前席のみ）

身体の大きさにあわせて、ショルダーアンカー（2）の高さ調節ができます。

- 上に調節するときは、アンカーをそのまま適切な位置まで持ち上げます。
- 下に調節するときは、ロックレバー（1）を引いたままアンカーを下げ、適切な位置でレバーを離します。
- 調節後は、アンカーを下に引いて固定されているか確認します。



65P30410

シートベルトの着用のしかた

■ 着用のしかた

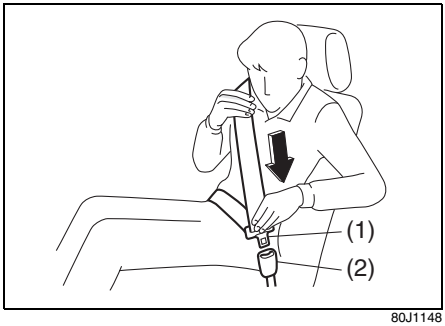
1 タングプレート（1）とシートベルトをつかみ、ベルトをゆっくりと引き出します。
ベルトのねじれを取ります。

80J1147

アドバイス

ベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

2 タングプレート（1）をバックル（2）の差し込み口にまっすぐになるようにあわせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。



80J1148

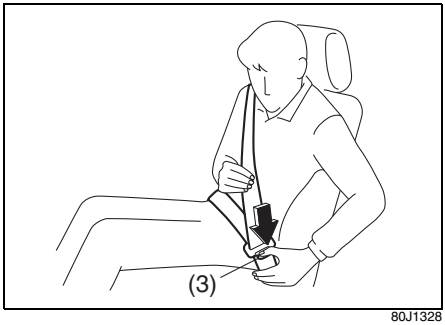
3 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。

4 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

5 ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

■ 外すときは

バックルのボタン（3）を押します。シートベルトが自動的に巻きもどされますので、ベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。



80J1328

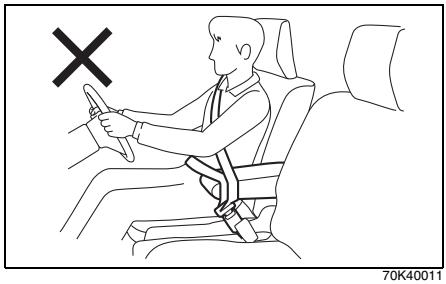
アドバイス

ベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。ベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。

シートベルトを正しく着用する

⚠ 警告

- **シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに強く圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが肩にしっかりとかかっていないと、衝撃を受けたときに前に投げ出されるおそれがあります。**
- **アームレスト（タイプ別装備）にベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。ベルトは、アームレストの下を通してください。**

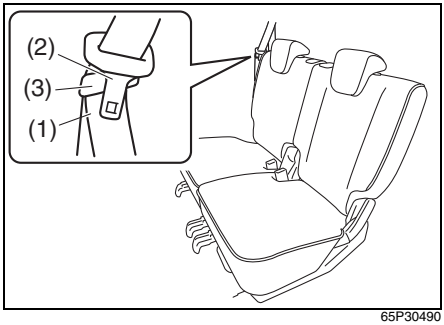


70K40011

シートベルトの取扱いとお手入れ

取扱い

後席に人を乗せないときは、シートベルト（1）およびタングプレート（2）を次の図のようにベルトガイド（3）にかけてください。



65P30490

- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠ 警告

- **シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、ベルトを交換してください。**
- **バックルが正常に動かないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **衝突などでベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。ベルトを交換してください。**
- **バックルの内部に異物が入ったり、飲み物をこぼしたりしたときは、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがありますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **ベルトをドアにはさまないでください。ドアを閉める前に、ベルトがたるみなく巻きもどされているか確認してください。**
- **ベルトを改造したり、取り外したりしないでください。**

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。

→ **6-4ページ（布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ）**

⚠ 警告

漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

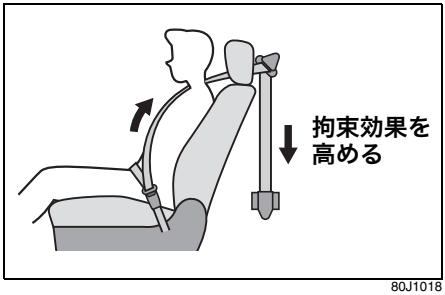
シートベルトプリテンショナー（前席のみ）

シートベルトプリテンショナーとは

エンジンスイッチが ON のときに、次のような状況になると、肩ベルトを瞬時に巻き取ります。

- 車の前方向から強い衝撃を受けたとき。運転席・助手席SRSエアバッグシステムと連動しています。
  → **3-50ページ（SRSエアバッグシステムの作動）**

また、運転席側はラップアウタープリテンショナー機構により、腰ベルトも同時に巻き取ります。



80J1018

アドバイス

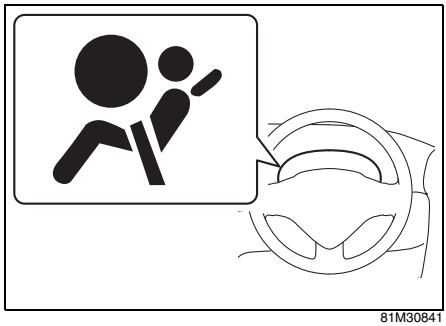
作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの機能に影響をあたえる部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。

→ **2-34ページ（部品の取り付け、取り外し、修理をするときは）**

SRSエアバッグ警告灯



81M30841

メーターパネル内にあります。

- シートベルトプリテンショナー、SRSエアバッグが作動したまたは電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

廃棄や廃車

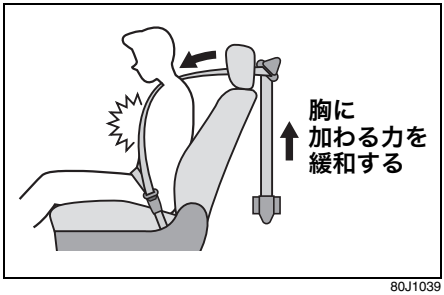
作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

⚠注意

プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

シートベルト可変フォースリミッター（前席のみ）

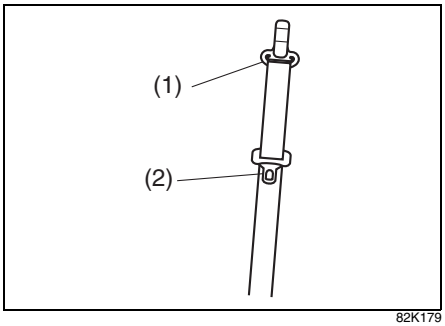
車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻き取り装置内のシートベルト可変フォースリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを 2 段階に繰り出して、衝撃を緩和します。



80J1039

⚠ 警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部（1）およびタングプレート部（2）の樹脂が強い摩擦で溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できません。スズキサービス工場で交換してください。



82K179

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRSエアバッグシステムとは

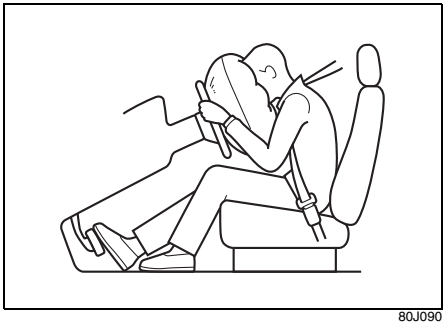
SRS とは Supplemental Restraint System（サプリメンタル　レストレイント　システム）の略で、補助拘束装置の意味です。

■ 運転席・助手席 SRS エアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の前方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インパネに顔面が当たるような強い衝突のときに、運転席・助手席 SRS エアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席・助手席SRSエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した運転席・助手席乗員の主に顔面への衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。

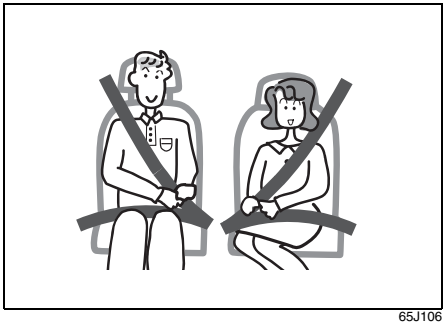
→ **3-42ページ（シートベルトの着用のしかた）**



80J090

⚠ 警告

- **SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。**
- **シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、SRS エアバッグの効果が十分発揮できません。**



65J106

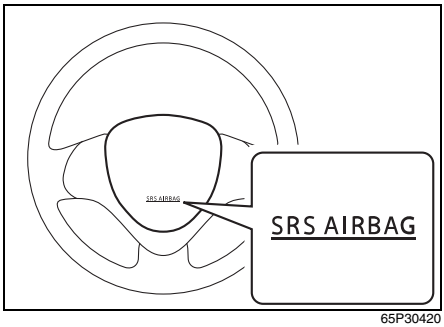
アドバイス

助手席SRSエアバッグは、助手席に乗員がいなくても、運転席SRSエアバッグと同時にふくらみます。

表示と収納場所

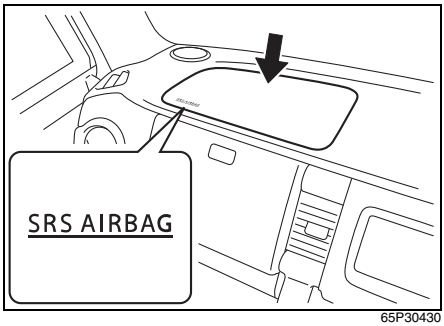
“SRS AIRBAG”の表示がある付近に収納されています。

■ 運転席SRSエアバッグ



65P30420

■ 助手席SRSエアバッグ



65P30430

⚠ 警告

- **エアバッグの収納部分に傷がついていたり、ひび割れがあったりするときは、スズキサービス工場で交換してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。**
- **エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり誤ってふくらんだりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

着座姿勢

運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。
とくに助手席の同乗者は、後席の同乗者のさまたげにならない位置までシートを後方に移動し、助手席SRSエアバッグからできるだけ離れてすわってください。
→ **2-13ページ（正しい運転姿勢）**

お子さま用シートの取り付け

→ **2-8 ページ（お子さま用シートの使用について）**
→ **3-54 ページ（お子さま用シートの選択について）**
→ **3-59 ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**

SRSエアバッグシステムの取扱い

SRSエアバッグシステムを正常に機能させるために

SRSエアバッグがふくらむ範囲にものがあると、ものが飛ばされたりSRSエアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

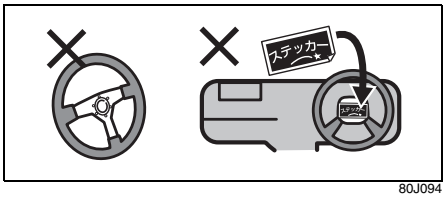
⚠警告

●サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRS エアバッグの誤作動の原因になります。
●車両前部にグリルガードなどを装着するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
●無線機などを取り付けるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。無線機の電波などがSRS エアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。
●SRSエアバッグが作動しない程度の事故であっても､事故後はスズキサービス工場で点検を受けてください｡システム本来の機能が損なわれていると、万一のときにSRSエアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。
●SRSエアバッグは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときにふくらんだり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼしますので、事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
・ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など
・センターコンソールの修理、インパネまわり、前席下の修理および電気配線の修理
・オーディオ用品などの取り付け
・ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
・前席シートの交換およびシートまわりの修理
・センターピラーまわりの修理

■ 運転席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

- ハンドルにもたれかかるなどして、SRS エアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。万一のときに SRS エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。

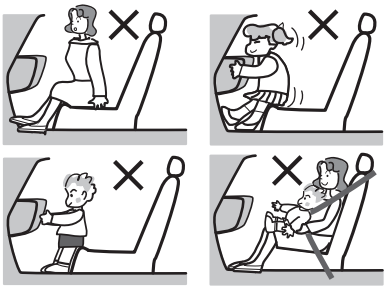


80J094

■ 助手席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

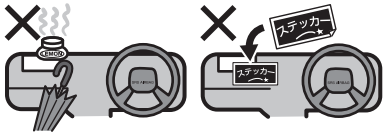
- 助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。守らないと SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - インパネの SRS エアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。
  - お子さまを SRS エアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまは後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。



80J095

  - シートベルトを正しく着用できないお子さまは、お子さま用シートをご使用のうえ、後席に乗せてください。
    → 2-8 ページ（お子さま用シートの使用について）
    → 3-54ページ（お子さま用シートの選択について）

- インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。



80J096

- フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（スズキ純正用品を除く）などを取り付けないでください。

SRSエアバッグシステムの作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

⚠警告

エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。

⚠注意

エアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

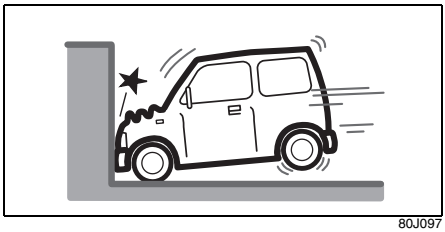
アドバイス

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

こんなとき作動します

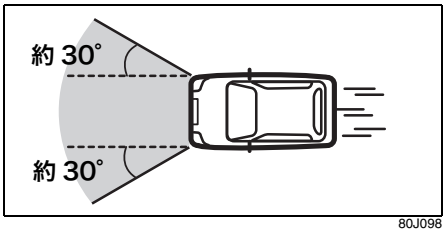
■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約25 km/h以上の速度で正面衝突したとき



80J097

- 車両の前方約30°以内の方向から、上図と同等の強い衝撃を受けたとき



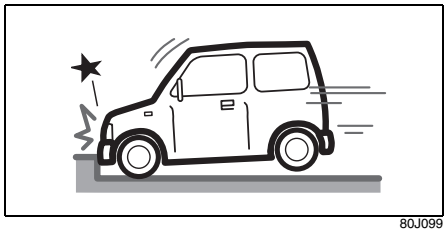
80J098

こんなとき作動することがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

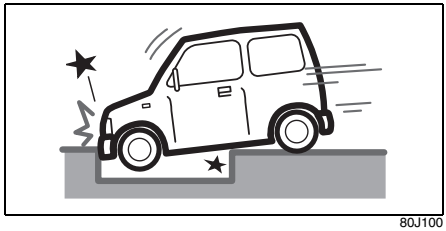
車体下部に強い衝撃を受けると、多くの場合作動します。

● 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



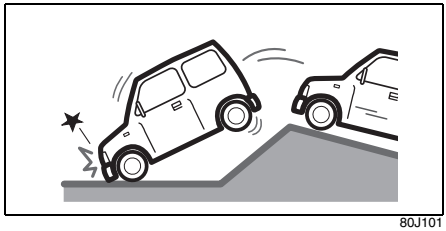
80J099

● 深い穴や溝などに落ちたとき



80J100

● ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき



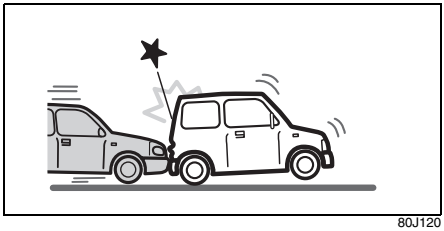
80J101

こんなとき、衝撃が強いと作動する場合もあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

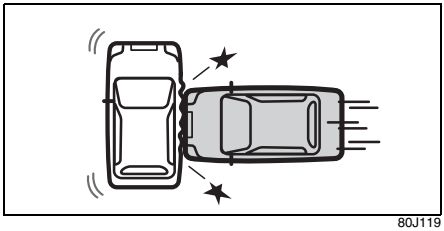
後方、横方向からの衝突、横転などでは基本的に作動しませんが、衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

● 後方からの衝突



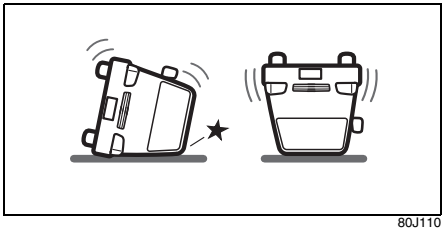
80J120

● 横方向からの衝突



80J119

● 横転や転覆をしたとき



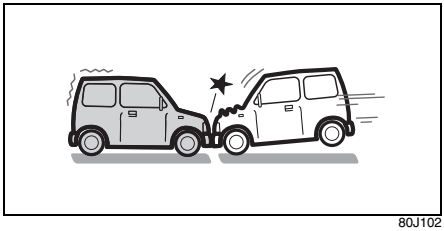
80J110

こんなとき作動しないことがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

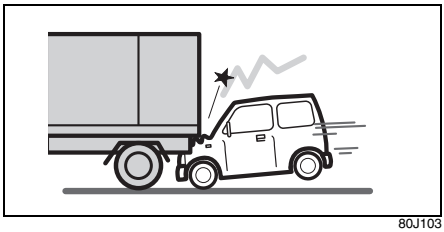
衝突の相手が移動したり、車体が大きく変形したりして衝撃が吸収されたときや、衝突の角度が前方約 30° を超えるとき、多くの場合は作動しません。

- 停車している同程度の重さの車に、50 km/h程度、もしくはそれ以下の速度で正面から衝突したとき



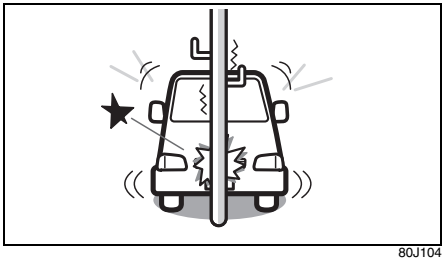
80J102

- トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



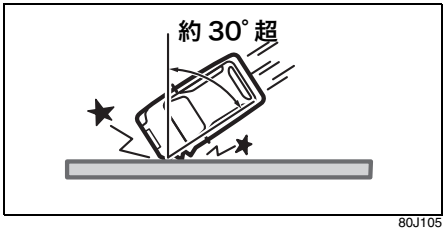
80J103

- 電柱や立木などに衝突したとき



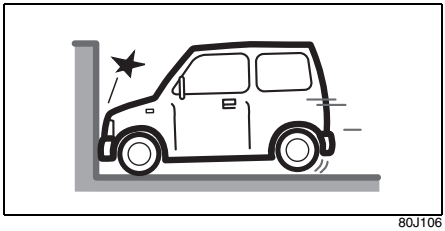
80J104

- 前方約30°を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



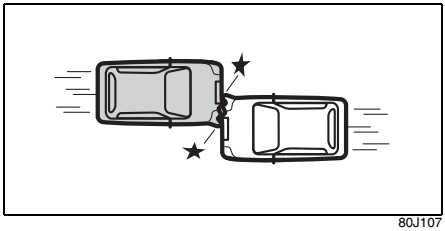
80J105

- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約25 km/h以下のとき



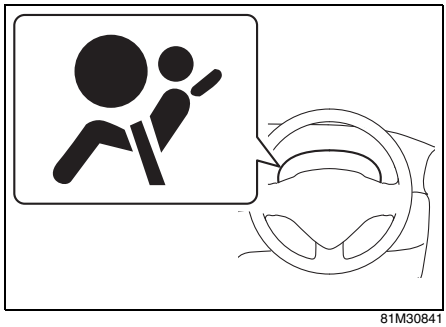
80J106

- 衝突の方向が車両の中心からずれたとき（オフセット衝突）



80J107

SRSエアバッグ警告灯



81M30841

メーターパネル内にあります。

- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動したまたは電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

廃棄と廃車

作動していないエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

80J112

⚠注意

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。正しく取り扱わないと、エアバッグが思いがけないときにふくらんで、けがをすることがあります。

イベントデータレコーダー（EDR）とは

この車は、SRSエアバッグシステムを制御するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、SRSエアバッグシステムが正常に作動しているかどうかを常に診断するとともに、エアバッグが作動するような事故のときに、衝突時点やその前後の車両データを記録するイベントデータレコーダー（EDR）システムを備えています。

EDRに記録するデータ

- SRS エアバッグシステムの故障診断情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報

アドバイス

- お車のタイプなどにより、記録されるデータは異なります。
- EDRは、一般的なデータレコーダーとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

EDRデータの開示について

スズキおよびスズキが委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、スズキおよびスズキが委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令そのほか法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

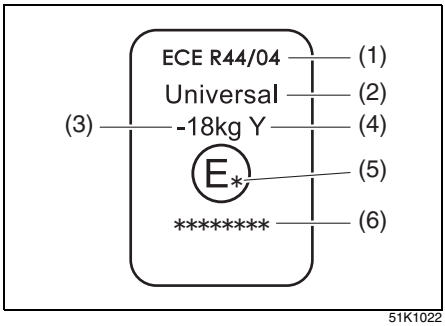
お子さま用シートの選択について

お子さま用シートは、この項目をよく読んだうえで、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

- **2-7 ページ**の「**お子さまを乗せるときは**」もよくお読みください。
- この車は、2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具（ISOFIXアンカーおよびテザーアンカー）を装備しています。
  → **3-61ページ（ISOFIX対応お子さま用シートの固定）**

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの認証マークについて

ECE R44（※1）の基準に適合するお子さま用シートには、次のような認証マークが表示されています。



51K1022

(1) 法規番号
(2) お子さま用シートのカテゴリー(※2)
(3) 対象となるお子さまの体重範囲
(4) 装置の仕様
(5) お子さま用シートを認可した国番号
(6) お子さま用シートの認可番号

- 上図の認証マークは代表例です。

※1 ECE R44 とは、お子さま用シートに関する国際法規です。
※2 前図の「**Universal**」は、汎用カテゴリーの認可であることを表します。

アドバイス

この車のスズキ純正お子さま用シートは、ECE R44 の基準に適合しています。

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表の見かた

→ **3-57ページ（ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表）**

■ 質量グループについて

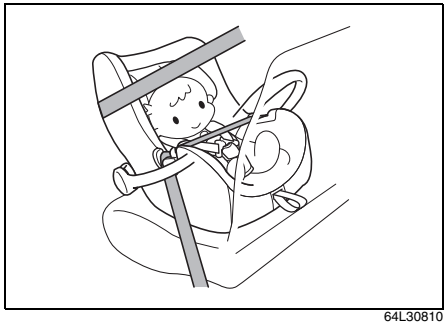
- ECE R44の基準に適合するお子さま用シートは、次の5種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

- 代表的なお子さま用シートには、次のようなものがあります。

ベビーシート

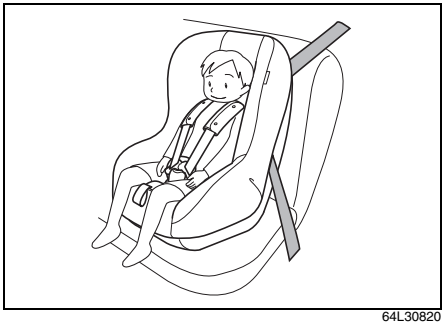
後ろ向き、または横向き装着のお子さま用シートで、首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ**0**、**0+**に相当します。



64L30810

チャイルドシート

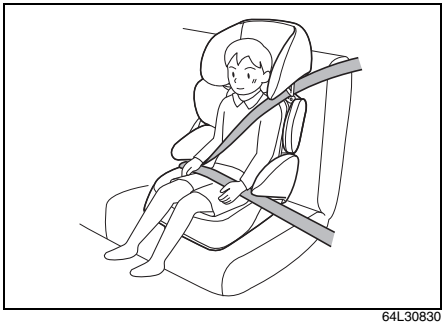
前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ**Ⅰ**に相当します。



64L30820

ジュニアシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ**Ⅱ**、**Ⅲ**に相当します。



64L30830

■ ISOFIXタイプのお子さま用シートの、サイズ等級について

サイズ等級は、お子さま用シートに表示される分類記号です。次の一覧表をご覧ください。

サイズ等級		説明
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (ISO/F2とは別形状)
C	ISO/R3	大型後ろ向き幼児用チャイルドシート
D	ISO/R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
E	ISO/R1	後ろ向き乳児用チャイルドシート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）

※キャリコットとは、お子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることができるベビーシートの一つです。
詳しくは、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表

■ シートベルトによる固定

質量グループ	着席位置	
	助手席	後席
グループ0 （10kgまで）	X	U
グループ0+ （13kgまで）	X	U
グループⅠ （9～18kg）	UF	U
グループⅡ （15～25kg）	UF	UF
グループⅢ （22～36kg）	UF	UF

＜上表に記入する文字の説明＞

U　：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのお子さま用シートに適しています。

UF　：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きお子さま用シートに適しています。

X　：お子さま用シートの取り付けには適していません。

- シートベルトを使用してお子さま用シートを取り付けるときは、**3-59 ページ**の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。
- ISOFIXタイプのお子さま用シートの種類によっては、上表の質量グループでの使用に適していても、取り付けができない場合があります。詳しくは、次ページの「**ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定**」をお読みください。

アドバイス

- 表に記載されていないお子さま用シートを使用する場合は、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。
- 取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

■ ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定

質量グループ	サイズ等級		チャイルドシート固定専用金具の位置	
			助手席	後席
キャリコット	F	ISO/L1	N.A.	X
	G	ISO/L2	N.A.	X
グループ0（10kgまで）	E	ISO/R1	N.A.	IL
グループ0+（13kgまで）	E	ISO/R1	N.A.	IL
	D	ISO/R2	N.A.	IL
	C	ISO/R3	N.A.	IL
グループⅠ（9～18kg）	D	ISO/R2	N.A.	IL
	C	ISO/R3	N.A.	IL
	B	ISO/F2	N.A.	IUF
	B1	ISO/F2X	N.A.	IUF
	A	ISO/F3	N.A.	IUF
グループⅡ（15～25kg）			N.A.	X
グループⅢ（22～36kg）			N.A.	X

＜上表に記入する文字の説明＞

IUF ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX対応前向きお子さま用シートに適しています。

IL ：この質量グループでの使用を許可された準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの「スズキ純正ベビーシート」に適しています。

X ：ISOFIX 対応お子さま用シートの取り付けには適していません。固定専用金具を使わずにシートベルトを使用して固定してください。次の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。

N.A.：この位置にはチャイルドシート固定専用金具が装備されていないため、ISOFIXタイプのお子さま用シートを取り付けることはできません。

● チャイルドシート固定専用金具を使用してお子さま用シートを取り付けるときは、**3-61ページ**の「**ISOFIX対応お子さま用シートの固定**」をお読みください。

アドバイス

- 表に記載されていないお子さま用シートを使用する場合は、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。
- 取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

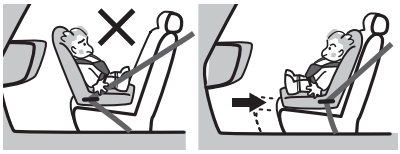
お子さま用シートのシートベルトによる固定

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
  → **3-54 ページ（お子さま用シートの選択について）**

- ISOFIXタイプのお子さま用シート（別売り）を取り付けるときは、**3-61ページ**の「**ISOFIX対応お子さま用シートの固定**」をお読みください。

⚠ 警告

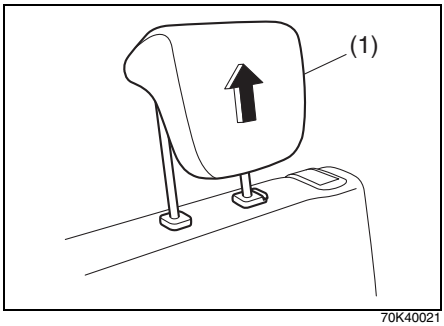
●助手席には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと､お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命に関わる重大な傷害を受けるおそれがあります。
●やむをえず助手席にチャイルドシートおよびジュニアシートを取り付けるときは、助手席を一番後ろに下げ、前向きに取り付けてください。



80J027

固定のしかた

1 ヘッドレスト（タイプ別装備）(1)は、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。
→ **3-34ページ(ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け)**



70K40021

⚠ 警告

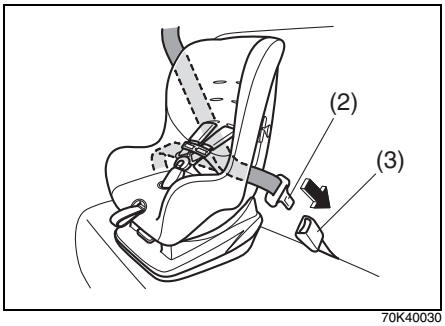
ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

2 お子さま用シートと背もたれの間にすきまができないように背もたれの角度を調節します。

3 座席が確実に固定されているか確認します。

4 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、所定の部位にシートベルトを通します。

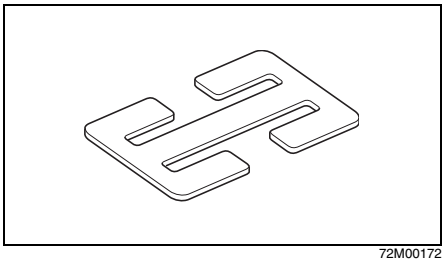
5 カチッと音がするまで、タングプレート（2）をバックル（3）にしっかりと差し込みます。



70K40030

- 上図のお子さま用シートは代表例です。

6 お子さま用シートにシートベルト固定機構もロッキングクリップも備わっていない場合は、別売りのロッキングクリップを使用してしっかりと固定します。



72M00172

- 上図のロッキングクリップ（別売り）は代表例です。

⚠ 警告

シートベルト固定機構またはロッキングクリップでお子さま用シートを確実に固定しないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

7 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に固定されているか確認します。

- 確実に固定できない場合は、お子さま用シートに付属の取扱説明書をご確認いただくか、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

⚠ 警告

お子さま用シートは、確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX対応お子さま用シートの固定

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用金具

後席には、ECE R44（**3-54ページ**参照）の基準に適合したISOFIX（※1）タイプのお子さま用シート（別売り）を固定するための専用金具が装備されています。

- 座面と背もたれのすきまにある金具が、ISOFIX対応チャイルドシート固定用アンカー（以下ISOFIXアンカーと略す）です。
- 背もたれ裏側または裏側下方にある金具が、チャイルドシート固定用テザーアンカー（以下テザーアンカーと略す）です。

※1 ISOFIXとは、お子さま用シートの固定装置の大きさや取り付け方法を統一した国際標準化機構【ISO（※2)】の規格です。

※2 ISOとは、International Organization for Standardization（インターナショナル オーガニゼイション フォー スタンダーディゼイション）の略です。

＜スズキ純正用品の場合＞

	ISOFIXアンカー	テザーアンカー
ISOFIXタイプのベビーシート（後ろ向きに固定）	○（使用）	○（使用）
ISOFIXタイプのチャイルドシート（前向きに固定）	○（使用）	○（使用）

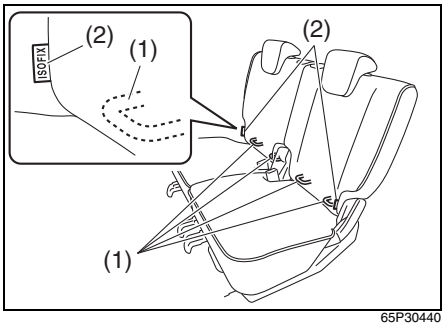
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
  → **3-54ページ（お子さま用シートの選択について）**

- ISOFIXタイプのお子さま用シートは、シートベルトで固定する必要がありません。
- シートベルトで固定するお子さま用シートを取り付けるときは、**3-59ページ**の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。

■ 固定のしかた

1 ISOFIXアンカー（1）の位置を確認します。

- 座面と背もたれのすきまにあります。



65P30440

(1) ISOFIXアンカー (2)タグ

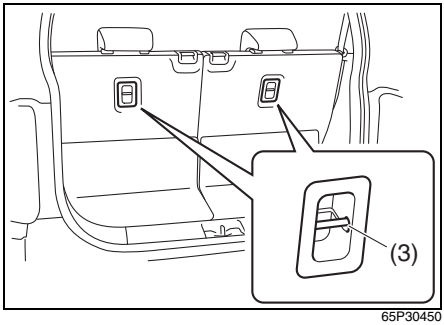
- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

ISOFIX アンカーがある付近の背もたれには、上図のようなタグ（2）がついています。

2 テザーアンカー（3）の位置を確認します。

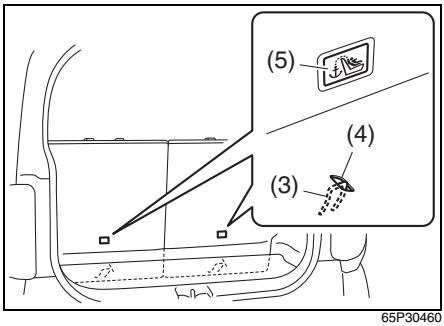
- スライド機構付後席の場合、背もたれ裏側にあります。



65P30450

(3) テザーアンカー

- スライド機構なし後席の場合、次の図に示すスリット（4）の奥にあります。



65P30460

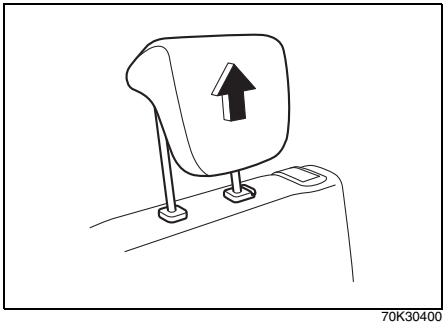
(4) スリット　　(5) ラベル

アドバイス

テザーアンカーがある付近には、前図のようなラベル（5）がついています。

3 後席のヘッドレスト（タイプ別装備）は、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。

→ **3-34ページ（ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け）**



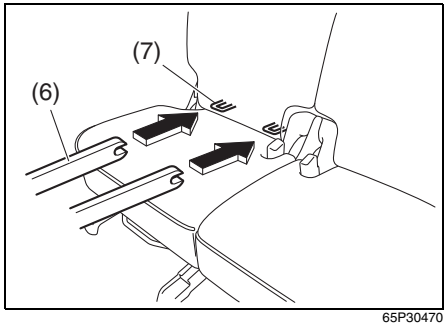
70K30400

⚠警告

ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

4 座席が確実に固定されているか確認します。

5 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、お子さま用シートのコネクター（6）を ISOFIX アンカー（7）へ差し込みます。



65P30470

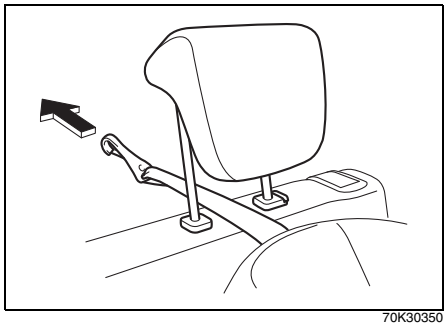
(6) コネクター　　(7) ISOFIXアンカー

- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

6 テザーベルトを使用する場合、次のようにしてテザーアンカーへ取り付けます。

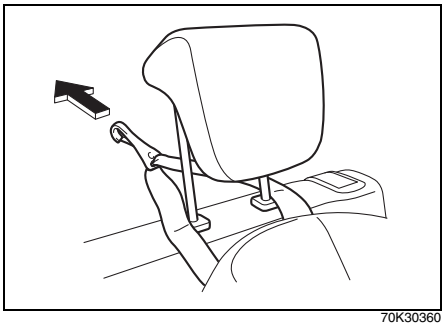
- ヘッドレストを取り付けているときは、図（代表例）のように持ち上げたヘッドレストと背もたれの間を通す

テザーベルト1本の場合



70K30350

テザーベルト2本の場合



70K30360

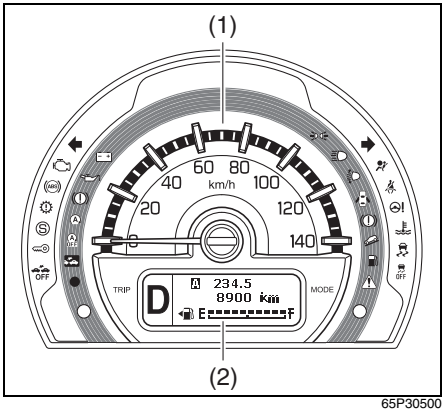
7 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に取り付けられているか確認します。

⚠ 警告

- お子さま用シートを取り付けるときは、ISOFIX アンカーやテザーアンカー周辺に異物やシートベルトなどがないか確認してください。シートベルトなどがかみ込むと、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 荷物の固定などに、ISOFIXアンカーやテザーアンカーを使用しないでください。アンカーが曲がったり損傷したりすると、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

メーターの見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



65P30500

(1)スピードメーター（速度計）
(2)マルチインフォメーションディスプレイ
→ **3-78 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**

(1)スピードメーター(速度計)

走行速度がkm/hで示されます。

エコドライブアシスト照明

オートマチック車

燃費効率が良い運転をしていると判定されると、スピードメーターの上部が青色から緑色に変化します。エネチャージ装備車は、エネチャージが機能しているとき白色に点灯します。
→ **4-64ページ（エコドライブアシスト照明）**

アドバイス

- 車速約 10 km/h 未満の場合、目盛りの照明は変化しません。
- アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中も緑色に変化します。
→ **4-52 ページ（アイドリングストップシステム）**
- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、スピードメーター上部の照明を変化させなくすることができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

メーターの照明

メーターの照明は、エンジンスイッチを ON にすると点灯し、 ACC または LOCK（OFF） にすると消灯します。
→ **3-84ページ（明るさ調整のしかた）**

警告灯・表示灯の見かた

次に示す警告灯・表示灯のメーター内の位置については、**1-10ページ**をご覧ください。

警告灯

82K170	**(1) ブレーキ警告灯(赤色)**

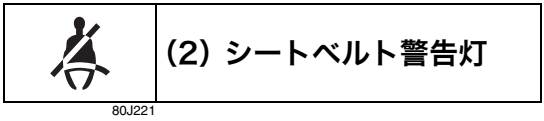
- 次のような状況になると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  - ブレーキ液が不足している
  - パーキングブレーキをかけている
  - ブレーキシステムに異常がある

- システムが正常で、パーキングブレーキを完全に解除しているときは、エンジンスイッチを ON にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

⚠警告

●次のようなときはただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- **パーキングブレーキを完全に解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したとき。ブレーキの効きが悪くなっていることがあります。ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。**
- **ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したままのとき。ABS に異常が発生しているだけでなく、ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。**

●パーキングブレーキの解除忘れにご注意ください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。また、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。
→ 4-15ページ（パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー）



(2) シートベルト警告灯

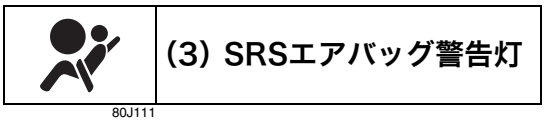
80J221

運転者がシートベルトを着用していないと、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
また、エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴るとともに、警告灯が点灯から点滅に切り替わります。

- 運転者がシートベルトを着用しても、点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 運転者がシートベルトを着用すると消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がシートベルトを着用しなくても、約95秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にするまで消灯しません。



(3) SRSエアバッグ警告灯

80J111

- 次のような場合、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯します。
  - SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動
  - SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常がある

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 6 秒間点灯したあと消灯します。

⚠ 警告

次のような場合、ただちに使用を止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。万一、衝突したとき SRS エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが正常に作動せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **エンジンスイッチを ON にしても点灯しない**
- **エンジンスイッチを ON にしたあと、約6秒間たっても消灯しない**
- **運転中に点灯**

80J225

(4) 燃料残量警告灯

- 燃料の残量が少なくなると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。すみやかに給油してください。
  - 点灯すると、警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。また、そのまま給油しないでいると、エンジンスイッチを ON にするごとに警告ブザーが鳴ります。

- システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点滅します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  → **3-79ページ（燃料計）**

アドバイス

- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、早めに点灯することがあります。
- 走りかたによって、点灯・消灯が繰り返されることがあります。

80J127

(5) ABS警告灯

ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中はABSが作動しません。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。ABS に異常が発生しているだけでなく、ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。

アドバイス

点灯中はABSは作動しませんが、通常のブレーキとして使用することができます。

(6) 水温警告灯(赤色)

65P30800

エンジン回転中に、エンジン冷却水温が高くなると赤色に点滅します。また、エンジン冷却水温が異常に高くなったときは赤色に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約 2 秒間赤色に点灯したあと消灯します。(※)

  ※エンジン冷却水温が低いときは、赤色に点灯したあと青色に点灯します。

- 赤色に点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。
  → **7-30ページ(オーバーヒートしたときは)**

- 赤色に点滅したときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

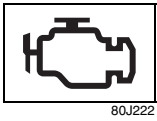
(7) オートレベリング警告灯

80J217

タイプ別装備

ディスチャージヘッドライト装備車では、オートレベリング(自動光軸調整)システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約 2 秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。
  再びエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯すれば、そのまま使用できます。
  消灯せず再び点灯する場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。



(8) エンジン警告灯

80J222

- エンジンの電子制御システムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。
- エンジンの失火を検知すると、エンジン回転中に点灯または点滅します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯・点滅したときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

点滅したときは、すみやかに停車しエンジンを止めてください。触媒装置が溶損するおそれがありますので、次のことに注意してください。
●枯れ草などの燃えやすいものがない安全な場所に停車する
●やむをえず走行する場合はアクセルを大きく踏み込む走行をしないで、低速で走行する

(9) パワーステアリング警告灯

80J408

電動パワーステアリングシステムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

⚠注意

電動パワーステアリングシステムに異常があると、電動パワーステアリングシステムの機能が停止し、ハンドル操作が重くなります。通常より大きな力で操作することは可能ですが、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

駐車するときや停車中に、ハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいにまわした状態で長く保持したりすると、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。これはシステムの過熱防止のための保護機能であり異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がり操作力はもとにもどりますが、このようなハンドル操作を繰り返すと故障の原因となります。

80J223

(10)油圧警告灯

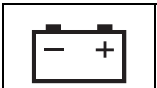
エンジン回転中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジンオイルの量は、オイルレベルゲージで点検してください。点検方法は、「**メンテナンスノート**」を参照してください。
- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

3

注 記

点灯したまま走行を続けないでください。エンジンが破損するおそれがあります。


80J226

(11)充電警告灯

充電系統に異常があると、エンジン回転中に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためエンジンを止めて、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

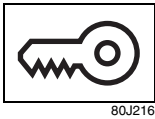
80J219

(12)トランスミッション警告灯

オートマチック車

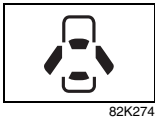
CVTのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。


80J216

(13)イモビライザー警告灯

車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯することがあります。スズキサービス工場で点検を受けてください。
→ **4-4ページ（イモビライザーシステム）**


82K274

(14)半ドア警告灯

いずれかのドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

- 点灯したままにしていると、走行するごとに警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。

⚠警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが完全に閉まっていない半ドア状態のときは、走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

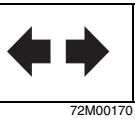
- エンジンスイッチが LOCK（OFF）の位置で、キーレスプッシュスタートシステム非装備車はキーを差していない
- 点灯したまま15分が経過

(15) ブレーキシステム警告灯(オレンジ色)

82K170

- 次のような電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - ABS
    → **4-27ページ（ABS装備車の取扱い）**
  - ヒルホールドコントロール（タイプ別装備）
    → **4-66ページ（ヒルホールドコントロール）**
  - レーダーブレーキサポート（RBS)（タイプ別装備）
    → **4-41ページ（レーダーブレーキサポート（RBS））**
  - 誤発進抑制機能（タイプ別装備）
    → **4-46ページ（誤発進抑制機能)**
  - そのほかのブレーキに関するシステム
- レーザーレーダーがフロントガラスの汚れを検知したときに点灯します。
  → **4-50ページ（レーザーレーダー）**
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、次のとおり点灯したあと消灯します。
  - 運転支援機能非装備車：約2秒間
  - 運転支援機能装備車　：約3秒間

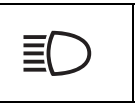
表示灯


72M00170

(16)方向指示器表示灯

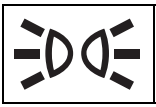
- 方向指示器／非常点滅表示灯を作動させると点滅します。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

→ **7-25ページ（電球を交換するときは）**


80J212

(17)ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。


82K096

(18)ライト点灯表示灯

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。

85K2055

(19)S(スポーツ)モード表示灯

オートマチック車

S（スポーツ）モードスイッチがONのときに点灯します。

→ **4-18ページ（S（スポーツ）モードスイッチ）**

57L30045

(20)ESP® OFF表示灯

タイプ別装備

ESP® OFFスイッチを長押しすると点灯します。
→ **4-32ページ（ESP®装備車の取扱い）**

79K019

(21)ESP®作動表示灯

タイプ別装備

- トラクションコントロールまたはスタビリティコントロールが作動すると、小刻みに点滅します。
- ESP®のシステムに異常があると点灯します。
  → **4-32ページ（ESP®装備車の取扱い）**

65P40270

(22)ヒルディセントコントロール表示灯

タイプ別装備

→ **4-35ページ（ヒルディセントコントロール）**

(23)低水温表示灯(青色)

65P30800

エンジンスイッチが ON のときに、エンジン冷却水温が低いと青色に点灯し、エンジンが暖まると消灯します。

- 暖機を十分にしても青色に点灯したままのときは、センサーの異常が考えられます。また、赤色に点滅したときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

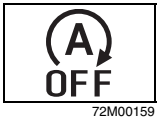
(24)アイドリングストップ表示灯

72M00032

タイプ別装備

走行中に、エンジンが自動停止する条件（スタンバイ条件）をみたすと点灯します。
→ **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。



(25)アイドリングストップシステムOFF表示灯

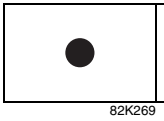
72M00159

タイプ別装備

- アイドリングストップシステムOFFスイッチを押すと点灯します。
→ **4-63ページ（アイドリングストップシステムOFFスイッチ）**

- 次のような状況になると点滅します。
  - アイドリングストップシステムに異常があるとき
  - エンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期であるとき
→ **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチをONにしたときに、約2 秒間点灯したあと消灯します。

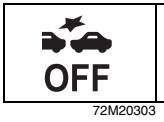


(26)セキュリティアラームインジケーター

82K269

- セキュリティアラームが<**警報モード**>のときに、ドアをキーレスエントリーまたはキーレスプッシュスタートシステム装備車のリクエストスイッチで施錠すると、小刻みに点滅して約20秒後にセキュリティアラームがセットされます。
  セット中は、2秒間隔で点滅します。
- 駐車時に警報が作動していると、エンジンスイッチを ON にしたときに約 8 秒間小刻みに点滅します。
  → **3-17ページ（セキュリティアラーム）**

- 車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに約15秒間、1秒間隔で点滅します。スズキサービス工場で点検を受けてください。



(27)レーダーブレーキサポート(RBS) OFF表示灯

72M20303

タイプ別装備

- 次のような電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - RBS（タイプ別装備）
    → **4-41ページ（レーダーブレーキサポート（RBS））**
  - 誤発進抑制機能（タイプ別装備）
    → **4-46ページ（誤発進抑制機能）**
  - そのほかのブレーキに関するシステム
- RBS OFFスイッチを長押しすると点灯します。
  → **4-49ページ（レーダーブレーキサポート（RBS）OFFスイッチ）**
- レーザーレーダーがフロントガラスの汚れを検知したときに点灯します。
  → **4-50ページ（レーザーレーダー）**
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約3 秒間点灯したあと消灯します。

72M20304

(28)レーダーブレーキサポート(RBS)作動表示灯

タイプ別装備

- RBSまたは誤発進抑制機能が作動中に点滅します。
  → **4-41ページ（レーダーブレーキサポート（RBS））**
  → **4-46ページ（誤発進抑制機能）**

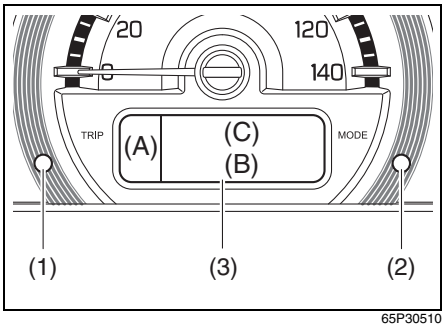
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約3 秒間点灯したあと消灯します。

78K049

(29)マスターウォーニング

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージがあるとき、同時に点滅する場合があります。
→ **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

マルチインフォメーション ディスプレイ



65P30510

(1) トリップノブ
(2) モードノブ
(3) マルチインフォメーション ディスプレイ

- エンジンスイッチを ON にすると、オープニング、カレンダー、電源の状態（キーレスプッシュスタートシステム装備車）が画面に表示されたあと、ディスプレイの各位置に次項の内容が表示されます。
  (A) セレクトレバー位置（オートマチック車）
  (B) 燃料計
  (C) インフォメーション
  → **3-85ページ（オープニングモード）**
  → **3-85ページ（カレンダーモード）**
  - アイドリングストップシステム装備車はエンジンが自動停止を開始すると、ディスプレイの（C）部分が専用表示に切り替わります。エンジンが再始動すると元の表示画面にもどります。
    → **3-85ページ（アイドリングストップ表示）**
- エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、次の内容が表示されたあと、エンディング画面が表示されます。
  - アイドリングストップ時間／節約燃料（アイドリングストップシステム装備車のみ）
  - エコスコア（タイプ別装備）
  → **3-86ページ（エコ運転表示機能）**
  → **3-86ページ（エンディングモード）**

アドバイス

メッセージの種類によっては、エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のときでも表示される場合があります。

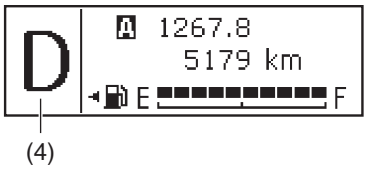
(A) セレクトレバー位置表示

オートマチック車

エンジンスイッチが ON のときに、ディスプレイの（A）部分に、現在選択しているセレクトレバーの位置が表示されます。

→ **4-16 ページ（セレクトレバーの各位置のはたらき）**

表示例



65P30520

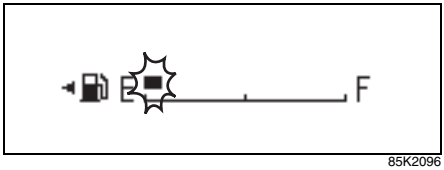
(4) セレクトレバー位置表示

(B) 燃料計

エンジンスイッチが ON のとき、ディスプレイの（B）部分に燃料残量の目安が表示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。また、あわせて燃料計の目盛り（一つ）が点滅したときは、燃料がほとんどないことをお知らせしています。

→ **3-67ページ（燃料残量警告灯）**



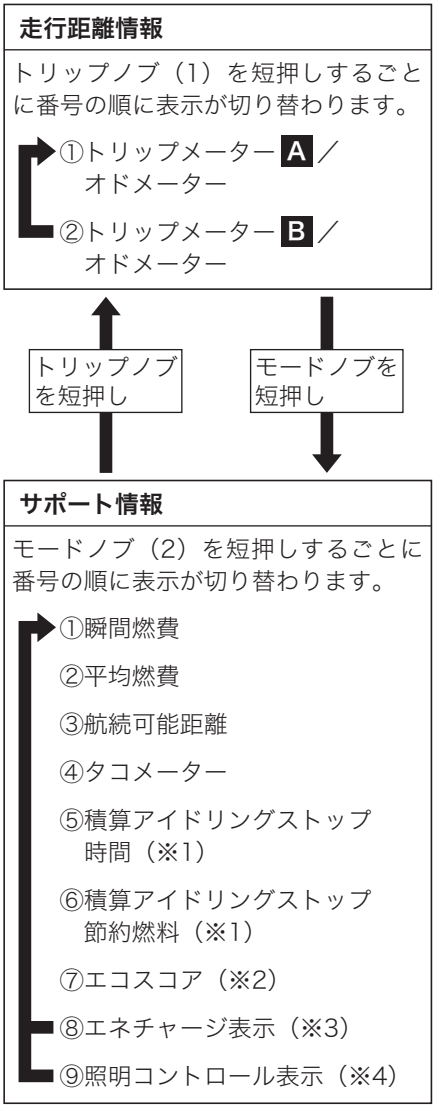
85K2096

アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを ON にしてから表示が正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が変わることがあります。
- ⛽ の左にある◀印は、給油口（フューエルリッド）が助手席側の車両後部にあることを示します。

(C) インフォメーション

エンジンスイッチが ON のときに、メーター内のトリップノブ (1) または、モードノブ (2) を短押しすると次のように表示が切り替わります。



65P30530

※1 アイドリングストップシステム装備車のみ。
※2 オートマチック車のみ。
※3 エネチャージ装備車のみ。
※4 ⑨照明コントロール表示は、エンジンスイッチが ON で、ヘッドライトや車幅灯が点灯しているときに表示されます。

⚠警告

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

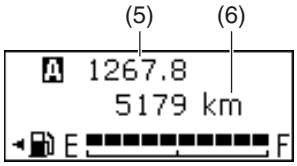
アドバイス

- 表示は、ノブを離したときに切り替わります。
- 走行距離情報またはサポート情報に切り替えると、それぞれ前回選択した画面が表示されます。ただし、⑨照明コントロール表示は表示されずに、①瞬間燃費に切り替わります。
- 走行中にメーター内のエンジン警告灯が点灯すると、燃費や航続可能距離が正しく表示されない場合があります。
  → **3-69ページ（エンジン警告灯）**
- 表示される次の値は目安です。実際とは異なる場合があります。
  ①瞬間燃費
  ②平均燃費
  ③航続可能距離
  ⑥積算アイドリングストップ節約燃料

■ 走行距離情報

①、②トリップメーター（区間距離計）／オドメーター（積算距離計）

図の値は表示例です



85K30352

(5) トリップメーター(区間距離計)
(6) オドメーター(積算距離計)

トリップメーター

リセット後の走行距離が km 単位で表示されます。（次にリセットするまで距離計測は継続されます）

- **A** および **B** の2種類の走行距離を同時に計測できます。

＜使いかたの例＞

A：出発時にリセットして、出発後の距離を計測

B：給油時にリセットして、給油後の距離を計測

- リセットするときは、表示が「0.0」になるまでトリップノブ（1）を長押しします。

アドバイス

トリップメーターの最大値は 9999.9 で、そのあと 0.0 にもどります。（距離計測は継続されます）

オドメーター

新車時（またはメーター交換時）からの走行距離の累計が km 単位で表示されます。（リセットはできません）

■ サポート情報

①瞬間燃費

図の値は表示例です

85K30520

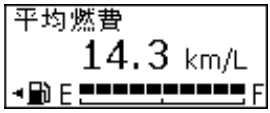
走行中の瞬間燃費が表示されます。

アドバイス

- 停車中は値が表示されません。
- 最大表示値は50です。下り坂などで燃料カット制御が作動しているときでも、それ以上の値は表示されません。

②平均燃費

図の値は表示例です



85K30530

表示をリセットしてからの平均燃費が表示されます。

- リセットするときは、平均燃費の表示中にトリップノブ（1）を長押しします。

アドバイス

- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- 鉛バッテリーを外すと、平均燃費の表示はリセットされます。

③航続可能距離

図の値は表示例です

85K30540

現在の燃料残量で走行できるおよその距離が表示されます。

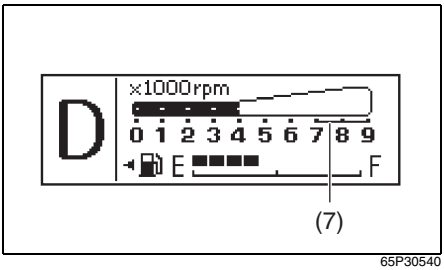
- 航続可能距離は過去の平均燃費をもとに算出される目安であるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 給油すると表示が更新されます。ただし、給油量が少ないと、表示が更新されない場合があります。

アドバイス

- 算出に使用される過去の平均燃費は、表示される平均燃費とは異なります。
- 鉛バッテリーを外すと過去の平均燃費の記憶が消去されますので、外す前までとは異なる値が表示される場合があります。
- エンジンスイッチを ON のままにして給油すると、正しい値が表示されない場合があります。
- 次のような場合は値が表示されません。
  - バッテリー接続後しばらくの間
  - 燃料残量警告灯の点灯中

→ **3-67ページ（燃料残量警告灯）**

④タコメーター



65P30540

(7) レッドゾーン

1 分間あたりのエンジン回転速度（回転数）が示されます。

注記

●エンジン保護のため、エンジン回転数のバーグラフがレッドゾーン（※）に入らないように運転してください。
※エンジンの許容回転を超えていることを示す表示範囲

●シフトダウンすると、エンジン回転が上がります。とくに注意してください。

⑤積算アイドリングストップ時間

タイプ別装備

図の値は表示例です

85K30560

表示をリセットしてからのアイドリングストップ時間の累計が、時、分、秒単位で表示されます。

● リセットするときは、積算アイドリングストップ時間の表示中にトリップノブ（1）を長押しします。

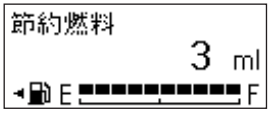
アドバイス

●積算アイドリングストップ時間の最大値は99:59:59で、そのあと00:00:00にもどります。（時間計測は継続されます）
●鉛バッテリーを外すと、積算アイドリングストップ時間の表示はリセットされます。

⑥積算アイドリングストップ節約燃料

タイプ別装備

図の値は表示例です



85K30550

表示をリセットしてからのアイドリングストップによる節約燃料の累計が mL 単位で表示されます。

● リセットするときは、積算アイドリングストップ節約燃料の表示中にトリップノブ（1）を長押しします。

アドバイス

鉛バッテリーを外すと、積算アイドリングストップ節約燃料の表示はリセットされます。

⑦エコスコア

タイプ別装備

表示例

65P30550

運転中の燃費効率に対する運転内容を採点し、その点数が表示されます。

● エコドライブの目安としてください。

⚠ 警告

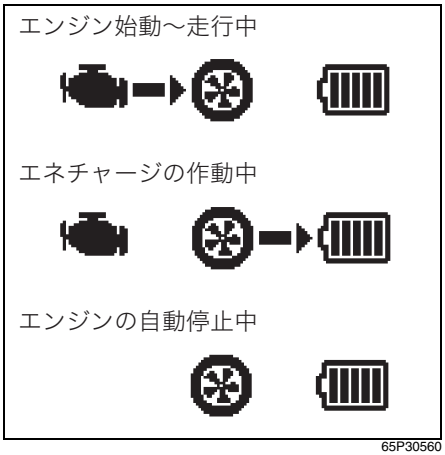
走行中はエコスコアの表示に気を取られないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

点数の表示は、0～90まで10点刻みとなり、90～100は5点刻みとなります。

⑧エネチャージ表示

タイプ別装備



65P30560

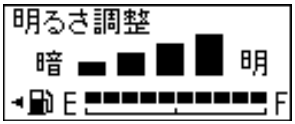
エネチャージの作動状況が表示されます。

アドバイス

- リチウムイオンバッテリーの充電状態により、エネチャージ表示の右側にある電池マーク内の目盛りが増減します。
- エネチャージ表示は、実際の車両動作と場合によっては異なった動作（表示の遅れなど）が発生することがあります。
- 温度が低いときに表示の遅れが発生する場合があります。

⑨照明コントロール表示

表示例



85K30580

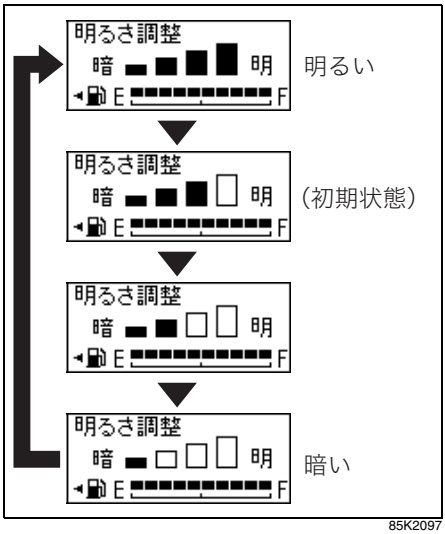
- 現在設定されているメーターの明るさが表示されます。
- ヘッドライトや車幅灯が点灯しているときのメーターの明るさは、4段階に調整できます。

明るさ調整のしかた

明るさの調整は次の手順で行ないます。

1 ヘッドライトや車幅灯点灯時にモードノブ（2）を短押しして、「明るさ調整」表示を選択します。

2 モードノブを長押しします。明るさが1段階ずつ変化します。



85K2097

アドバイス

- 「明るさ調整」表示の状態で、モードノブを短押しする、または約4秒間押さないでいると、瞬間燃費の表示に切り替わります。
- 鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、明るさ調整をやり直す必要があります。

オープニングモード

エンジンスイッチを ON にすると､オープニング動画が表示されます。

- オープニング動画はお好みのタイプに変更することができます。
  → **3-88ページ（オープニング動画の設定）**

アドバイス

オープニング動画を変更すると同時にエンディング動画も同じタイプのものになります。

カレンダーモード

オープニングモード終了後に、カレンダーモードが表示されます。

	表示例
日時 未設定時 （初期状態）	20--／--／--
日時 設定時	2015／12／31

→ **3-88ページ（日時の設定）**

アドバイス

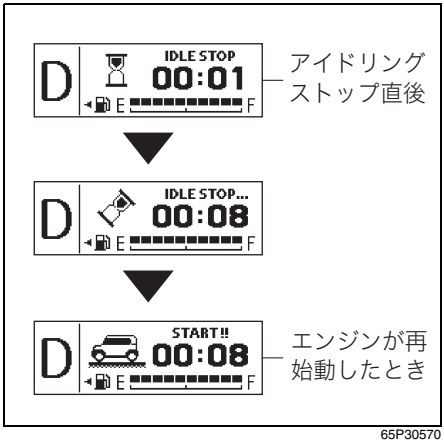
- 表示できる日時は、お車の工場出荷時より、およそ30年間です。
- 鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、日時の設定をやり直す必要があります。

アイドリングストップ表示

タイプ別装備

アイドリングストップシステムにより自動停止すると、オドメーターなどの通常表示から専用の表示画面へ自動的に切り替わり、アイドリングストップ中であることをお知らせします。
ディスプレイの（C）部分に表示される画面は、次の順の通りです。また、エンジンが再始動すると通常の画面に自動的に切り替わります。

- アイドリングストップ表示は、非表示にすることもできます。
  → **3-90 ページ（アイドリングストップ（IS）表示設定）**



65P30570

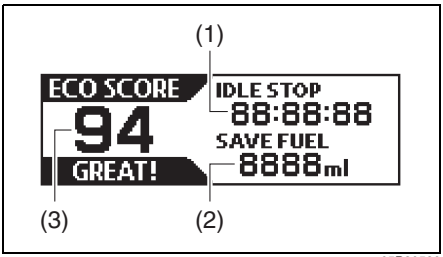
エコ運転表示機能

タイプ別装備

エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、1 回の運転に対する次のエコ運転結果が、ディスプレイ内に表示されます。また、エコ運転表示は非表示にすることができます。

→ **3-90ページ（アイドリングストップ（IS）表示設定）**
→ **3-92ページ（エコスコア設定）**

- アイドリングストップの合計時間（時、分、秒単位）（アイドリングストップシステム装備車）
- 節約された燃料（mL 単位）（アイドリングストップシステム装備車）
- 燃費効率が良いと判定された割合から、運転内容を採点した点数。（1点刻み）



65P30580

(1) アイドリングストップ時間
(2) 節約燃料
(3) エコスコア

- 前図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

- エコスコアはエコドライブの目安としてお使いください。
  → **2-36ページ（エコドライブをしましょう）**
- 次の表示はエンジンスイッチが ON のときにマルチインフォメーションディスプレイに表示させることができます。
  - 積算アイドリングストップ時間
  - 積算アイドリングストップ節約燃料
  - エコスコア

  → **3-80ページ（インフォメーション）**

エンディングモード

エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、エンディング動画が表示されます。表示されるエンディング動画は選択されたオープニング動画と同じタイプのものとなります。

- オープニング／エンディング動画はお好みのタイプに変更することができます。

  → **3-88ページ（オープニング動画の設定）**

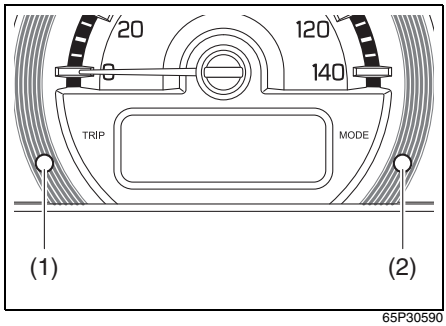
アドバイス

オープニング動画を変更すると同時にエンディング動画も同じタイプのものになります。

セッティングモード

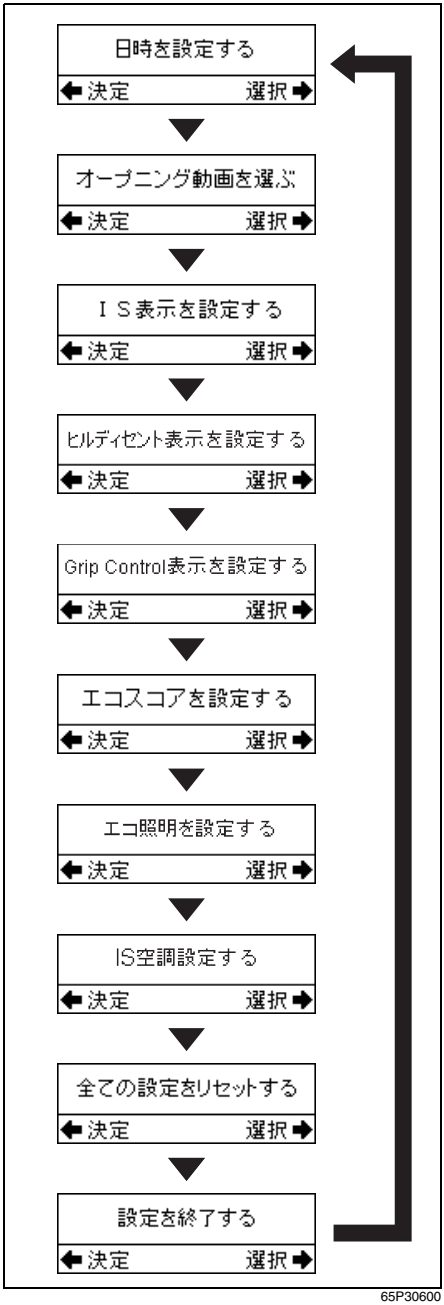
停車中に、メーター内のモードノブを長押ししてセッティングモードにすると、次の順序で各設定ができます。(走行中はできません)

- 設定画面の表示を切替えるときは、モードノブを短押しします。



65P30590

(1) トリップノブ
(2) モードノブ



65P30600

- 上記の設定項目は代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

●現在選択している項目は、次の※印のように黒字が白字に反転して表示されます。

代表例

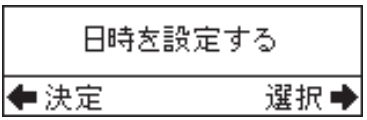
65P30770

●鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、設定をやり直す必要があります。

■ 日時の設定

次の手順で日時を設定します。

1 セッティングモードに切替え、「日時を設定する」を表示します。



85K2101

2 トリップノブ（1）を短押しすると次のような画面が表示されます。

- トリップノブを短押しして、「年」、「月」、「日」、「時」、「分」のいずれかを選択します。

65P30810

3 モードノブ（2）を短押しして、値をあわせます。

- モードノブを長押しすると、値が早送りされます。

4 2、3 の手順を繰り返し日時を合わせたら、トリップノブを短押しします。

5 セッティングモードを終了します。
→ **3-94ページ（設定の終了）**

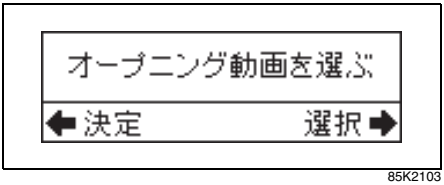
アドバイス

「分」を設定すると、同時に「秒」がゼロにリセットされます。

■ オープニング動画の設定

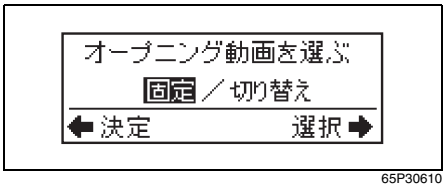
次の手順でオープニング動画を選択できます。

1 セッティングモードに切替え、「オープニング動画を選ぶ」を表示します。



85K2103

2 トリップノブ（1）を短押しすると、次のような画面が表示されます。



65P30610

3 モードノブ（2）を短押しして、「固定」、「切り替え」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

- 「切り替え」を選択した場合、A～Dのオープニング動画がエンジンスイッチを ON にするたび順番に切替わります。また、エンディング動画もオープニング動画と同じタイプのものが順番に切替わります。

〈オープニング動画の表示例〉

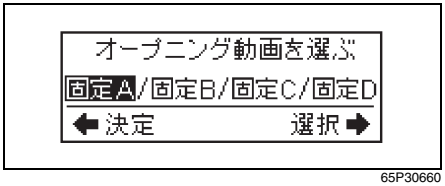
タイプ	オープニング動画
A	
B	
C	
D	

アドバイス

初期設定時（工場出荷時）は「切り替え」に設定されています。

4 手順 3 で「固定」を選択した場合、次のような画面が表示されます。モードノブを短押ししてオープニング動画A～Dのいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

- エンジンスイッチを ON にするたび選択されたオープニング動画が表示されます。
- オープニング動画を選択すると、同時にエンディング動画も同じタイプのものとなります。



65P30660

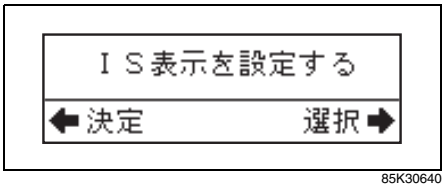
5 セッティングモードを終了します。
→ **3-94ページ（設定の終了）**

■ アイドリングストップ（IS）表示設定

アイドリングストップシステム装備車

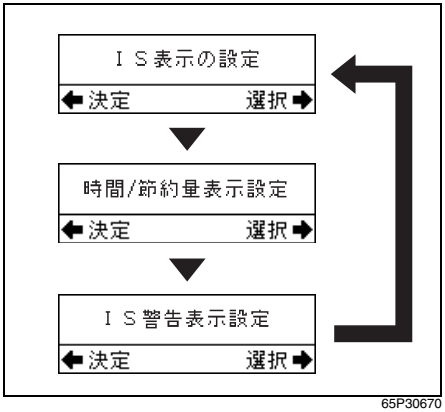
次の手順でアイドリングストップ（IS）表示の設定をします。

1 セッティングモードに切替え、「IS表示を設定する」を表示します。



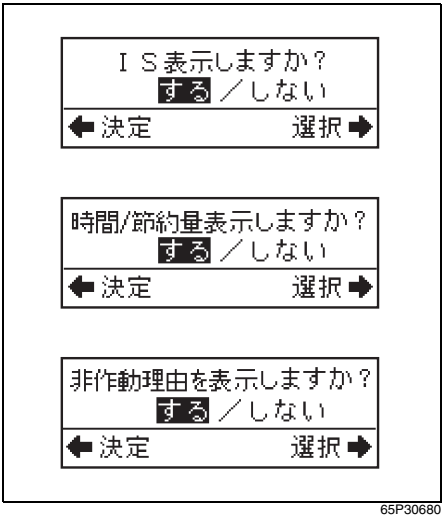
85K30640

2 トリップノブ（1）を短押しすると、「IS表示の設定」が表示されます。そこからモードノブを短押しすると、次のように設定したい項目を切替えることができます。



65P30670

3 設定したい項目を表示させセトリップノブを短押しすると、次のような画面が表示されます。



65P30680

- 選択した項目により前図のいずれかが表示されます。

4 モードノブ（2）を短押しして、「する」、「しない」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

IS表示

「する」を選択した場合、アイドリングストップによる自動停止中に動画が表示されます。

→ **3-85ページ（アイドリングストップ表示）**

時間／節約量表示

「する」を選択した場合、エンジンスイッチを ACC または LOCK (OFF) にしたとき、アイドリングストップ時間／節約燃料が表示されます。

→ **3-86ページ（エコ運転表示機能）**

IS警告表示

「する」を選択した場合、アイドリングストップに関する警告が発生した場合表示されます。

→ **3-95 ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

アドバイス

アイドリングストップ（IS）警告表示は、「しない」を選択しても警告が表示される場合があります。

5 セッティングモードを終了します。

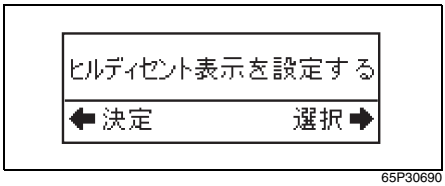
→ **3-94ページ（設定の終了）**

■ ヒルディセントコントロール表示設定

ヒルディセントコントロール装備車

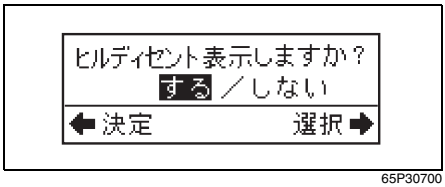
次の手順でヒルディセントコントロール表示の設定をします。

1 セッティングモードに切替え、「ヒルディセント表示を設定する」を表示します。



65P30690

2 トリップノブ（1）を短押しすると、次のような画面が表示されます。



65P30700

3 モードノブ（2）を短押しして、「する」、「しない」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

- 「する」を選択すると、ヒルディセントコントロールが作動しているときなどの動画が表示されます。

4 セッティングモードを終了します。

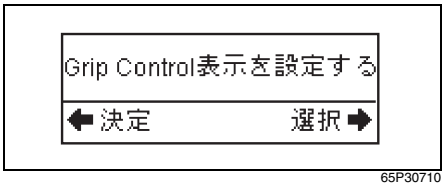
→ **3-94ページ（設定の終了）**

■ グリップコントロール表示設定

グリップコントロール装備車

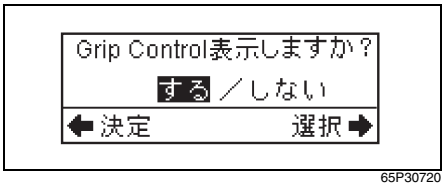
次の手順でグリップコントロール表示の設定をします。

1 セッティングモードに切替え、「Grip Control 表示を設定する」を表示します。



65P30710

2 トリップノブ（1）を短押しすると、次のような画面が表示されます。



65P30720

3 モードノブ（2）を短押しして、「する」、「しない」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

- 「する」を選択すると、グリップコントロールが作動しているときなどの動画が表示されます。

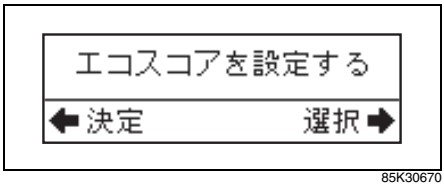
4 セッティングモードを終了します。
→ **3-94ページ（設定の終了）**

■ エコスコア設定

オートマチック車

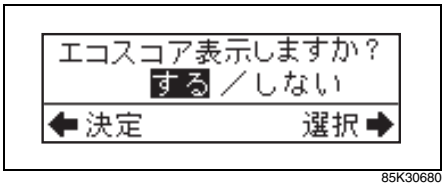
次の手順でエンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にしたときに表示されるエコスコア表示の設定をします。

1 セッティングモードに切替え、「エコスコアを設定する」を表示します。



85K30670

2 トリップノブ（1）を短押しすると、次のような画面が表示されます。



85K30680

3 モードノブ（2）を短押しして、「する」、「しない」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

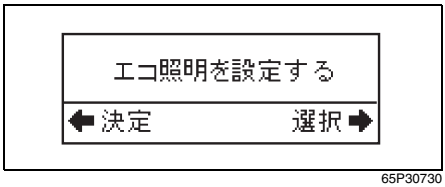
4 セッティングモードを終了します。
→ **3-94ページ（設定の終了）**

■ エコ照明設定

オートマチック車

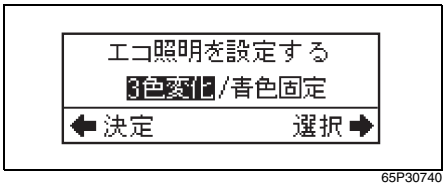
次の手順でエコ照明の設定をします。

1 セッティングモードに切替え、「エコ照明を設定する」を表示します。



65P30730

2 トリップノブ（1）を短押しすると、次のような画面が表示されます。



65P30740

3 モードノブ（2）を短押しして、「3色変化」、「青色固定」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。
- 「3色変化」を選択すると、お車の状態により、スピードメーター上部が青、緑、白（エネチャージ装備車）に変化します。
- 「青色固定」を選択すると、スピードメーター上部が青色に点灯します。

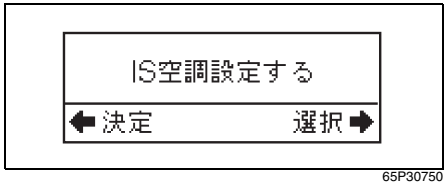
4 セッティングモードを終了します。
→ **3-94ページ（設定の終了）**

■ アイドリングストップ（IS）空調設定

アイドリングストップシステム装備車

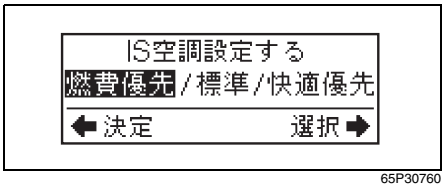
次の手順でアイドリングストップ（IS）空調の設定をします。

1 セッティングモードに切替え、「IS空調設定する」を表示します。



65P30750

2 トリップノブ（1）を短押しすると、次のような画面が表示されます。



65P30760

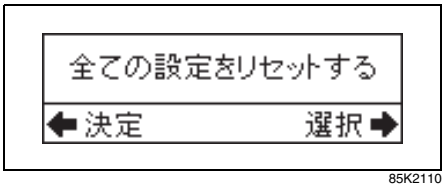
3 モードノブ（2）を短押しして、「燃費優先」、「標準」、「快適優先」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。
- 「燃費優先」を選択すると、「標準」に対して空調によるアイドリングストップ条件が緩和され、エンジン自動停止になりやすく、自動停止時間も長くなります。（燃料の消費を抑えます。）
- 「快適優先」を選択すると、「標準」に対して空調によるアイドリングストップ条件が厳しくなり、エンジンが自動停止しにくく、自動停止時間も短くなります。（快適性が向上します。）

4 セッティングモードを終了します。
→ **3-94ページ（設定の終了）**

■ すべての設定のリセット

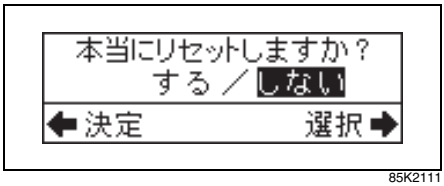
次の手順で工場出荷時の状態（初期設定）にもどせます。

1 セッティングモードに切替え、「全ての設定をリセットする」を表示します。



85K2110

2 トリップノブ（1）を短押しすると、次のような画面が表示されます。



85K2111

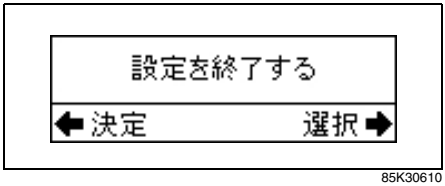
3 モードノブ（2）を短押しして、「する」を選択し、トリップノブを短押しします。

- リセットされると次の状態になります。
  - オープニング画面：切り替え
  - 日時：未設定
- 「しない」を選択すると、リセットを途中でやめることができます。

4 セッティングモードを終了します。
→ **3-94ページ（設定の終了）**

■ 設定の終了

1 メーター内のモードノブ（2）を短押しして、「設定を終了する」を表示します。



85K30610

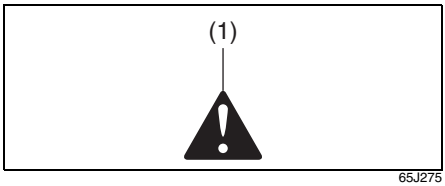
2 メーター内のトリップノブ（1）を短押しします。

- セッティングモードは次のような操作をしても、設定を終了することができます。
  - エンジンスイッチを LOCK（OFF）にする
  - 走行を開始する

マルチインフォメーション ディスプレイのメッセージ

各システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メッセージが表示されます。また、メッセージの種類によっては、同時に室内／車外ブザーが鳴る場合があります。

- メッセージが表示されたときは、その指示にしたがってください。詳しくは、次のページの「**マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ一覧**」をお読みください。また、その一覧に案内されている参照ページもあわせてお読みください。
- 表示されるメッセージの種類によっては、メーター内のマスターウォーニング（1）が同時に点滅する場合があります。



65J275

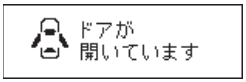
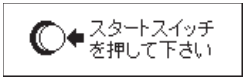
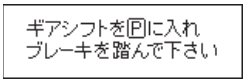
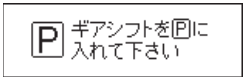
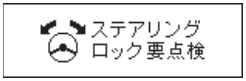
アドバイス

- メッセージの要因が解消されると、表示が消えます。
- メッセージの表示中に、別のメッセージが追加されると、割り込み表示されます。そのあとは、一定時間ごとに表示が切り替わります。
- メッセージが表示されているときに、メーターの右下にあるモードノブを長押しすると、もとの画面にもどります。ただし、メッセージの種類によっては、要因が解消されるまでは、ふたたび表示される場合があります。

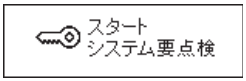
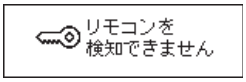
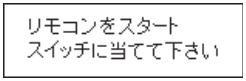
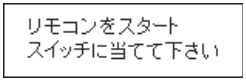
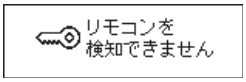
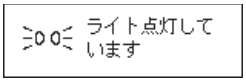
■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ一覧

お車のタイプにより表示される内容が異なります。

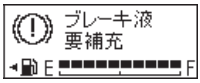
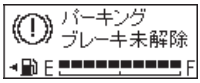
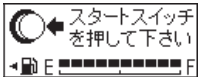
● エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のとき

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音	原因（対処方法）
 （※1）	消灯	なし	いずれかのドアが開いています。ドアを完全に閉めてください。 → **3-71ページ（半ドア警告灯）**
（※1）	消灯	なし	電源の状態が ACC のときに、表示されます。 → **4-6ページ（電源の切替えのしかた）**
	消灯	なし	ブレーキペダルを踏んでいます。エンジンをかけるときは、エンジンスイッチを押してください。 → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**
	消灯	なし	セレクトレバーが P N 以外の位置、またはブレーキを踏まずにエンジンスイッチを押しています。メッセージの指示にしたがってください。 → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**
	消灯	なし	セレクトレバーが P 以外の位置になっています。メッセージの指示にしたがってください。 → **4-13 ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**
	点滅 	ポーン （1回､室内ブザー）	ハンドルロックに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-13 ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**

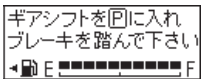
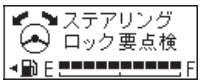
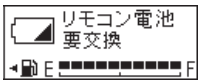
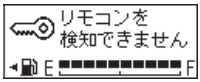
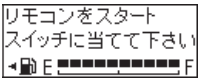
※1 印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音	原因（対処方法）
	点滅 	ポーン （1回、室内ブザー）	キーレスプッシュスタートシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **3-76 ページ（セキュリティアラームインジケーター）**
	点滅 	ポーン （2回、室内ブザー）	携帯リモコンが検知できない、またはリモコンの電池が切れている状態で、エンジンスイッチ操作をした。リモコンを車内の検知できる位置にするか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 → **4-5ページ（車内の作動範囲）** → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**
	点滅 	ピー、ピー （5回、室内／車外ブザー）、そのあとにポーン（1回、室内ブザー）	エンジンスイッチを ACC または ON にしたときは携帯リモコンを検知していたが、始動時に検知できなくなった。リモコンを車内の検知できる位置で、エンジンスイッチを操作してください。 → **4-5ページ（車内の作動範囲）** → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**
			
	点滅 	ピー、ピー （5回、室内／車外ブザー）	エンジンをかけた状態、またはエンジンスイッチが ACC または ON のときに、ドアのいずれかを開閉して、携帯リモコンが検知外（車外など）になった。リモコンを車内の検知できる位置にもどしてください。 → **4-8 ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）**
	点滅 	ピーーー （室内ブザー）	ライトや車幅灯が点灯しています。これらを消してください。 → **3-104ページ（ライト消し忘れ警告ブザー）**

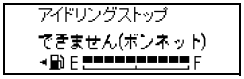
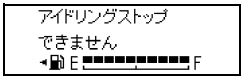
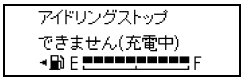
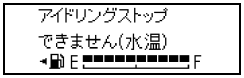
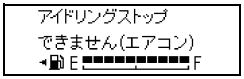
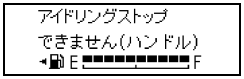
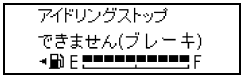
● エンジンスイッチが ON のとき

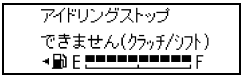
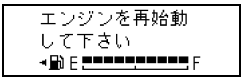
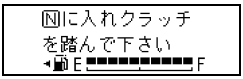
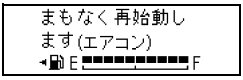
メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音	原因（対処方法）
（停車中は※1）	点滅 (走行中のみ)	ポーン（走行中のみ1回、室内ブザー）	いずれかのドアが開いています。安全な場所に停車して、ドアを完全に閉めてください。 → **3-71ページ（半ドア警告灯）**
（※1）	消灯	なし	電源の状態が ON のときに、表示されます。 → **4-6ページ（電源の切替えのしかた）**
	点滅	ピー、ピー、（約95秒間、室内ブザー）	走行中に、運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、ベルトを着用してください。 → **3-40ページ（シートベルト警告ブザー）**
	点滅	ポーン（1回、室内ブザー）	ブレーキ液が不足しています。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **3-65ページ（ブレーキ警告灯）**
	点滅	ピピピッ、ピピピッ、（室内ブザー）	走行中に、パーキングブレーキが解除されていません。安全な場所に停車して、パーキングブレーキを解除してください。 → **4-15 ページ（パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー）**
（※1）	消灯	ポーン（1回、室内ブザー）	燃料の残量が少なくなっています。すみやかに給油してください。 → **3-67ページ（燃料残量警告灯）**
	消灯	なし	ブレーキペダルを踏んでいます。エンジンをかけるときは、エンジンスイッチを押してください。 → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**

※1 印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

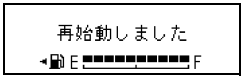
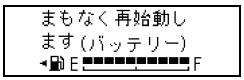
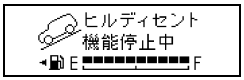
メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音	原因（対処方法）
	消灯	なし	セレクトレバーが P N 以外の位置でブレーキペダルを踏んで、エンジンスイッチを押しています。メッセージの指示にしたがってください。 → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**
	点滅	ポーン（1回、室内ブザー）	ハンドルロックに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-13 ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**
	点滅	ポーン（1回、室内ブザー）	ハンドルロックが解除されていません。ハンドルを左右にまわしながら、エンジンスイッチの操作をやり直してください。 → **4-4ページ（ハンドルロック未解除警告）**
	点滅	ポーン（1回、室内ブザー）	キーレスプッシュスタートシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **3-76 ページ（セキュリティアラームインジケーター）**
 （※1）	消灯	なし	携帯リモコンの電池切れが近いです。電池交換のうえ、警告をリセットしてください。 → **6-8ページ（リモコンキーの電池交換）**
	点滅	ピー、ピー、（5回、室内／車外ブザー） ポーン（1回、室内ブザー）	携帯リモコンが車内にない、またはリモコンの電池切れが考えられます。リモコンを車内にもどすか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 → **4-8 ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）** → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**
			

※1 印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音	原因（対処方法）
	消灯	なし	ボンネットが開いている、またはエンジン始動時ボンネットが完全に閉まっていなかったため、アイドリングストップできません。 → **4-56 ページ（エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて）** → **4-58ページ（スタンバイ条件）**
	消灯	なし	バッテリー内部温度が所定温度内にない、急な坂道（オートマチック車）、運転席ドアが開いている、または運転席シートベルトが外れているなどの理由によりアイドリングストップできません。 → **4-56 ページ（エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて）** → **4-58ページ（スタンバイ条件）**
	消灯	なし	鉛バッテリーまたはリチウムイオンバッテリーを充電する必要があるため、アイドリングストップできません。 → **4-58ページ（スタンバイ条件）**
	消灯	なし	冷却水の温度が所定温度内にないため、アイドリングストップできません。 → **4-58ページ（スタンバイ条件）**
	消灯	なし	空調の設定温度と車内温度の差が大きくなった、または冷暖房機能が十分でなくなったため、アイドリングストップできません。 → **4-58ページ（スタンバイ条件）**
	消灯	なし	ハンドル操作によりアイドリングストップできません。 → **4-60ページ（エンジン自動停止の条件）**
	消灯	なし	次の状態のため、アイドリングストップできません。 ● ブレーキの踏み込みが弱い → **4-60ページ（エンジン自動停止の条件）**

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音	原因（対処方法）
	消灯	なし	停車時にチェンジレバーがN（ニュートラル）以外またはクラッチペダルが踏み込まれている。 N（ニュートラル）に入れ、クラッチペダルから足を離してください。 → **4-60ページ（エンジン自動停止の条件）**
	消灯	※2	自動停止中に次の状態になりました。エンジンを再始動してください。 ●ボンネットが開いたあと、完全に閉めた ●運転席シートベルトを外し運転席ドアを開けたあと、シートベルトを着用してドアを閉めた（マニュアル車） → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**
	消灯	ピー、ピー、(2回、室内ブザー)	自動停止中にチェンジレバーが N（ニュートラル）以外になりました。始動するにはNに入れて、クラッチペダルを踏んでください。 → **4-56 ページ（エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて）**
	消灯	ピー(1回、室内ブザー)	空調の設定温度と車内温度の差が大きくなった、またはデフロスタースイッチを押したため、まもなくエンジンが再始動します。 → **4-61ページ（エンジン自動再始動の条件）** また、エアコンによるアイドリングストップ時間の長さは設定により変更することができます。 → **3-93 ページ（アイドリングストップ（IS）空調設定）**

※2 メッセージが表示される原因によりブザー音は異なります。**1-18 ページ**の「**タイプ別装備による警告ブザー**」または**4-56ページ**の「**エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて**」をお読みください。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音	原因（対処方法）
	消灯	※2	ブレーキ倍力装置の負圧低下、車両の転がり出し、運転席ドアが開いた、または運転席シートベルトが外された（オートマチック車）などによりエンジンが再始動しました。 → **4-61ページ（エンジン自動再始動の条件）**
	消灯	ピー（1回、室内ブザー）	バッテリーの放電が進んだ、または時間経過によりまもなくエンジンが再始動します。 → **4-61ページ（エンジン自動再始動の条件）**
	消灯	なし	ヒルディセントコントロールに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
	消灯	なし	グリップコントロールに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
 （※1）	消灯	なし	グリップコントロールスイッチがONのとき、次の状態となった。 ●車両が安定し、車速が約30 km/hを超えた ●グリップコントロールスイッチをOFFにした ●ESP® OFFスイッチをONにした → **4-38ページ（グリップコントロール）**

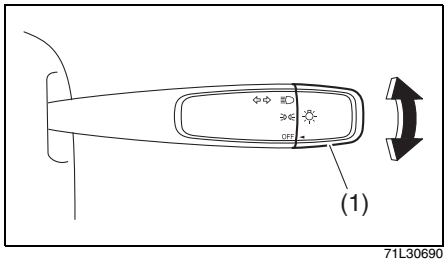
※1 印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。
※2 メッセージが表示される原因によりブザー音は異なります。**1-18 ページ**の「**タイプ別装備による警告ブザー**」または**4-56ページ**の「**エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて**」をお読みください。

ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯

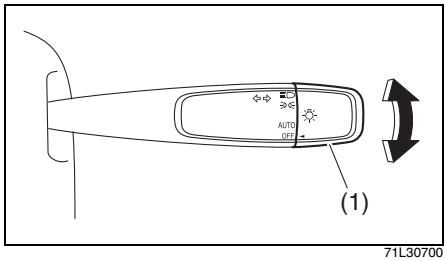
エンジンスイッチの位置に関係なく使用でき、ライトスイッチのツマミ（1）をまわすと次のように点灯・消灯します。

オートライトシステム非装備車



71L30690

オートライトシステム装備車



71L30700

ライトスイッチの位置	ヘッドライト（前照灯）	車幅灯、尾灯、番号灯
≡D	点灯	
≡D	消灯	点灯
AUTO	自動点灯・消灯（※）	
OFF	消灯	

※オートライトシステム（タイプ別装備）は、エンジンスイッチが ON のときだけ作動します。

注 記

エンジン停止中に、長時間点灯させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間は、メーター内のライト点灯表示灯が点灯します。

→ **3-73ページ（ライト点灯表示灯）**

■ オートライトシステム

タイプ別装備

エンジンスイッチが ON のときに使用でき、車外の明るさに応じてヘッドライトや車幅灯が自動的に点灯･消灯します。エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、自動的に消灯します。

● ライトスイッチのツマミを AUTO の位置にまわすと、次のように点灯・消灯します。

車外の明るさ	ヘッドライト（前照灯）	車幅灯、尾灯、番号灯
明るいとき	消灯	
薄暗いとき	消灯	点灯
暗いとき	点灯	

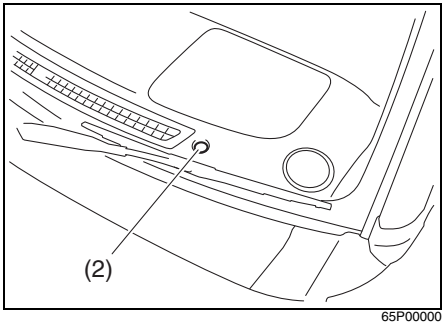
注記

AUTO 位置のままエンジンスイッチを ON にしていると、エンジンがかかっていなくても、車外が暗くなるとともにライトや車幅灯が点灯します。そのまま長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となりますのでご注意ください。

アドバイス

オートライトセンサー（2）の上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。センサーの感度が低下し、正常に点灯・消灯しなくなります。

インパネ助手席側



65P00000

ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、次のようなときに運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピーーー”と連続して鳴ります。

キーレスプッシュスタートシステム非装備車
キーを抜いたあとも、ライトや車幅灯が点灯している

キーレスプッシュスタートシステム装備車
エンジンスイッチを LOCK（OFF）にしたあとも、ライトや車幅灯が点灯している

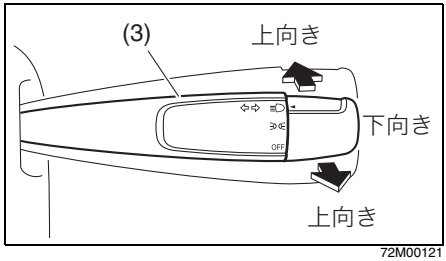
ライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

● 警告ブザーの作動中は、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
→ **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

ライトの上向き、下向きの切替え

ヘッドライトを上向き（ハイビーム）に切り替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトが点灯しているときに、レバー（3）を車の前方向に押すと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。
  → **3-73ページ（ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯）**



72M00121

- 上図のスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

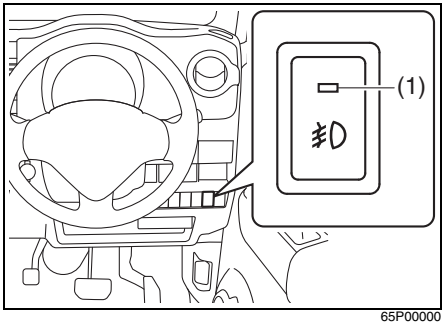
対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。

フォグランプスイッチ

タイプ別装備

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すと消灯します。



65P00000

注記

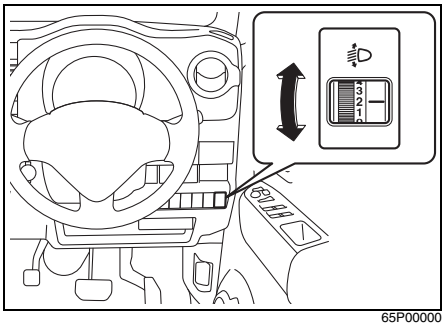
鉛バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

光軸調整ダイヤル

タイプ別装備

ハロゲンヘッドライト装備車は、ライトを点灯して光軸調整ダイヤルをまわすと、ライトの光軸が調整できます。
荷物や同乗者を乗せてライトの光軸が上向きになると、対向車や先行車の迷惑となります。ダイヤルを操作して、光軸を下向きに調整してください。

- ダイヤル操作は、ライトが下向き（ロービーム）に点灯しているときに行なってください。ライトが上向き（ハイビーム）に点灯している、または点灯していないときは、光軸が適切に調整できているか判断できません。
- ダイヤルの目盛りは **0** ～ **4** まであり、光軸が9段階（0.5きざみ）に調整できます。
- ダイヤルの目盛りを大きくすると、光軸が下向きになります。



65P00000

- 荷物や同乗者の乗せかたによって変わりますが、次表の数値を参考に適切な位置に調整してください。

〈ダイヤル位置の目安〉

条件	ダイヤル位置
運転席のみ乗車	0
運転席および助手席に乗車	
4名乗車	1.5
4名乗車で荷室満載	2～2.5
運転席のみ乗車で荷室満載	3～3.5

⚠警告

走行中はダイヤル操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

車検などで基本の光軸を調整するときは、ダイヤルを0の位置にしてください。0以外の位置で基本光軸を調整すると、ライトの光軸が基準より上向きになるなど、安全上問題となるおそれがあります。

アドバイス

- ダイヤルを操作すると、ライトの下向き（ロービーム）と上向き（ハイビーム）の光軸が同時に調整されます。
- ディスチャージヘッドライト装備車の場合、光軸が自動調整されます。
  → **3-68ページ（オートレベリング警告灯）**

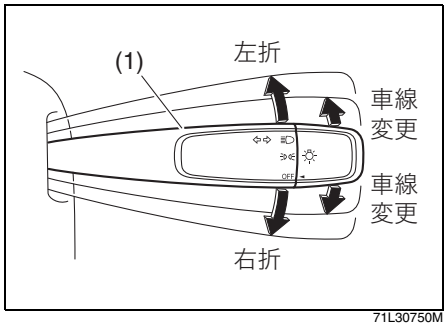
方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

右折・左折をするとき

左折時：レバー（1）を押し上げます。
右折時：レバーを押し下げます。

- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすと、レバーが自動的にもどり、方向指示器と表示灯が消灯します。



71L30750M

- 上図のスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的にもどらないことがあります。レバーを手でもどしてください。

車線変更をするとき

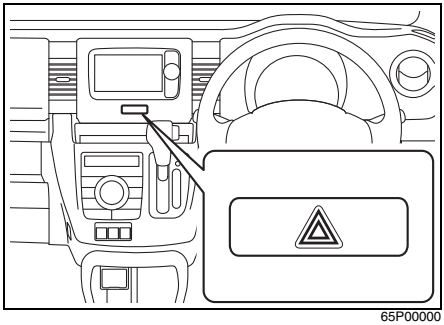
レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。



65P00000

注 記

エンジン停止中に長時間点滅させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

⚠注意

寒冷時は、ガラス面に吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。
→ 5-23ページ（デフロスター）

注記

- **ウインドーが乾いているときは、ウインドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。**
- **ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。**
- **ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。**

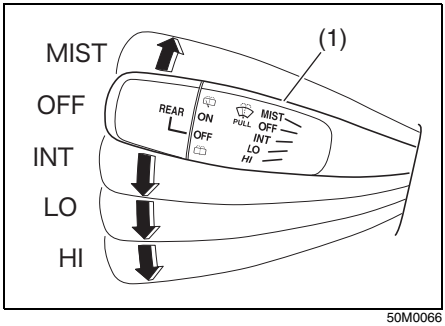
■ ワイパーが作動中に停止したときは

積雪などでワイパーに大きな負荷がかかる状態が続きワイパーモーターの温度が上がると、ワイパーモーターを保護するためにブレーカーが作動してワイパーが停止します。次の手順で対処してください。

1. 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にします。
2. ワイパースイッチをOFFにします。
3. ワイパーの作動をさまたげる積雪などの障害物を取り除きます。
4. モーターの温度が下がると、ブレーカーが自動復帰してワイパーの使用が可能となります。
   - しばらく待ってもワイパーが使用できない場合は、別の原因が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

フロントワイパースイッチ

レバー（1）を上下に操作すると、フロントワイパーが次表のように作動します。



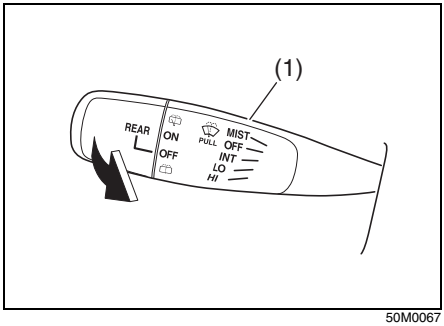
50M0066

- 上図のスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

フロントウォッシャースイッチ

レバー（1）を手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。

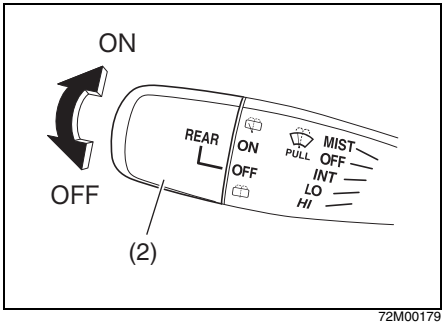


50M0067

リヤワイパースイッチ

タイプ別装備

ツマミ（2）をまわします。



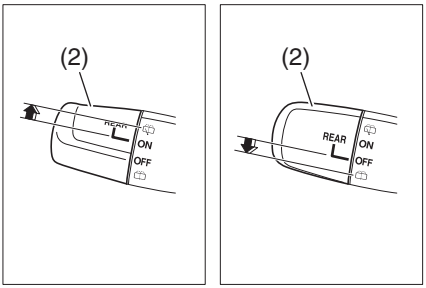
72M00179

ON	作動
OFF	停止

リヤウォッシャースイッチ

タイプ別装備

- 図の ⬆ 方向にツマミ（2）をまわし、ONの上にある （ウォッシャー）にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。
  ツマミから手を離すと ON にもどります。
- 図の ⬇ 方向にツマミ（2）をまわし、OFF の下にある （ウォッシャー）にあわせるとウォッシャー液が噴射します。
  ツマミから手を離すとOFFにもどります。



50M0069

ホーンスイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押すと、ホーンが鳴ります。

70K188

4. 運転するときは

● **エンジン始動・停止**
エンジンスイッチの各位置のはたらき ····· 4-2
イモビライザーシステム ····· 4-4
キーレスプッシュスタートシステム ····· 4-5
エンジンのかけかた ····· 4-9
エンジンの止めかた ····· 4-11

● **パーキングブレーキ**
パーキングブレーキの操作 ····· 4-14

● **オートマチック車**
セレクトレバーの操作 ····· 4-16
オートマチック車の特性 ····· 4-19
オートマチック車を運転するとき ····· 4-20
オートマチック車の運転のしかた ····· 4-22

● **チェンジレバー**
チェンジレバーの操作 ····· 4-26

● **ABS**
ABS装備車の取扱い ····· 4-27

● **ESP®**
ESP®装備車の取扱い ····· 4-32
ヒルディセントコントロール ····· 4-35
グリップコントロール ····· 4-38

● **運転支援機能**
運転支援機能 ····· 4-41

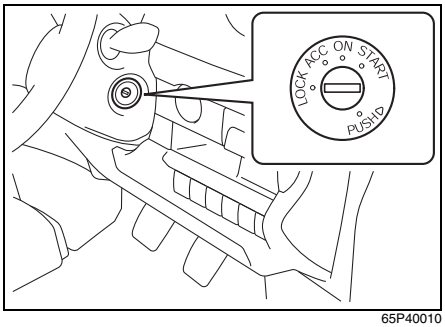
● **アイドリングストップシステム**
アイドリングストップシステム ····· 4-52
ヒルホールドコントロール ····· 4-66

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

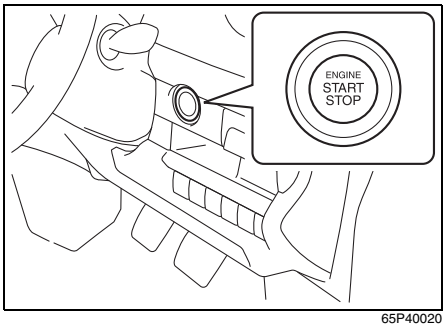
エンジンスイッチの各位置のはたらき

キーレスプッシュスタートシステム非装備車



65P40010

キーレスプッシュスタートシステム装備車



65P40020

4

● エンジンを始動する場合は、**4-9ページ**の「**エンジンのかけかた**」をお読みください。

■ キーレスプッシュスタートシステム非装備車

エンジンスイッチの位置	エンジンの状態	はたらき
LOCK（OFF）	停止	駐車するとき、キーを抜き差しするときの位置です。キーを抜くと、ハンドルロックがかかります。
ACC	停止	エンジンをかけずにドアミラーやオーディオまたはナビゲーション、アクセサリーソケットなどの電装品（タイプ別装備）を使用するときの位置です。
ON	停止	エンジンをかけずにパワーウインドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。メーターが点灯します。
	回転中	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンを始動するときの位置です。始動したら、キーから手を離してください。キーは自動的に ON にもどります。

■ キーレスプッシュスタートシステム装備車

エンジンスイッチの位置（※）	エンジンの状態	はたらき
LOCK (OFF)	停止	駐車するときの位置です。エンジンスイッチをLOCK（OFF）にもどして、いずれかのドアを開閉すると、ハンドルロックがかかります。
ACC	停止	エンジンをかけずにドアミラーやオーディオまたはナビゲーション、アクセサリーソケットなどの電装品（タイプ別装備）を使用するときの位置です。
ON	停止	エンジンをかけずにパワーウインドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。メーターが点灯します。
	回転中	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンを始動するときの位置です。 → **4-9ページ（エンジンのかけかた）**

※エンジンスイッチ位置の切替えについては、**4-5 ページ**の「**キーレスプッシュスタートシステム**」をお読みください。

- エンジンスイッチの位置によって、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。詳しくは**3-95 ページ**の「**マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ**」をご覧ください。

注 記

エンジンを止めているときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたままにしないでください。また、その状態で長時間ナビゲーション、またはオーディオなどを使用しないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

- ハンドルロックは通常、エンジンスイッチを LOCK（OFF）から ACC または ON にしたときに解除されます。
- キーレスプッシュスタートシステム装備車の場合、強い電波やノイズの影響を受けると、マルチインフォメーションディスプレイ内にメッセージが表示され、電源の切替えやエンジンの始動ができない場合があります。

ハンドルロックが解除できないときは

■ キーレスプッシュスタートシステム非装備車

キーが LOCK（OFF）から ACC にまわせません。ハンドルを左右に軽く動かしながら、キーをまわしてください。

■ キーレスプッシュスタートシステム装備車

エンジンの始動ができません。ハンドルを左右に軽く動かしながら、エンジンスイッチを押してください。

64L40180

■ ハンドルロック未解除警告

エンジンスイッチが ON のときに、ハンドルロックが未解除の場合、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ **3-95 ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは盗難防止のため、キー（キーレスプッシュスタートシステム非装備車）または携帯リモコン（キーレスプッシュスタートシステム装備車）が電波で車両と通信することによって、あらかじめ登録されたキーまたは携帯リモコン以外ではエンジンを始動できないようにするシステムです。

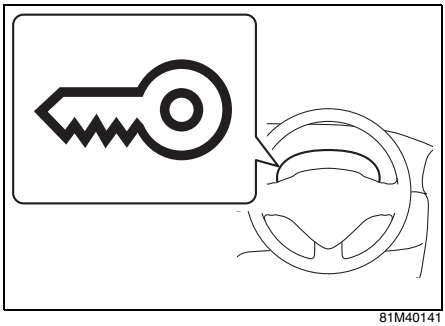
アドバイス

キーレスプッシュスタートシステム非装備車は次のような場合は、キーからの信号を車両が正確に受信できず、エンジンの始動ができないことがあります。

- キーグリップが金属製のものと接触しているとき
- キーがほかのキーと近いときや重なっているとき

→ **3-2ページ（キー）**

イモビライザー警告灯



81M40141

メーターパネル内にあります。

→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

エンジンの始動が可能な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

キーレスプッシュスタートシステム非装備車

点滅すると、エンジンの始動ができません。
点滅した場合は、一度エンジンスイッチをもどして、再度エンジンスイッチを ON にしてください。
それでも点滅する場合は、システムの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

キーレスプッシュスタートシステム装備車

- 点滅または約 5 秒間点灯すると、エンジンがかからない場合があります。携帯リモコンの場所を確認し、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどしてから、操作をやり直してください。
  → **4-10ページ（⚠（マスターウォーニング）が点滅してエンジンがかからないときは）**

- 携帯リモコン車外持ち出し警告が作動したときにも点滅します。
  → **4-8ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）**

アドバイス

点灯または点滅すると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。
→ **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

キーレスプッシュスタートシステム

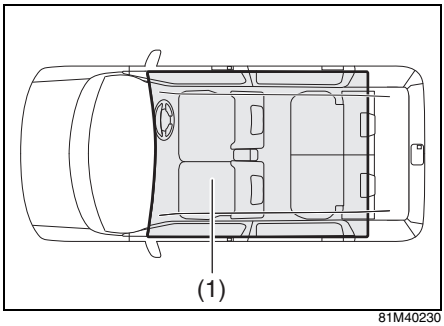
タイプ別装備

所持している携帯リモコンが、インパネの上や荷室などを除く車内の作動範囲に入っていると、エンジンスイッチによる始動（**4-9 ページ**参照）および電源の切替え（次ページ参照）が可能となります。また、そのほかに次の機能があります。

- リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠
  → **3-7ページ（携帯リモコン）**

- キーレスエントリー
  → **3-4ページ（キーレスエントリー）**

- イモビライザー（車両盗難防止装置）
  → **4-4ページ（イモビライザーシステム）**



81M40230

(1) 車内の作動範囲

アドバイス

●車内の作動範囲に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、エンジン始動や電源切替えができない場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動する場合があります。
- 携帯リモコンの電池が消耗している
- 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
- 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
- 携帯リモコンが奥まったところや収納スペースなどにある

→ **5-9ページ（インパネ収納スペース）**
→ **5-12ページ（ドリンクホルダー）**
→ **5-15ページ（そのほかの装備）**

- 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床にある

●車内の作動範囲に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、エンジン始動や電源切替えができる場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動しない場合があります。
- 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
- 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

電源の切替えのしかた

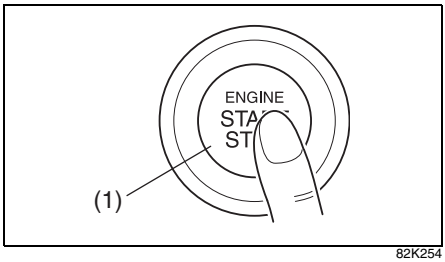
エンジンをかけずに電装品の使用やメーターの確認をしたいときは、次のようにしてエンジンスイッチの位置を切り替えます。
なお、この切替えのことを「**電源の切替え**」といいます。

●電源の切替え時には、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

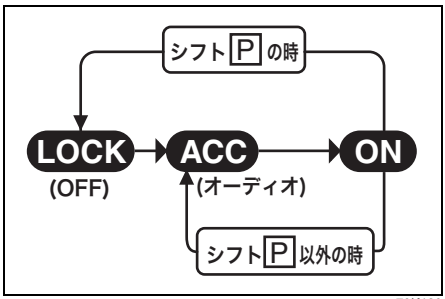
1 携帯リモコンを所持して運転席にすわります。

2 ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。



82K254

●押すごとに次のようにエンジンスイッチの位置が切り替わります。



70K130

アドバイス

- セレクトレバーが P 以外に入っていると、LOCK（OFF）にはもどせません。
- セレクトレバーの故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせないことがあります。
  → **4-13ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**

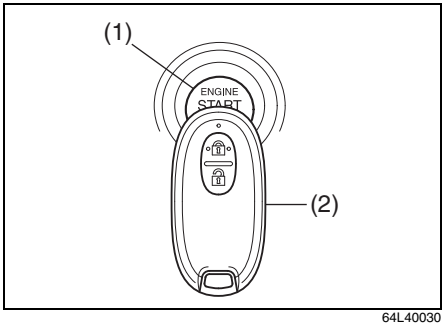
■ ⚠（マスターウォーニング）が点滅して電源が切り替わらないときは

携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-5ページ**参照）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでも切り替わらないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順で切り替えてください。

1 ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。

2 メーター内の ⚠（マスターウォーニング）が点滅している約10秒以内に、携帯リモコン(2)の先端(ロックスイッチ側)をエンジンスイッチに約2秒間当てます。

- ⚠（マスターウォーニング）の点滅中に、イモビライザー警告灯が約5秒間点灯します。



64L40030

※前記の手順を行なっても切り替わらないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
  → **3-9ページ（携帯リモコン電池消耗警告）**
  → **6-8ページ（リモコンキーの電池交換）**

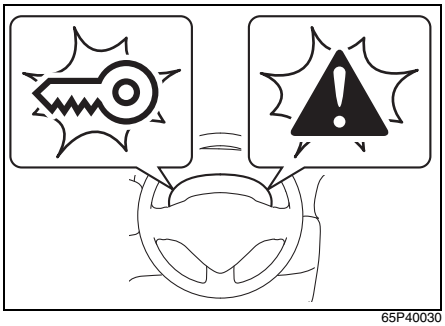
4

携帯リモコン車外持ち出し警告

エンジン回転中やエンジンスイッチを操作するときに携帯リモコンが検知されないと次のもので警告します。

- イモビライザー警告灯
- マスターウォーニング
- 室内／車外ブザー
  → **1-16ページ（警告ブザーが鳴ったときは）**

- メッセージ
  → **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**



65P40030

警告が作動したときは、すみやかに携帯リモコンを車内にもどしてください。

- 警告の作動中は、エンジンの再始動ができません。また、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
  → **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

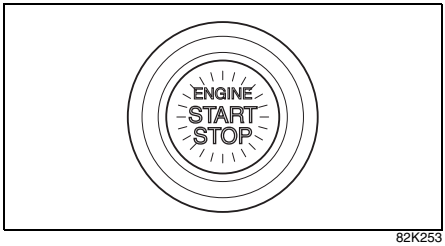
- イモビライザー警告灯およびマスターウォーニングの点滅は、通常、携帯リモコンが車内にもどってきてから少しすると消灯します。消灯しない場合は、一度エンジンスイッチを LOCK (OFF) にもどしてから再操作してください。

アドバイス

携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。

エンジンスイッチ照明

- 運転席ドアを開けると点灯します。運転席ドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。
- ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。ライトを消すと消灯します。



82K253

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

- ヘッドライトや車幅灯が消灯
- 運転席ドアを開けたまま約15分が経過

エンジンのかけかた

2-15 ページの「**エンジンをかけるときは**」もあわせてお読みください。

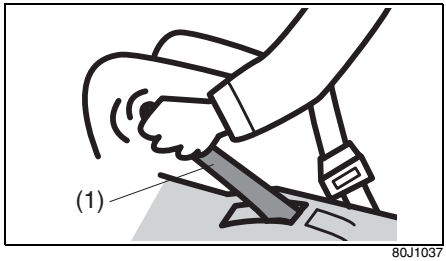
アドバイス

- ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- ハンドルロックが解除できなくて、エンジンの始動ができない場合があります。
  → **4-4 ページ（ハンドルロックが解除できないときは）**

キーレスプッシュスタートシステム非装備車

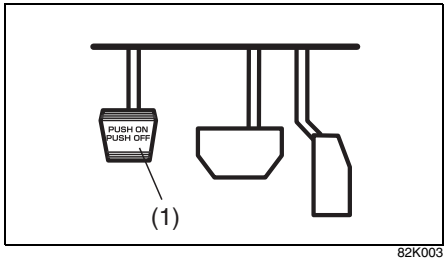
1 パーキングブレーキ（1）がしっかりかかっていることを確認します。

レバー式



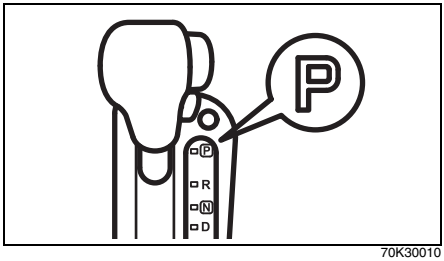
80J1037

ペダル式



82K003

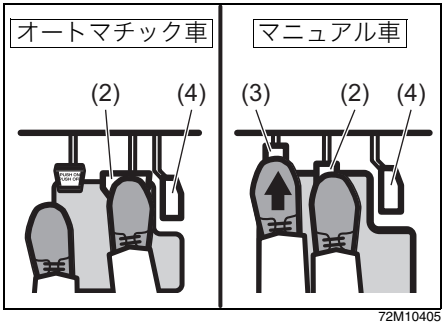
2 オートマチック車 は、セレクトレバーが P に入っていることを確認します。
マニュアル車 は、チェンジレバーがN（ニュートラル）になっていることを確認します。



70K30010

3 右足でブレーキペダル（2）をしっかり踏み続けます。
マニュアル車 は、左足でクラッチペダル（3）をいっぱいまで踏み込みます。

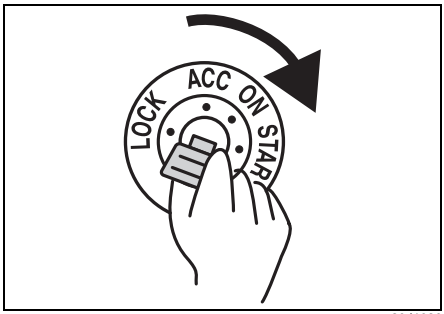
- アクセルペダル（4）は踏まないでください。



72M10405

■クラッチスタートシステム
マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとスターターがまわらず、エンジンを始動できません。

4 キーを START までまわします。



80J1036

- エンジンがかかったら、すみやかにキーから手を離します。

※前記の手順を行なってもエンジンがかからないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

注記

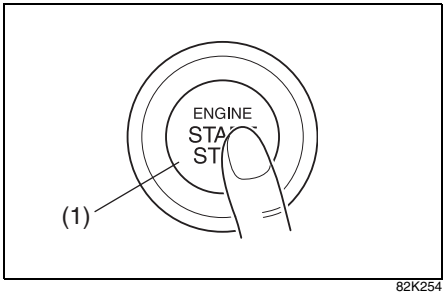
鉛バッテリー保護のため、キーを START にまわした状態を 8 秒以上続けないでください。エンジンがかからないときは、キーを一度 ACC にもどし、10 秒以上待ってから再びかけてください。

キーレスプッシュスタートシステム装備車

1 、2 、3 は、キーレスプッシュスタートシステム非装備車と同じ操作です。

4 メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに「スタートスイッチを押して下さい」が表示されたらエンジンスイッチ（1）を押します。エンジンがかかったら、スターターは自動的に停止します。

- エンジンがかからなくても、スターターはしばらくすると自動的に停止します。自動停止後またはシステム異常時は、エンジンスイッチを押している間だけ、スターターがまわります。



82K254

■ ⚠（マスターウォーニング）が点滅してエンジンがかからないときは

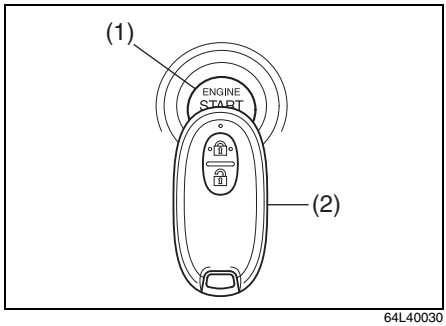
携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-5 ページ**参照）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでもエンジンがかからないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順を行なってください。

1 セレクトレバーが P に入っていることを再確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み続けます。

2 メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに「スタートスイッチを押して下さい」が表示されたらエンジンスイッチ（1）を押します。

3 メーター内の ⚠（マスターウォーニング）が点滅している約 10 秒以内に、携帯リモコン（2）の先端（ロックスイッチ側）をエンジンスイッチに約2秒間当てます。

- ⚠（マスターウォーニング）の点滅中に、イモビライザー警告灯が約5秒間点灯します。



64L40030

※前記の手順を行なってもエンジンがかからないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
  → **3-9ページ（携帯リモコン電池消耗警告）**
  → **6-8ページ（リモコンキーの電池交換）**

エンジンの止めかた

エンジンを止めるときは

⚠ 警告

緊急時以外は、走行中にエンジンを止めないでください。
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になります。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、ハンドルが重くなります。**
- **次の機能が作動しません。**
  - **ABS**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）（タイプ別装備）**
  - **ESP®（タイプ別装備）**
  - **レーダーブレーキサポート(RBS)（タイプ別装備）**
  - **誤発進抑制機能（タイプ別装備）**

注 記

走行中にエンジンを止めると、オートマチックトランスミッションが損傷するおそれがあります。

■ キーレスプッシュスタートシステム非装備車

エンジンスイッチを ACC にもどします。

⚠警告

マニュアル車 は走行中、絶対にエンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどさないでください。キーが万一抜けると、ハンドルがロックされてまわせなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ キーレスプッシュスタートシステム装備車

車両の状態	エンジン停止方法
停車中	エンジンスイッチを押す
走行中（緊急時）	エンジンスイッチを3連打以上、または2秒以上長押しする

- 停車中にエンジンを停止できないときは、エンジンスイッチを3連打以上、または2秒以上長押ししてください。この場合、システムの異常が考えられますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。

キーを抜くときは

キーレスプッシュスタートシステム非装備車

キーを抜くと、ハンドルロックがかかります。

■ オートマチック車

1 セレクトレバーを P に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。
→ **4-16ページ（セレクトレバーの操作）**

2 キーを LOCK（OFF）にもどしてキーを抜きます。

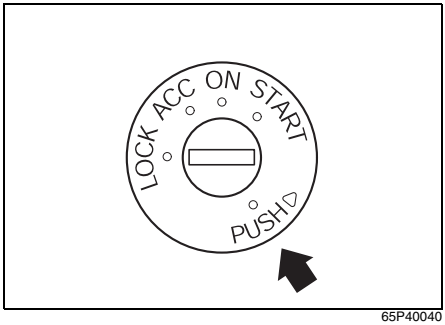
- 誤操作防止のため、次の条件をみたしているときだけキーが抜けます。
  - セレクトレバーが P 位置
  - セレクトレバーのボタンから手を離している

→ **4-19ページ（キーインターロック）**
→ **4-25ページ（駐車）**

■ マニュアル車

キーを LOCK（OFF）にもどしてキーを抜きます。

- ACC → LOCK（OFF）は、キーを押し込んでまわします。



65P40040

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーの抜き忘れを防止するためのブザーです。

- キーを ACC または LOCK（OFF）にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- キーを抜くと、室内ブザーが止まります。

エンジンスイッチをもどすときは

キーレスプッシュスタートシステム装備車

1 セレクトレバーを P に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。

→ **4-16ページ（セレクトレバーの操作）**

2 エンジンスイッチを押して LOCK（OFF）にもどします。

アドバイス

エンジンスイッチをもどすときに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。

→ **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

- エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどして、いずれかのドアを開閉すると、ハンドルロックがかかります。
- 誤操作防止のため、次のようなときは、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせません。
  - セレクトレバーの位置が P 以外
  - セレクトレバーの位置が P に入っていても、セレクトレバーのボタンを押しているとき

→ **4-25ページ（駐車）**

- セレクトレバーの故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせないことがあります。スズキサービス工場で点検を受けてください。なお、点検前には次の作業をしてください。
  - 盗難を防ぐため、キー操作にてドアを施錠してください。（リクエストスイッチやキーレスエントリーでは施錠できません）
  - 鉛バッテリーあがりを防ぐため、バッテリーのマイナス端子を外してください。（10 mmスパナなどの市販工具が必要です）

■ エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー

エンジンスイッチのもどし忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンスイッチを ACC にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- セレクトレバーを P に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。エンジンスイッチを2回押して LOCK（OFF）にもどすと、室内ブザーが止まります。
- LOCK（OFF）にもどさないと、リクエストスイッチや携帯リモコンでドアが施錠できません。

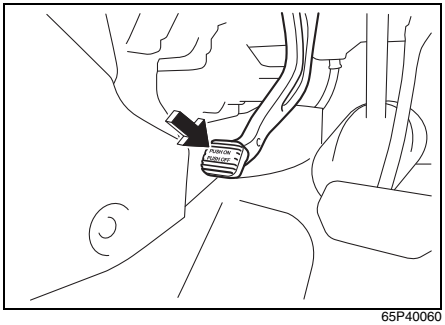
■ ハンドルロック未作動警告ブザー

故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどして、いずれかのドアを開閉してもハンドルがロックされない場合、運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピッ、ピッ、”と断続的に鳴ります。スズキサービス工場で点検を受けてください。

パーキングブレーキの操作

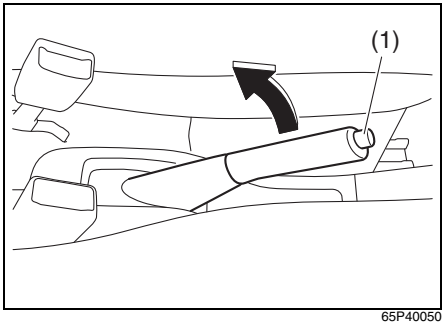
パーキングブレーキは後輪にかかります。駐車するときはパーキングブレーキをしっかりとかけてください。

ペダル式



65P40060

レバー式



65P40050

(1) ボタン

⚠警告

パーキングブレーキを解除したときは、メーター内のブレーキ警告灯が消灯しているか確認してください。万一、パーキングブレーキをかけたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

→ 3-65ページ（ブレーキ警告灯）

ペダル式（足踏み式）

オートマチック車

■ 駐車するときは

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

- パーキングブレーキをかけるときは、確実にブレーキが効くまで一気に踏み込んでください。
- 一気に踏み込まないで途中でペダルから足を離してしまったときは、一度解除してから、同じ手順で再度踏み込んでください。

⚠警告

- **走行中は、パーキングブレーキペダルを踏まないでください。急ブレーキをかけた状態になり、事故を起こすおそれがあります。**
- **走行中は、パーキングブレーキペダルに足を乗せないでください。カーブを曲がるときなどに足に力がかかり、踏み込んでしまうおそれがあります。**

⚠注意

- **パーキングブレーキの効きを強くしようとして、2 度踏みをしないでください。2 度踏みをすると、ペダルがもどってパーキングブレーキが解除されます。**
- **パーキングブレーキを解除するときは、右足でブレーキペダルを踏んでください。**

■ パーキングブレーキをさらに強く効かせたいときは

1 右足でブレーキペダルを強く踏んだままにします。

2 左足でパーキングブレーキを踏んで解除してから、再度踏み込みます。

■ 解除するときは

- 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをカチッと音がするまで踏み、ゆっくりと離します。
- 坂道発進するときは、左足でパーキングブレーキペダルをカチッと音がするまで踏んでおき、右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動き出す感触を確認しながらパーキングブレーキペダルをゆっくりともどしてください。

レバー式（引き上げ式）

マニュアル車

■ 駐車するときは

ボタンを押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいに引き上げます。

■ 解除するときは

- レバーを少し引き上げながらレバー先端のボタンを押し込み、そのまま下まで完全におろします。
- 坂道発進するときは、パーキングブレーキをかけたまま右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動き出す感触を確認しながらパーキングブレーキを解除してください。

パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー

パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。

- 警告ブザーの作動中は、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
  → **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

⚠ 警告

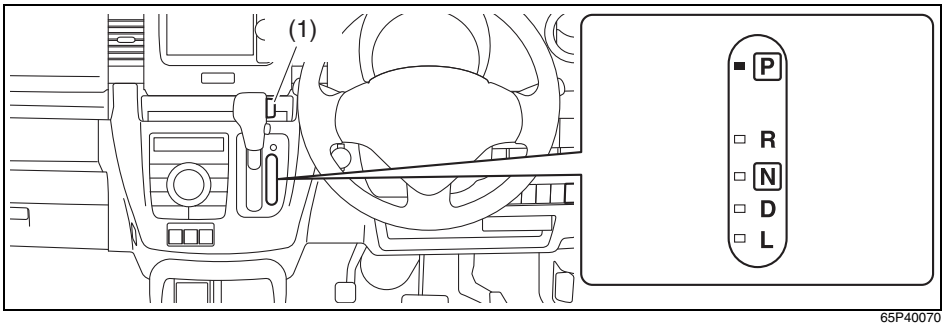
警告ブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、パーキングブレーキを解除してください。走行中の解除は、操作に気を取られて思わぬ事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの操作

オートマチック車

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

セレクトレバーの各位置のはたらき

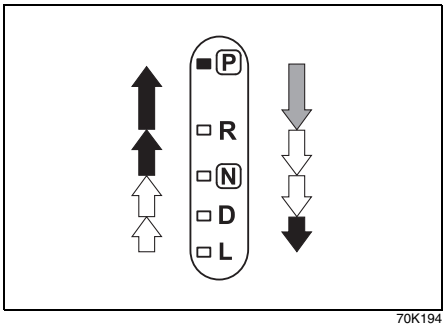


65P40070

(1) ボタン

P パーキング	駐車するとき、エンジンを始動・停止するとき、キーレスプッシュスタートシステム非装備車のキーを抜くときの位置 ●駆動輪（前輪）が固定されます。
R リバース	車を後退させるときの位置 ●室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。
N ニュートラル	エンジンの動力が伝わらない状態の位置 ●エンジンを始動できますが、安全のため P 位置で始動してください。
D ドライブ	通常走行の位置 ●車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。
L ロー	強力なエンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●急な下り坂を走行するときなどに使用します。

セレクトレバーの動かしかた



70K194

⇩	ブレーキペダルを踏み、ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。
⇧ ⇩	ボタンを押さずにセレクトレバーを動かします。
⇧ ⇩	ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。

注記

完全に停車させてから、セレクトレバーを R に入れてください。車が動いていると、トランスミッションが故障する原因となります。なお、トランスミッション保護のため、前進車速が約10 km/h以上のときは変速されません。（ニュートラルのまま）

アドバイス

⇧⇩の操作は、セレクトレバーのボタンを押さない習慣をつけてください。常にボタンを押して操作していると、間違って P R および L へ入れてしまうおそれがあります。

■ シフトロックシステム

発進するときなどに、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んでいるときだけ、セレクトレバーを P からほかの位置に動かせます。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のときは、ブレーキペダルを踏んでいても、セレクトレバーを P からほかの位置に動かせません。
- セレクトレバーのボタンを押してから、ブレーキペダルを踏まないでください。シフトロックが解除されないことがあります。
- 万一、エンジンスイッチを ON にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを P からほかの位置へ動かせない場合は、次のページの手順でシフトロックを解除してください。
  この場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにスズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

セレクトレバー可動部に飲み物などをこぼしたり、内部に異物が入ったりした場合、そのまま使用を続けるとシフトロックシステムが正常に機能しなくなるおそれがありますので、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

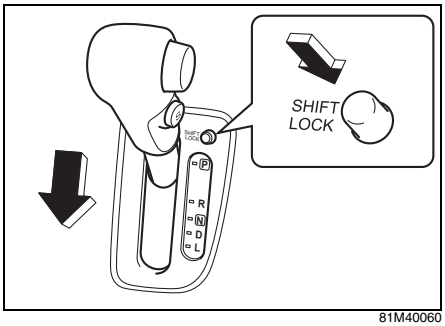
発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままセレクトレバーを操作してください。

■ シフトロックの解除のしかた

シフトロックシステムの故障や鉛バッテリーあがりなどで、セレクトレバーを P からほかの位置へ動かせないときは、次の手順でシフトロックを解除します。

1 安全のため、エンジンスイッチを ACC にしてパーキングブレーキをしっかりとかけ、ブレーキペダルを踏んだ状態にします。

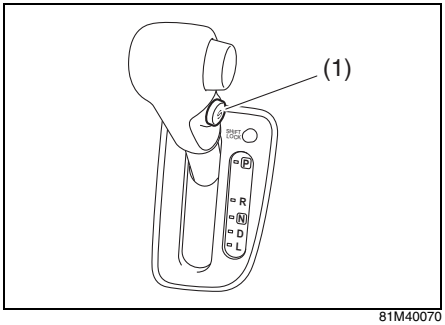
2 セレクトレバーパネルにあるシフトロック解除ボタンを押しながら、セレクトレバーを操作します。



81M40060

S（スポーツ）モードスイッチ

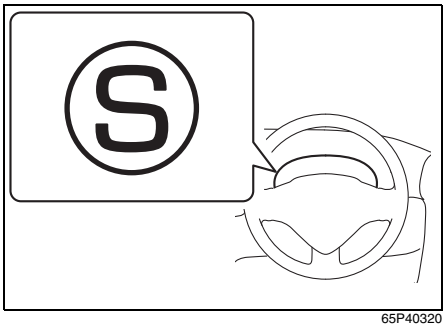
- スイッチを押すごとに、ON と OFF が切り替わります。



81M40070

(1) S(スポーツ)モードスイッチ

- ONのとき、メーター内のS（スポーツ）モード表示灯が点灯します。



65P40320

- S（スポーツ）モードスイッチは、エンジン始動時にはOFF状態にもどります。

■ スイッチがONのとき

坂道や山間路の走行に適しています。

- 下り坂ではエンジンブレーキがかかります。
- 上り坂や山間路ではエンジン回転数を高く保ち、エンジン回転の変化が少ない力強くなめらかな走行ができます。

■ スイッチがOFFのとき

通常走行に適しています。

- 燃費性能と静粛性の高い走行ができます。

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車特有の現象や操作上の注意があります。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

●セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
●エンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

CVT車もクリープ現象があります。

キックダウン

走行中（低車速時を除く）にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的にシフトダウンしてエンジン回転が上昇して、力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越しなどで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンして力強い加速が得られます。

⚠注意

通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。いっぱいに踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速をするおそれがあります。

登降坂変速制御

セレクトレバーが D 位置で作動する制御です。

- 登坂中と判断するとシフトダウンしてエンジン回転数を高く保ち、少ないアクセル操作でなめらかな走行ができます。
- 降坂中と判断するとシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

キーインターロック

キーレスプッシュスタートシステム非装備車

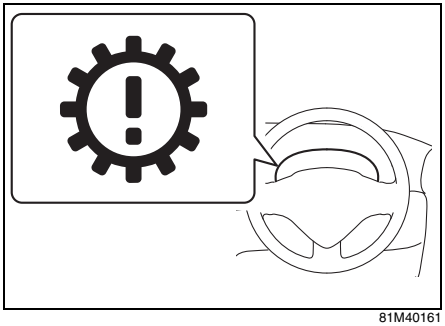
誤操作防止のため、次の条件をみたしているときだけキーが抜けます。これをキーインターロックといいます。

- セレクトレバーが P 位置
- セレクトレバーのボタンから手を離している

→ **4-12ページ（キーを抜くときは）**

オートマチック車を運転するとき

トランスミッション警告灯



81M40161

メーターパネル内にあります。

- CVT のシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

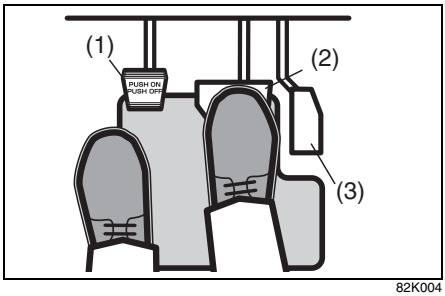
ペダルの踏み間違いに注意

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

⚠ 警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキペダルは右足で踏む



82K004

(1) パーキングブレーキペダル
(2) ブレーキペダル
(3) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

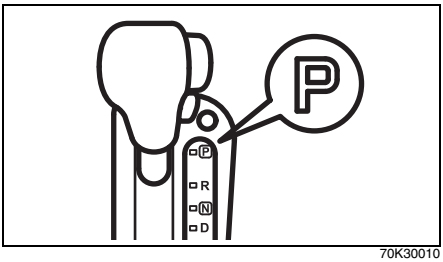
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R に入っていることを目で確認してください。

車から離れるときは



70K30010

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

オートマチック車の運転のしかた

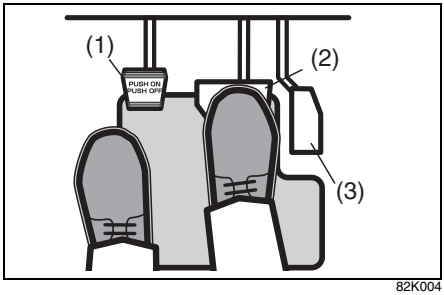
4-16ページの「**セレクトレバーの操作**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

運転席にすわって

1 ペダルが確実に踏めて、ハンドル操作が楽に行なえる位置にシートを調節し、ハンドルを調節（タイプ別装備）します。
→ **3-30ページ（前席シート）**
→ **3-29ページ（チルトステアリング）**

2 アクセルペダル（3）とブレーキペダル（2）の位置を右足で確認します。

3 パーキングブレーキペダル（1）の位置を左足で確認します。



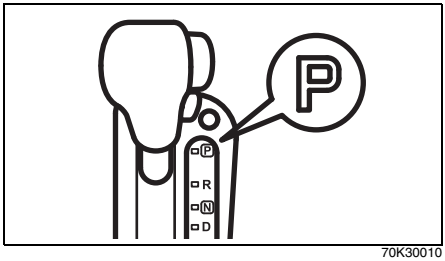
82K004

エンジンの始動

エンジンのかけかたの詳細は**4-9ページ**の「**エンジンのかけかた**」をお読みください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

2 セレクトレバーが P にあるか確認します。



70K30010

アドバイス
セレクトレバーが N 位置でもエンジンがかかりますが、安全のため P でエンジンをかけてください。

3 ブレーキペダルを右足で踏みます。

4 エンジンを始動します。

発進

■ 通常の発進

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。

2 前進時は D 、後退時は R にセレクトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。

3 パーキングブレーキを解除し、メーター内のブレーキ警告灯の消灯を確認します。

4 ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。

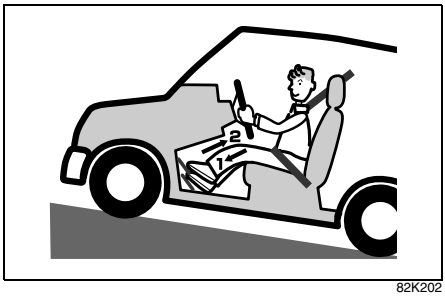
■ 急な上り坂での発進

1 、2 は「**通常の発進**」と同じ操作です。

3 左足でパーキングブレーキペダルをカチッと音がするまで踏みます。

4 ブレーキペダルからゆっくりと右足を離し、アクセルペダルを慎重に踏みます。

5 車が動き出す感触を確認しながら、パーキングブレーキペダルをもどして発進します。



82K202

アドバイス

ヒルホールドコントロール装備車の場合、急な上り坂での発進時に車が後退することを一定時間防ぐ機能があります。

→ **4-66ページ（ヒルホールドコントロール）**

走行

■ 通常走行

セレクトレバーを D に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。

⚠注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思いがけない事故の原因となります。

■ 急加速走行

追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
キックダウンして力強い加速が得られます。

■ 上り坂走行

上り坂を D で走行しているときに、スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。

- 坂の勾配に応じて、あらかじめ S（スポーツ）モードスイッチを ON にしておくと、エンジン回転の変化が少ない力強くなめらかな走行ができます。

■ 下り坂走行

下り坂を D のままで走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くてスピードが出すぎてしまうことがあります。

- 坂の勾配に応じて、あらかじめ S（スポーツ）モードスイッチを ON にしてエンジンブレーキを併用します。
- 急な下り坂で、強力なエンジンブレーキが必要なときには L に入れます。

⚠警告

急な下り坂や長い下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

アドバイス

ヒルディセントコントロール装備車の場合、急な下り坂などで車速を一定に保ち、走行を補助する機能があります。
→ **4-35ページ（ヒルディセントコントロール）**

一時停止

1 セレクトレバーは走行位置のままで停車し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

- 急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N に入れます。

2 再発進するときに間違えないよう、セレクトレバーの位置とパーキングブレーキの解除を目で確かめます。

⚠警告

一時停止しているときに、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

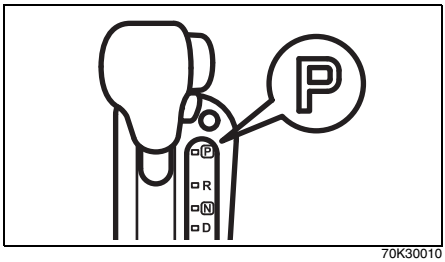
上り坂などで、アクセル操作でバランスをとるなどして車を停止させようとしないでください。トランスミッションフルードが過熱し、故障の原因となります。

駐車

1 車を完全に止めます。

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 セレクトレバーを P に入れてからエンジンを止め、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。
- セレクトレバーが P 位置になっているか目で確かめます。



70K30010

⚠警告

駐車するときは、セレクトレバーを P に入れてからエンジンを止めてください。P 以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどします。さらにキーレスプッシュスタートシステム非装備車は、エンジンスイッチからキーを抜きます。

→ **4-12ページ（キーを抜くときは）**
→ **4-13 ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**

後退

■ 正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進あるいは後退の操作を行なってください。

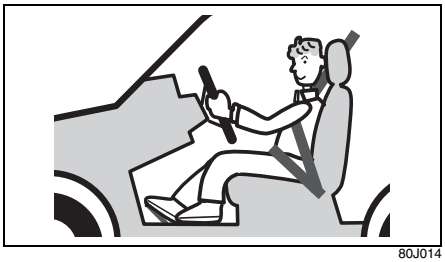
アドバイス

前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。

こんなことにも気をつけて

■ 車を少し移動させるとき

少しだけ移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



80J014

⚠注意

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（ D 、 L ）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（ R ）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。

■ 停車するとき

注 記

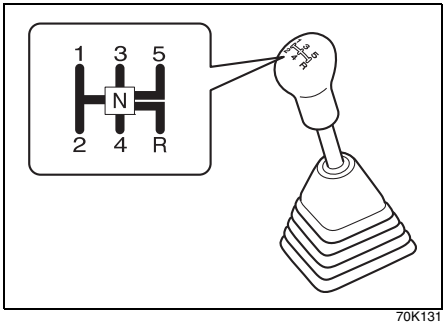
車が少しでも動いているときは、セレクトレバーを P に入れないでください。トランスミッションが故障する原因となります。

チェンジレバーの操作

マニュアル車

チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏みます。

- 誤操作防止のため、5速からR（リバース）に直接入れることはできません。一度 N（ニュートラル）に入れてからRへ操作してください。



70K131

注 記

チェンジレバーをR（リバース）に入れるときは、車を完全に停止させてから操作してください。完全に停止していない状態で操作すると、トランスミッションが破損する原因となります。

シフトダウンの上限速度

エンジンの過回転を防ぐため、次の表に示す上限速度以下でシフトダウンしてください。

シフトダウン	上限速度（km/h）
	2WD車／4WD車
2速 → 1速	30
3速 → 2速	55
4速 → 3速	90
5速 → 4速	130

※走行条件やお車のタイプにより、この上限速度に達しない場合があります。

注 記

上限速度を超えた速度でシフトダウンしないでください。エンジンの回転が上がり過ぎて、エンジンが故障する原因となります。

ABS装備車の取扱い

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

⚠警告

- **常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ABS による制御には限界があります。**
- **ABS は、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※）が起こったりした場合は効果を発揮できません。**

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

制動距離について

ABSは制動距離を短くするものではありません。

⚠注意

●急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABS がついていない車と同等です。

●次のようなときは、ABS のついていない車より制動距離が長くなることがあります。スピードを控えめにして、車間距離を十分にとってください。

- **凸凹道や石だたみなどの悪路**
- **じゃり道、新雪路**
- **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき**
- **マンホールなど鉄板の上を通過するとき**
- **タイヤチェーンの装着時**

●急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ（※）をせずに、ブレーキペダルを思い切り強く踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。

※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけかた

●路面の状況によりますが、約10 km/h以下ではABSが作動しません。

ABS作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じることがあります。これはABSの作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

アドバイス

エンジンをかけて発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

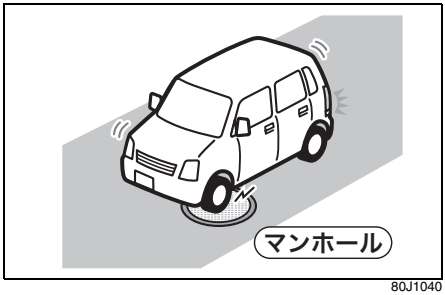
タイヤについて

⚠警告

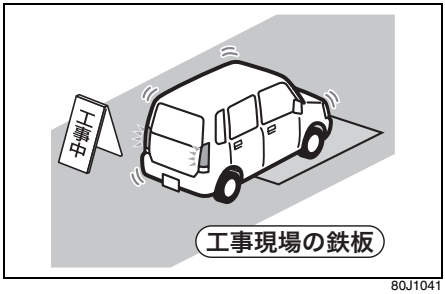
ABSは、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は、指定のサイズで、4輪ともサイズ、メーカー、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着してください。また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。正確な回転速度が検出できなくなって ABS が正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABSは、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

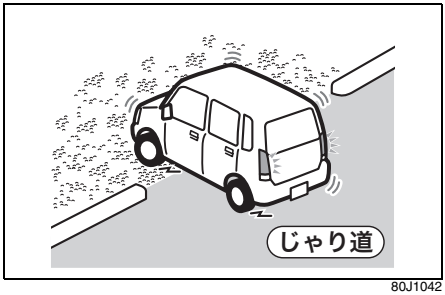
- 滑りやすい路面を走行しているとき



80J1040

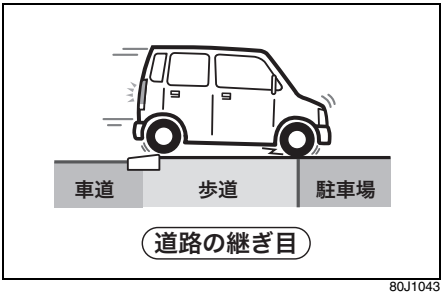


80J1041

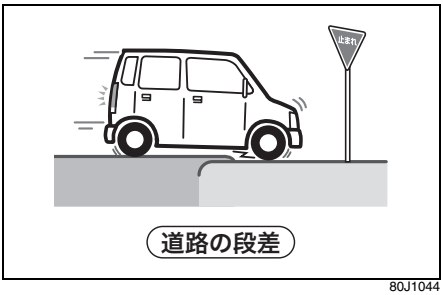


80J1042

- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

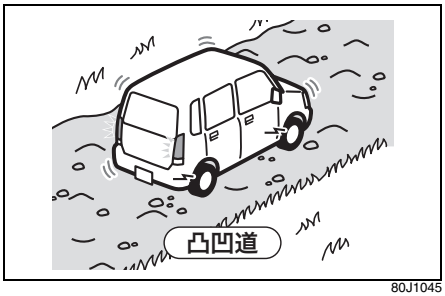


80J1043

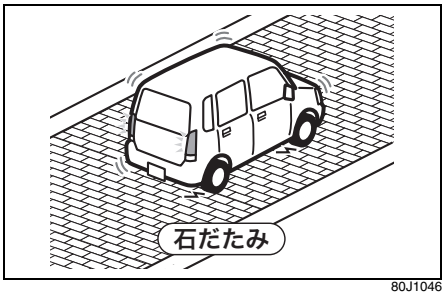


80J1044

● 悪路を走行しているとき



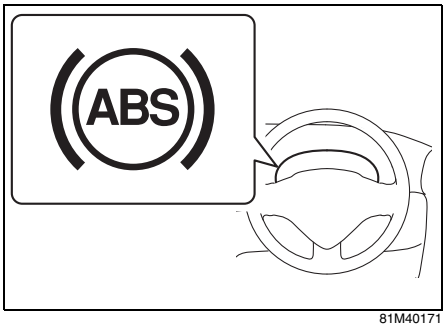
80J1045



80J1046

4

ABS警告灯



81M40171

メーターパネル内にあります。

● ABS の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

ブレーキアシスト

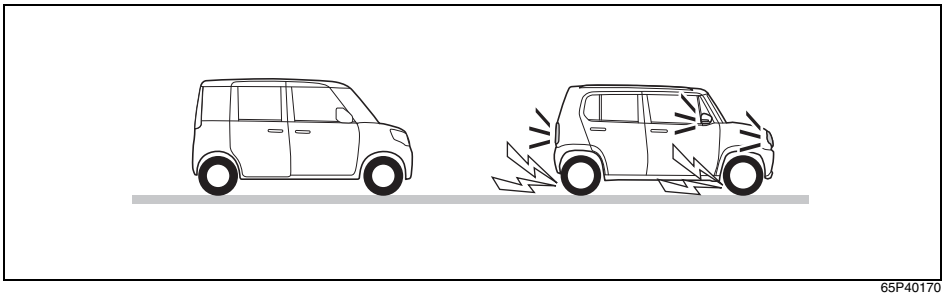
ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABSの効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

● しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
● ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

エマージェンシーストップシグナル（ESS）

ESS とは Emergency Stop Signal（エマージェンシーストップシグナル）の略です。ESSは次の条件をすべてみたしているときに、非常点滅表示灯を通常よりも速く点滅させることで、後続車へ注意を促す機能です。またその際、メーター内の方向指示器表示灯もあわせて点滅します。

- ブレーキペダルを勢いよく踏み込んだときの車速が約55 km/h以上のとき
- ABSが作動しているとき、またはABSが作動するような急ブレーキのとき



65P40170

ESSは次の状態になると機能が停止します。

- 車速が十分に低下したとき
- ブレーキペダルを離したとき
- ABSの作動が終了したとき
- 非常点滅表示灯スイッチの位置を ON にしたとき

⚠警告

ESS は走行中の急ブレーキ時に、後続車に注意を促すことで追突を軽減する機能で、すべての追突を防ぐものではありません。減速や停車するときは不要な急ブレーキはさけ、常に安全運転に努めてください。

アドバイス

- ESSの機能を停止させることはできません。
- ESSの機能よりも、非常点滅表示灯スイッチの操作が優先されます。
- 次のような路面を走行中に、一瞬しかABSが作動しなかったときは、ESS は作動しないことがあります。
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

ESP®装備車の取扱い

タイプ別装備

ESP®（※）は、ABS、ブレーキアシスト、トラクションコントロール、スタビリティコントロール（横滑り防止機能）などを総合的に制御して、車両の走行安定性を補助しようとするシステムです。

※ESP®は、Electronic Stability Program（エレクトロニック スタビリティ プログラム）の略で、Daimler AGの登録商標です。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

4-27ページをお読みください。

■ ブレーキアシスト

ABSのブレーキアシストと同様です。

■ トラクションコントロール

滑りやすい路面での発進時や加速時に起こる駆動輪の過度の空転を、ブレーキ制御およびエンジン出力制御により防ぎ、適切な駆動力を確保しようとする補助機能です。

■ スタビリティコントロール（横滑り防止機能）

急激なハンドル操作をしたり、滑りやすい路面で旋回したりするときの車の横滑りなどを抑制することで、車両の走行安定性を補助しようとする機能です。

⚠警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ESP®による制御には限界があります。

⚠注意

●次のことをお守りください。
守らないとESP®が正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。
- **タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する**
  → 8-5ページ（タイヤの空気圧）
- **タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する**
- **著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない**
- **サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）**
- **サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない**
- **エンジンを改造しない（マフラーの改造など）**
- **LSD（リミテッドスリップデフ）を装着するなどの改造をしない**

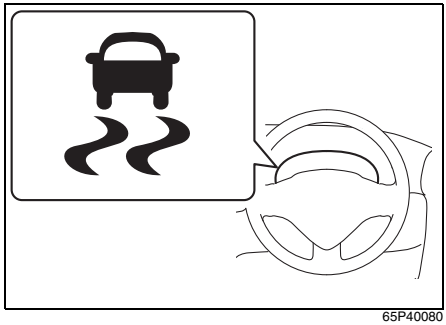
●タイヤチェーンや応急用スペアタイヤを装着したときなどには、ESP®が正常に作動しない場合があります。

アドバイス

●次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
- エンジンスイッチを ON にしたとき
- ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを ON にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
- エンジンをかけたとき
- エンジンをかけ、最初の発進時

●エンジン回転が高いときにESP®が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。

ESP®作動表示灯



65P40080

メーターパネル内にあります。
→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

● ESP®の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中は次のようになりますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- 次の機能が作動しません。
  - ・トラクションコントロール
  - ・スタビリティコントロール
  - ・ヒルディセントコントロール
    → **4-35ページ（ヒルディセントコントロール）**
  - ・グリップコントロール
    → **4-38ページ（グリップコントロール）**
  - ・レーダーブレーキサポート
    → **4-41ページ（レーダーブレーキサポート（RBS））**
  - ・誤発進抑制機能
    → **4-46ページ（誤発進抑制機能）**
  - ・アイドリングストップシステム
    → **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**
- ヒルホールドコントロールも作動しない場合があります。
  → **4-66ページ（ヒルホールドコントロール）**
- ABSは作動します。
- ブレーキアシストは、故障状況によっては作動しない場合があります。

- 次のような状況になると、0.2秒間隔で小刻みに点滅します。
  - 発進時や加速時にトラクションコントロールが作動している
  - 急ハンドル時や旋回時にスタビリティコントロールが作動している
  - 下り坂などでヒルディセントコントロールが作動している
    → **4-35ページ（ヒルディセントコントロール）**
  - 発進時などでグリップコントロールが作動している
    → **4-38ページ（グリップコントロール）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠注意

小刻みに点滅したときは、滑りやすい路面で、車がスタックまたは横滑りしやすい状態になっています。とくに慎重に運転してください。

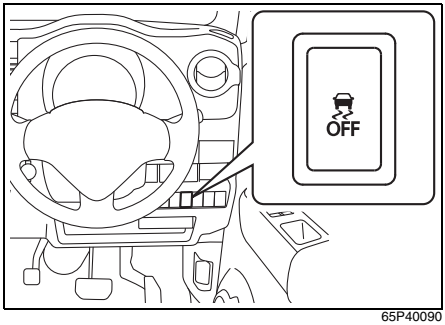
アドバイス

点灯中はトラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しませんが、ABSは使用することができます。

ESP® OFFスイッチ

- 次のようなときは、メーター内のESP® OFF 表示灯が点灯するまでESP® OFF スイッチを押し続けてください。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動しなくなります。
  - 車検を受けるときなどテスターに載せる場合。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールを作動停止の状態にする必要があります。
  - スタックからの脱出などの場合。トラクションコントロール／グリップコントロールが脱出に適さないときがあります。

- 次のような操作をすると、ESP® OFF 表示灯が消灯し、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動可能な状態にもどります。
  - もう一度ESP® OFFスイッチを押す
  - 一度エンジンを止め、再始動する



65P40090

- スタックからの脱出などのあとに通常走行するときは、ESP® OFF スイッチを再度押してESP® OFF 表示灯を消灯させ、もとの状態にもどしてください。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは自動復帰しません。（一度エンジンを止め、再始動したときを除く）

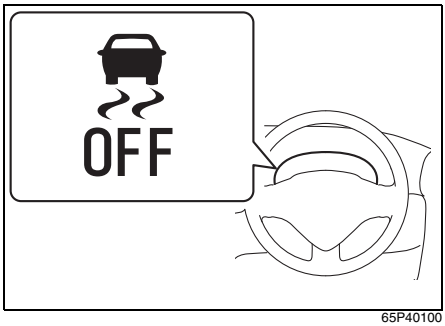
アドバイス

- 安全のため、ESP® OFFスイッチを操作しても、ABSおよびブレーキアシストは作動停止の状態になりません。
- レーザーレーダー装備車はESP® OFFスイッチの位置が作動停止（OFF）のとき、次の機能も停止します。（※）
  - レーダーブレーキサポート（RBS）
  - 誤発進抑制機能

※作動（ON）／作動停止（OFF）切替え時、ブザーが鳴ります。

→ **4-49ページ（レーダーブレーキサポート（RBS）OFFスイッチ）**

ESP® OFF表示灯



65P40100

メーターパネル内にあります。

→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

- エンジンスイッチが ON のときに、ESP® OFF スイッチを長押しすると点灯します。
  - 点灯中は、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しません。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

ヒルディセントコントロール

タイプ別装備

ヒルディセントコントロールは、エンジンブレーキだけでは十分減速できないような急な坂道を下るときに、ESP® の制御により一定の低車速を保ち、走行を補助するシステムです。

⚠ 警告

ヒルディセントコントロールを過信しないでください。極端に急な坂道、凍結路、泥道を下るときや、積載重量によっては、下り坂走行で一定の低車速を維持できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏み、安全運転に心がけてください。

アドバイス

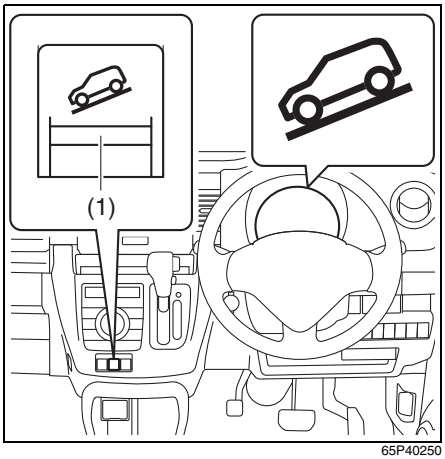
ヒルディセントコントロールは、雪道などの滑りやすい坂道において、ブレーキやアクセル操作に気をつかうことなく、ハンドル操作に集中することができます。

ヒルディセントコントロールの作動ついて

■ スタンバイ

1 セレクトレバーを L または R 位置に入れます。

2 車速が約 25 km/h 以下のときにヒルディセントコントロールスイッチ（1）を押します。メーター内のヒルディセントコントロール表示灯が点灯し、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になります。
→ **4-37 ページ（ヒルディセントコントロール表示灯）**



65P40250

アドバイス

ヒルディセントコントロールスイッチを ON にしたとき、マルチインフォメーションディスプレイに専用の画面が表示されます。
→ **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

65P40341

■ 作動

アクセルペダルを踏んでいない状態で車速が約 7 km/h を超えると自動でブレーキが作動して約7 km/hに保ちます。

- 自動ブレーキが作動しているとき、ESP® 作動表示灯が小刻みに点滅します。また、同時に制動灯も点灯します。
- 車速が約40 km/h以上になると、メーター内のヒルディセントコントロール表示灯が点滅するとともに、自動的に作動停止します。車速が約25 km/h以下になると再びランプが点灯し、作動可能状態になります。

⚠注意

●長時間連続して使うと、ブレーキ装置が過熱する場合があります。この場合は装置保護のため、ヒルディセントコントロール表示灯が点滅するとともに自動的に作動停止します。ブレーキペダルを踏んで安全な場所に停車してください。
しばらくしてブレーキ装置の温度が下がると、ヒルディセントコントロール表示灯が点滅から点灯に切り替わるとともに作動可能な状態にもどります。

●セレクトレバーが N 位置でも、ヒルディセントコントロールが作動する場合がありますが、エンジンブレーキが効きません。セレクトレバーを L または R の位置に入れてください。
●ヒルディセントコントロールを作動させるときは、ヒルディセントコントロールスイッチを押してヒルディセントコントロール表示灯の点灯およびマルチインフォメーションディスプレイの表示を確認してください。

アドバイス

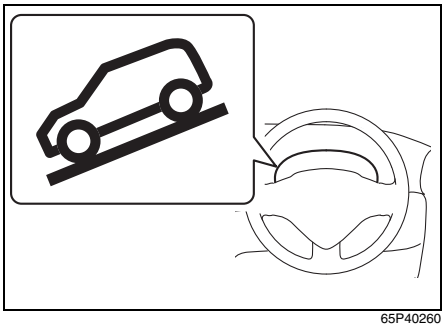
●作動中にエンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
●作動中のときマルチインフォメーションディスプレイに専用の画面が表示されます。
→ **3-95 ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

65P40351

■ システムを解除するときは

もう一度ヒルディセントコントロールスイッチ（1）を押し、ヒルディセントコントロール表示灯を消灯させます。

ヒルディセントコントロール表示灯


65P40260

メーターパネル内にあります。

- エンジンスイッチが ON のときに、ヒルディセントコントロールスイッチを押し、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になると点灯します。点滅した場合は、ヒルディセントコントロールが作動しません。次の作動条件がみたされているか確認してください。
  - セレクトレバーが L または R の位置
  - 車速が25 km/h以下
  - ブレーキ装置が過熱していない
- システムが正常で、エンジンスイッチを ON にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 次のような場合はシステムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - エンジンスイッチを ON にしても点灯しない
  - エンジンスイッチを ON にし、約2秒間たっても消灯しない
  - エンジンスイッチが ON のときに、ヒルディセントコントロールスイッチを押しても点灯または点滅しない

ヒルディセントコントロールのメッセージ

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されたときは、ヒルディセントコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

65P40280

アドバイス

メッセージの表示中は、ヒルディセントコントロールは使用できません。

グリップコントロール

タイプ別装備

グリップコントロールは、雪道などの滑りやすい路面で片側のタイヤが空転してしまい発進が難しいとき、ESP® の制御により 4 輪の駆動力とブレーキ力をコントロールしてスムーズな発進を補助するシステムです。場合によっては、両側のタイヤが空転したときにも発進を補助することもあります。

⚠警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。グリップコントロールによる制御には限界があります。

⚠注意

次のことをお守りください。守らないとグリップコントロールが正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。

- **タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する**
  → 8-5ページ（タイヤの空気圧）
- **タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する**
- **著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない**
- **サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）**
- **サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない**
- **エンジンを改造しない（マフラーの改造など）**
- **LSD（リミテッドスリップデフ）を装着するなどの改造をしない**
- **タイヤチェーンや応急用スペアタイヤを装着したときなどには、グリップコントロールが正常に作動しない場合があります。**

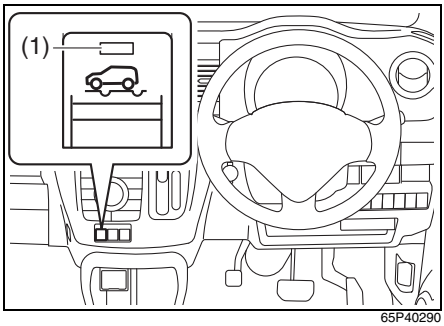
アドバイス

- 両側のタイヤが空転したときにもグリップコントロールは作動する場合がありますが、特に効果を発揮するのは片側のタイヤが空転したときです。
- 次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
  - エンジンスイッチを ON にしたとき
  - ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを ON にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
  - エンジンをかけたとき
  - エンジンをかけ、最初の発進時
- エンジン回転が高いときにグリップコントロールが作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。

グリップコントロールスイッチ

エンジンスイッチが ON のときにグリップコントロールスイッチを押すと、スイッチ内の表示灯（1）が点灯し、グリップコントロールは作動可能状態（ON）となります。もう一度押すと表示灯が消灯し停止状態（OFF）となります。

- 車両が安定し、車速が約30 km/hを超えると自動停止して、スイッチ内の表示灯が消灯します。
- ESP® が作動停止状態（OFF）のとき、グリップコントロールは ON になりません。



65P40290

アドバイス

グリップコントロールスイッチを ON にしたとき、マルチインフォメーションディスプレイに専用の画面が表示されます。

→ **3-95ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

65P40360

グリップコントロールの作動について

グリップコントロールスイッチがONのとき、車輪にスリップが発生するとグリップコントロールが作動し、4輪の駆動力とブレーキ力をコントロールすることで発進を補助します。

- ESP®が作動停止状態（OFF）のとき、グリップコントロールは作動しません。

⚠注意

グリップコントロールを作動させるときは、グリップコントロールスイッチを押してスイッチ内の表示灯の点灯およびマルチインフォメーションディスプレイの表示を確認してください。

アドバイス

- グリップコントロールが作動中のとき、マルチインフォメーションディスプレイに専用の画面が表示されます。
  → **3-95 ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

65P40370

- グリップコントロールが作動中、ESP®作動表示灯が点滅します。

グリップコントロールのメッセージ

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに以下のメッセージが表示される場合があります。

- グリップコントロールスイッチがONのとき、次の状態となった。
  - 車両が安定し、車速が約30 km/hを超えた
  - グリップコントロールスイッチをOFFにした
  - ESP® OFFスイッチをONにした

65P40300

- グリップコントロールに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

65P40310

アドバイス

メッセージの表示中は、グリップコントロールが使用できません。

運転支援機能

タイプ別装備

この車は衝突の回避や衝突時の被害を軽減するための、次の機能を搭載しています。

- レーダーブレーキサポート（RBS）
  → **4-41 ページ（レーダーブレーキサポート（RBS））**

- 誤発進抑制機能
  → **4-46ページ（誤発進抑制機能）**

また、急ブレーキをかけたときに後続車へ注意をうながすための、次の機能を搭載しています。

- エマージェンシーストップシグナル（ESS）
  → **4-31 ページ（エマージェンシーストップシグナル（ESS））**

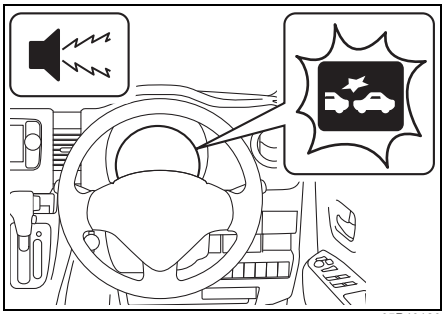
レーダーブレーキサポート（RBS）

RBS とは Radar Brake Support（レーダーブレーキサポート）の略です。RBS は低速(約5 ～ 30 km/h)で走行中にレーザーレーダーが前方車両との衝突を回避できないと判断したときに、自動で強いブレーキをかけて衝突の回避または、衝突時の被害軽減を図る機能です。

- 作動したときの速度が15 km/hより低いときは、追突を回避できる場合があります。
- RBS は ESP® が作動停止のときには作動しません。

作動中は次の方法でお知らせします。

- メーター内のRBS作動表示灯が点滅
  → **3-65ページ（警告灯・表示灯の見かた）**
- ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る



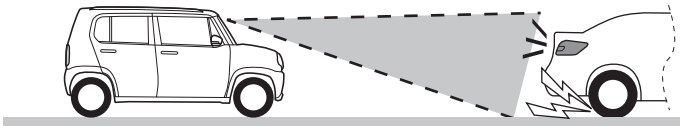
65P40130

⚠ 警告

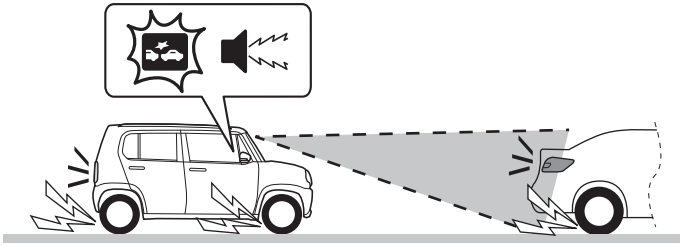
- **RBS の性能には限界があり、すべての衝突を回避できるわけではありません。RBS にたよった運転はせず、走行中は常に周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。**
- **安全のため、お客様自身で RBS の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては、機能が作動しないことや車両が止まりきれないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **走行中は、すべての乗員がシートベルトを正しく着用してください。RBS が作動したときなどに、身体が投げ出されて重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **次のような場合は、車高や車両の傾きが変わり、RBS が正常に機能せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  - **サスペンションの改造（車高の変更など）**
  - **指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着**
  - **摩耗したタイヤや摩耗差の激しいタイヤの装着**
  - **タイヤの空気圧が適正でない**

■ 作動イメージ

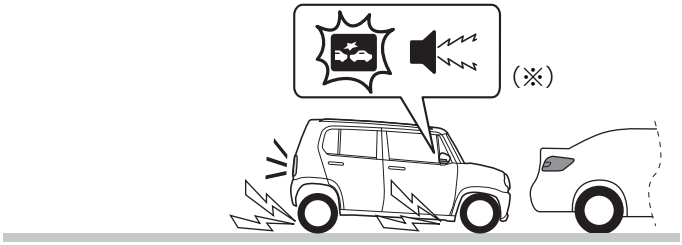
①前方車両へ接近（車間距離短縮）



②車間距離短縮（衝突を回避できないと判断）



③衝突を回避または被害を軽減



65P40140

※RBS による車両停止後、ブレーキ制御が解除されるまでの間は RBS 作動表示灯の点滅およびブザー音は継続されます。

⚠注意

- **RBS による車両停止後、しばらくはブレーキ制御は保持されますが、すみやかにブレーキペダルを強く踏み込んでください。ブレーキペダルの踏み込みが弱いとクリープ現象により車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **RBS は前方車両の検知に２つ以上装備されたリフレクター（反射板）を利用していますが、リフレクターの取り付け位置や大きさによってはRBSが作動しないことがあります。**

アドバイス

RBS 作動中に、前方車両がレーザーレーダーの検知範囲外に移動したり、運転者が回避行動（ステアリングまたは、アクセルペダルの操作）を行ったときには、途中でRBSの作動が解除されることがあります。

■ こんな場合は作動しません

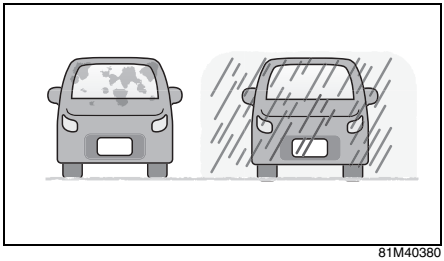
- エンジンスイッチの位置が ON 以外のとき
- メーター内のブレーキシステム警告灯（オレンジ色）および、RBS OFF 表示灯が点灯しているとき
  → **3-72 ページ（ブレーキシステム警告灯（オレンジ色））**
  → **3-76 ページ（レーダーブレーキサポート（RBS） OFF表示灯）**

- RBS　OFF スイッチの位置が作動停止（OFF）のとき
  → **4-49ページ (レーダーブレーキサポート（RBS）OFFスイッチ)**

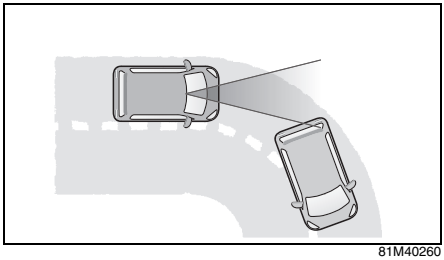
- ESP® OFF スイッチの位置が作動停止（OFF）のとき
  → **4-34ページ (ESP® OFFスイッチ)**

■ こんな場合は作動しないことがあります

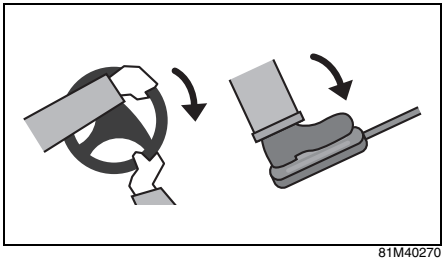
- 次のようなときはレーザーレーダーが前方車両を正しく検知できずにRBSが作動しない場合があります。
  - レーダー本体が高温状態のとき
  - 大雨、濃霧および吹雪などの悪天候のときや、前方車両の排気ガスや水、雪などの巻上げ、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
  - フロントガラスが汚れているときやフロントウォッシャーを使用中のとき
  - 降雨時にワイパーを使用していないとき


81M40380

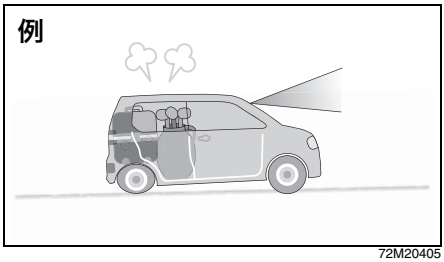
- 急な坂道やカーブが連続する道路を走行しているとき


81M40260

- ハンドル操作やアクセルペダル操作による回避行動を行っているとき

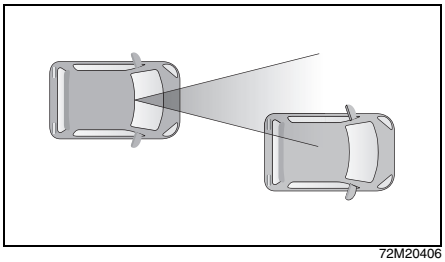

81M40270

- 荷室などに重い物を載せて、車両が後傾しているとき



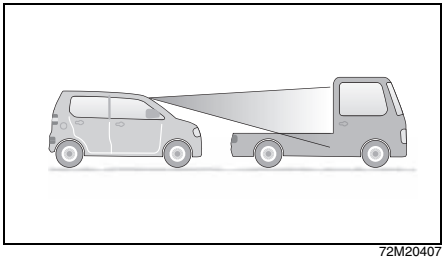
72M20405

• レーダー検知範囲内に前方車両の一部分しかないとき



72M20406

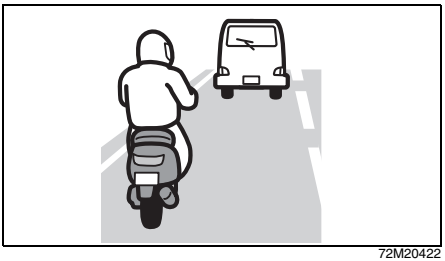
● 次のような前方車両はレーダーが検知できずにRBSが作動しない場合があります。
  • 著しく汚れている車両
  • ガラス面の大きな車両
  • レーダーが検知しにくい黒系色の車両
  • リフレクター（反射板）がない車両
  • 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や高い車両
  • キャリアカーなど、特殊な形状をした車両



72M20407

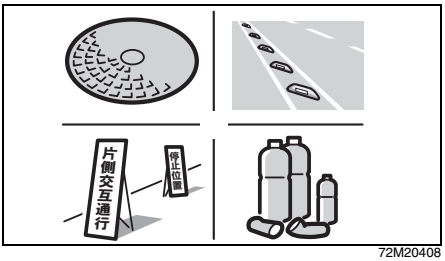
■ こんな場合にも作動することがあります

● 次のようなときはレーダーが前方車両と判断してRBSが作動する場合があります。あわてず注意して走行してください。
  • レーダーが二輪車および歩行者を検知したとき



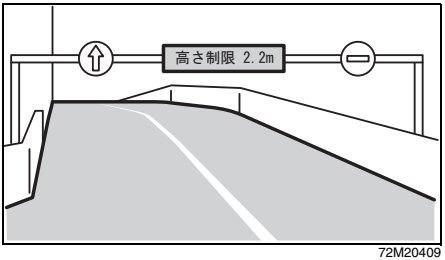
72M20422

• 路面上の金属物、段差、落下物または突起物があるとき



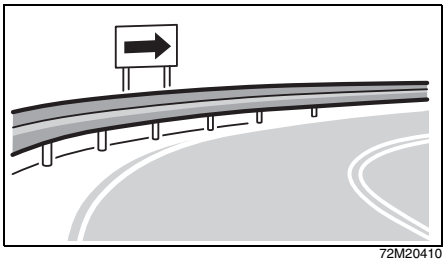
72M20408

• 進行方向に ETC ゲートや駐車場のバー、遮断機、看板などがあるとき



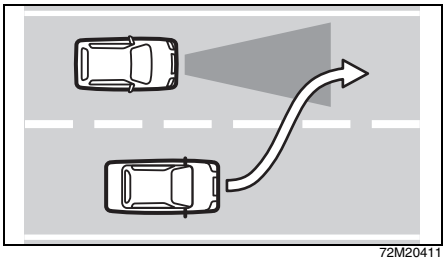
72M20409

- カーブ入口のガードレールや看板などの路側物があるとき



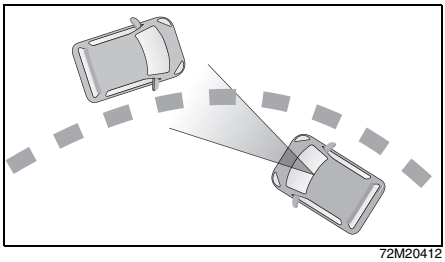
72M20410

- レーダーの検知範囲内で、他車が急な割込みや車線変更をしてきたとき



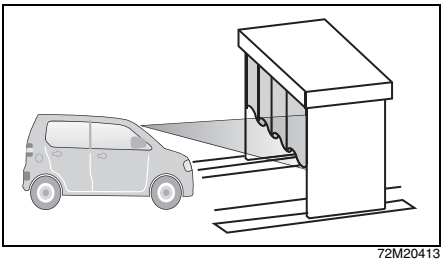
72M20411

- カーブで対向車とすれ違うとき



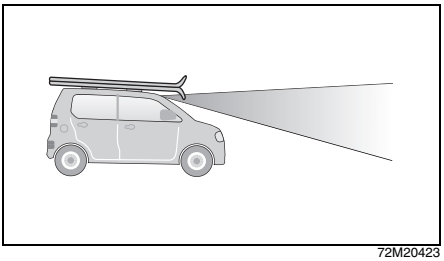
72M20412

- ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき



72M20413

- 搭載したルーフキャリアやスキー板などの長尺物がレーダー検知範囲内にあるとき



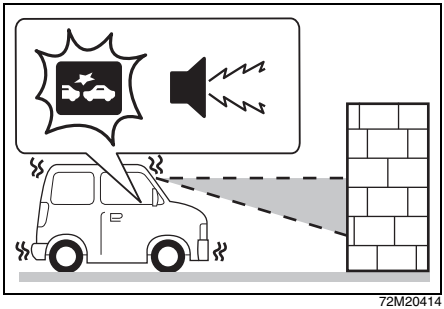
72M20423

- 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき

誤発進抑制機能

誤発進抑制機能は停車または徐行（車速約10 km/h以下）中に、前方約4 m以内に車両や障害物を検知すると、アクセルペダルの急激な踏み込みによるエンジン出力の上昇を自動的に約５秒間抑制することで衝突時の被害軽減を図る機能です。抑制されていたエンジン出力は、機能が解除されると徐々にもどります。
作動中は、次の方法でお知らせします。

- メーター内のレーダーブレーキサポート（RBS）作動表示灯が点滅
  → **3-65ページ**
  （警告灯・表示灯の見かた）
- ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る



72M20414

⚠警告

●誤発進抑制機能の性能には限界があります。誤発進抑制機能にたよった運転はせず、アクセルペダルの操作に気をつけ、常に安全運転に努めてください。操作を誤ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

●前方約4 m以内に車両や障害物があっても、周囲の状況によっては機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●誤発進抑制機能は停車状態を保つものではありません。急な坂道などで機能が作動すると、勾配によっては自重により坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●次のような場合は、車高や車両の傾きが変わり、RBSが正常に機能せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **サスペンションの改造（車高の変更など）**
- **指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着**
- **摩耗したタイヤや摩耗差の激しいタイヤの装着**
- **タイヤの空気圧が適正でない**

アドバイス

前輪を輪止めや縁石などに接触させておくと、より衝突を回避しやすくなります。

■ こんな場合は作動しません

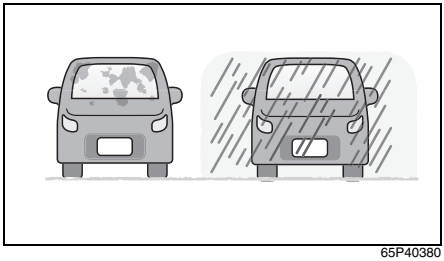
- エンジンがかかっていないとき
- セレクトレバーの位置が P R N のとき
- ハンドルを大きくまわしているとき
- メーター内のブレーキシステム警告灯（オレンジ色）および、RBS OFF 表示灯が点灯しているとき
  → **3-72 ページ（ブレーキシステム警告灯（オレンジ色））**
  → **3-76 ページ（レーダーブレーキサポート（RBS） OFF表示灯）**

- RBS OFFスイッチの位置が作動停止（OFF）のとき
  → **4-49ページ (レーダーブレーキサポート（RBS）OFFスイッチ)**

- ESP® OFF スイッチの位置が作動停止（OFF）のとき
  → **4-34ページ (ESP® OFFスイッチ)**

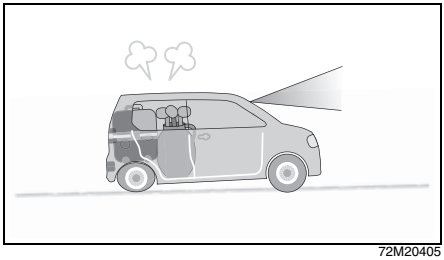
■ こんな場合は作動しないことがあります

- 次のようなときはレーザーレーダーが前方車両や障害物を正しく検知できずに誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
  - レーダー本体が高温状態のとき
  - 大雨、濃霧および吹雪などの悪天候のときや、前方車両の排気ガスや水、雪などの巻上げ、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
  - フロントガラスが汚れているときやフロントウォッシャーを使用中のとき



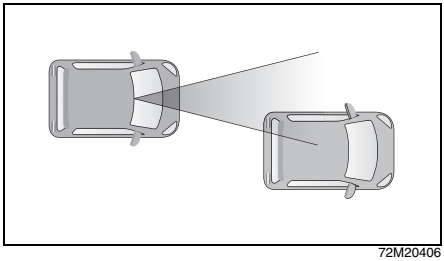
65P40380

  - 急な坂道のとき
  - 荷室などに重い物を載せて、車両が後傾しているとき



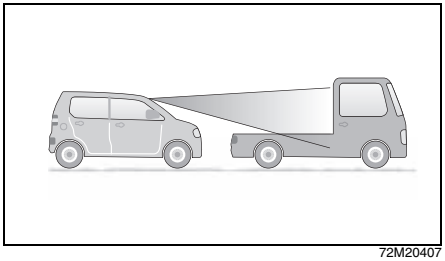
72M20405

  - レーダー検知範囲内に前方車両の一部分しかないとき



72M20406

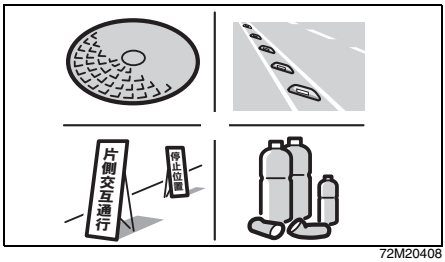
- 次のような前方車両および障害物はレーダーが検知できない場合があります。
  - 標識や街灯などポール状の障害物
  - ガードレールなど高さの低い障害物
  - 小さい障害物
  - 著しく汚れている車両
  - ガラス面の大きな車両
  - レーダーが検知しにくい黒系色の車両および障害物
  - レーダーが透過する網目の大きいフェンスやガラス
  - リフレクター（反射板）がない車両
  - 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
  - キャリアカーなど、特殊な形状をした車両



72M20407

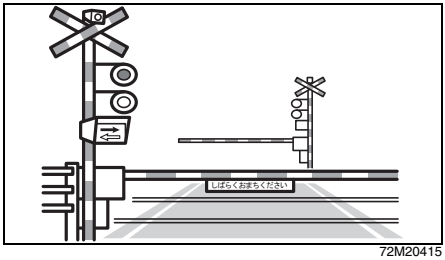
■ こんな場合にも作動することがあります

- 次のようなときはレーダーが前方車両および障害物と判断して誤発進抑制機能が作動する場合があります。
  - 路面上の金属物、段差、落下物または突起物があるとき



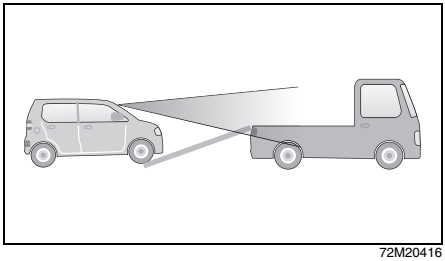
72M20408

  - 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき



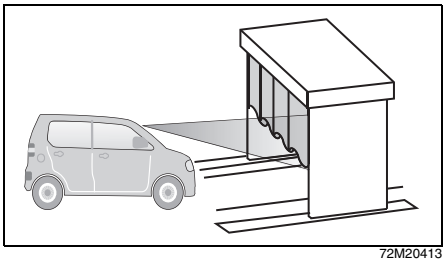
72M20415

  - キャリアカーに積載するとき



72M20416

• ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき



72M20413

• スピードブレーカーが設置してある道や、河川敷などの悪路を走行するとき

• 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき

■ 踏切内などで作動した場合は

誤発進抑制機能が遮断機を障害物と判断して、踏切内に閉じ込められた場合は、次のいずれかの操作を行い踏切内から脱出してください。

- アクセルペダルを5秒以上踏み続ける
- ハンドルを大きくまわす
- いったんアクセルペダルを離し、再度すばやく踏み込む
- RBS OFFスイッチを長押しする

→ **4-49ページ（レーダーブレーキサポート（RBS）OFFスイッチ）**

⚠警告

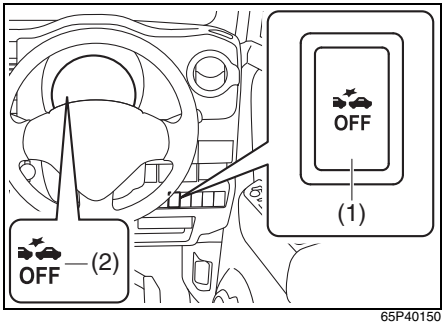
遮断機が下がる直前に無理に踏切内に進入しないでください。踏切内でRBSや誤発進抑制機能が作動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ **7-32 ページ（踏切内で動けなくなったときは）**

レーダーブレーキサポート（RBS）OFFスイッチ

RBS および誤発進抑制機能を停止状態（OFF）にできます。

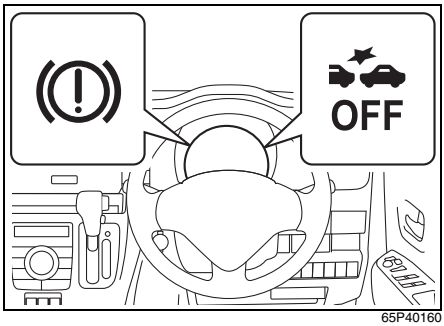
- 機能を停止させるときは、メーター内のRBS OFF表示灯（2）が点灯するまでRBS OFFスイッチ（1）を長押しします。
- 機能を復帰させるときは、もう一度RBS OFFスイッチ（1）を長押しして RBS OFF表示灯（2）を消灯させます。
- 手動でエンジンを停止するたびに機能は復帰し、RBS OFF 表示灯は消灯します。
- RBS OFFスイッチを押すたびにブザーが“ピッ”と鳴り、作動が切り替わったことをお知らせします。



65P40150

- メーター内の RBS OFF 表示灯は RBS および誤発進抑制機能が停止していることをお知らせするだけではなく、次のような場合に点灯します。
  - 機能が正常な場合、エンジンスイッチを ON にしたときに約3秒間点灯したあと消灯します。
  - エンジンスイッチが ON のときに RBSおよび誤発進抑制機能に異常がある場合やレーダーがフロントガラスの汚れを検知するなど、一時的に RBSおよび誤発進抑制機能が作動しない場合に点灯します。

→ **3-76 ページ（レーダーブレーキサポート（RBS） OFF表示灯）**



65P40160

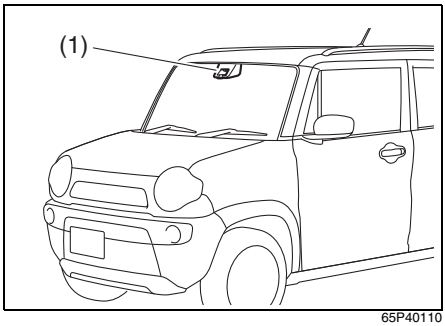
アドバイス

- 次のようなときは、RBS および誤発進抑制機能が作動するおそれがあるため、RBS OFF スイッチを操作して停止させてください。
  - テスターなどで車両点検を行なうとき
  - けん引されるとき
  - 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき
- RBS OFFスイッチを操作しても、ESP®を作動停止（OFF）にすることはできません。

■ レーザーレーダー

レーザーレーダー（1）は精密部品です。フロントルームミラー付近に設置され、次の機能で使用しています。

- レーダーブレーキサポート（RBS）
- 誤発進抑制機能



65P40110

⚠警告

- レーダーを正しく作動させるために、次のことをお守りください。取扱いを誤ると、前方車両や障害物を正しく検知できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - **レーダー前方のフロントガラスをきれいに保ち、ステッカーなどを貼らない（透明なものを含む）**
  - **レーダー本体、およびその周辺部に強い衝撃や力を加えない**
  - **レーダーを取り外したり、分解したりしない**
  - **フロントワイパー本体やブレードを交換するときは、指定のものを使用する（詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください）**

●レーダー付近のフロントガラスにひび割れなどの傷がある状態で走行すると、レーダーが前方車両や障害物を正しく検知できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。RBS OFF スイッチを操作して、RBS および誤発進抑制機能を停止させ、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

エンジンスイッチが ON のときにレーダーから 10 cm 以内の距離で、拡大鏡、対物レンズなど拡大機能がある光学機器を使用して、照射部をのぞき込まないでください。レーダーから照射される赤外線で目を傷めるおそれがあります。

■ ガラス汚れを検知したときは

レーザーレーダーがフロントガラスの汚れを検知した場合は、レーダーブレーキサポート（RBS）および誤発進抑制機能を停止させるとともに、メーター内の RBS OFF 表示灯およびブレーキシステム警告灯（オレンジ色）が点灯します。次の手順で対処してください。

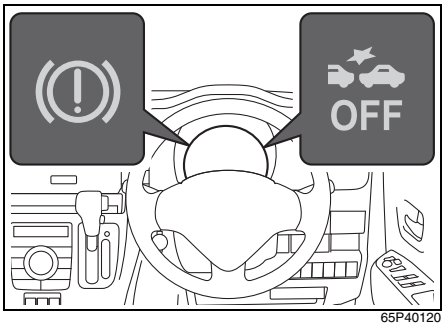
1 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを LOCK (OFF) にします。

2 レーダー前方のフロントガラスをきれいにします。

3 エンジンスイッチを ON にします。

4 RBS OFF 表示灯およびブレーキシステム警告灯（オレンジ色）の消灯を確認します。

- RBS OFF 表示灯およびブレーキシステム警告灯（オレンジ色）が消灯しないときは、ガラスの汚れ以外の異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

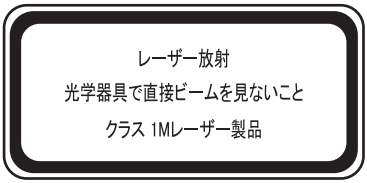


65P40120

アドバイス

このレーダーは、日本工業規格 JIS C 6802「レーザー製品の放射安全基準」におけるレーザー等級1M製品です。

レーザー等級ラベル



72M20424

レーザーレーダー放射線データ

最大平均出力：45mW
パルス幅：33ns
波長：905nm
発散角（水平 × 垂直）：28° × 12°

アイドリングストップシステム

タイプ別装備

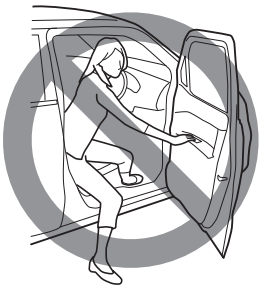
アイドリングストップシステムは、信号待ちなどの一時的な停車時および停車前の減速時に、自動的にエンジンを停止・再始動させるシステムです。排出ガスの低減、燃費向上、エンジン騒音低下に役立ちます。

- 本システムは一定の条件のもとで、一時的にエンジンを停止させるものです。長時間停車するときや車から離れるときは、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止してください。
  → **4-11ページ（エンジンを止めるときは）**

- オートマチック車は、一定の条件をみたすと停車前の減速時（約13 km/h以下）に自動停止します。ただし、システムの機能確認が終了するまでは、減速時に自動停止しません。

⚠注意

●アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中は、車外に出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **オートマチック車の場合、ブレーキペダルを踏んでいても運転席シートベルトを外す、または運転席ドアを開くとエンジンが再始動し、アイドリングストップシステムによるエンジン自動停止中であったことをお知らせします。**
- **マニュアル車の場合、運転席シートベルトを外し運転席ドアを開けると、エンスト状態になります。**



72M2042

●アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止後、自動で再始動しない場合は、エンジンスイッチを操作してエンジンを始動してください。エンジンが再始動しない状態で車を動かすと、ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

注記

アイドリングストップシステム装備車は、高性能な専用の鉛バッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないと本システムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

●バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）
→ 7-18 ページ（鉛バッテリーを交換するときは）
→ 8-2ページ（サービスデータ）

●バッテリー端子から電気製品の電源をとらない

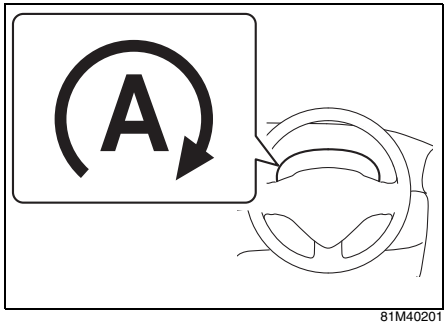
エンジンの自動停止・再始動のしかた

■ オートマチック車

1 走行中に、エンジンが自動停止可能な状態（スタンバイ条件）になると、メーター内のアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。

→ **3-75ページ（アイドリングストップ表示灯）**

→ **4-58ページ（スタンバイ条件）**



81M40201

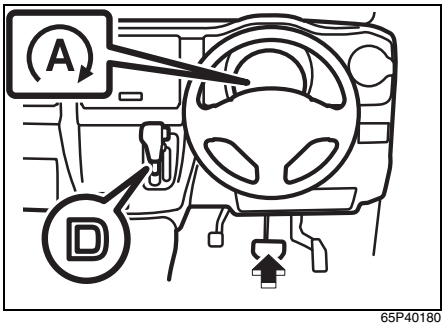
2 セレクトレバーが D のままブレーキペダルを踏んで減速すると、停車前（約 13 km/h 以下）にエンジンが自動停止します。このとき、アイドリングストップ表示灯（緑色）は点灯したままです。

- アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯した状態でブレーキペダルを踏んで減速しても、エンジン自動停止の条件をすべてみたさないと、エンジンが自動停止しません。

→ **4-60ページ（エンジン自動停止の条件）**

- 自動停止中に安全確保のため、室内ブザーが鳴ってエンスト状態にさせたり、エンジンを再始動させたりする場合があります。

→ **4-56 ページ（エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて）**



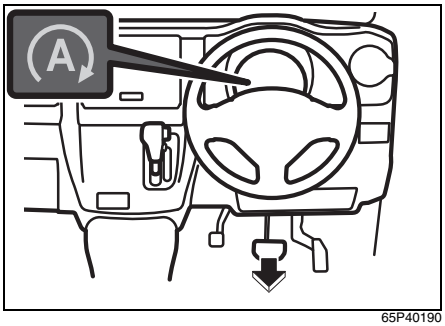
65P40180

アドバイス

- ブレーキペダルを踏まずに、エンジンブレーキなどを使用して減速しても、エンジンは自動停止しません。
- 停車前（約 13 km/h 以下）にエンジンが自動停止しない場合でも、停車時にエンジンが自動停止する場合があります。
- 自動停止中でもナビゲーション、またはオーディオなどの電装品は使用できますが、エアコンは送風に切り替わります。
- オートエアコン装備車の場合、冷暖房性能を長持ちさせるため、自動停止中の風量（自動制御時のみ）に制限がかかります。

3 停車の前後に関わらず、ブレーキペダルから足を離すとエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯します。

- ブレーキペダルを踏んでいても、エンジン自動再始動の条件をみたすと自動的に再始動します。
  → **4-61 ページ（エンジン自動再始動の条件）**



65P40190

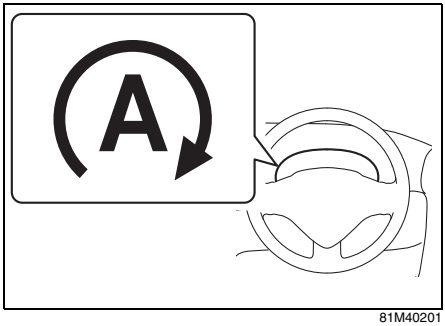
アドバイス

エンジン自動再始動のとき、ヒルホールドコントロールが作動します。
→ **4-66ページ（ヒルホールドコントロール）**

4 エンジン自動再始動後しばらく走行して、エンジンが自動停止可能な状態（スタンバイ条件）になると、アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。

■ マニュアル車

1 走行中に、エンジンが自動停止可能な状態（スタンバイ条件）になると、メーター内のアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。
→ **3-75ページ（アイドリングストップ表示灯）**
→ **4-58ページ（スタンバイ条件）**

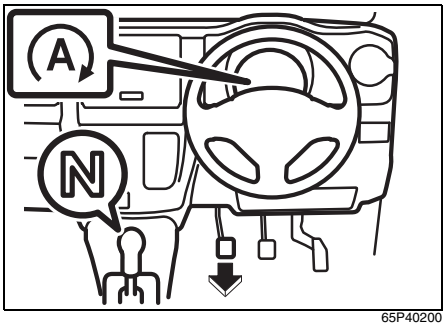


81M40201

2 停車後、チェンジレバーをN（ニュートラル）に入れ、クラッチペダルから足を離すとエンジンが自動停止します。このとき、アイドリングストップ表示灯（緑色）は点灯したままです。

- アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯していても、エンジン自動停止の条件をすべてみたさないと、エンジンが自動停止しません。
  → **4-60ページ（エンジン自動停止の条件）**

- 自動停止中に安全確保のため、室内ブザーが鳴ってエンスト状態にさせたり、エンジンを再始動させたりする場合があります。
  → **4-56 ページ（エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて）**



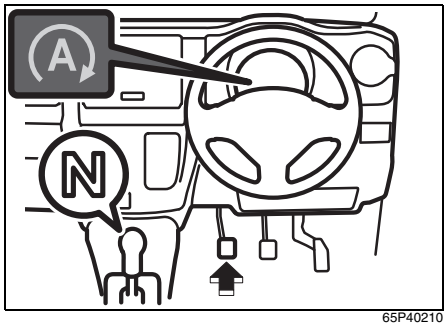
65P40200

アドバイス

- マニュアル車は、減速時のエンジン自動停止はしません。
- 自動停止中でもナビゲーション、またはオーディオなどの電装品は使用できますが、エアコンは送風に切り替わります。
- オートエアコン装備車の場合、冷暖房性能を長持ちさせるため、自動停止中の風量（自動制御時のみ）に制限がかかります。

3 もう一度クラッチペダルを踏み込むとエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯します。

- クラッチペダルを踏まなくても、エンジン自動再始動の条件をみたすと自動的に再始動します。
  → **4-61 ページ（エンジン自動再始動の条件）**



65P40210

アドバイス

オーディオ（タイプ別装備）の音量が大きいと、エンジンの再始動時に音が途切れることがありますが異常ではありません。

4 エンジン自動再始動後しばらく走行して、エンジンが自動停止可能な状態（スタンバイ条件）になると、アイドリングストップ表示灯が点灯します。

アイドリングストップ表示灯（緑色）の点灯中であれば、停車時や発進時に前記の手順以外でエンストした場合、チェンジレバーをN（ニュートラル）に入れてクラッチペダルを踏み込むと、エンジンが再始動することがあります。

エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて

⚠注意

自動停止中は、次表の操作は行なわないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

	操作/車両の状態	対処方法
全車共通	**ボンネットを開ける** ●オートマチック車は、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。 ●マニュアル車は、室内ブザーが“ピー、ピー”と2回鳴ります。 ●エンジン自動停止状態からエンスト状態になります。 ●アイドリングストップ表示灯（緑色）は消灯します。	エンジンを再始動するときは、次の手順で対処してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、オートマチック車はセレクトレバーを P に、マニュアル車はチェンジレバーをN（ニュートラル）に入れます。 ②ボンネットを完全に閉めます。 ③エンジンスイッチを操作して再始動します。 → **4-9 ページ（エンジンのかけかた）**
マニュアル車	**運転席シートベルトを外し、運転席ドアを開ける** ●室内ブザーが“ピー、ピー、”と５回鳴ります。 ●エンジン自動停止状態からエンスト状態になります。 ●アイドリングストップ表示灯（緑色）は消灯します。	
	クラッチペダルを踏まずに、チェンジレバーをN（ニュートラル）以外に入れる ●室内ブザーが“ピー、ピー”と2回鳴ります。 ●エンジン自動停止状態は継続します。 ●アイドリングストップ表示灯（緑色）は点灯したままです。	チェンジレバーをN(ニュートラル）にもどします。

	操作/車両の状態	対処方法
オートマチック車	**運転席シートベルトを外す、または運転席ドアを開ける** ●室内ブザーが“ピー、ピー、”と5回鳴ります。 ●エンジンが自動で再始動します。 ●アイドリングストップ表示灯（緑色）は消灯します。	発進する前に、ドアを閉め、シートベルトを着用してください。また車外に出るときは、事前に次の手順を実施してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れます。 ②長時間停車するときや車から離れるときは、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止します。 → **4-11 ページ（エンジンを止めるときは）**

アドバイス

メーターパネル内の次の警告灯は、エンジンの自動停止中は点灯しませんが、エンスト状態になると点灯します。

●エンジン警告灯
●パワーステアリング警告灯
●油圧警告灯
●充電警告灯

→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

アイドリングストップシステムの作動条件

■ スタンバイ条件

次の条件をすべてみたすと、走行中にアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯し、エンジンの自動停止が可能な状態になります。

エンジン始動時

全車共通	ボンネットが完全に閉まっている状態でエンジンを始動する

走行時

全車共通	●アイドリングストップシステムが停止状態（OFF）になっていない → **4-63ページ（アイドリングストップシステムOFFスイッチ）** ●バッテリーが十分に充電されていて、バッテリー内部が所定温度内にある（※1） ●エンジンが十分に暖まっていて、エンジン冷却水が所定温度内にある ●運転席シートベルトを着用している ●運転席ドアが完全に閉まっている ●ボンネットが完全に閉まっている ●アイドリングストップシステム以外の電子制御システムから、エンジン停止を禁止する信号が出ていない（※2） **＜オートエアコン装備車＞** ●エアコンの吹出し口温度が、冷房時は十分に冷えている、または暖房時は十分に暖まっている ●デフロスタースイッチが停止状態（OFF）になっている → **5-28ページ（オートエアコン）**

※1 車を長期間使用しなかったときや、エンジン停止中にナビゲーション、またはオーディオなどの電装品を長時間使用したときなど、バッテリーが放電している状況では、スタンバイ状態になるまでに時間がかかることがあります。

※2 アイドリングストップ表示灯（緑色）の点灯後に、エンジン停止を禁止する信号が出ることがあります。この場合、停車時にアイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯し、エンジンは自動停止しません。また、アイドリングストップシステムに影響をあたえる警告灯や表示灯のいずれかが点灯したときは、エンジンは自動停止しません。

オートマチック車	●セレクトレバーの位置が D または N である（※3） ●S（スポーツ）モードスイッチが停止状態（OFF）になっている → **4-18ページ（S（スポーツ）モードスイッチ）**

※3 セレクトレバーの位置が N でもスタンバイ状態になりますが、このときは停車前の減速時（約13 km/h以下）ではなく、停車時にエンジンが自動停止します。

■ エンジン自動停止の条件

アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯中に次の条件をすべてみたすと、停車前の減速時または停車時にエンジンが自動停止します。

停車前の減速時

オートマチック車	●ブレーキペダルを適切に踏んでいる（※） ●車速約13 km/h以下に減速している ●ハンドル操作をしていない ●アクセルペダルを踏んでいない ●急な坂道を走行していない ●急減速をしていない ●ABSやESP®（タイプ別装備）が作動していない ●ブレーキ倍力装置の負圧が正常である

停車時

全車共通	●ハンドル操作をしていない ●ブレーキ倍力装置の負圧が正常である ●停車前に急減速をしていない ●ABSやESP®（タイプ別装備）が作動していない
オートマチック車	●ブレーキペダルを適切に踏んでいる（※） ●アクセルペダルを踏んでいない ●急な坂道で停車していない
マニュアル車	●チェンジレバーの位置がN（ニュートラル）である ●クラッチペダルから足を離している

※ブレーキペダルの踏みかたが弱い、または強いと、自動停止しない場合があります。

■ エンジン自動再始動の条件

自動停止中に次のいずれかの操作をすると、または車両がいずれかの状態になると、エンジンが自動で再始動しアイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯します。

全車共通	●ハンドル操作をする（※2） ●アイドリングストップシステムを停止状態（OFF）にする → **4-63ページ(アイドリングストップシステムOFFスイッチ)** ●バッテリーの放電が進んだとき（※3） ●本システムに関わる異常を検出したとき（※3） ●自動停止してから、しばらく経過したとき（2分程度）（※3） ●ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき（※3） ●停車時に坂道などで車両が動き出したとき（※3） **＜オートエアコン装備車＞** ●自動停止後、エアコンの吹出し口温度が大きく変化し、冷暖房性能が十分でなくなったとき（※3） ●温度調節ダイヤルを冷房時はCOOL側、暖房時はHOT側に大きくまわしたとき（※3） ●デフロスタースイッチを作動状態（ON）にしたとき（※3） → **5-28ページ（オートエアコン）**

※2 ハンドル操作時の自動再始動条件は、操作量ではなく操舵力となります。このため、自動再始動するときのハンドル操作量は、路面状況や乗車人数によって変化する場合があります。

※3 アイドリングストップ表示灯（緑色）が点滅し、エンジンが再始動したあと消灯します。車両が停車していた場合は、アイドリングストップ表示灯の点滅開始と同時にブザー音が鳴ります。

オートマチック車	● ブレーキペダルから足を離す（※1） ● アクセルペダルを踏む ● セレクトレバーを N に入れたあと D にもどす ● 減速時（約13 km/h以下）に、ボンネットを開けたとき ● 減速時（約 13 km/h 以下）に、セレクトレバーを N に入れたとき ● 減速時（約13 km/h以下）に、道路の勾配が急変したとき（※3） ● 運転席シートベルトを外したとき（※3） ● 運転席ドアを開けたとき（※3） ● セレクトレバーを P R または L に入れる ● S（スポーツ）モードスイッチを作動状態（ON）にする → **4-18ページ（S（スポーツ）モードスイッチ）**
マニュアル車	クラッチペダルを踏む

※1 ブレーキペダルの踏み込みが弱いと、自動再始動する場合があります。この場合、再びブレーキペダルを踏み込むと自動停止し、アイドリングストップ表示灯（緑色）が再点灯することがあります。

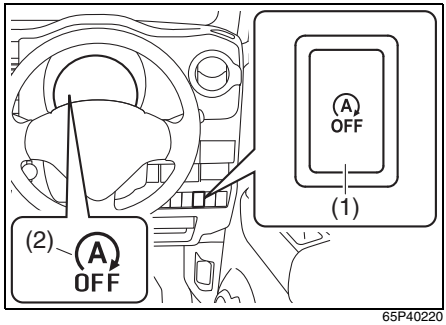
※2 ハンドル操作時の自動再始動条件は、操作量ではなく操舵力となります。このため、自動再始動するときのハンドル操作量は、路面状況や乗車人数によって変化する場合があります。

※3 アイドリングストップ表示灯（緑色）が点滅し、エンジンが再始動したあと消灯します。車両が停車していた場合は、アイドリングストップ表示灯の点滅開始と同時にブザー音が鳴ります。

アイドリングストップシステムOFFスイッチ

アイドリングストップシステムを停止状態（OFF）にできます。

- システムを停止状態にするときは、アイドリングストップシステム OFF スイッチ（1）を押して、メーターパネル内のアイドリングストップシステムOFF表示灯（2）を点灯させます。
- システムを作動可能な状態にもどすときは、もう一度スイッチ（1）を押して表示灯を消灯させます。
- 手動でエンジンを停止するたびに、システムは作動可能な状態にもどり、アイドリングストップシステムOFF表示灯は消灯します。



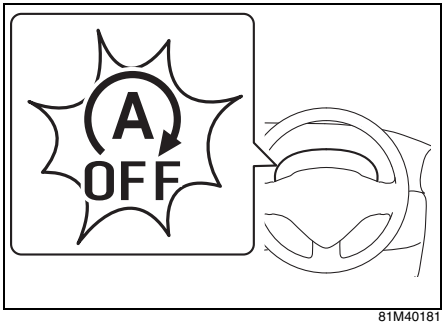
65P40220

アドバイス

エンジンの自動停止中にアイドリングストップシステム OFF スイッチ（1）を押すとエンジンが自動再始動し、アイドリングストップシステムOFF表示灯（2）が点灯します。

- メーターパネル内のアイドリングストップシステムOFF表示灯（オレンジ色）はアイドリングストップシステムが停止していることをお知らせするだけではなく、次のような場合、点灯または点滅します。点滅した場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - システムが正常な場合、エンジンスイッチを ON にしたときに約2秒間点灯したあと消灯します。
  - システムに異常がある、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期の場合、エンジンスイッチを ON にしたときに点滅します。（アイドリングストップシステムは正しく作動しません。）

→ **3-75ページ（アイドリングストップシステムOFF表示灯）**



81M40181

アドバイス

アイドリングストップによるエンジン自動停止中に点滅すると、エンスト状態になる場合があります。

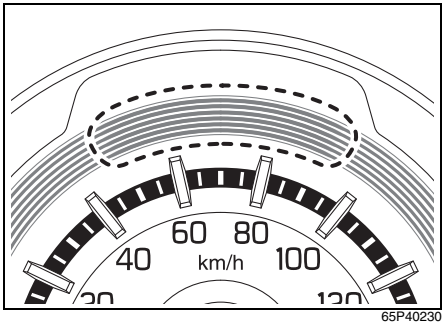
エネチャージ（減速エネルギー回生機構）

タイプ別装備

エネチャージ（減速エネルギー回生機構）は、減速時に集中して発電し、鉛バッテリーおよびリチウムイオンバッテリーに充電するシステムです。走行時の発電量を最小限に抑え、発電が不要なときは発電機（オルタネーター）を停止してエンジンへの負荷を減らすことができ、燃費の向上につながります。

■ エコドライブアシスト照明

エネチャージが機能しているときは、スピードメーターの上部が白色に点灯します。



65P40230

アドバイス

- セレクトレバーが N のときは点灯しません。
- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、点灯しなくすることもできます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

エコクール（蓄冷エバポレーター）

エアコンを使用して走行しているとき、エアコンユニット内の蓄冷材に冷気を蓄えます。蓄えられた冷気は、アイドリングストップによるエンジン自動停止中に車内に送風されるため、エアコンが作動していない状態でも車内温度の上昇を抑えます。

オートエアコン装備車の場合、車内温度の上昇が抑えられることでエンジン自動停止の時間が長くなり、燃費の向上につながります。

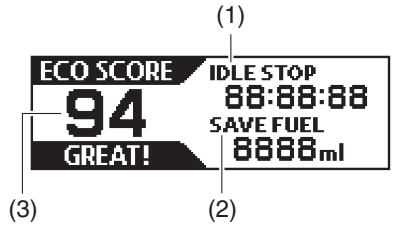
アドバイス

走行を開始して間もないときや渋滞中は、冷気が十分に蓄えられない場合があります。また、外気温やエアコンの設定状態によっては、効果に差があります。

エコ運転表示機能

エンジンスイッチを LOCK（OFF）にすると、1 回の運転に対するエコ運転の結果が、マルチインフォメーションディスプレイ内に次の図の順に数秒間ずつ表示されます。

図の値は表示例です



65P40240

(1) アイドリングストップ時間
(2) 節約燃料
(3) エコスコア（タイプ別装備）

上図が表示されている間、エコドライブアシスト照明が点灯します。（オートマチック車）

- 照明色は、エコスコアの点数により変化します。点数が高いほど、より緑色になります。

エコスコア	0 点 □□□⇨100点
照明色	青色 ■■■⇨ 緑色

→ **3-64ページ（エコドライブアシスト照明）**

- エコスコアの点数に応じて、点数下に表示されるコメントが変化します。

■ アイドリングストップ時間

1 回の運転でのアイドリングストップの合計時間が時、分、秒単位で表示されます。

■ アイドリングストップ節約燃料

1 回の運転でアイドリングストップによって節約された燃料が mL 単位で表示されます。

■ エコスコア

タイプ別装備

1 回の運転で、燃費効率が良いと判定された割合から、運転内容を採点します。

- エコドライブの目安としてお使いください。

→ **2-36ページ（エコドライブをしましょう）**

アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、表示させなくすることもできます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- アイドリングストップによる節約燃料またはアイドリングストップ時間の累計は、エンジンスイッチが ON のときにマルチインフォメーションディスプレイに表示させることができます。

→ **3-78 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**

- メーター内のエコドライブアシスト照明を緑色に変化させる走行を心がけると、高得点を得られます。（100 点満点）

→ **3-64ページ（エコドライブアシスト照明）**

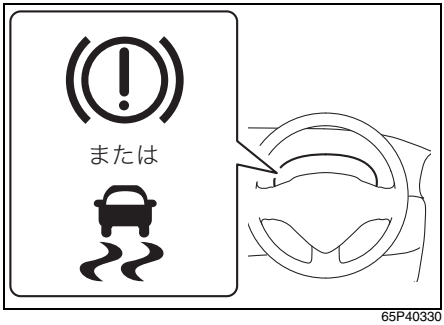
ヒルホールドコントロール

タイプ別装備

ヒルホールドコントロールは、急な上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に車が後退することを一時的に（約 2 秒間）防ぎ、スムーズな発進を補助するシステムです。

- ヒルホールドコントロールは、坂道で車を停止させるシステムではありません。
- 本システムに異常があると、メーター内の次のいずれかの警告灯が点灯し、ヒルホールドコントロールが作動しない場合があります。また、アイドリングストップシステムが作動しません。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - ブレーキシステム警告灯（オレンジ色）
  - ESP®作動表示灯（タイプ別装備）

→ **3-65ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）



65P40330

⚠ 警告

●常に周囲の状況を確認して、必要に応じてブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。ヒルホールドコントロールによる制御には限界があります。

●極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るときや、積載重量によっては、発進時に車両が後退する場合があります。

●ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行なってください。ブレーキペダルから足を離したまま 2 秒以上たつとヒルホールドコントロールが解除されるため、勾配によっては自重で坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、エンストしてブレーキを踏むときに強い力が必要になったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

■ ヒルホールドコントロールの作動条件

ヒルホールドコントロールは、次の条件をすべてみたしているときに、ブレーキペダルから足を離すと約 2 秒間、車が後退することを防ぎます。

- セレクトレバーが前進または後退の位置に入っている
- パーキングブレーキを解除している
- 進行方向が坂の上りである

アイドリングストップシステム装備車の場合、前記条件をみたしていなくても、エンジン自動停止後の再始動時ならヒルホールドコントロールが作動します。

→ **4-52ページ（アイドリングストップシステム）**

アドバイス

作動中にエンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

MEMO

5. 装備の取扱い

● **主な装備**

燃料給油口 ····· 5-2
ボンネット ····· 5-3
サンバイザー ····· 5-5
室内灯 ····· 5-7
インパネ収納スペース ····· 5-9
ドリンクホルダー ····· 5-12
そのほかの装備 ····· 5-15

● **エアコン、ヒーター**

エアコンの吹出し口 ····· 5-23
マニュアルエアコン ····· 5-24
オートエアコン ····· 5-28
リヤデフォッガースイッチ ····· 5-35
エアコンの上手な使いかた ····· 5-36

● **オーディオ**

アンテナ ····· 5-38
オーディオ機能について ····· 5-39
ステアリングオーディオスイッチ ····· 5-40
バックアイカメラ ····· 5-41

燃料給油口

2-25 ページの「**給油するときは**」もあわせてお読みください。

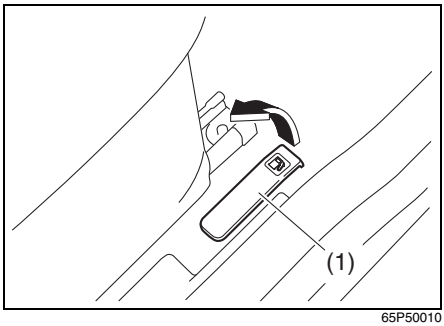
⚠警告

必ず次のことをお守りください。
●エンジンを止めてください。
●給油中はドアや窓を閉めてください。
●ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

フューエルリッド

助手席側の車両後方にあります。

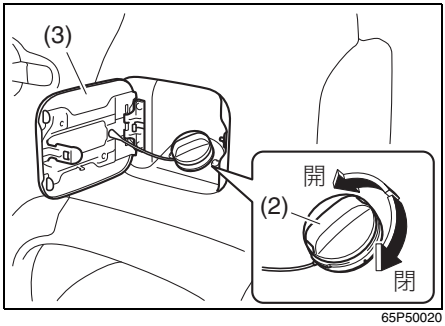
- 開けるときは、運転席足元のフューエルリッドオープナー（1）を引き上げます。
- 閉めるときは、フューエルリッドを手で押し付けます。



65P50010

フューエルキャップ

- 開けるときは、ゆっくり反時計方向にまわします。
- 閉めるときは時計方向にまわし、カチッという音が２回以上するまで締めます。



65P50020

(2) フューエルキャップ
(3) フューエルリッド

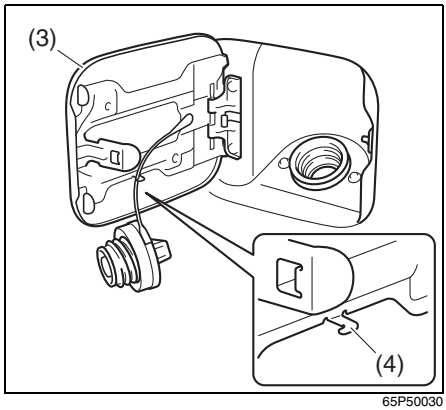
⚠警告

●フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
●燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
●給油後は、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
●指定のスズキ純正フューエルキャップ以外は使用しないでください。燃料漏れのおそれがあります。

キャップホルダー

フューエルリッド(3)の裏側にあります。

- 給油中は、外したキャップが車体に当たらないように、ひもの部分をかけてください。



65P50030

(4) キャップホルダー

ボンネット

⚠警告

●お子さまにはボンネットを開閉させないでください。ボンネットは重いため、けがのおそれがあります。また、エンジンルーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。
●ボンネットを開けているときは、お子さまを近づけないでください。
●点検や清掃に使用した工具や布などは、エンジンルーム内に置き忘れないでください。故障の原因となったり、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。

⚠注意

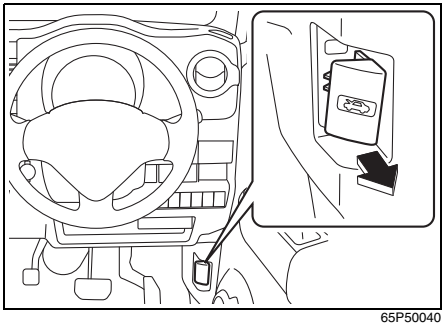
動いているドライブベルトや冷却ファンに近づかないでください、手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

アドバイス

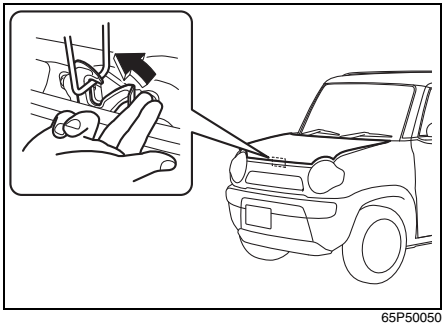
レーザーレーダー装備車は、エンジンスイッチの位置が ON のときに、ボンネットを開けていると、レーザーレーダーがボンネットに反応して、メーター内のブレーキシステム警告灯（オレンジ色）およびRBS OFF表示灯が点灯する場合がありますが、異常ではありません。

開けかた

1 運転席足元のボンネットオープナーを引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。


65P50040

2 浮き上がったボンネットのすきまに手を入れ、ロックレバーを左側へ押し付けながら、ボンネットを持ち上げます。



65P50050

⚠注意

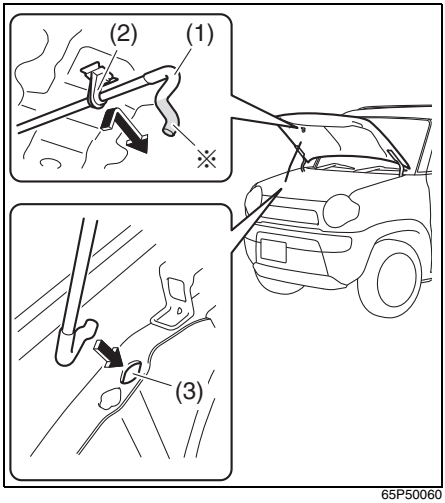
エンジン回転中や停止直後は、ロックレバーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ロックレバーを操作する前に確認してください。

注 記

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。ワイパーアームやボンネットが傷つくおそれがあります。

3 ボンネットを固定します。

- ボンネット側にあるステー（1）をホルダー（2）から外し、車体側の固定穴（3）に差し込みます。



65P50060

⚠注意

- **エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ステーを持つ前に確認してください。**
- **ステーは固定穴に確実に差し込んでください。ステーが外れると、ボンネットに身体がはさまれることがあります。**
- **ボンネットが風にあおられて、ステーが外れることがあります。とくに風の強い日は注意してください。**

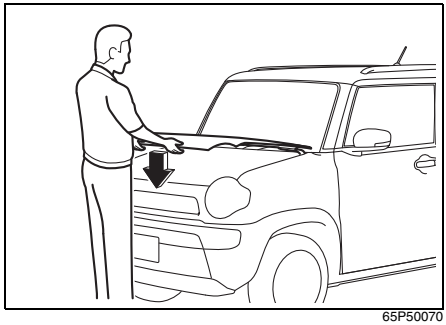
注 記

ステーをホルダーから外すときは、ステーの先端（※部）を持ってください。

閉めかた

1 ボンネットを片手でささえながら、ステーを外してもとのホルダーに固定します。

2 ボンネットを閉めます。
- ボンネットを20 cmぐらいの高さまでゆっくりと下げて、手を離します。



65P50070

⚠注意

●ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように気をつけてください。また、強く押さえると、ボンネットがへこむおそれがあります。
●ボンネットが完全に閉まっているか確認してください。完全に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。

サンバイザー

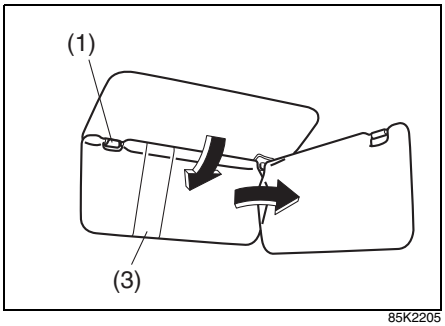
日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。

チケットホルダー

助手席側はタイプ別装備

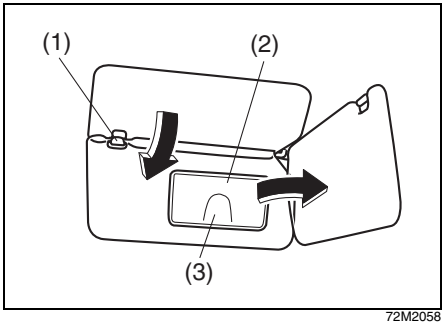
サンバイザーの裏側にあります。有料道路の通行券などがはさめます。

Aタイプ



85K2205

Bタイプ



72M2058

(1) フック
(2) ミラーカバー
(3) チケットホルダー

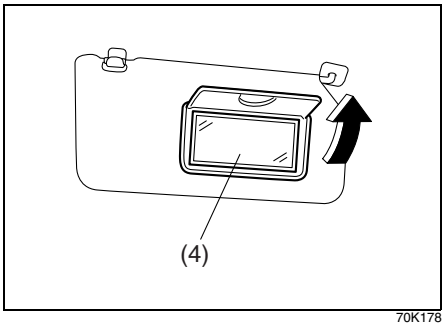
注 記

炎天下で駐車するときは、チケットホルダーなどにプラスチック素材のカードを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。
→ 2-24 ページ（ライターやメガネなどを放置しない）

バニティーミラー

タイプ別装備

ミラーカバーを開けた場所にあります。



70K178

(4) バニティーミラー

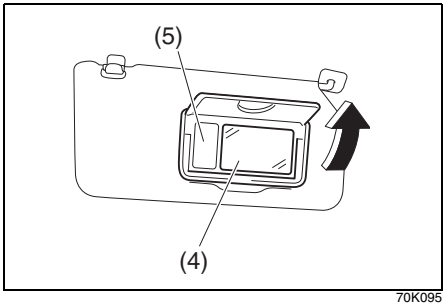
⚠ 警告

- **走行中はバニティーミラーを使用しないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **バニティーミラーを使用するときは、SRS エアバッグの収納場所に近づいたり、寄りかかったりしないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受けるおそれがあります。**

■ 照明付バニティーミラー

タイプ別装備

照明（5）は、ミラーカバーを開けている間、点灯します。



70K095

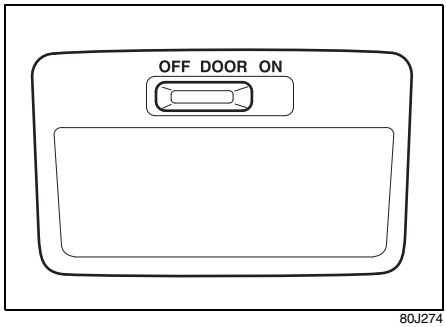
(4) バニティーミラー

注 記

エンジン停止中に、ミラーカバーを開けたまま放置しないでください。照明が点灯したままとなり、鉛バッテリーあがりの原因となります。

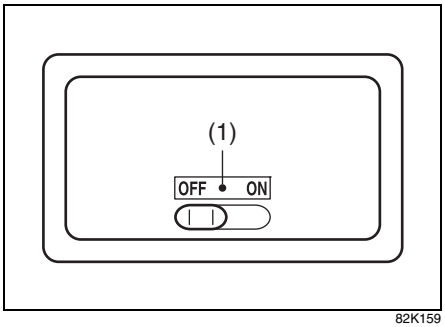
室内灯

前席室内灯



80J274

荷室室内灯



82K159

(1) DOOR位置

注記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

5

アドバイス

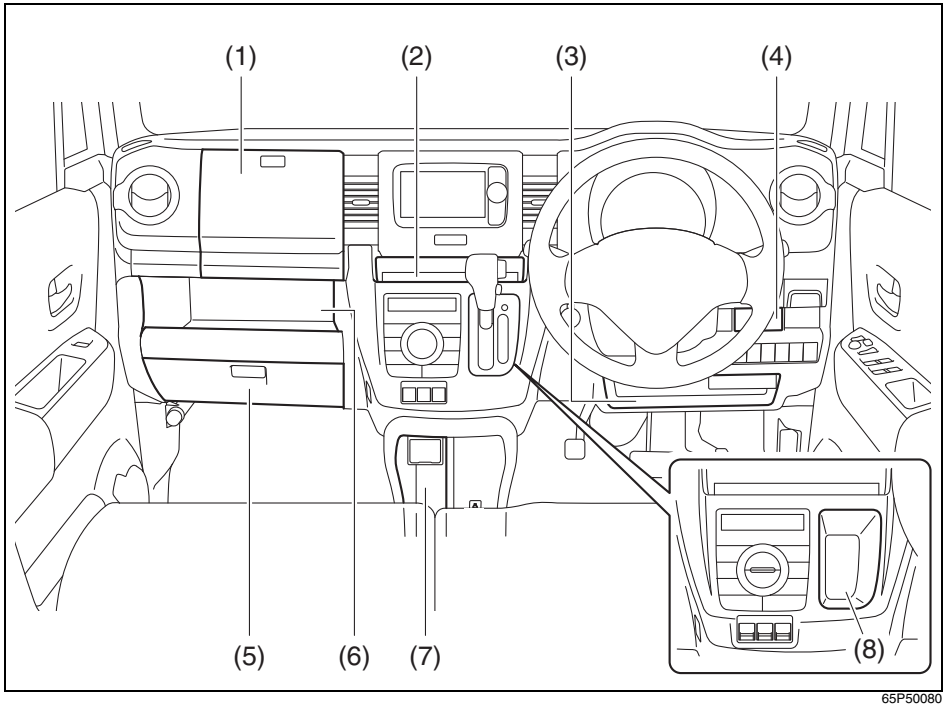
●鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、室内灯が自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）
- エンジンスイッチが LOCK (OFF)の位置で、キーレスプッシュスタートシステム非装備車はキーを差していない
- 室内灯スイッチがDOOR位置
- 点灯したまま15分が経過

●室内灯スイッチがDOOR位置のときに、キーレスエントリーまたはキーレスプッシュスタートシステム装備車のリクエストスイッチを作動させると、室内灯が点灯または点滅します。
→ **3-6ページ（アンサーバック機能）**

スイッチの位置	キーレスプッシュスタート システム非装備車	キーレスプッシュスタート システム装備車
ON	ドアの開閉に関係なく点灯します。	
DOOR	いずれかのドアを開けると点灯します。 ●すべてのドアを閉めると約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 ●すべてのドアを閉じているときでも、キーを抜くと約 10 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 また、点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。 ●エンジンスイッチにキーを差し込む ●キーまたは運転席ドアのロックレバーによる施錠 ●キーレスエントリーによる施錠	いずれかのドアを開けると点灯します。 ●すべてのドアを閉めると約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 また、点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。 ●エンジンスイッチを ACC または ON の位置にする ●キーまたは運転席ドアのロックレバーによる施錠 ●キーレスエントリーまたはリクエストスイッチによる施錠
OFF	ドアの開閉に関係なく消灯します。	

インパネ収納スペース

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



65P50080

(1) リッド付インパネボックス
(2) センターインパネトレー
(3) インパネアンダートレー
(4) インパネポケット(運転席)
(5) グローブボックス
(6) インパネトレー
(7) センターロアポケット
（タイプ別装備）
(8) インパネセンターポケット
（タイプ別装備）

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。
- センターロアポケット（7）には、ペットボトルホルダーがあります。
  → **5-12ページ（ドリンクホルダー）**

⚠ 警告

ふたがない収納スペースの場合、走行中に転がり落ちるようなものを入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

ふた付収納スペースの場合、ふたを開けたまま走行したり、走行中にふたを開けたりしないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたに当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。

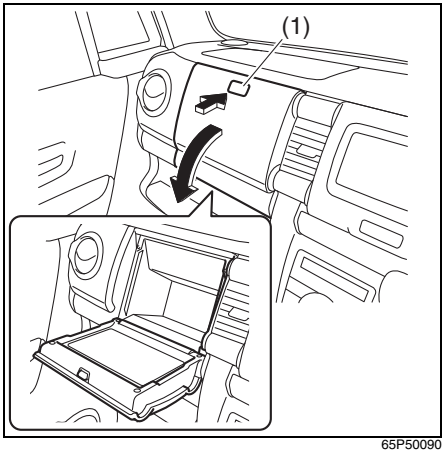
アドバイス

携帯リモコンをいずれかのインパネ収納スペースに置いた場合、検知できないことがあります。

ふた付収納スペースの取扱い

● 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ リッド付インパネボックス



65P50090

- ボタン（1）を押してふたを開けます。また、開けたふたは停車中にテーブルとして使用できます。
- 閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

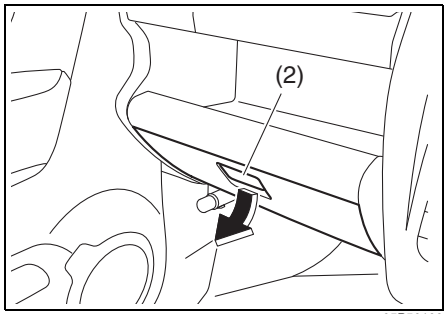
⚠注意

走行中はテーブルとして使用しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどにものが落ちて思わぬ事故につながったり、熱い飲み物がこぼれてやけどしたりするおそれがあります。

注 記

- **開けたふたに載せるものは1.5 kg以下としてください。ふたが破損するおそれがあります。**
- **炎天下で駐車するときは開けたふたの上に物を置いたままにしないでください。ふたが変形、破損するおそれがあります。**

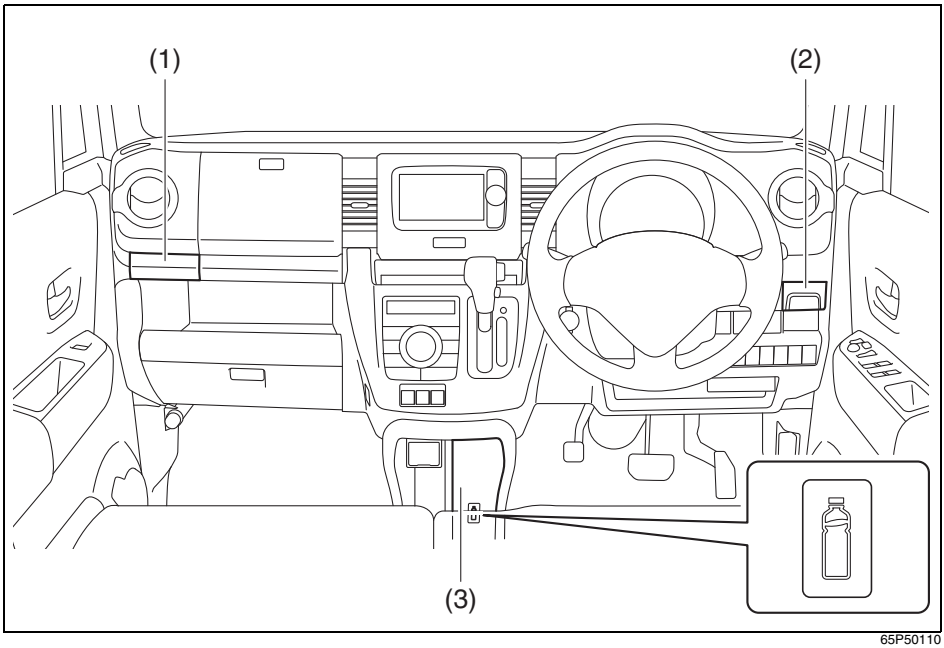
■ グローブボックス



65P50100

- レバー（2）を手前に引いてふたを開けます。
- 閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

ドリンクホルダー

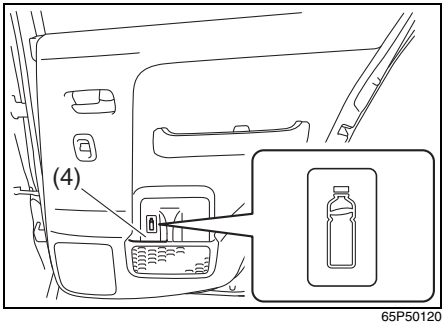


65P50110

(1) 助手席ドリンクホルダー
(2) 運転席ドリンクホルダー
(3) 前席用ペットボトルホルダー(タイプ別装備)

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

後席ドア



65P50120

(4) 後席用ペットボトルホルダー

⚠警告

●飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物が次のような部品にかかると、火災や故障の原因になったり、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。
・ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類
・フロア下の配線、電気部品やセレクトレバーなどの可動部

●運転席／助手席ドリンクホルダーに、缶ジュースやカップ以外のものを置かないでください。走行中に落ちてけがをしたり、運転のさまたげになったりするおそれがあります。

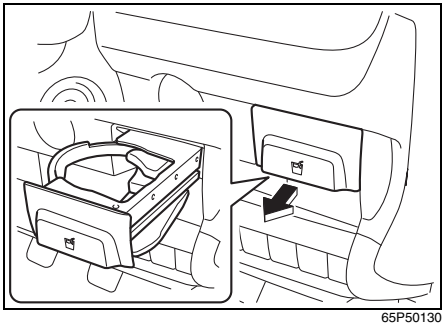
アドバイス

携帯リモコンをドリンクホルダーや、ペットボトルホルダーに置いた場合、検知できないことがあります。

格納式ドリンクホルダーの取扱い

● 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

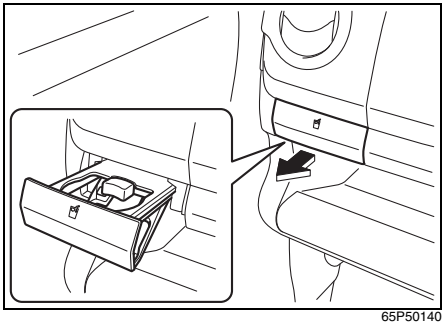
運転席ドリンクホルダー



65P50130

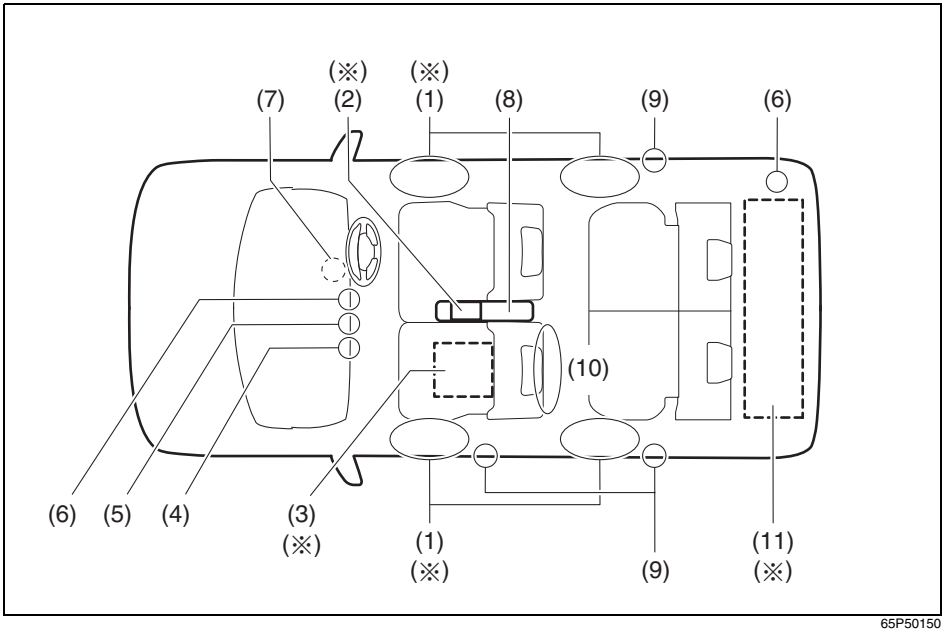
● 手前に引き出して使用します。
● 使用後は、押し込んで格納します。

助手席ドリンクホルダー



65P50140

そのほかの装備



65P50150

(1) ドアポケット(※) ····· 5-16
(2) アームレストボックス(タイプ別装備)(※) ····· 5-16
(3) シートアンダーボックス(タイプ別装備)(※) ····· 5-17
(4) ショッピングフック ····· 5-18
(5) USB/HDMI/VIDEOソケット(タイプ別装備) ····· 5-18
(6) アクセサリーソケット(荷室はタイプ別装備) ····· 5-19
(7) フットレスト ····· 5-19
(8) アームレスト(ひじ掛け)(タイプ別装備) ····· 5-20
(9) 可倒式アシストグリップ(後席はタイプ別装備) ····· 5-20
(10) 助手席シートバックテーブル(タイプ別装備) ····· 5-20
(11) ラゲッジアンダーボックス(スライド機構なし後席車)(※) ····· 5-21

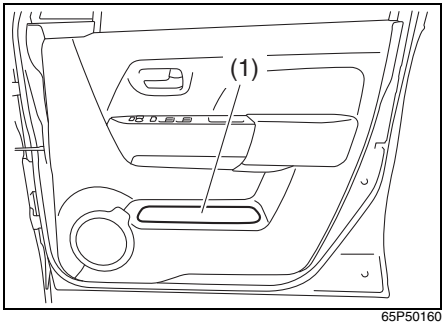
※携帯リモコンをこの場所に置いた場合、検知できないことがあります。

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

ドアポケット

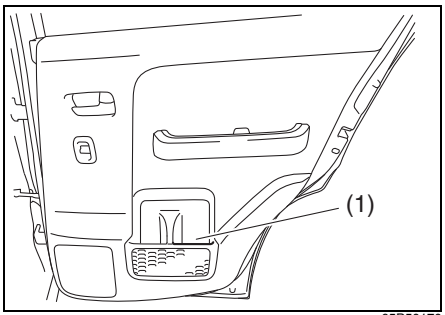
手回り品や小物などの収納にご使用ください。

前席



65P50160

後席



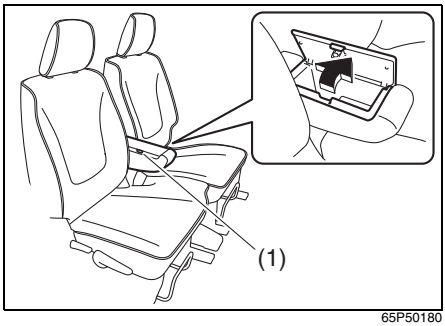
65P50170

(1) ドアポケット

アームレストボックス

タイプ別装備

- 開けるときは、ボタン（1）を押したまま、ふたを持ち上げます。
- ものを出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。



65P50180

注記

ボックスの中に重いものを入れたり、ふたを開けたままにしたりしないでください。アームレストを収納したり、運転席の背もたれを後方に倒したりしたときに、中のものが飛び出すおそれがあります。また、ふた破損の原因となります。

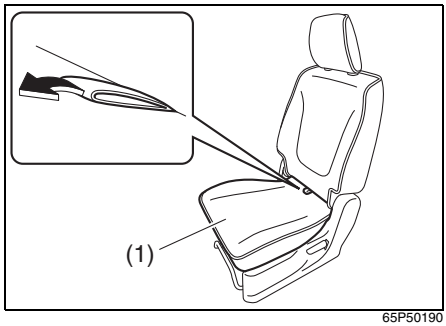
シートアンダーボックス

タイプ別装備

■ 取り出しかた

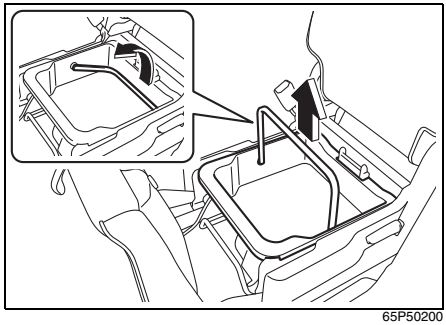
1 クッション（1）後部のバンドを引き上げて、固定を外します。

- バンドを引き上げにくいときは、背もたれを後方へ倒します。



65P50190

2 クッションを車の前方向に起こし、とっ手を持ってボックスを取り出します。



65P50200

注 記

起こしたクッションに、力を加えないでください。クッション取り付け部が損傷するおそれがあります。

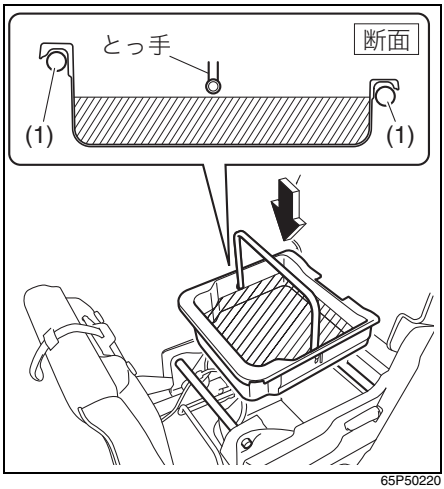
アドバイス

シートアンダーボックスの下に、リチウムイオンバッテリーがあります。（エネチャージ装備車）

→ **2-5ページ（リチウムイオンバッテリー）**

■ もとにもどすときは

1 ボックスの両端がシートのパイプ（1）にはまるように、ボックスをはめ込みます。



65P50220

注 記

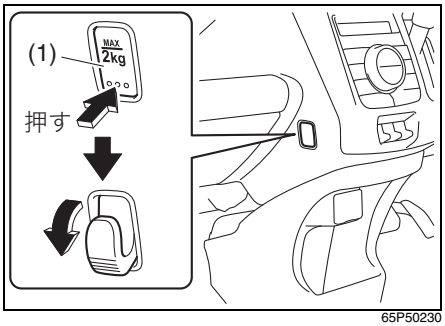
前図の斜線部分よりも上にものを入れないでください。クッションやボックス、中のものが破損するおそれがあります。

2 クッションを車の後方へ倒します。クッションは、もとの位置までもどると固定されます。

ショッピングフック

買い物袋などをひっかけるときにご使用ください。

- 使用するときは、フック（1）の下部を押しながら回転させます。
- 使用後は、反転させてフックを格納します。



65P50230

注 記

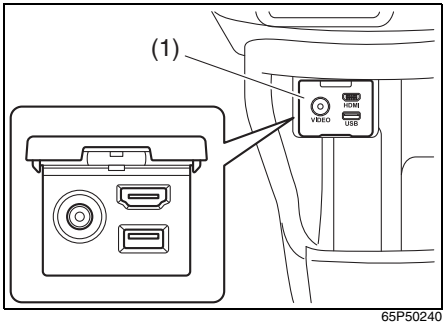
フックにかけるものは、2 kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

USB/HDMI/VIDEOソケット

タイプ別装備

ふた（1）を開けると、接続ケーブル（別売り）を使用してUSB機器、iPod、スマートフォンが接続できます。

- スマートフォン連携ナビゲーション本体で、iPod・スマートフォンアプリの操作が可能です。操作については別冊のオーディオマニュアルをお読みください。



65P50240

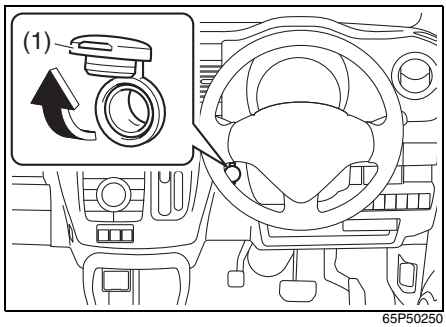
5

アクセサリーソケット

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、電気製品の電源として使用できます。使用できる電気製品の規定容量はインパネと荷室合わせて12 V10 A（120 W）以下です。

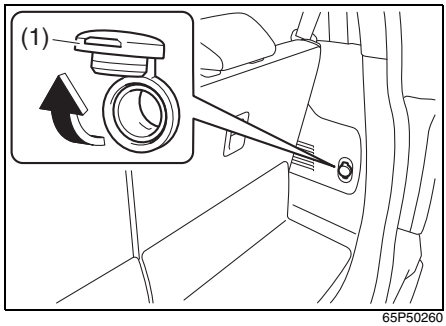
- 使用するときは、ふた（1）を開けます。

インパネ



65P50250

荷室 **タイプ別装備**



65P50260

⚠警告

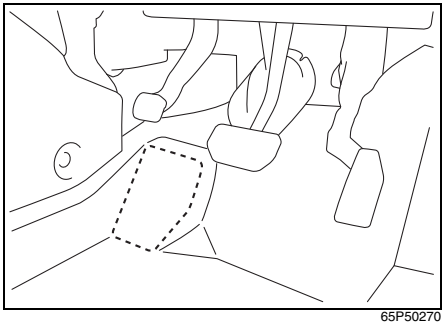
●使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。
●事故防止のため、スズキ純正用品以外の電気製品を使用しないでください。

注記

●規定容量は、インパネと荷室合わせて120 Wまでとなります。規定容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れることがあります。
●エンジン停止中に長時間使用すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

フットレスト

フロアカーペット内にあります。左足のささえとして使用します。



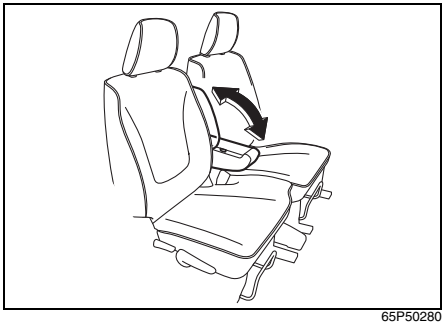
65P50270

アームレスト（ひじ掛け）

タイプ別装備

手前に倒して使用します。

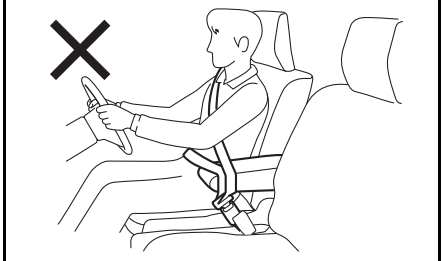
- 使用後は、持ち上げて収納します。



65P50280

⚠ 警告

シートベルトは、アームレストの下を通してください。アームレストにベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。



70K40011

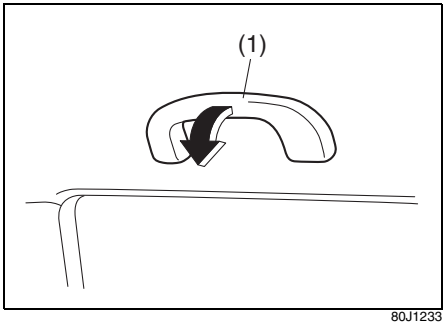
注 記

アームレストに腰をかけたり、荷物を乗せたりしないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

可倒式アシストグリップ

後席はタイプ別装備

アシストグリップ（1）を手前に倒して使用します。

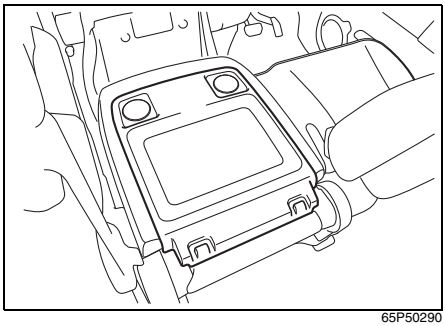


80J1233

助手席シートバックテーブル

タイプ別装備

「長い荷物を積むとき（助手席シート）」（3-37 ページ参照）を参考にして助手席の背もたれを倒すとテーブルとして使用できます。



65P50290

⚠ 警告

前方へ倒した背もたれの上に、人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに投げ出されてけがのおそれがあります。また、シートが破損する原因となります。

⚠ 注意

走行中はテーブルとして使用しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどにものが落ちて思わぬ事故につながったり、熱い飲み物がこぼれてやけどしたりするおそれがあります。

注 記

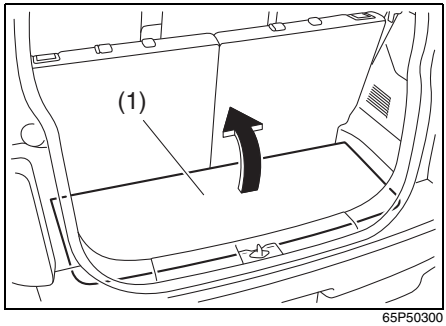
前方へ起こしたクッションに、力を加えないでください。クッション取り付け部が損傷するおそれがあります。

ラゲッジアンダーボックス

スライド機構なし後席車

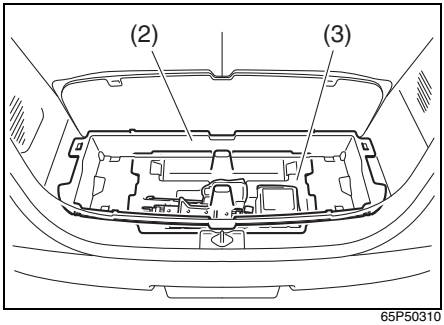
荷室のフロアボード（1）下にあります。

- ものを出し入れするときは、フロアボードを引き上げます。



65P50300

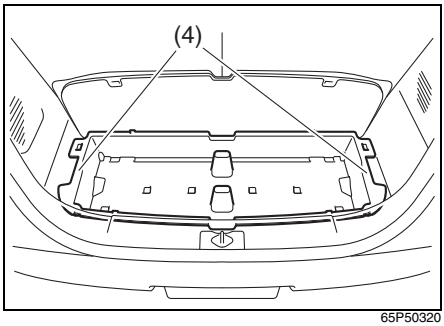
- ラゲッジアンダーボックス（2）の下には、ツールボックス（3）があります。
  → **7-2 ページ（工具、ジャッキ、タイヤパンク応急修理セットの収納場所）**



65P50310

■ 取り外しかた

ボックスのとっ手 2 か所（4）を持ち上げます。

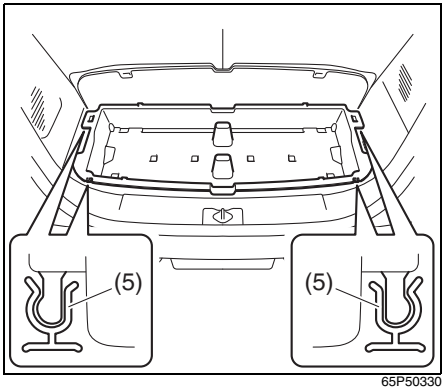


65P50320

■ 取り付けかた

ボックスを車両側クリップ４個（5）にはめこみます。

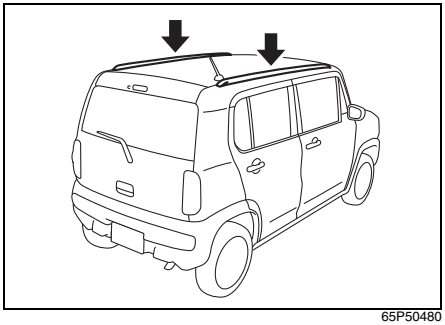
- 収納後は軽くゆすって、しっかり固定されているか確認してください。



65P50330

ルーフレール

タイプ別装備



65P50480

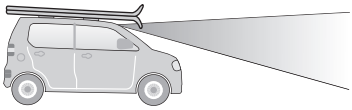
ルーフレールに別売りのベースキャリアおよびアタッチメントを装着すると、ルーフの上にスキーやサーフボードなどの荷物が積めます。

- スズキ純正のベースキャリアおよびアタッチメント（別売り）の場合、ルーフに積載できる最大重量は30 kg(ベースキャリアおよびアタッチメントの重量を含む）です。取り付けおよび使用上の注意については、ベースキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書をお読みください。

⚠注意

搭載したルーフキャリアやスキー板などの長尺物がレーダー検知範囲内にあるとき、RBS が作動する場合があります。

→ 4-41 ページ（レーダーブレーキサポート（RBS））

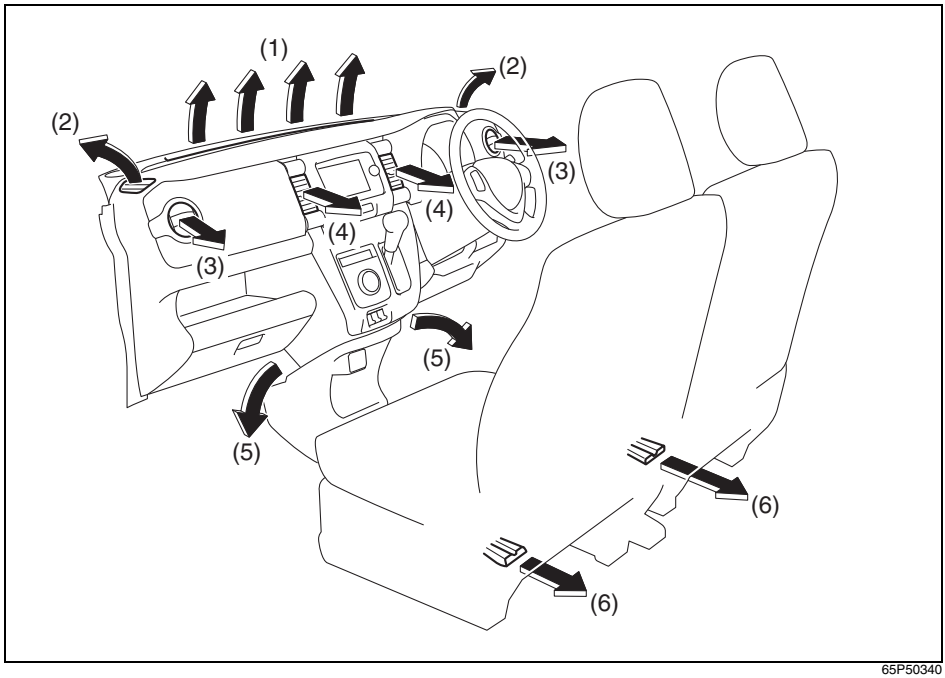


72M20423

注 記

ルーフパネルの上に荷物を直接積まないでください。パネルが損傷するおそれがあります。

エアコンの吹出し口

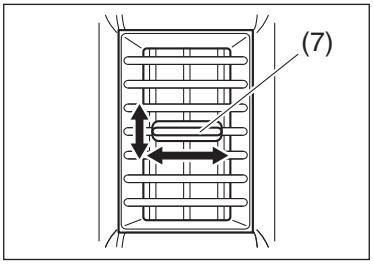


65P50340

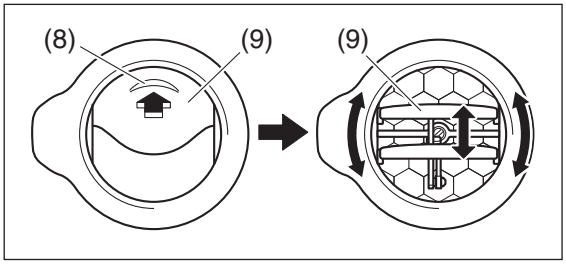
(1) デフロスター
(2) サイドデミスター
(3) サイド吹出し口
(4) 中央吹出し口
(5) 足元吹出し口
(6) 後席足元吹出し口(リヤヒーターダクト)（タイプ別装備）

- 中央吹出し口（4）は、ノブ（7）を上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。
- サイド吹出し口（3）は、凹部（8）を押して開いたルーバー（9）を、上下または回転させると風の向きが調節できます。また、サイド吹出し口は開閉ができます。

中央吹出し口



サイド吹出し口

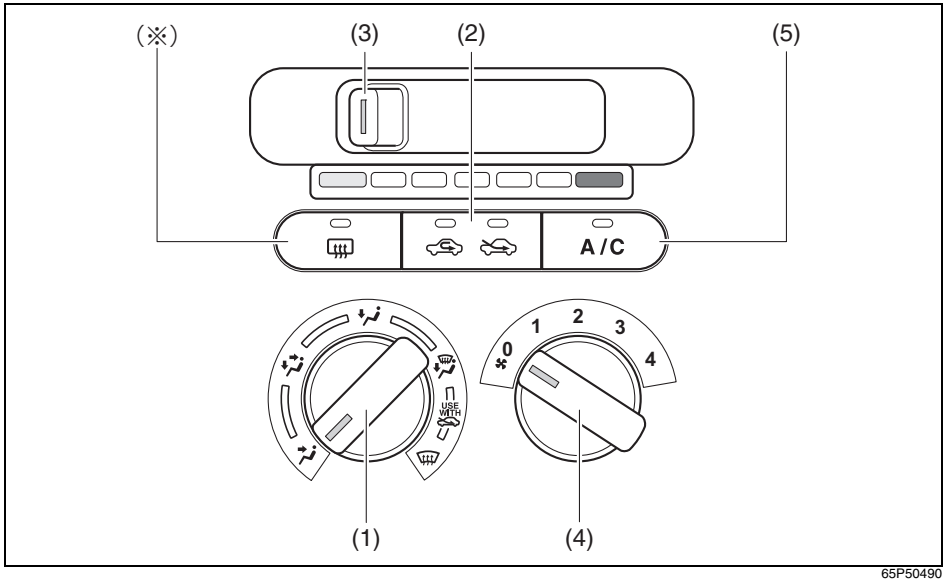


65P50350

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

マニュアルエアコン



65P50490

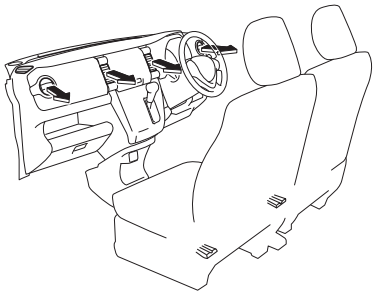
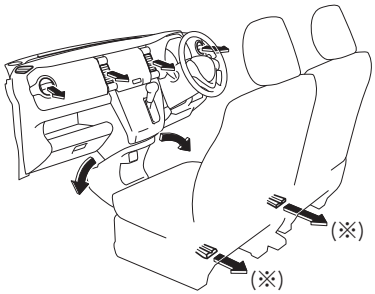
(1) 吹出し口切替えダイヤル
(2) 内外気切替えスイッチ
(3) 温度調節レバー
(4) ファン(風量)調節ダイヤル
(5) エアコンスイッチ

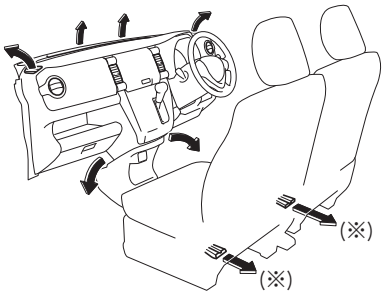
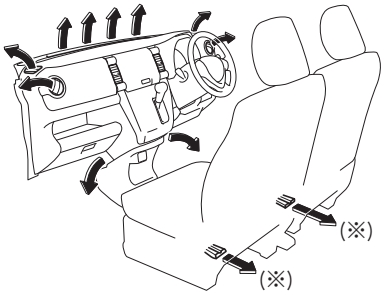
※リヤデフォッガースイッチについては、**5-35ページ**をお読みください。

各ダイヤル、スイッチ、レバーの使いかた

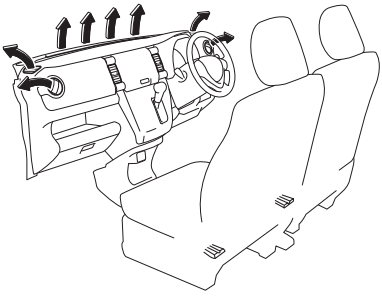
■ 吹出し口切替えダイヤル

使用目的にあわせて、吹き出し口切替えダイヤルを左右にまわして切り替えます。

目的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
ダイヤル		
吹出し口	 65P50360	 65P50370

目的	足元に送風したいとき	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき
ダイヤル		
吹出し口	 65P50380	 65P50390

※後席足元吹出し口（リヤヒーターダクト）はタイプ別装備です。

目的	窓ガラスのくもりを取りたいとき	アドバイス
ダイヤル		
吹出し口		このマークは、窓ガラスのくもりを早く取るためのアドバイスです。 吹出し口切替えダイヤルを または にして内外気切替えスイッチを外気導入にすると、内気循環にくらべて窓ガラスのくもりが早く取れます。

5

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接あたるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

■ 内外気切替えスイッチ

内外気切替えスイッチを押すごとに、内気循環と外気導入が交互に切り替わり、スイッチ内の表示灯が点灯します。

表　示	状　態
点灯 (外気導入)	外気を導入しています。 ● 通常はこの位置でお使いください。
点灯 (内気循環)	外気をしゃ断しています。 ● トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

アドバイス

- 長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。
- エアコンシステムへの不快な臭いの吸着・発生を抑えるために、長時間駐車するときは「外気導入」にしておくことをおすすめします。

■ 温度調節レバー

温度調節レバーを右に操作すると、温度が高くなります。左に操作すると、温度が低くなります。

頭寒足熱暖房

吹出し口切替えダイヤルの位置が のときに、温度調節レバーを中間の位置に操作すると、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風を吹き出します。
- エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

■ ファン（風量）調節ダイヤル

ファン（風量）調節ダイヤルをまわすと、風量が調節できます。

ダイヤル位置	0	1 2 3 4
風量	停止	弱⟷強

注 記

長時間の停車や渋滞では、鉛バッテリー保護のため風量を弱くしてください。

■ エアコンスイッチ

エンジンをかけ、ファン（風量）調節ダイヤルを停止の位置から時計方向にまわし、エアコンスイッチを押します。除湿された風が吹き出すとともに、スイッチ内の表示灯が点灯します。
止めるときは、スイッチをもう一度押します。

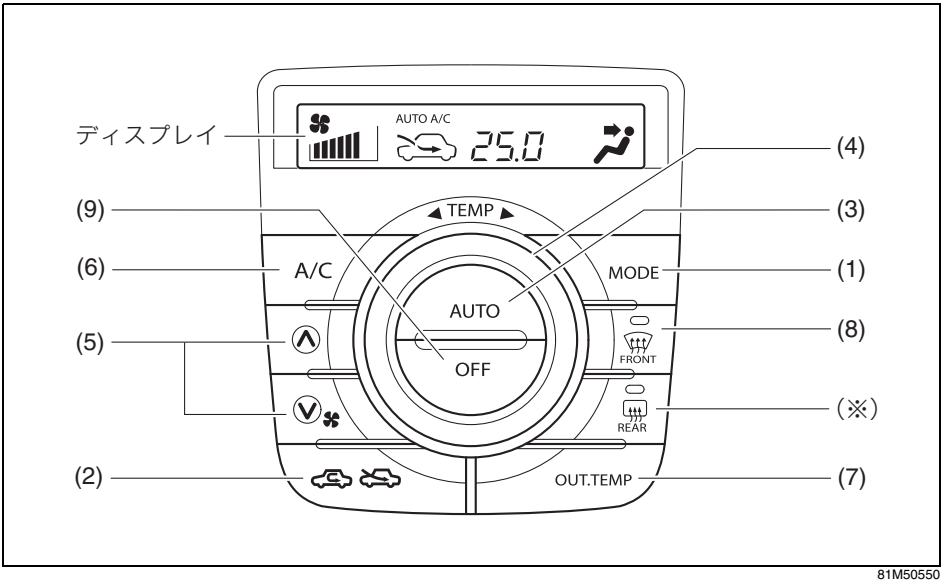
除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、ここち良い暖房になります。

アドバイス

- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が0℃近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温が0℃近くまで下がっているときに外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これはしめった空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

オートエアコン



81M50550

(1) モード(吹出し口)切替えスイッチ
(2) 内外気切替えスイッチ
(3) オートスイッチ
(4) 温度調節ダイヤル
(5) ファン(風量)調節スイッチ
(6) エアコンスイッチ
(7) 外気温表示スイッチ
(8) デフロスタースイッチ
(9) OFFスイッチ

※リヤデフォッガースイッチについては、**5-35ページ**をお読みください。

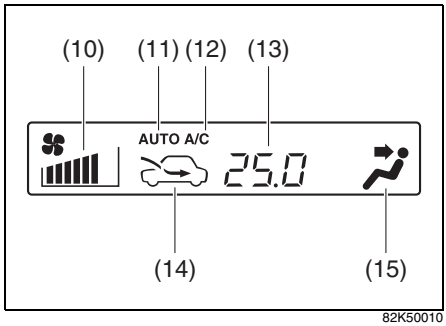
オートエアコンの使いかた

■ 通常の使いかた（自動で使うとき）

オートスイッチ（3）を押して温度調節ダイヤル（4）で希望の温度を設定すると、各機能が自動制御されます。ただし、デフロスター位置へは自動で切り替わりません。

→ **5-32ページ（オートスイッチ）**

1 エンジンをかけ、オートスイッチ（3）を押します。ディスプレイに次のように表示（代表例）されます。



82K50010

(10)風量　　(13)設定温度
(11)**AUTO**表示　(14)内外気切替え表示
(12)**A/C**表示　　(15)吹出し口

- 冷房や除湿をしないときは、エアコンスイッチ（6）を押してエアコンを止めてください。エンジンへの負荷が軽減され、燃費の向上につながります。ただし、エアコンを止めると、室内温度を外気温度以下にはできません。
- フロントガラス、運転席・助手席ドアガラスがくもったときは、デフロスタースイッチを押すか、モード（吹出し口）切替えスイッチを押して「デフロスター／足元」位置へ切り替えてください。

→ **5-31ページ（モード切替えスイッチ）**
→ **5-34ページ（デフロスタースイッチ）**

2 温度調節ダイヤル（4）をまわして希望温度を設定します。設定温度はLO、18℃～32℃、HIの間で、0.5℃間隔で設定できます。

- 25℃を基準に希望の温度を設定してください。ただし、外気温によっては、希望の設定温度にならないことがあります。

3 作動を停止するときは、OFFスイッチ（9）を押します。

アドバイス

- エンジンを停止しても設定温度を記憶しています。
- AUTO作動中に、ファン（風量）調節スイッチ（5）、モード（吹出し口）切替えスイッチ（1）のいずれかを操作すると、操作したスイッチの機能が優先されて**AUTO**表示が消えます。ただし、操作したスイッチ以外は自動制御となります。
- AUTO作動中にデフロスタースイッチ（8）を押すと、**AUTO**表示が消えて風量が増加し、外気導入となってエアコンが作動します。ただし外気温が低いと、エアコンが作動しないこともあります。
- 外気温が低くエンジンが冷えているときや、外気温が高いときは、冷風や熱風が吹き出すのを防ぐため、しばらくの間、風が少量しか吹き出さないことがあります。
- エンジンスイッチが ON のときに、ディスプレイの **AUTO** 表示が点滅したときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

■ 手動で使うとき

好みにあわせてスイッチを操作してください。

- AUTO 作動中でも、操作したスイッチの機能が優先され、操作したスイッチ以外は自動制御されます。
- すべての作動を AUTO にもどすときは、オートスイッチ（3）を押します。
- 止めるときは、OFFスイッチ（9）を押します。

■ アイドリングストップ中

エンジン自動停止中は送風に切り替わり、エコクールで蓄えた冷気を車内に送ります。

→ **4-64ページ（エコクール）**

アドバイス

- 走行を開始して間もないときや渋滞中は、冷気が十分に蓄えられない場合があります。また、外気温やエアコンの設定状態によっては、効果に差があります。
- エンジン自動停止により、冷暖房性能が十分でなくなった場合は、アイドリングストップシステム OFF スイッチを押して、アイドリングストップシステムを停止状態にしてください。（エンジンが自動再始動し、冷暖房性能が復帰します。）

→ **4-63 ページ（アイドリングストップシステムOFFスイッチ）**

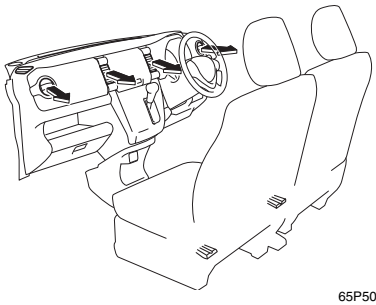
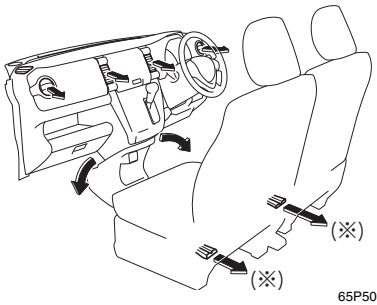
- エンジン自動停止中にフロントガラス、運転席・助手席ドアガラスがくもったときは、デフロスタースイッチを押してください。（デフロスタースイッチを押すとエンジンが自動再始動し、デフロスターが作動します。）

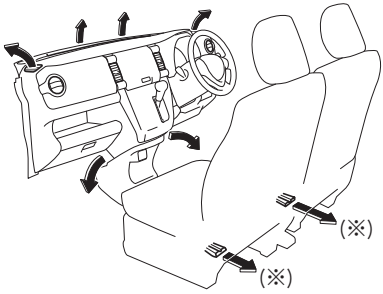
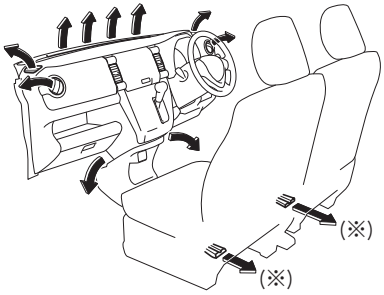
→ **4-52 ページ（アイドリングストップシステム）**
→ **5-34ページ（デフロスタースイッチ）**

各スイッチ、ダイヤルの使いかた

■ モード（吹出し口）切替えスイッチ

モード（吹出し口）切替えスイッチを押すごとに吹出し口が切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

目的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
表示		
吹出し口	 65P50360	 65P50370

目的	足元に送風したいとき	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示		
吹出し口	 65P50380	 65P50390

※後席足元吹出し口（リヤヒーターダクト）はタイプ別装備です。

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

■ 内外気切替えスイッチ

内外気切替えスイッチを押すごとに、内気循環と外気導入が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

表示	状態
(外気導入)	外気を導入しています。 ●通常はこの位置でお使いください。
(内気循環)	外気をしゃ断しています。 ●トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

アドバイス

- 長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。
- 外気と内気の温度差により、外気導入、内気循環のどちらかに固定される場合があります。必要に応じて、内外気切替えスイッチを押して切り替えてください。
- エアコンシステムへの不快な臭いの吸着・発生を抑えるために、長時間駐車するときは「外気導入」にしておくことをおすすめします。

■ オートスイッチ

オートスイッチを押すと、ディスプレイに **AUTO A/C** が表示され、次の機能が自動制御されます。

- 吹出し風量の調節
- 吹出し口の切替え
- 内気循環／外気導入の切替え

内気循環／外気導入の自動制御

手動で内気循環を選択しているときは、オートスイッチを押しても内気循環はそのままで自動制御されません。内気循環／外気導入の切替えを自動制御にもどすには、次のようにします。

1. 内外気切替えスイッチ（2）、またはデフロスタースイッチ（8）を押して外気導入に切り替えます。
2. オートスイッチを押します。

頭寒足熱暖房

AUTO 作動中、吹出し口切替え表示が のときに、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風が吹き出します。
- エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

■ 温度調節ダイヤル

温度調節ダイヤルをまわすと、LO、18℃～ 32 ℃、HI の間で設定温度を変更できます。設定温度はディスプレイに表示されます。

- ダイヤルを18℃から反時計方向にまわすと、ディスプレイに **LO** が表示され、最大冷房になります。また、ダイヤルを 32℃から時計方向にまわすと、ディスプレイに **HI** が表示され、最大暖房になります。

アドバイス

LO または **HI** が表示されているときは、急に風量が最大となったり、急に吹出し温度が変化したりする場合がありますが、異常ではありません。

■ ファン（風量）調節スイッチ

ファン（風量）調節スイッチを押すと、風量が調節できます。風量はディスプレイに表示されます。

- 風量を大きくするときは ∧（凸部）、風量を小さくするときは ∨（凹部）を押します。
- 連続調節するときは、長押しします。
- ファンを停止するときは、OFF スイッチ（9）を押します。

■ エアコンスイッチ

ファン作動中に使用できます。

- エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房・除湿機能）の作動と停止が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、ここち良い暖房になります。

アドバイス

- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が0℃近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温度が0℃近くまで下がっているとき外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これはしめった空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

■ 外気温表示スイッチ

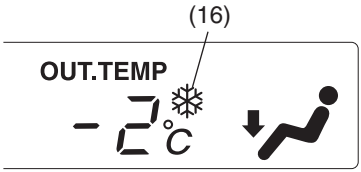
外気温表示スイッチを押すと、ディスプレイに約 5 秒間、外気温度が表示されます。

表示中にもう一度押すと、表示が消えます。

- 外気温が氷点下近くになると、フリーズマーク（雪の結晶マーク）が点灯します。路面が凍結しているおそれがありますので、とくに慎重に運転してください。

→ **6-15ページ**
（雪道を走行するとき）

図の値は表示例です



72M20512

(16)フリーズマーク

⚠注意

フリーズマークの点灯は目安です。気象状況によっては、フリーズマークが点灯しなくても路面が凍結している場合があります。注意して走行してください。

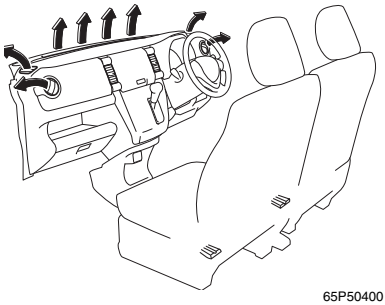
アドバイス

- 外気温はセンサー取り付け部の温度を表示していますので、実際の外気温と異なる場合があります。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - 停車時または低速走行時
  - 外気温が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入口付近など）
- フリーズマークは、外気温を表示していないときにも点灯します。

■ デフロスタースイッチ

デフロスタースイッチを押すと、自動的にエアコンが作動し、吹出し口が切り替わります。同時にスイッチ内の表示灯が点灯し、ディスプレイの表示も切り替わります。
もう一度押すと、デフロスタースイッチを押す前の制御にもどります。（オート制御の場合、吹出し口や内外気、風量の状態が変わることがあります）

- 内気循環になっているときは、外気導入に切り替わります。
- 風量が自動的に増加します。ファン（風量）調節スイッチを操作して、好みの風量にも調節できます。
- エアコンが必要ないときは、エアコンスイッチを押して停止してください。

目的	窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示	
吹出し口	 65P50400

アドバイス

- 内気循環に切り替えると、くもりが取れにくくなります。
- 設定温度を低くすると、窓ガラスの外側に露がつくことがあります。
- 設定温度を高くすると、早くくもりが取れます。
- 外気温が低いときは、エアコンが作動しないこともあります。
- スイッチ内の表示灯は吹出し口がデフロスター位置にあると、ファンやエアコンを停止させた状態でも点灯します。
- 運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

■ OFFスイッチ

OFF スイッチを押すと、ファンが停止してエアコンも止まります。

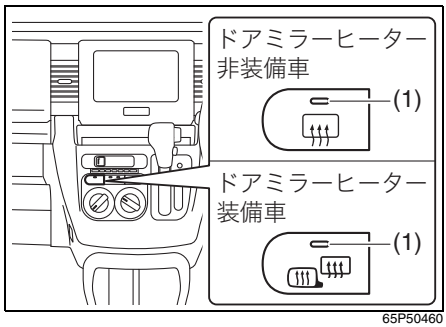
リヤデフォッガースイッチ

エンジン回転中、またはアイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中に使用でき、バックドアガラスの内側のくもりを取ります。
ドアミラーヒーター装備車では、同時にドアミラーも暖められ、ミラーについたくもりを取ります。

→ **4-52ページ**
（アイドリングストップシステム）
→ **3-29ページ**
（ドアミラーヒータースイッチ）

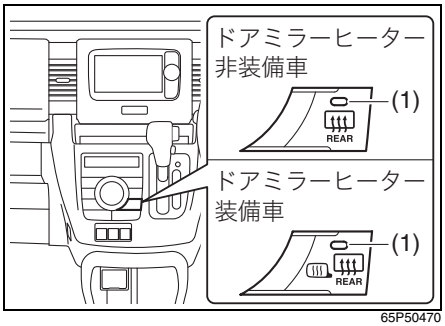
- スイッチを押すとバックドアガラスが暖められて、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すとスイッチが切れます。
- 約 15 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。
- 使用中にエンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。

マニュアルエアコン装備車



65P50460

オートエアコン装備車



65P50470

注記

●鉛バッテリー保護のため、くもりが取れたらすみやかにスイッチを切ってください。また、雪を溶かしたり、雨水を乾燥させたりする目的で使用しないでください。
●バックドアガラスの室内側をふくときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布で熱線に沿ってふいてください。

アドバイス

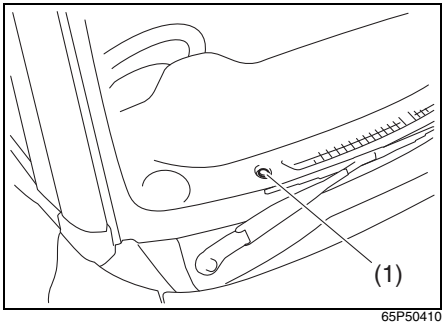
エンジン停止中はスイッチが入りません。（アイドリングストップシステム装備車のエンジンの自動停止中を除く）

エアコンの上手な使いかた

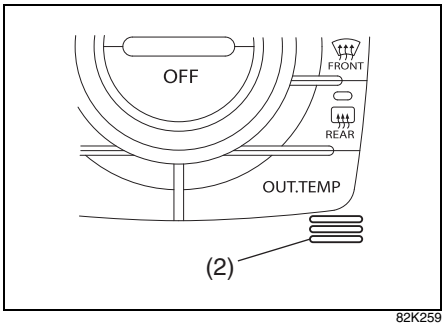
温度感知装置

オートエアコンは、日射センサー（1）、室温センサー（2）、外気温センサーなどによって周囲の状況を感知し、自動制御しています。

インパネ運転席側



65P50410



82K259

アドバイス

日射センサーの上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。また、室温センサーにシールなどを貼って、ふさがないでください。センサー感度が低下し、正常に自動制御されなくなります。

エアコンガスを充填するときは

エアコンガスは、必ず冷媒HFC134a（R134a）を使用してください。

- エアコンガスを充填するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 地球環境を守るため、エアコンガスを大気中に放出しないでください。エアコンの修理や廃車時の処理は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

長期間使用しないときは

月に１回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にエアコンガスを循環させてください。エアコンガスには各部の潤滑に必要なオイルが含まれていますので油ぎれを防ぐことにより性能を維持します。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

エアフィルターを清掃、交換するときは

エアコンを快適に使用するために、エアフィルターを取り付けています。エアフィルターは定期的に清掃、交換してください。

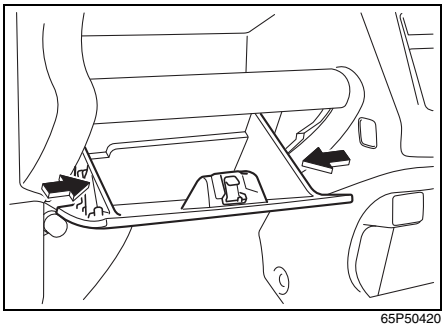
地域	清掃時期の目安	交換時期の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	5,000 kmごと、または6か月ごと	車検ごと
上記以外の地域	10,000 kmごと、または12か月ごと	車検ごと

アドバイス

- エアフィルターを清掃または交換の際は、車内部品を破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での清掃／交換（有料）をおすすめします。
- 新しいエアフィルターはスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

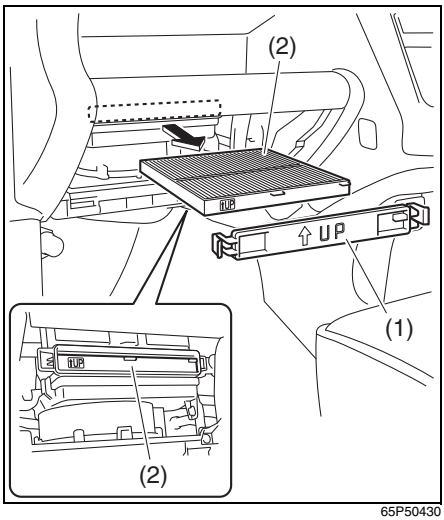
■ エアフィルターの取り外し

1 グローブボックスの側面を矢印の方向に押し込み、取り外します。



65P50420

2 ホルダー（1）を外し、エアフィルター（2）を取り出します。

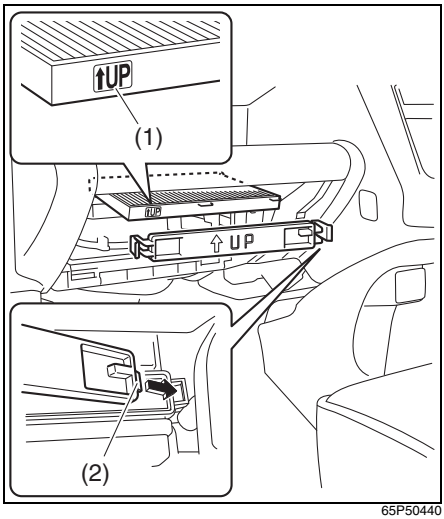


65P50430

■ エアフィルターの取り付け

1 エアフィルターは、取り付け方向マーク（1）の矢印を上向きにして挿入します。

2 ホルダー右側のツメ（2）をケース側にひっかけます。



65P50440

アンテナ

アドバイス

- アンテナで受信できるラジオやワンセグテレビ（タイプ別装備）の電波は使用環境により変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。
- スマートフォン連携ナビゲーション装備車のアンテナは、ワンセグテレビに対応した専用アンテナです。

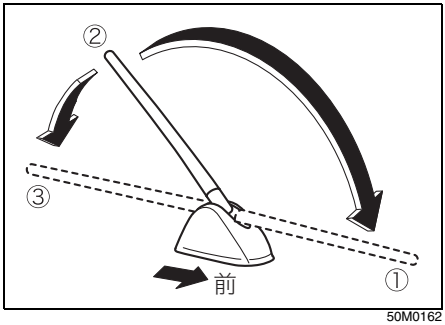
ルーフアンテナ

車両後部の運転席側にあります。

■ アンテナの調節

アンテナの位置は 3 段階（①、②、③）に調節できます。

- 調節は手でアンテナを動かして行ないます。
- ラジオやワンセグテレビを視聴するときは、アンテナを②の位置に固定してください。
  アンテナが①または③の位置に倒れていると、ラジオやワンセグテレビの受信が正常にできないことがあります。



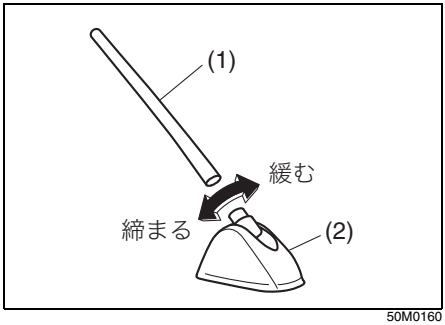
50M0162

注 記

車庫の天井などにアンテナが当たるときは、手でアンテナを①または③の位置に倒してください。

■ アンテナの脱着

- 取り外すときはアンテナ（1）を反時計方向にまわします。
- 再び取り付けるときは手でアンテナをベース部（2）にねじ込み、しっかりと取り付けてください。



50M0160

注 記

次のようなときには、アンテナを取り外してください。アンテナを損傷するおそれがあります。
●自動洗車機にかけるとき
●ボディカバーをかけるとき
●降雪時に長時間駐車するとき

オーディオ機能について

安全運転のさまたげにならない音量でお聞きください

- 音楽などを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用すると、スピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。これは故障ではありません。
- ナビゲーションまたはオーディオが不法電波の影響を受けると、正常に作動しないことがあります。
- ナビゲーションまたはオーディオの機能については、別冊のオーディオマニュアルをお読みください。

⚠警告

走行中はナビゲーション、またはオーディオを操作しないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

注 記

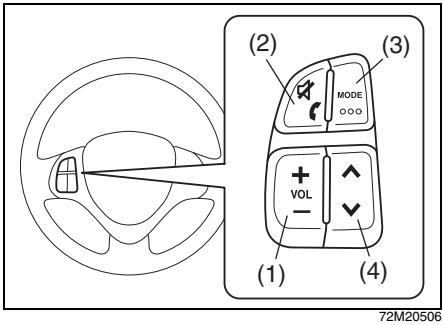
エンジンを停止したまま長時間ナビゲーション、またはオーディオを使うと、鉛バッテリーあがりの原因となります。

ステアリング オーディオスイッチ

タイプ別装備

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、手元でスマートフォン連携ナビゲーションの操作ができます。

- スマートフォン連携ナビゲーションによる操作については、別冊のオーディオマニュアルをお読みください。



72M20506

(1) 音量調節スイッチ
(2) ミュート/ハンズフリースイッチ
(3) モードスイッチ
(4) 選局(選曲)スイッチ

アドバイス

スマートフォン連携ナビゲーション以外のオーディオ、またはナビゲーションを装着した場合、ステアリングオーディオスイッチの機能は、実際の機能と異なる場合があります。

音量調節スイッチ

音量が調節できます。

- 大きくするときは+側を押します
- 小さくするときは−側を押します
- 連続調節するときは、+または−側を長押しします

ミュート／ハンズフリースイッチ

お使いの機器によって、次の表のように操作ができます。

使用モード	スイッチ操作
ラジオ	消音／消音解除
音楽再生（※）	音楽の消音／消音解除
テレビ	テレビの消音／消音解除

※USB/microSDカード/Bluetooth/AUXなどを使用

■ ハンズフリースイッチ

ハンズフリー機能については、別冊のオーディオマニュアルをご覧ください。

モードスイッチ

モードスイッチを短押しするたびに、モード（ラジオやオーディオなど）が切り替わります。また、長押しすることでナビゲーション画面とオーディオ画面を切り替えることができます。

選局（選曲）スイッチ

次の表のようにスマートフォン連携ナビゲーションの操作ができます。

使用モード	スイッチの短押し	スイッチの長押し
チューナー/ワンセグ	プリセットチャンネルのアップ/ダウン	自動選局（SEEK）
micro SDカード/USB/iPod/Bluetooth	トラック(チャプター)のアップ/ダウン	早送り/早戻し
交通情報	1620 kHz/1629 kHzの切り替え	—
AUX	—	

※プリセットメモリー（放送局のメモリー）については、別冊のオーディオマニュアルをお読みください。

アドバイス

受信電波が弱いところでは、自動選局ができないことがあります。自動選局を取り消したいときは、選局スイッチをもう一度押してください。

バックアイカメラ

タイプ別装備

別冊のオーディオマニュアルもあわせてお読みください。

- エンジンスイッチが ON のときに、セレクトレバーを R に入れると、自動的に車両後方の映像がスマートフォン連携ナビゲーションのバックモニター画面に映し出されます。
- バックアイカメラは運転者の注意義務を軽減するものではありません。運転の補助としてご使用ください。
- 画面上に表示される台形状の距離・車幅ガイドラインは目安であり、実際の距離間隔・車幅間隔とは異なる場合があります。
  - 距離ガイドラインは車両後端より約0.5 mおよび約2.0 m、車幅ガイドラインは車両側面より約0.2 m を目安として表示しています。
  - ガイドラインを参考にして駐車する場合は、あらかじめ使用環境に応じた調整が必要です。
    ガイドラインの調整、表示 / 非表示の切替えについては別冊のオーディオマニュアルをお読みください。

⚠警告

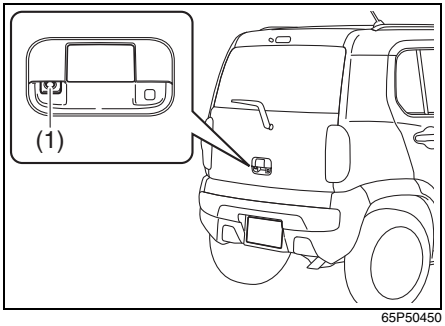
画面に映し出す範囲には限界があります。後方および周囲の安全は、直接目視やミラーで確認しながら、ゆっくりと運転してください。画面だけを見て後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

エンジン停止中に、長時間使用しないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

バックアイカメラの位置

バックドアハンドルの横にあります。



65P50450

(1) バックアイカメラ

- ワックスをかけるときは、カメラに付着しないよう気をつけてください。
  → **5-44 ページ（バックアイカメラの映像の映りが悪い）**

⚠ 警告

●高圧洗浄機を使うときは、カメラ周辺部にノズルを向けないでください。カメラに水が入るなどして、火災や故障、結露などの原因となります。
●カメラは精密機械ですので、強い衝撃をあたえないでください。また、カメラに付着して固まった泥や凍り付いた雪などは、棒などで突くなどして落とさないでください。破損して火災や故障の原因となります。

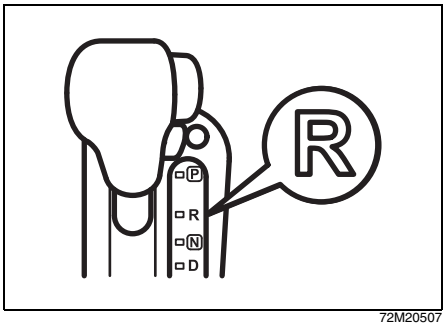
注 記

●カメラをふくときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用しないでください。変色などの原因となります。
●カメラのレンズは傷がつきにくいようハードコート仕様になっていますが、傷つきには十分気をつけてください。洗車ブラシなどは使用しないでください。バックアイカメラの映像が見づらくなる場合があります。

バックアイカメラの使いかた

1 エンジンスイッチを ON にします。
→ **4-9ページ（エンジンのかけかた）**

2 セレクトレバーを R に入れます。
- 自動的に車両後方の映像が画面に映し出されます。
- セレクトレバーを R 以外にすると、もとの表示画面にもどります。
  → **4-16ページ（セレクトレバーの操作）**



72M20507

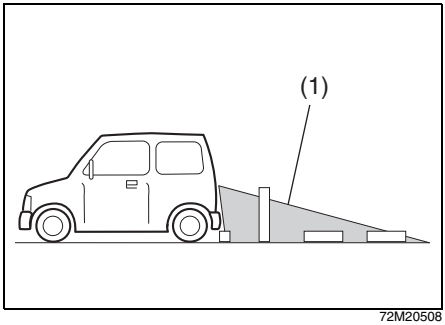
アドバイス

- バックアイカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して映し出されます。ただし、システム起動中は映し出されません。
- スマートフォン連携ナビゲーションの画面が非表示、音声出力停止状態でも、バックアイカメラは作動します。

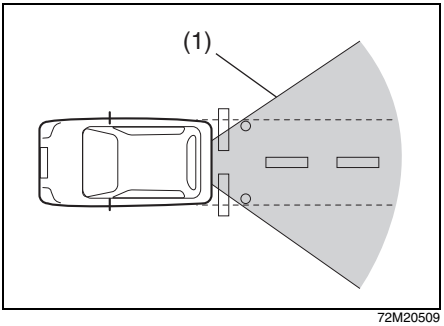
画面に映る範囲

- 車両の後方が、バックドア後端から映ります。ただし、バンパー付近やバンパー下にあるものは映りません。
- カメラより上の部分は映し出されません。標識などの背が高く上部が張り出している障害物は、画面上では上部まで確認できません。
- バックアイカメラの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。
- バックアイカメラの映像は、ルームミラーやドアミラーで見る場合と同じように、左右が反転して映し出されます。

■ バックアイカメラの視野範囲イメージ



72M20508



72M20509

(1) 視野範囲イメージ

アドバイス

- バックアイカメラの映像は、実際の色味とは多少異なることがあります。
- 次のような場合は、バックアイカメラの映像が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
  - 夜間や雨の日、および暗い場所
  - 炎天下や寒冷時にカメラ付近が熱いときや冷たいとき、または雨天などで湿度が高いとき（カメラレンズがくもる場合があります）
  - 直接カメラに強い光が入るとき（映像に白い縦線などが入る場合があります）
  - 蛍光灯などの照明の下（映像にちらつきが出る場合があります）
  - 外気温が低いとき（画面が暗くなる場合があります）
  - カメラのレンズが汚れているとき、または水滴がついているとき

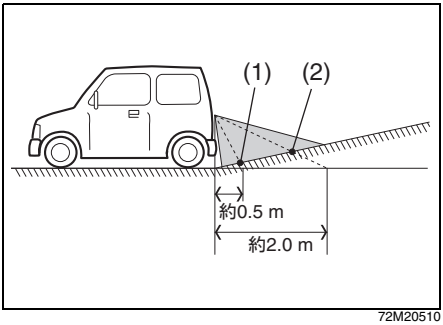
→ **5-44 ページ（バックアイカメラの映像の映りが悪い）**

距離ガイドラインの誤差

画面上に目安として表示される距離ガイドラインは、路面状態や積載状況などにより、実際の距離と異なる場合があります。

■ 後方に上り坂がある場合

実際の距離より手前に、距離ガイドラインが見えます。

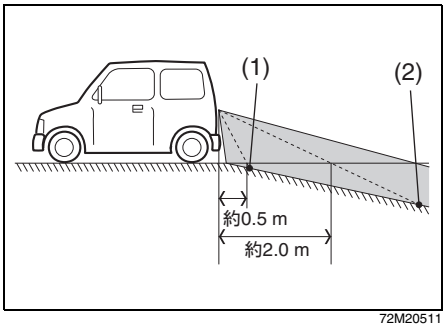


72M20510

(1) 距離ガイドライン(約0.5 m)の示す地点
(2) 距離ガイドライン(約2.0 m)の示す地点

■ 後方に下り坂がある場合

実際の距離より後ろに、距離ガイドラインが見えます。



72M20511

(1) 距離ガイドライン(約0.5 m)の示す地点
(2) 距離ガイドライン(約2.0 m)の示す地点

故障かなと思ったら

■ バックアイカメラの映像が映らない

- エンジンスイッチは ON になっていますか？
- セレクトレバーは R に入っていますか？

■ バックアイカメラの映像の映りが悪い

- カメラのレンズに、水滴、雪、泥などの汚れが付着していませんか？
  汚れていたときは水洗いし、やわらかい布でふき取ってください。汚れがひどいときや、レンズにワックスなどが付着したときは、中性洗剤を使ってください。
- 太陽の強い反射光や後続車のヘッドライトの光が直接カメラに当たっていませんか？

6. お車との上手なつきあいかた

● **お手入れ**
外装のお手入れ ····· 6-2
内装のお手入れ ····· 6-4
タイヤの交換 ····· 6-5
エアクリーナーフィルターの交換 ····· 6-7
リモコンキーの電池交換 ····· 6-8

● **寒冷時の取扱い**
冬期に入る前の準備 ····· 6-12
出発の前に ····· 6-13
雪道を走行するとき ····· 6-15
駐車するとき ····· 6-16
タイヤチェーンを装着するとき ····· 6-17

外装のお手入れ

塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
  - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
  - ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明にしたがってください。

80J302

- 飛び石の傷や、引っかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

注 記

塗装面の傷を補修するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

⚠注意

- **車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。**
- **洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。**
  - **→ 2-20ページ（水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認）**

注 記

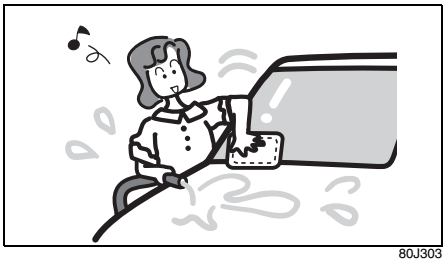
エンジンルームに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。

手洗い洗車をするときは

1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のようなやわらかいものを使って汚れを洗い落とします。

2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。

3 やわらかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



80J303

自動洗車機を使うときは

注 記

- **ドアミラーを格納し、アンテナを収納または取り外してください。洗車機にひっかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。**
- **ルーフエンドスポイラー装備車は、自動洗車機での洗車を避けてください。洗車機にひっかかり、スポイラーを損傷するおそれがあります。**
- **自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。**

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

注 記

- **洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりすると、車体や部品の変形や損傷の原因となります。**
- **洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に向けると、車内に水が入るおそれがあります。**

フロントガラスの手入れ

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

アルミホイール（タイプ別装備）の手入れ

6-2 ページの「**手洗い洗車をするときは**」をお読みください。

注 記

- **酸性、アルカリ性の洗剤、石油系溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。塗装のしみ、変色、ひび割れ、およびセンターキャップの損傷の原因となります。**
- **硬いブラシや砂入り石けんを使用しないでください。傷つきの原因となります。**

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼったやわらかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⚠ 警告

●車内に水などをかけないでください。ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

●エネチャージ装備車の助手席下（シートアンダーボックス下）には、リチウムイオンバッテリーがあります。バッテリーを水などで濡らさないでください。火災や感電などを起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあります。

注 記

●次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。しみ、変色、変形、強度低下などの原因となります。
- **ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤**
- **酸性、アルカリ性の洗剤**
- **漂白剤や染料**

●エアコン、オーディオまたはナビゲーションなどの電装品や各種スイッチおよびこれら周辺の清掃にはシリコンを含むケミカル用品を使用しないでください。シリコンが付着した場合、故障の原因となるおそれがあります。

●色物の革製品・毛皮・ビニールなどを長時間、放置しないでください。内装の変色や変質の原因となります。

アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのもののご使用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ

1 中性洗剤の水溶液をやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。

2 真水を含ませたやわらかい布で、残った洗剤分をふき取ります。

3 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

本革ハンドルの手入れ

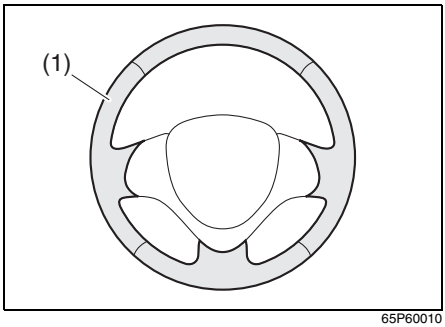
1 ウール用中性洗剤を次の比率でうすめたものをやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。
ウール用中性洗剤：水＝1：20

2 真水を含ませたやわらかい布を固くしぼり、残った洗剤分をふき取ります。

注 記

洗剤のふき残しがあると、本革部分を傷めるおそれがあります。

3 乾いたやわらかい布で乾ぶきし、風通しの良い日陰で乾燥させます。



65P60010

(1)本革部分

注 記

化粧液やハンドクリームなどに含まれるオレイン酸は変色、しみの原因となります。万一、ハンドクリームなどがハンドルの本革部分に付着した際は、すみやかにティッシュペーパーや、やわらかい布でふき取り、前記手順でお手入れをしてください。

アドバイス

- 外観品質を長く保つため、年に2回程度は定期的にお手入れをしてください。
- 水が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。ぬれたままにしておくと、硬くなって縮むことがあります。
- 炎天下に駐車するときは、日よけなどを使用してください。直射日光に長時間さらすと、色あせや縮みの原因となります。
- 天然素材のため、シボ（皮革表面肌の凹凸）の不均一や、皮革本来の傷などがあっても、皮革としての物性に影響はありません。

バックドアガラスの室内側の手入れ

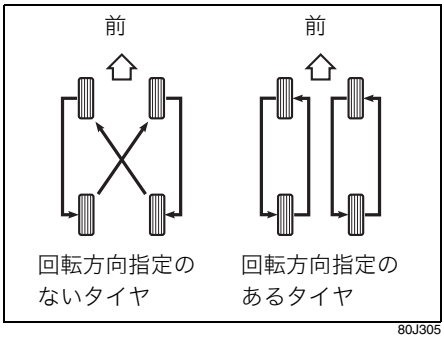
熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布で熱線に沿ってふいてください。

タイヤの交換

タイヤのローテーション

タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約**5,000 km**走行ごとに行なってください。（次の図参照）

- 車載ジャッキでタイヤのローテーションを行なうときは、応急用スペアタイヤ（別売り）などを使用して1輪ずつ交換します。
  → **7-11ページ（ジャッキアップ）**
- タイヤパンク応急修理セット装備車には、応急用スペアタイヤが装備されていないため、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



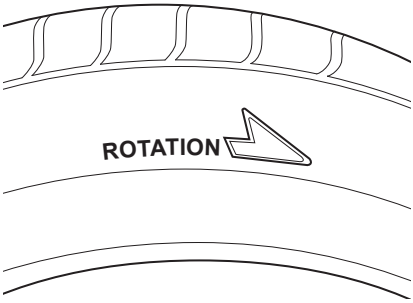
80J305

⚠注意

回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときは、回転方向を逆にしないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバイス

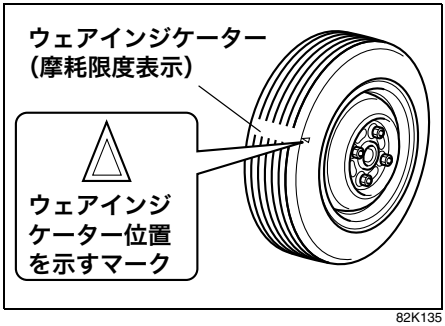
回転方向指定のあるタイヤは、側面に図のような“**ROTATION**”の文字と、回転方向を示す矢印が刻印されています。



- 上図のタイヤは代表例です。

タイヤ交換するときは

- 指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。
- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが1.6mm浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、ほかのタイヤと交換してください。



⚠警告

指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。(冬用タイヤも同様です)

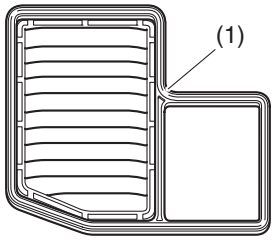
- **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。**
  - **ABS**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）（タイプ別装備）**
  - **ESP®（タイプ別装備）**
  - **グリップコントロール（タイプ別装備）**
  - **レーダーブレーキサポート（RBS）（タイプ別装備）**
  - **誤発進抑制機能（タイプ別装備）**

- **4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。**

エアクリーナーフィルターの交換

注記

エアクリーナーフィルターを取り付けるときは、ゴムパッキン（1）が確実にはまっていることを確認してください。ゴムパッキンが損傷するおそれがあります。ゴムパッキンが確実にはまっていなかったり損傷したりすると、エンジン内部にほこりなどが侵入しエンジンの不具合や破損につながるおそれがあります。



81M60041

●前図のエアクリーナーフィルターは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

- エアクリーナーフィルター交換の際、フィルターや車両の部品を損傷するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。
- 交換フィルターはスズキ純正フィルターのご使用をおすすめします。

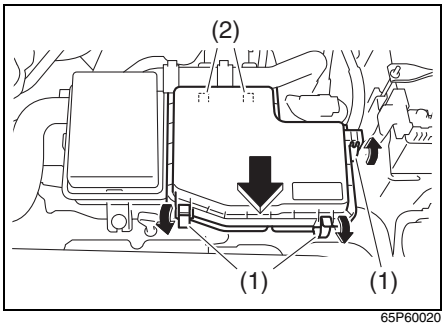
ターボなし車

■ 外しかた

1 ボンネットを開けます。
→ **5-3ページ（ボンネット）**

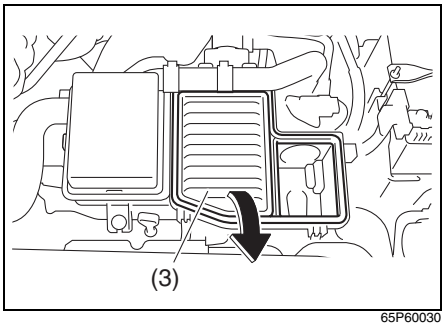
2 エアクリーナーのフック（1）を3か所外します。

3 ふたを持ち上げ、手前に引き、奥のつめ（2）2か所を外してエアクリーナーのふたを取り外します。



65P60020

4 エアクリーナーフィルター（3）を取り外します。



65P60030

■ 取り付けかた

「**外しかた**」と逆の手順で行ないます。

- ふたを取り付けるとき、奥にあるつめをエアクリーナー本体の穴に挿入してください。

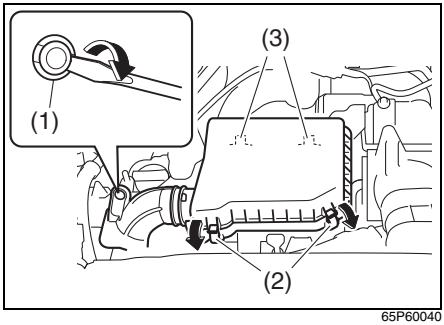
ターボ車

■ 外しかた

1 ボンネットを開けます。
→ **5-3ページ（ボンネット）**

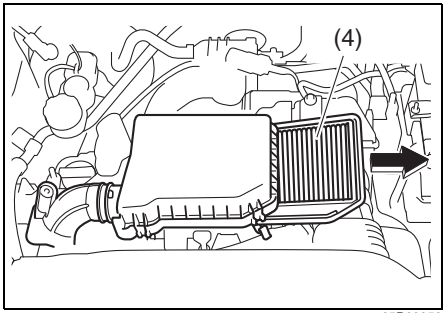
2 エアクリーナーのふたのクリップ (1) とフック (2) を2か所外します。
- クリップはマイナスドライバー（市販品）でこじって外します。

3 ふたを持ち上げ、手前に引き、奥のつめ（3）2 か所を外してエアクリーナーのふたを浮かせます。
- エアクリーナーのふたは取り外さず、フィルターの交換を行ないます。



65P60040

4 浮かせたふたのすきまから、エアクリーナーフィルター（4）を引き抜いて取り外します。



65P60050

■ 取り付けかた

「**外しかた**」と逆の手順で行ないます。

- ふたを取り付けるとき、奥にあるつめをエアクリーナー本体の穴に挿入してください。

リモコンキーの電池交換

⚠警告

電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないよう注意してください。

注 記

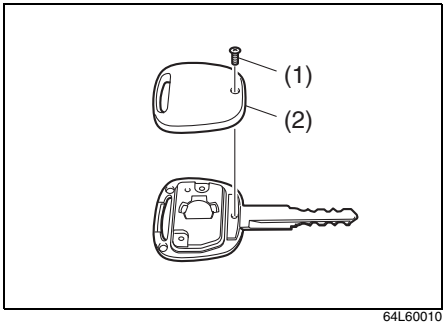
故障を防ぐため、次のことをお守りください。
- **濡れた手で電池交換をしない**
- **電池以外の端子や電子部品に触れない**
- **端子を曲げない**
- **油や異物を付着させない**

アドバイス
- 電池交換の際、リモコンキーを破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、スズキ販売店や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

キーレスプッシュスタートシステム非装備車

使用電池	リチウム電池CR1216

1 キーカバー（2）を外します。
- スクリュー（1）は、サイズのあったプラスドライバー（市販品）で外します。

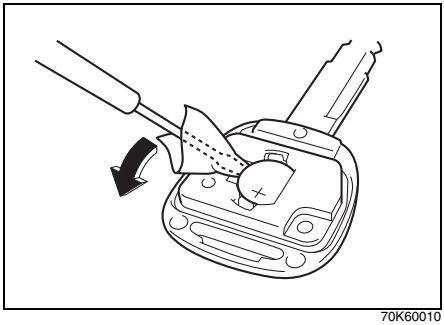


64L60010

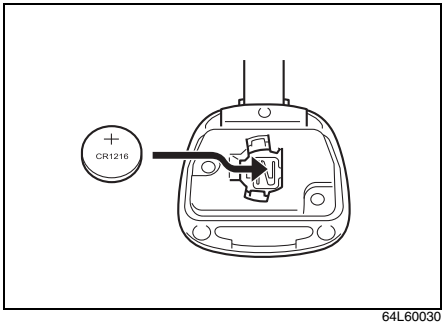
注記

スクリューのサイズ・形状にあわないドライバーを使用すると、スクリューの頭がつぶれるおそれがあります。

2 電池を交換します。
- 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。

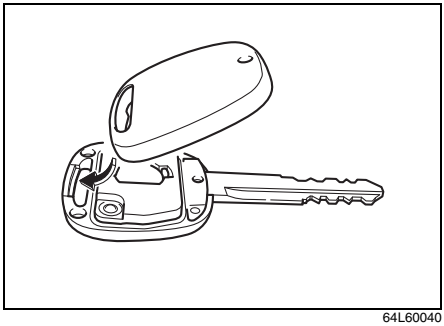

70K60010

- 電池は、＋極を上にして取り付けます。



64L60030

3 キーカバーを組み付けます。
- 図のようにカバーの先端をあわせてから組み付けます。


64L60040

- スクリューを確実に締め付けます。

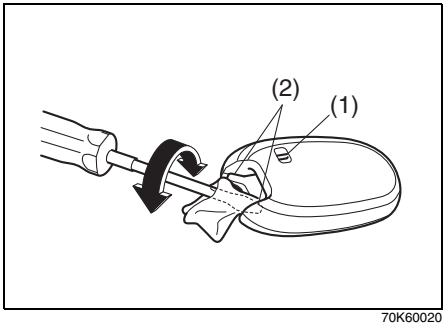
4 リモコンキーが正常に作動するか確認します。

キーレスプッシュスタートシステム装備車

使用電池	リチウム電池CR2032

1 リモコンキー（携帯リモコン）からキーを取り出します。
→ **3-2ページ（キー）**

2 携帯リモコンのケースを分割します。
- ケースは、ロック解除レバー（1）側を上にします。（内部ユニットの落下防止のため）
- 傷つき防止のため、マイナスドライバー（市販品）に布などをかぶせます。キー格納穴の両側にある溝（2）へ差し込み、ケースを分割します。

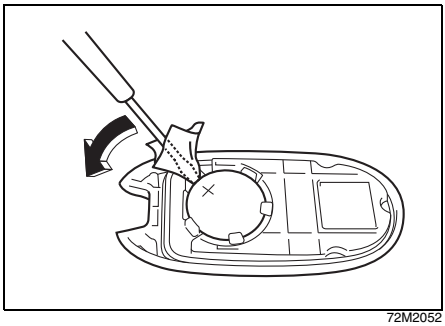


70K60020

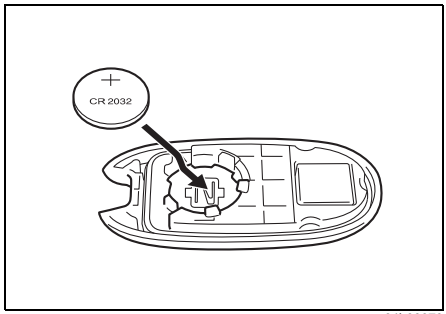
注記

●ケースを分割するときは、ロック解除レバー（1）側を下にしないでください。内部ユニットが落下して破損するおそれがあります。
●ドライバーで、内部ユニットを破損しないよう注意してください。

3 電池を交換します。
- 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。


72M2052

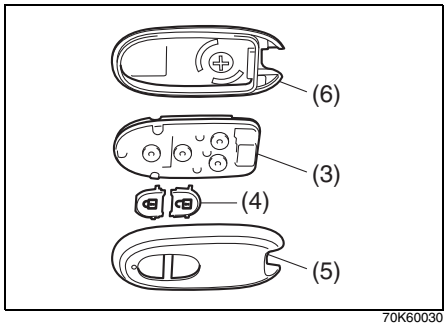
- 電池は、＋極を上にして取り付けます。



64L60070

4 ケースを組み付けます。

- ケースのあわせ部分のすきまが均等になるように確実にはめ込みます。
- 万一部品がばらけてしまった場合は、次の図を参考に組み付けてください。



70K60030

(3)内部ユニット　(4)スイッチ
(5)アッパーケース (6)ロアケース

5 キーを格納します。

6 携帯リモコンが正常に作動するか確認します。

■ 携帯リモコン電池消耗警告のリセットのしかた

電池交換前に携帯リモコン電池消耗警告が表示されていた場合は、電池交換後に次の操作を行なって警告をリセットしてください。

- キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を2回以上繰り返す
  → **3-4ページ（キーレスエントリー）**
  → **3-9ページ（携帯リモコン電池消耗警告）**

アドバイス

所持している予備の携帯リモコンの電池が正常な場合、予備の携帯リモコンで上記の操作を行なっても警告をリセットできます。

冬期に入る前の準備

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〈スズキ純正ウォッシャー液の場合〉

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通　常	原液1に水3	約−7℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約−10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約−20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約−50℃

鉛バッテリー

鉛バッテリーの液量や比重を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→ **2-4ページ**
（鉛バッテリーの液面を点検する）

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。

スノーブレード（別売り）

スノーブレード（降雪地用ワイパーブレード）は、金属部分をゴムで覆って雪の付着を少なくするものです。標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなることがありますので、必要に応じて交換してください。

⚠注意

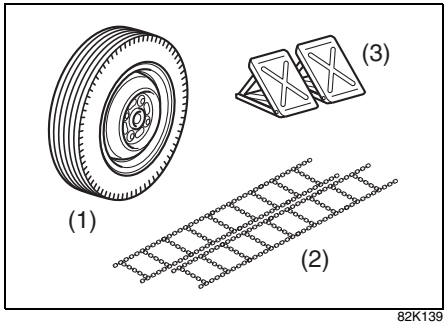
高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなることがあります。その場合には、車のスピードを落としてください。

アドバイス

- 雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードのご使用をおすすめします。
- レーザーレーダー装備車のスノーブレードについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。



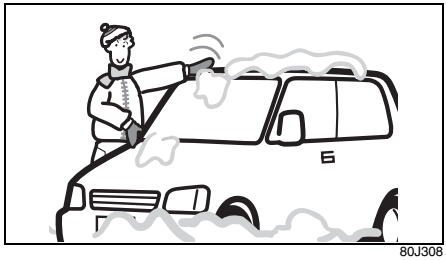
82K139

(1) 冬用タイヤ　　(3) 輪止め
(2) タイヤチェーン

出発の前に

屋根に積もった雪

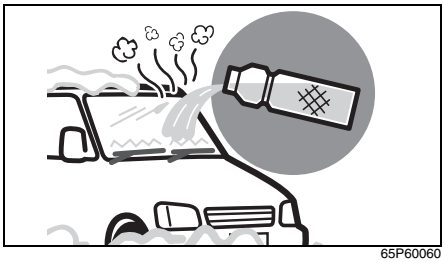
出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。



80J308

ワイパーの凍結

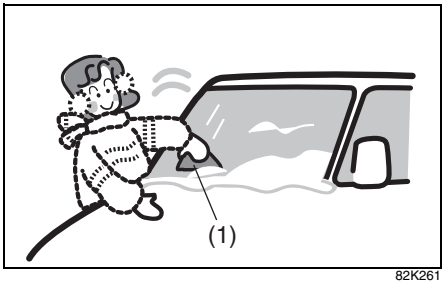
ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にワイパーを作動させると、ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。



65P60060

ガラス面の雪や霜

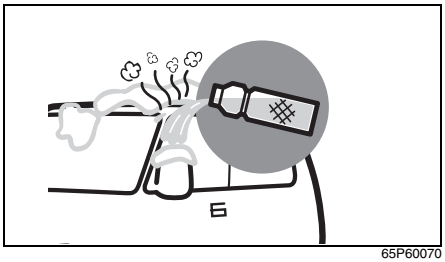
プラスチックの板（1）を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。



82K261

ドアミラーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にドアミラーを動かそうとすると、故障するおそれがあります。



65P60070

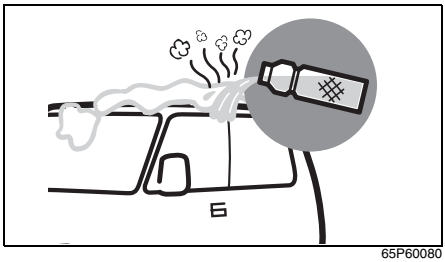
注 記

●ドアミラー格納スイッチの場合、ミラーを手で動かすことが可能かを確認してから、スイッチ操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 3-26ページ（ドアミラー格納スイッチ）

●リモート格納ミラー（タイプ別装備）の場合、ドアミラーが凍結するような寒冷時は、リモート格納ミラーの機能を停止してください。凍結したまま動作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 3-27ページ（リモート格納ミラー）

ドアの凍結

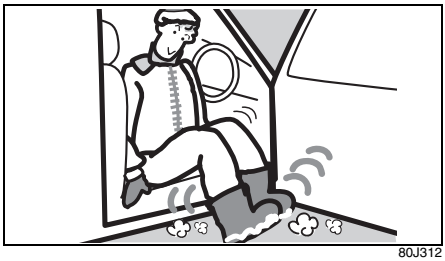
ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



65P60080

靴に付着した雪

乗車するときによく落としてください。そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



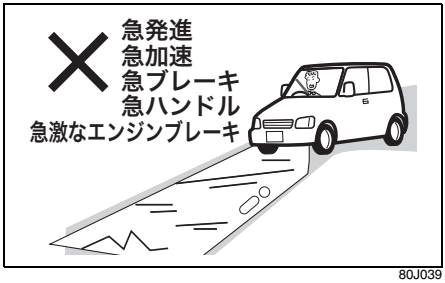
80J312

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

⚠注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。



80J039

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

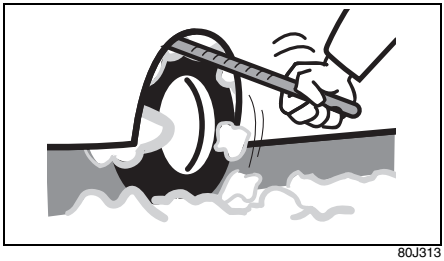
雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。
  → **6-6ページ（タイヤ交換するときは）**
  → **6-17ページ（タイヤチェーンを装着するとき）**

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



80J313

駐車するとき

パーキングブレーキ

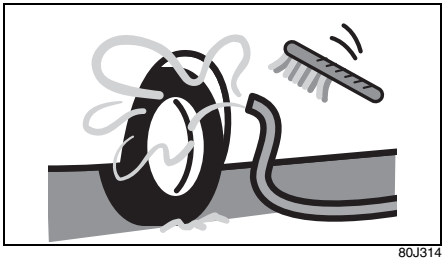
パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

- 長時間駐車するときは、パーキングブレーキをかけずに輪止め（市販品）をしてください。
  - オートマチック車 は、セレクトレバーを P に入れます。
  - マニュアル車 は、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。
凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。



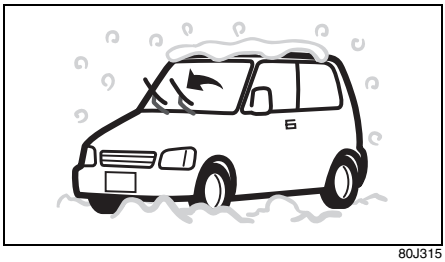
80J314

屋外に駐車するときは

注 記

●軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
●ルーフアンテナの場合、降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。
→ 5-39ページ（アンテナの脱着）

●駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結したりすることがあります。

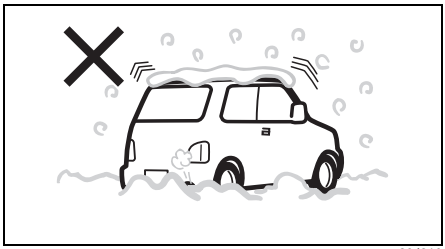


80J315

排気管のまわりが雪で覆われたときは

⚠警告

排気管のまわりが雪で覆われたままエンジンを回転させないでください。排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



80J316

タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠警告

●適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。

●走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体に当たると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。

⚠注意

●タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ（30 km/h以下）にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。

●タイヤチェーンを装着すると、タイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。

- **ABS**
- **エマージェンシーストップシグナル（ESS）（タイプ別装備）**
- **ESP®（タイプ別装備）**
- **グリップコントロール（タイプ別装備）**
- **レーダーブレーキサポート（RBS）（タイプ別装備）**
- **誤発進抑制機能（タイプ別装備）**

注記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは前輪に装着

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの 4WD です。後輪には装着しないでください。

■ 応急用スペアタイヤ（別売り）には装着できません

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪の標準タイヤを前輪に付けてから、タイヤチェーンを前輪に装着します。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

7-10 ページの「**タイヤ交換の準備**」の 1、2 をお読みください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

注 記

タイヤチェーンでホイールに傷がつくおそれがあります。

7. 万一のとき

● パンク ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-2

● バッテリーあがり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-16

● ヒューズ切れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-20

● 電球切れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-25

● オーバーヒート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-30

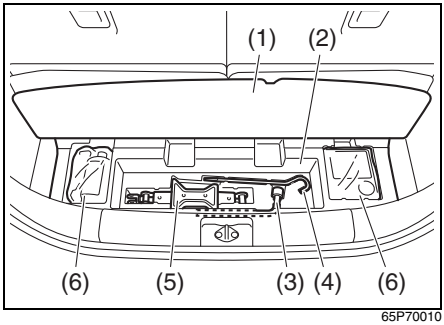
● そのほか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-31

工具、ジャッキ、タイヤパンク応急修理セットの収納場所

荷室のフロアボード（1）下にあるツールボックス（2）に収納されています。

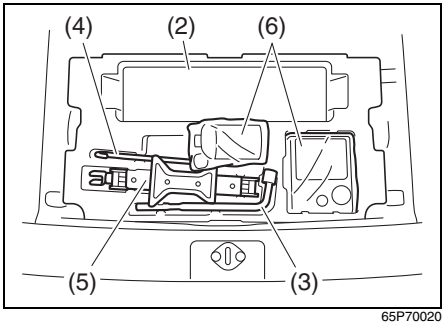
- スライド機構なし後席車の場合、ツールボックスはラゲッジアンダーボックスの下にあります。
  → **5-21ページ（ラゲッジアンダーボックス）**

スライド機構付後席車



65P70010

スライド機構なし後席車



65P70020

(1) フロアボード
(2) ツールボックス
(3) ホイールナットレンチ
(4) ジャッキバー
(5) ジャッキ
(6) タイヤパンク応急修理セット

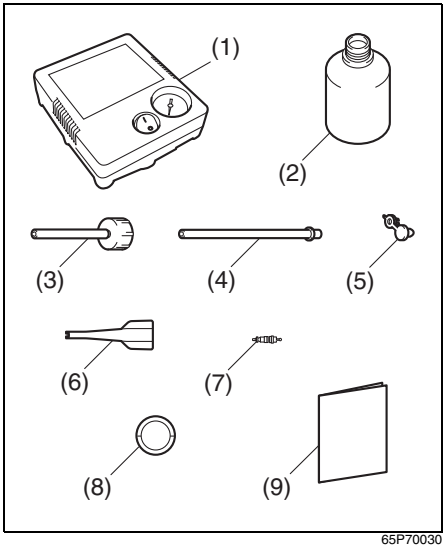
- 使用後は、所定の位置に収納してください。
- ジャッキは、完全に縮めてから収納してください。

パンクしたときは

- タイヤパンク応急修理セットをお使いください。
- 別売りの応急用スペアタイヤを使用するときは、**7-9 ページ**の「**応急用スペアタイヤ（別売り）の取扱い**」以降の項目をお読みください。

タイヤパンク応急修理セット

このセットは、標準タイヤがパンクしたときに応急的に使用するものです。パンクしたタイヤはすみやかにスズキサービス工場で修理または交換してください。



65P70030

(1) エアコンプレッサー
(2) 修理剤ボトル（タイヤ1本分）
(3) 注入ホース
(4) 延長ホース（修理剤抜き取り用）
(5) 注入ホースの栓
(6) コア回し
(7) バルブコア（予備）
(8) 速度制限シール（※）
(9) セット付属の取扱説明書

※速度制限シールは、修理剤ボトルの底面に貼付されています。

⚠注意

●応急修理剤は、飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用したときは、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
●応急修理剤が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
●保管するときは、お子さまが誤って手を触れないように所定の位置に収納してください。

注 記

●エアコンプレッサーは、自動車タイヤ専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
●エアコンプレッサーはDC12 V専用です。ほかの電源での使用はできません。
●エアコンプレッサーを使用するときは、故障を防ぐため次のことをお守りください。
- **10分以上連続して使用しない**
- **防水加工がされていないため、降雨時などは水がかからないようにする**
- **砂やほこりなどを吸い込ませない**
- **使用中に動作がおそくなったり、本体が熱くなったりしたときはすぐにスイッチをOFFにして、30分以上放置する**
- **分解、改造などをしない**
- **強い衝撃や圧力を加えない**

応急修理セットの点検

定期的に点検してください。

- 応急修理剤ボトルに表示されている有効期限の確認
  - 期限が切れる前に、新品と交換してください。

- アクセサリーソケット電源の確認
- エアコンプレッサー作動の確認
  - エンジンスイッチを ACC にし、エアコンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込んで行ないます。

応急修理の可否判断

■ 次のようなとき、タイヤの応急修理ができます

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理できます。

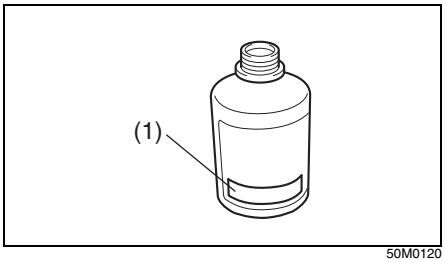
注 記

タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かないでください。タイヤの損傷が大きくなったり、そこからの空気漏れで修理時の空気充填ができなくなったりするおそれがあります。

■ 次のような場合は、タイヤの応急修理ができません

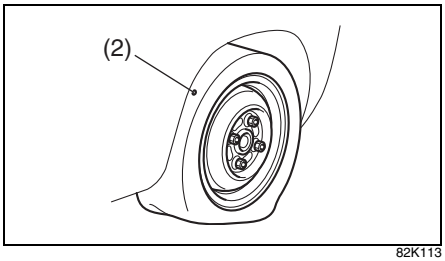
スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。(別冊の「**スズキ4輪車サービスネットワーク**」参照)

- 応急修理剤の有効期限（1）が切れている（有効期限はボトルのラベルに記載）



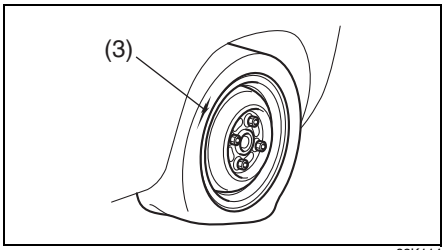
50M0120

- タイヤの接地面に長さ 4 mm 以上の切り傷や刺し傷（2）がある



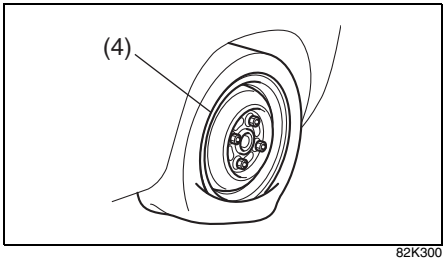
82K113

- タイヤの側面に傷(3)を受けている



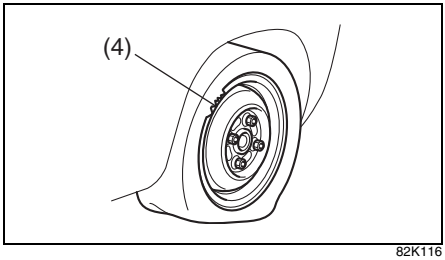
82K114

- タイヤの空気がほとんど抜けた状態で走行した
- タイヤがホイールリム（4）の外側へ完全に外れている



82K300

- ホイールリム（4）が破損または変形している



82K116

- タイヤが2本以上パンクしている(修理剤はタイヤ1本分です)

■ タイヤ応急修理のしかた

1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

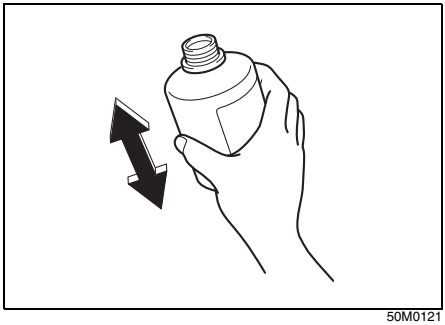
2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

- オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めます。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

- パンクしたタイヤの状態を確認します。
  → **7-3ページ**
  （応急修理の可否判断）

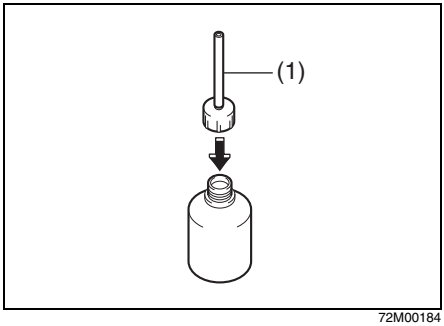
3 同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。タイヤパンク応急修理セットを取り出し、注入ホースをねじ込む前に、修理剤ボトルをよく振ります。



50M0121

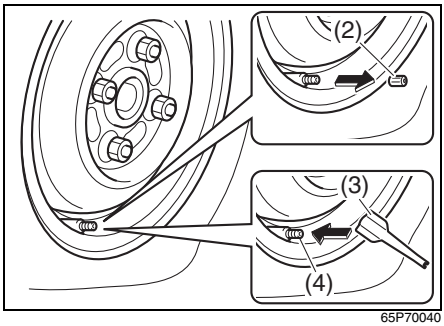
4 注入ホース（1）を修理剤ボトルにしっかりとねじ込みます。

- ボトルの栓が破れます。



72M00184

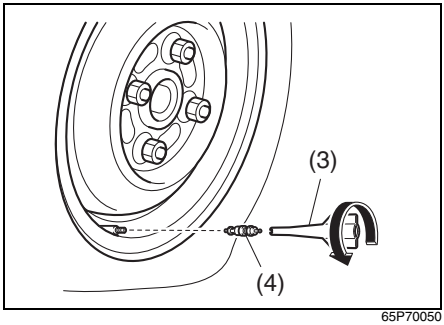
5 タイヤバルブからキャップ（2）を反時計方向にまわして外します。コア回し（3）の羽根状部分の先端などでバルブ内のバルブコア（4）を押し、タイヤに残った空気を完全に抜きます。



65P70040

6 コア回し（3）でバルブコア（4）を反時計方向にまわして外します。

- バルブコアは再使用します。汚れないようにきれいなところへ保管します。



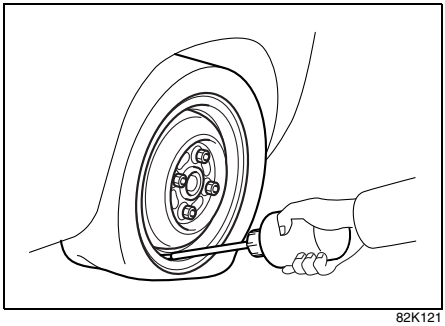
65P70050

⚠注意

バルブコアを外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

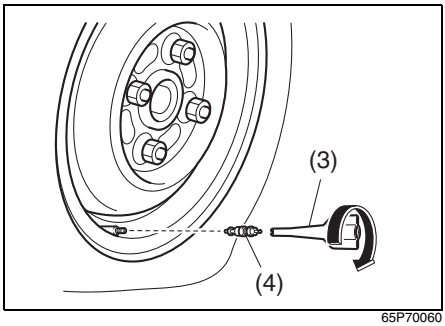
7 注入ホースの先端をタイヤバルブに差し込みます。修理剤ボトルを逆さまにして持ち、手で何回も圧迫し、修理剤をすべてタイヤ内に注入します。

- 空になったボトルは、修理剤の抜き取りに必要なため、タイヤ交換または修理を依頼するときにスズキサービス工場にお渡しください。
- こぼれた修理剤は、ふき取るかそのまま乾燥させてからはがします。


82K121

8 注入ホースをタイヤバルブから引き抜き、コア回し（3）でバルブコア（4）をタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。

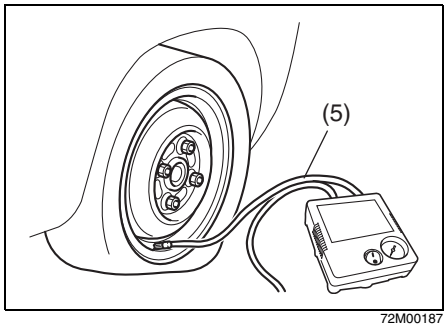
- 外しておいたバルブコアが汚れていたり紛失したりした場合は、タイヤパンク応急修理セット内にある予備のバルブコアをご使用ください。



65P70060

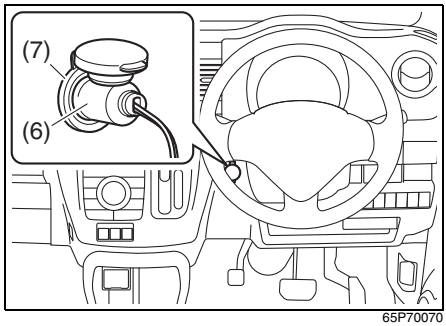
9 エアコンプレッサーの底面から、ホースを取り出します。

10 エアコンプレッサーのホース（5）先端の口金をタイヤバルブにねじ込みます。



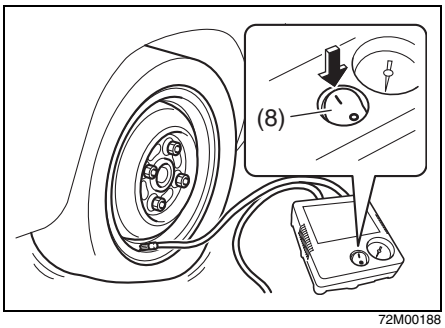
72M00187

11 エアコンプレッサーのスイッチがOFF になっていることを確認します。電源プラグ（6）をアクセサリーソケット（7）に差し込み、エンジンスイッチを ACC にします。



65P70070

12 エアコンプレッサーのスイッチ（8）を ON にし、空気を入れます。タイヤ空気圧が指定空気圧になるまで昇圧させます。



72M00188

- タイヤがホイールリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤのすきまをなくすようにしてから、コンプレッサーを作動させます。（すきまがなくなれば空気圧が上がります。）
- 指定空気圧まで昇圧するには、約10分程度が必要です。10分以内に指定空気圧まで昇圧しないときは、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理セットによる応急修理ができません。スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。
- 空気を入れすぎたときは、コンプレッサーのホース先端の口金をゆるめて、空気を抜きます。

⚠注意

●コンプレッサーを作動させているときは、タイヤの近くに立たないでください。万一バーストなどした場合に、けがのおそれがあります。
●タイヤがふくらむと、タイヤがリム部にはまり込みます。指などをはさまないように注意してください。

注 記

●コンプレッサーの起動・停止は、コンプレッサー本体のスイッチで行なってください。
●コンプレッサーは10分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。

アドバイス

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで確認できます。

13 指定空気圧まで昇圧できたら、修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、コンプレッサーを収納し、ただちに走行します。スピードを控えめにして、急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはせず、慎重に運転してください。

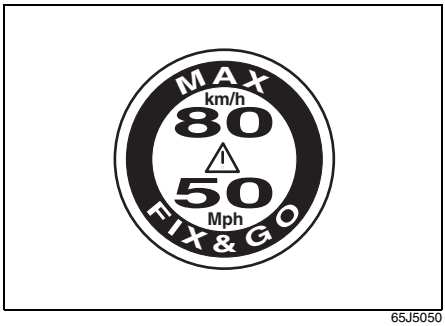
14 約10分間または5 km程度走行したら、タイヤ空気圧をコンプレッサーの空気圧計で確認します。空気圧が130 kPa（1.3 kgf/cm^2）以上あれば、パンク応急修理の完了です。再度､指定空気圧に調整してください。

- タイヤ空気圧を測定するときは、コンプレッサーのホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込んだあとに電源をつなぎ、一度スイッチをONにしたあと、すぐにスイッチをOFFにして空気圧を確認します。
- 走行後、タイヤ空気圧が130 kPa未満に低下していた場合は、本修理セットによる応急修理ができていないことを示しています。走行を中止して、スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

⚠注意

走行後、必ず空気圧のチェックを行ない、応急修理の完了を確認してください。

15 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。十分注意して80 km/h以下の速度で走行してください。



65J5050

⚠警告

次のような場所には、速度制限シールを貼らないでください。
●SRSエアバッグの収納部。万一のときに、エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。
●警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置

タイヤを応急修理したあとは

応急修理剤を使用したタイヤは、一時的に使用するものです。すみやかにスズキサービス工場で、タイヤ交換または修理してください。

- タイヤ交換または修理を依頼するときは、修理剤を使用したことを知らせてください。また、修理剤の抜き取りに必要なため、空になった修理剤ボトルを渡してください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取り、バルブコアを新しいものに交換すれば再使用できます。
- タイヤを修理・再使用するときは、付着した修理剤をふき取る必要があります。ただし、タイヤの損傷の程度によっては、再使用できない場合があります。
- 新しい修理剤はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

応急用スペアタイヤ（別売り）の取扱い

応急用スペアタイヤ（別売り）は、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するものです。パンクしたタイヤはただちに修理または交換し、できるだけ早く標準タイヤにもどしてください。応急用スペアタイヤは、標準タイヤに比べて空気圧が高く、幅が細く、直径がやや小さいため、次の事項を守ってください。

■ 定期的に点検する

⚠警告

空気圧や摩耗状態を定期的に点検してください。空気圧不足やタイヤの摩耗した状態での使用は、思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用スペアタイヤの指定空気圧は 420 kPa（4.2 kgf/cm^2）です。

■ ほかの車のスペアタイヤを使わない

⚠警告

応急用スペアタイヤは、この車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用スペアタイヤをこの車に使用したりしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 装着したときの走行は

⚠注意

●正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。
- **ABS**
- **エマージェンシーストップシグナル（ESS）（タイプ別装備）**
- **ESP®（タイプ別装備）**
- **グリップコントロール（タイプ別装備）**
- **レーダーブレーキサポート（RBS）（タイプ別装備）**
- **誤発進抑制機能（タイプ別装備）**

●応急用スペアタイヤは、高速走行には適していません。やむをえず高速道路を走行する場合は、最低速度（法令では高速道路の最低速度は50km/hです）に近い速度で走行してください。

注 記

●4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
●応急用スペアタイヤは、標準タイヤに比べ直径がやや小さいため、車高が少し低くなります。突起物などを乗り越えるときは、車体を接触させないように気をつけてください。

■ 前輪には使用しない

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの 4WD です。前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪の標準タイヤを前輪に付けてください。

■ レーザーレーダー装備車での取扱い

応急用スペアタイヤ（別売り）を使用する場合は、レーダーブレーキサポート（RBS）OFF スイッチを操作して誤発進抑制機能を停止させてください。

■ タイヤチェーンは装着できません

タイヤチェーンを装着した前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪の標準タイヤを前輪に付けてからタイヤチェーンを再装着してください。

タイヤ交換の準備

別売りの応急用スペアタイヤが準備できない場合は、タイヤパンク応急修理セットをご使用ください。

→ **7-2ページ**
（タイヤパンク応急修理セット）

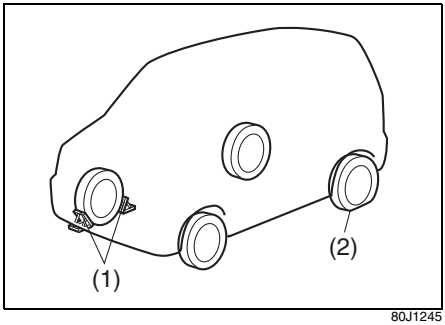
1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

- オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めます。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーを R または 1 速に入れます。

必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

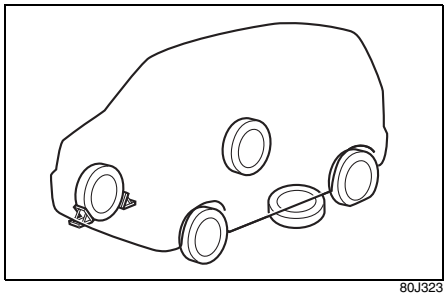
3 交換するタイヤ（2）と対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（1）（市販品）を置きます。



80J1245

4 工具、ジャッキ、応急用スペアタイヤを取り出します。同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。

- 万一ジャッキが外れたときに足などをはさまないために、取り出した応急用スペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。

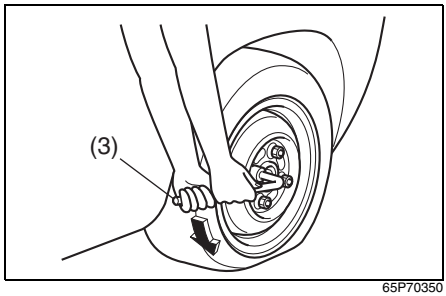


80J323

アドバイス

応急用スペアタイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

5 ホイールナットレンチ（3）を使用して、ホイールナット4個を反時計方向にまわし、手でナットが軽くまわるくらいまでゆるめます。



65P70350

ジャッキアップ

ジャッキアップをする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

- オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めてください。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れてください。

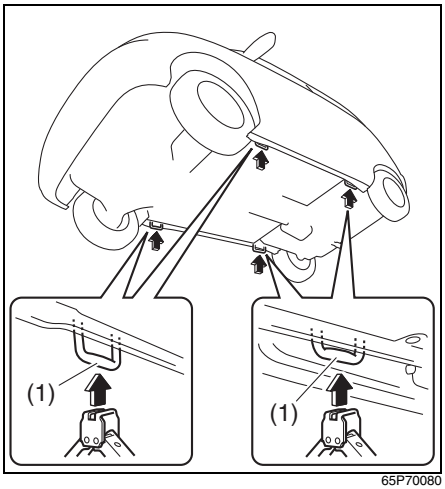
⚠ 警告

万一ジャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

- **地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。**
- **ジャッキは、タイヤ交換またはタイヤパンク修理だけに使用してください。**
- **ジャッキはこの車に付属のものを使用し、ほかの車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキをほかの車に使用しないでください。**
- **ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。**
- **ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。**
- **ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。**
- **ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下にものをはさまないでください。**
- **複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。**

1 ジャッキバー取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部の凹み部を車載ジャッキ指定位置（1）に軽く接触させます。

2 ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ頭部の凹み部が指定位置（1）にはまっているか確認します。

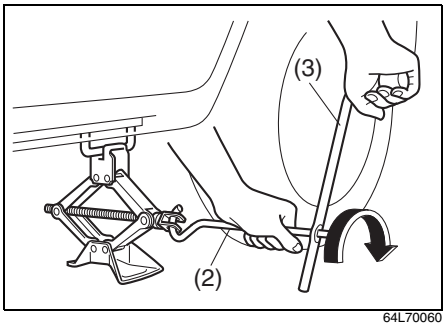


65P70080

3 ジャッキに、ジャッキバーとホイールナットレンチを取り付けます。（次の図参照）

- ジャッキバーは次の図のように、ホイールナットレンチの穴に差し込みます。

4 ホイールナットレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。

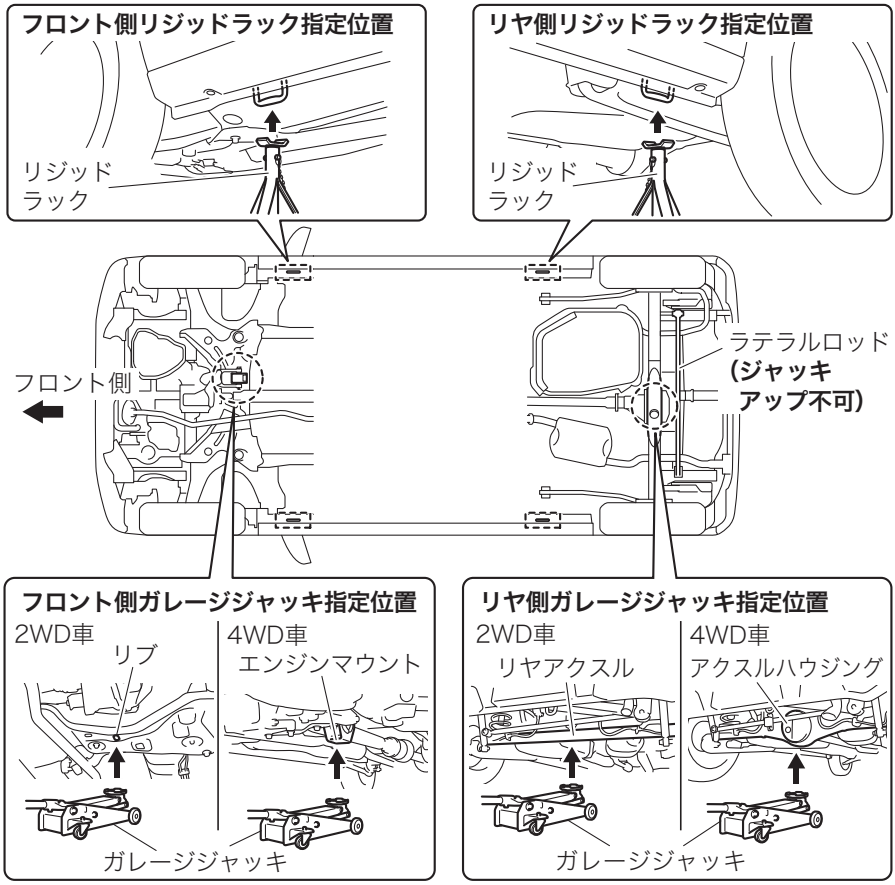


64L70060

(2) ジャッキバー
(3) ホイールナットレンチ

ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を次の図に示します。詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



65P70090

⚠ 警告

- **必ず図に示す指定位置を守ってください。**
- **ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。**
- **フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。**

タイヤの取り付け・取り外し

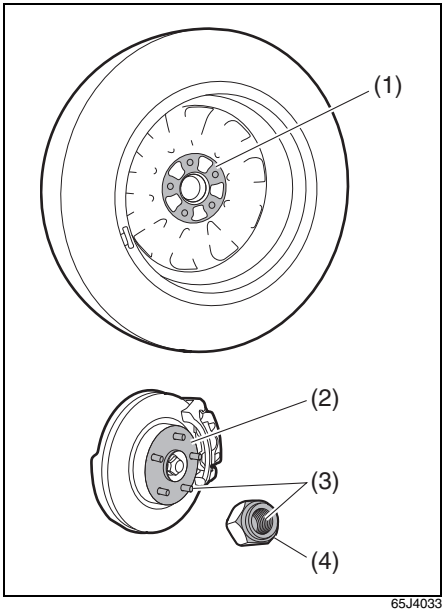
1 ホイールナットを外して、タイヤを取り外します。外したタイヤは、車体の下に置きます。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

2 次の場所の汚れや異物を取り除きます。

- 交換するホイールの取り付け面（1）
- 車体側の取り付け面（ハブ面）（2）
- ボルトやホイールナットのネジ部（3）
- ホイールナットのテーパー面（4）
- ホイール穴のテーパー面（5）



65J4033

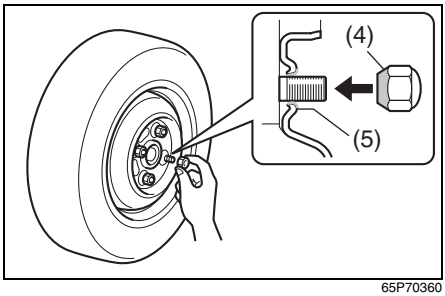
- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。
- このとき、ボルトやナットのネジ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

●前記の場所に汚れや異物、つぶれや亀裂などの異常があると、走行中にホイールナットがゆるむことがあります。
●ナットやボルトに、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にナットを締めすぎて、ボルトが折れるおそれがあります。

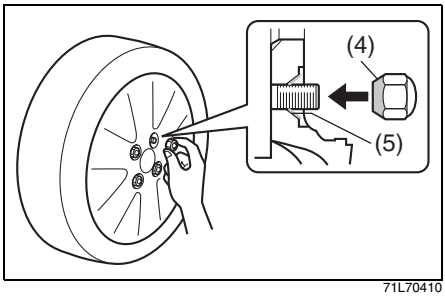
3 ホイールナットのテーパー面（4）が、ホイール穴のテーパー面（5）に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。

スチールホイール装備車



65P70360

アルミホイール装備車



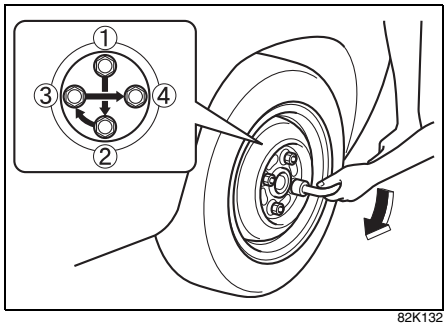
71L70410

4 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。

5 ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを次の図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

締め付けトルク：85 N・m (870 kgf・cm)

- ホイールナットレンチの柄の先端にかかる力は330 N（34 kgf）を目安にしてください。
- すべてのホイールナットが確実に締まっていることを確認してください。



82K132

⚠警告

●ホイールナットが確実に締まっていないと、ボルトやブレーキ部品を損傷したり、ホイールが外れたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。トルクレンチ（市販品）を使用せずにタイヤ交換した場合は、できるだけ早くスズキサービス工場で締め付けトルクの点検を受けてください。

●ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、ナットを締めすぎてボルトが損傷し、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

既定の締め付けトルクで締める場合は、トルクレンチ（市販品）のご使用をおすすめします。

タイヤを交換したあとは

- 工具、ジャッキは、所定の位置に収納してください。
- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないか確認してください。
- アルミホイール装備車は、タイヤを交換してから 1,000 km 程度走行したあとに、ホイールナットにゆるみがないか点検してください。

⚠警告

タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

鉛バッテリーあがりとは

次のようなときは、鉛バッテリーがあがっています。

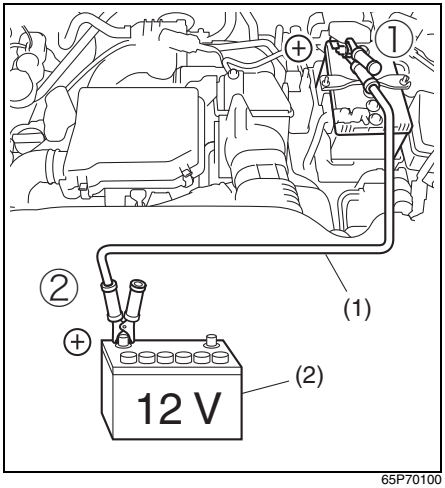
- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

鉛バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12 Vバッテリーを使用しているほかのバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

1 1 本目のブースターケーブル（1）を①→②の順序で接続します。

①バッテリーあがり車の ⊕ 端子
②バッテリー正常車の ⊕ 端子

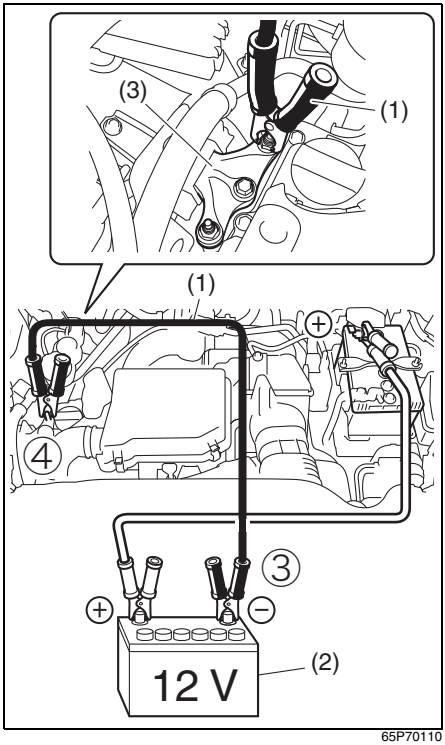


65P70100

(1) ブースターケーブル
(2) 正常車の鉛バッテリー

2 2 本目のブースターケーブルを③→④の順序で接続します。

③バッテリー正常車の ⊖ 端子
④バッテリーあがり車のエンジンマウントのボルト



65P70110

(1) ブースターケーブル
(2) 正常車の鉛バッテリー
(3) エンジンマウント

3 バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。

4 バッテリーあがり車のエンジンを始動します。

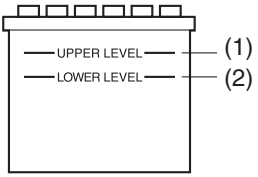
5 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。

6 お近くのスズキ販売店またはスズキ代理店でバッテリーを完全充電します。

⚠警告

●鉛バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。

・バッテリーを充電するときやブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限（2）以下のままで充電などすると、バッテリーが発熱して爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。
バッテリー補充液を上限（1）まで補充してから、充電などを行なってください。



82K209

・充電は火気のない風通しの良いところで、すべてのバッテリーキャップを外して行なってください。
・④の接続のときに、バッテリーがあがった車の ⊖ 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れたエンジンマウントのボルトに接続してください。
・乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。

●バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

⚠注意

●ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、ドライブベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。
●ショート防止のため、ブースターケーブルの ⊕ 端子は、バッテリーの ⊕ 端子以外の部分（⊖ 端子、ボデー、ブラケットなど）と接触させないでください。
● オートマチック車 は押しがけができません。 マニュアル車 も安全のため、押しがけをしないでください。

鉛バッテリーを交換するときは

⚠警告

鉛バッテリーを交換するときは、次のことをお守りください。
- **濡れた手でバッテリーに触れないでください。感電のおそれがあります。**
- **走行後の場合は、30 分以上放置し、バッテリーの水素ガスが抜けるのを待ってから作業を行なってください。**
- **バッテリーを交換するときは、ブレーキパイプに当たらないように注意してください。ブレーキパイプが変形するおそれがあります。万一、ブレーキパイプが変形したときは、自分で直さず、スズキサービス工場で点検を受けてください。**

注記

アイドリングストップシステム装備車は、高性能な専用の鉛バッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないとアイドリングストップシステムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。
- **バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）**
  → 8-2ページ（サービスデータ）
- **バッテリー端子から電気製品の電源をとらない**

アドバイス

鉛バッテリー交換の際、バッテリーや車両の部品を損傷するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。

■ 外しかた

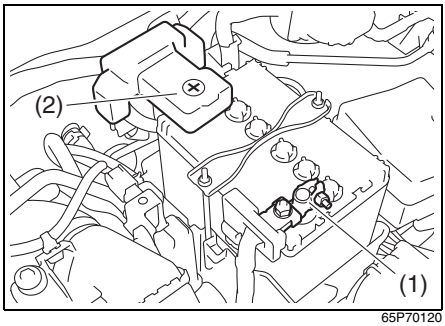
1 エンジンスイッチを LOCK (OFF) にします。キーレスプッシュスタートシステム非装備車は、エンジンスイッチからキーを抜きます。

2 バッテリーケーブルの ⊖ 側（1）を外します。
- バッテリー端子のナットは、10 mm スパナ（市販品）などでゆるめます。

⚠注意

ショート防止のため、次のことをお守りください。
- **⊖側のケーブルから先に外す**
- **金属工具などにより、⊕端子と⊖端子とを接触させない**
- **外したケーブルは、交換時にバッテリー端子と接触しないよう、バッテリーの側面や離れた場所へ動かす**

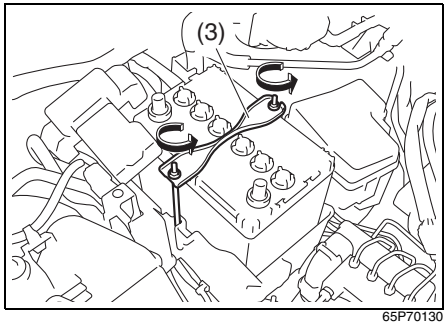
3 バッテリーケーブルの ⊕ 側（2）を外します。
- カバーを開け、ナットをゆるめます。



65P70120

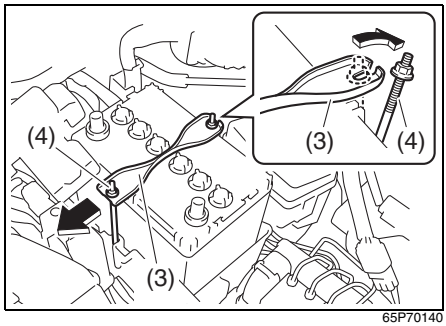
4 取り付け金具（3）のナットを緩めます。

- 取り付け金具のナットは、8 mm スパナ（市販品）などで緩めます。



65P70130

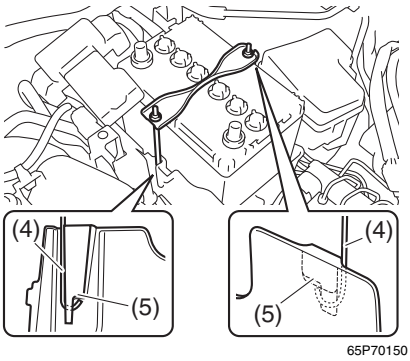
5 両側のフック（4）を持ち、外側に開いて、取り付け金具（3）の切り欠きから外します。



65P70140

アドバイス

取り付け金具を外すときは、取り付けるときに位置を間違えないよう、あらかじめ両側のフック（4）がかかっている位置を確認してください。

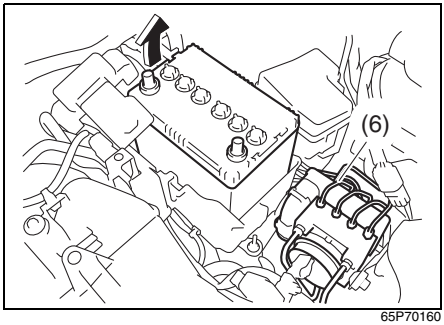


65P70150

(5)バッテリーケースのホルダー部

6 バッテリーを外します。

- 奥側を斜めに引き上げるようにして持ち上げます。
- バッテリーは重いため、両手でしっかりと持って、ブレーキパイプ（6）などに当たらないように取り出します。



65P70160

⚠注意

バッテリーを傾けすぎないでください。液漏れのおそれがあります。

■ 取り付けかた

「**外しかた**」と逆の手順で行ないます。

- 鉛バッテリーのタイプについては、巻末の「**サービスデータ**」をご覧ください。
  → **8-2ページ（サービスデータ）**

- 鉛バッテリーを交換したときは、初期設定が必要な機能があります。
  → **8-7 ページ（次の機能は、必ず初期設定してください）**

⚠ 警告

バッテリー端子および取り付け金具のナットは、確実に締め付けてください。ゆるみがあると、火災や故障の原因となります。

⚠ 注意

バッテリーケーブルを取り付けるときは、⊕側から先に取り付けてください。ショートのおそれがあります。

アドバイス

鉛バッテリー交換は、「**マイナスで始まり、マイナスで終わる**」といわれます。作業手順を守ってください。

バッテリーあがりを防ぐためには

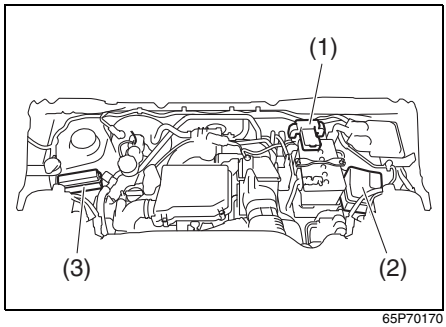
- 1か月に一度は連続して30分以上走行して充電する必要があります。
- エンジンを停止したままライトをつけたり、長時間ナビゲーションやオーディオなどを使用したりしないようにしましょう。（アイドリングストップシステム装備車によるエンジン自動停止中を除く）
- 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。
  → **2-4ページ（鉛バッテリーの液面を点検する）**

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズは、エンジンルーム内と運転席足元にあります。
- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

エンジンルーム内のヒューズ



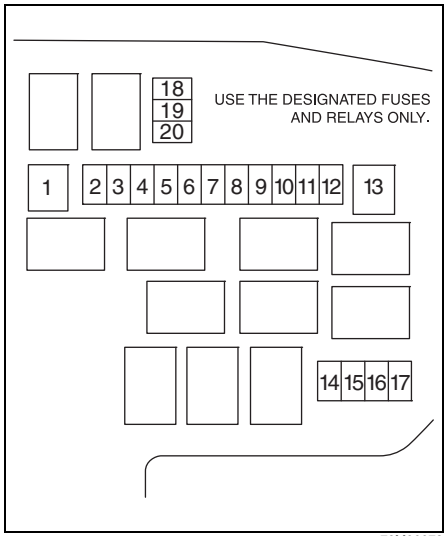
65P70170

(1) メインヒューズボックス
(2) リレーボックス No.1
(3) リレーボックス No.2
（タイプ別装備）

■ リレーボックス内のヒューズ

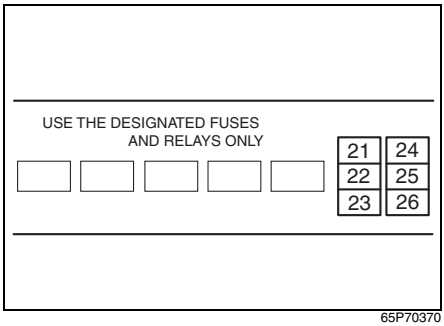
ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。

リレーボックス No.1



72M00078

リレーボックス No.2



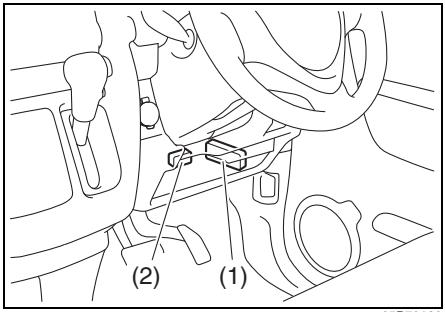
65P70370

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	BAT2	30A	リレーボックス No.2
2	FI（エネチャージ非装備車）	15A	燃料噴射装置
	PSD R（エネチャージ装備車）	—	—
3	CVT（エネチャージ非装備CVT車）	15A	CVT
	PSD L（上記以外）	—	—
4	RDTR	30A	ラジエーターファン
5	THR MOT（エネチャージ非装備車）	15A	スロットルモーター
	ST3（エネチャージ装備車）	20A	スターター
6	CPRSR	10A	コンプレッサー
7	ABS SOL	25A	ABS ソレノイド

位置	表示	容量	接続先名称
8	H/L L	15A	ヘッドライト（左）
9	H/L R	15A	ヘッドライト（右）
10	ST2	30A	スターター
11	DCDC（アイドリングストップシステム装備MT車）	30A	DCDC コンバータ
	SUB BAT（アイドリングストップシステム装備CVT車）	30A	サブバッテリー
12	A-STOP	10A	アイドリングストップコントローラー
13	ABS MOT	40A	ABS モーター
14	FI2	15A	燃料噴射装置
15	CVT PUMP	15A	電動オイルポンプ
16	THR MOT2	15A	スロットルモーター
17	SPARE	—	—
18	IG COIL2	15A	イグニッションコイル
19	METER2	10A	メーター
20	ST SIG (レーザーレーダー非装備車)	10A	アイドリングストップコントローラー
	IG1 SIG2 (レーザーレーダー装備車)	10A	レーザーレーダー
21	FOG	15A	フォグランプ
22	H/L HI	25A	ディスチャージヘッドライト
23	SPARE	—	—
24	H/L HI/SOL R	15A	ディスチャージヘッドライト（右）
25	H/L HI/SOL L	15A	ディスチャージヘッドライト（左）
26	SPARE	—	—

運転席足元のヒューズ

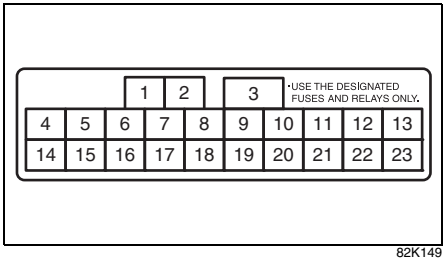


65P70180

(1) 運転席足元のヒューズ (A)
(2) 運転席足元のヒューズ (B)
（マニュアル車のみ）

■ 運転席足元のヒューズ (A)

ヒューズの表は、ヒューズの近くにあります。



82K149

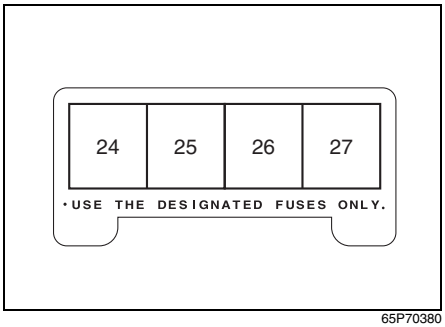
- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	ST	30A	スターター
2	RR WIP	10A	リヤワイパー
3	P/W	30A	パワーウインドー
4	注）P/W T	20A	パワーウインドータイマー機能
5	BLW	25A	ブロワーファン
6	D/L	20A	ドアロック
7	HTR	10A	ヒーター
8	FR WIP	20A	フロントワイパー
9	RADIO	15A	ラジオ
10	STOP	10A	制動灯
11	BACK	10A	後退灯
12	A/B	10A	エアバッグ
13	ACC	15A	アクセサリーソケット
14	RR DEF	20A	リヤデフォッガー
15	STL	15A	電動ハンドルロック
16	BCM	10A	BCM
17	HORN HAZ	15A	ホーン非常点滅表示灯
18	TAIL	10A	尾灯
19	DOME	10A	室内灯
20	IG COIL（エネチャージ非装備車）	15A	イグニッションコイル
	CVT（エネチャージ装備車）	15A	CVT
21	MTR（エネチャージ非装備車）	10A	メーター
	—（エネチャージ装備車）	—	—
22	IG1 SIG	10A	パワーステアリング
23	ABS/ESP	10A	ABS/ESP®

注）P/W Tのヒューズを外したり交換したりしたときは、はさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。
→ **3-23ページ（初期設定のしかた）**

■ 運転席足元のヒューズ (B)

マニュアル車のみ



65P70380

位置	表示	容量	接続先名称
24	RADIO DOME	15A	ラジオ メーター
25	—	—	—
26	ACC2	10A	ラジオ
27	ST SIG 2	10A	アイドリングストップ コントローラー

7

ヒューズの点検と交換

ヒューズの点検・交換には、ヒューズ抜き（低背ヒューズ用、市販品）および交換用ヒューズ（別売り）が必要となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

点検・交換のしかた

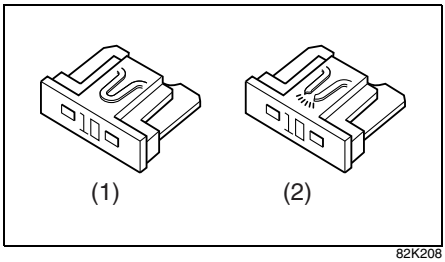
1 エンジンスイッチを LOCK (OFF) にします。

2 エンジンルーム内のリレーボックスでは、ボックスのカバーを外します。

3 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜き（市販品）をヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。

4 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

- 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。



82K208

(1) 正常なヒューズの例
(2) 切れたヒューズの例

⚠ 警告

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

電球の点検

ライトやランプ、方向指示器／非常点滅表示灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯はほかの人に見てもらうか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

ヘッドライトなどのレンズ内面のくもり

レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

ヘッドライトやリヤコンビネーションランプなどは、ランプ内外の温度差により一時的にレンズ内面がくもることがありますが、機能上の問題はありません。（窓ガラスがくもるのと同じ現象）

電球を交換するときは

電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。電球のワット数および型式は、サービスデータ（**8-4ページ**）をご覧ください。

- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

高電圧による感電のおそれがあるため、ディスチャージヘッドライトの電球交換は絶対に行なわないでください。交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

- **安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。**
- **エンジンを止め、各ランプを消灯させ、エンジンや排気管、電球などが十分に冷えてから行なってください。やけどのおそれがあります。**
- **ハロゲン電球は高圧ガスを封入しているため、とくに慎重に扱ってください。割れるとガラスが飛散して、けがのおそれがあります。**

⚠注意

●車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。

51K0180

注 記

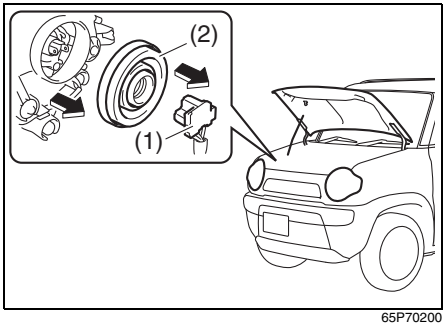
ハロゲン電球を扱うときは、油脂類が付着していない、きれいな手袋をはめてください。使用時電球が高温になるため、素手で扱ってガラス部分に油などが付着すると、発熱による早期電球切れのおそれがあります。

ハロゲンヘッドライト

タイプ別装備

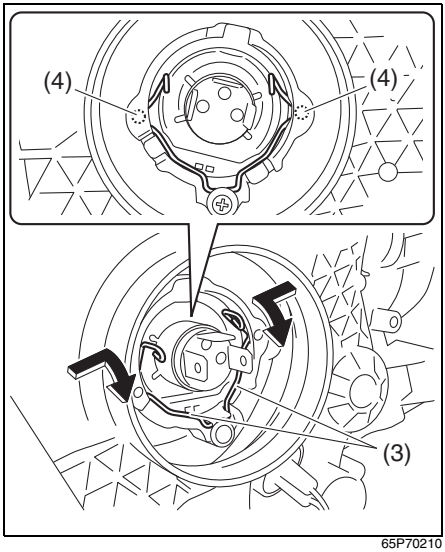
1 ボンネットを開けます。
→ **5-3ページ（ボンネット）**

2 カプラー（1）は、カプラー本体をしっかり持って車両後方へまっすぐ引いて外します。
ゴムカバー（2）を引いて外します。



65P70200

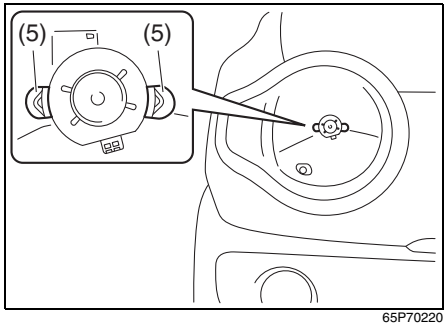
3 両側にある止め金（3）を図の矢印のように、中央に寄せながら手前に倒して固定フック（4）から外します。



65P70210

アドバイス

止め金の固定状態は、電球近くの穴（5）を通して車両前方からも確認できます。



65P70220

4 電球を外します。交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

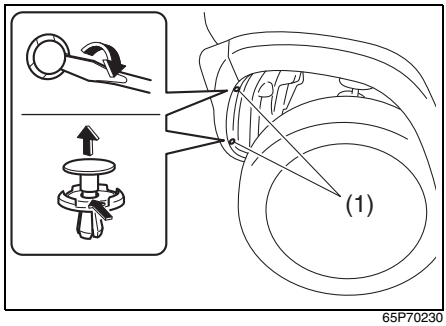
フォグランプ

タイプ別装備

1 交換作業のスペースを確保します。
- エンジンをかけ、交換する電球の側と同じ側にハンドルをいっぱいにまわします。

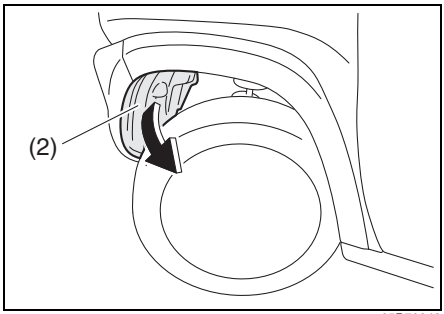
2 エンジンを停止します。

3 フェンダー内のカバーを一部外します。
- フェンダー内のカバーにあるクリップ（1）は、マイナスドライバー（市販品）でこじって外します。



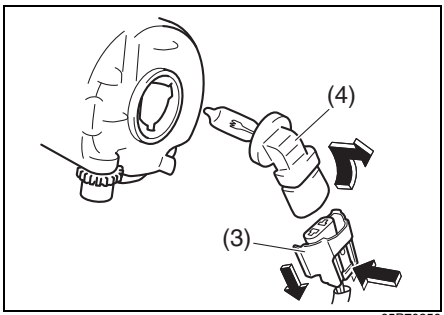
65P70230

4 フェンダー内のカバー（2）をめくって内側から交換します。



65P70240

- カプラー（3）は、ツメを押しながら外します。
- カプラーを外したあとに電球（ソケット一体式）（4）を、反時計方向にまわして外します。



65P70250

5 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。
- フェンダー内のカバーは、バンパーの内側に入れます。

非分解式ランプ

次のランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

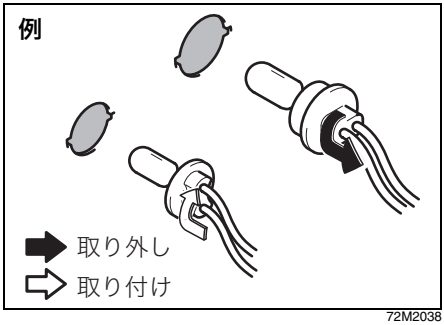
- 制動灯／尾灯
- 方向指示器／非常点滅表示灯（フェンダーまたはドアミラー）
- ハイマウントストップランプ
- 車幅灯（ディスチャージヘッドライト車）

そのほかの一般的な電球

電球ソケットおよび電球の取り外し／取り付けは、次の方法で行ないます。

■ 電球ソケットの取り外し／取り付け

- ソケットをランプ本体から取り外すときは、ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。
- 取り付けるときは、ソケットをランプ本体の切り欠きにあわせて差し込み、時計方向にまわします。



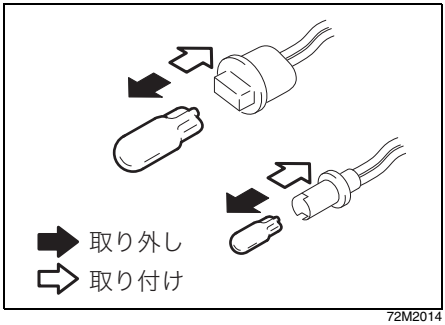
72M2038

■ 電球の取り外し／取り付け

2つのタイプがあります。

- **A**タイプは、図のように抜き差しするだけです。

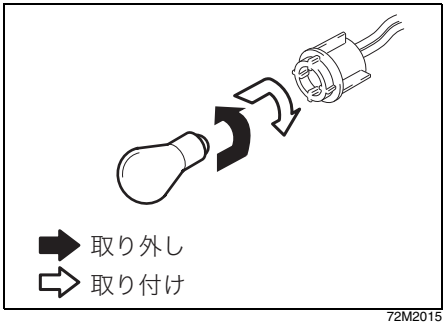
Aタイプ



72M2014

- **B**タイプは、次のようになります。
  - 取り外すときは、電球を押しながら反時計方向にまわします。
  - 取り付けるときは、電球を押しながら時計方向にまわします。

Bタイプ

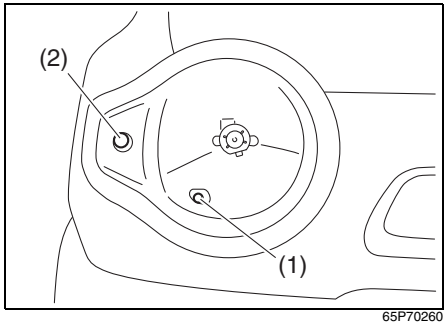


72M2015

■ 車幅灯（ハロゲンヘッドライト車）、方向指示器／非常点滅表示灯（前面）

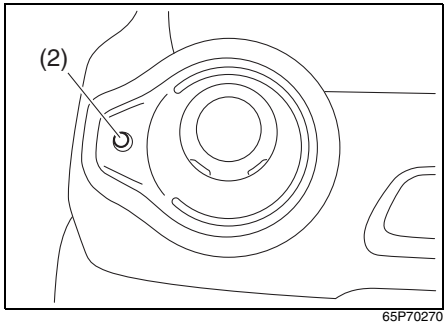
ボンネットを開け、エンジンルーム内から交換します。

ハロゲンヘッドライト車



65P70260

ディスチャージヘッドライト車



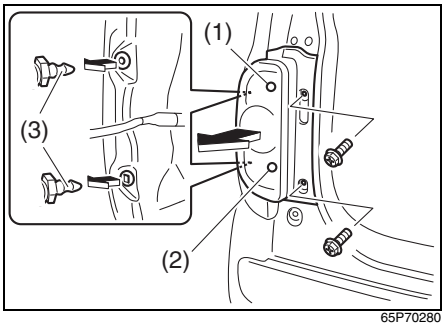
65P70270

(1) 車幅灯（**A** タイプ）
(2) 方向指示器／非常点滅表示灯（前面、**A** タイプ）

■ リヤコンビネーションランプ

バックドアを開け、ランプ全体を外してから交換します。

- ボルト 2 個は、プラスドライバー（市販品）などで外します。
- ランプ本体は、車両の後方へまっすぐ引いて外します。



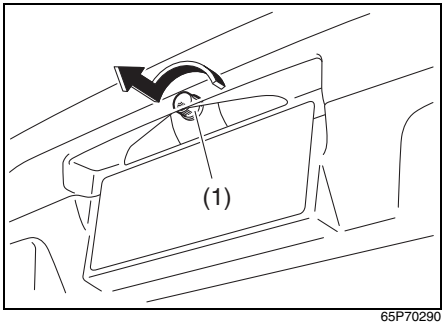
65P70280

(1) 方向指示器／非常点滅表示灯（後面、**A**タイプ）
(2) 後退灯（**A**タイプ）

- ランプ本体をもとにもどすときは、クリップ 2 か所（3）を車体側の穴にあわせて押し込みます。

■ 番号灯（Aタイプ）

レンズ（1）を反時計方向にまわして外してから交換します。



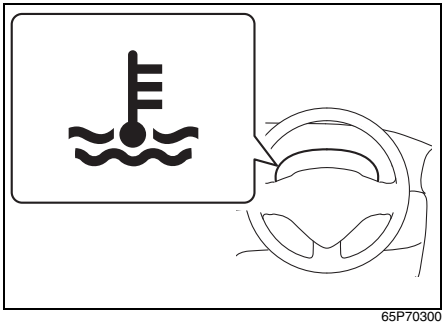
65P70290

オーバーヒートとは

次のようなときは、オーバーヒートです。

- メーター内の水温警告灯が赤色に点灯
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

水温警告灯



65P70300

メーターパネル内にあります。

- エンジン回転中に、エンジン冷却水温が高くなると赤色に点滅します。また、エンジン冷却水温が異常に高くなったときは赤色に点灯します。
  → **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

オーバーヒートしたときは

1 車を安全な場所に止めます。

2 エンジンをかけたままでボンネットを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けずに次の手順を行なってください。
  → **5-3ページ（ボンネット）**

⚠警告

エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどのおそれがあります。

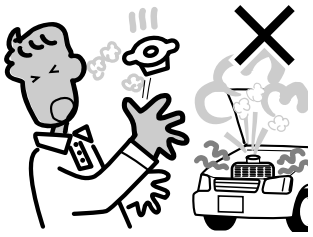
3 冷却ファンの作動を確認し、水温警告灯が消灯するのを待ってエンジンを止めます。

- 冷却ファンが作動していないときや、水温警告灯が消灯しないときは、ただちにエンジンを止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

⚠警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。



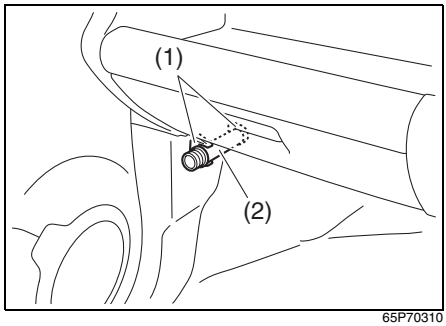
82K126

5 冷却水の量が不足しているときは補充します。

- 水漏れなどの異常があるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- 冷却水がなく、やむをえず水だけを補充したときは、できるだけ早くスズキサービス工場で冷却水の点検または交換をしてください。

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約 5 分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。



65P70310

(1) ホルダー　　(2) 発炎筒

⚠ 警告

●お子さまにはさわらせないでください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。
●必ずホルダーに保管してください。
●点火するときは、筒先を顔や身体に向けないでください。やけどのおそれがあります。
●ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。
●トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅表示灯をご使用ください。

故障したときは

故障したときの連絡先は

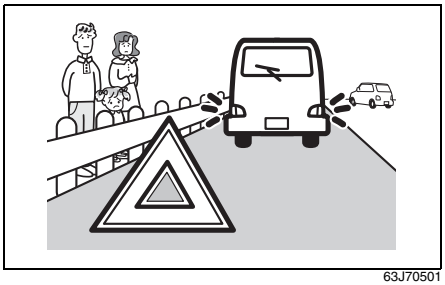
お買い求めのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。スズキ代理店およびJAFの連絡先は、別冊の「**スズキ 4 輪車サービスネットワーク**」をご覧ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。

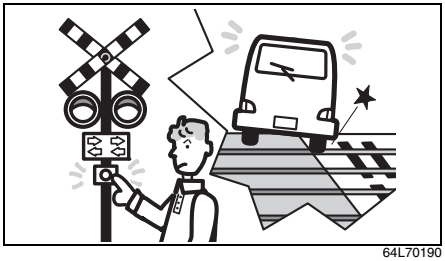


63J70501

全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

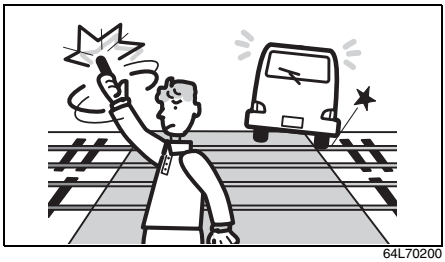
踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



64L70190

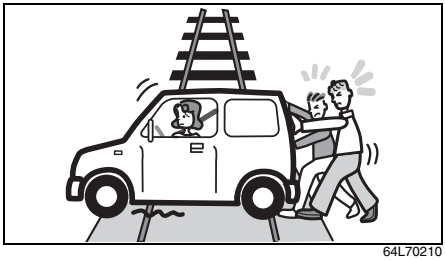
踏切の非常ボタンがわからないときは、発炎筒で列車に合図してください。



64L70200

エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押してもらって、車を安全な場所まで移動させてください。
このとき、オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れます。
マニュアル車 はチェンジレバーを N（ニュートラル）に入れます。



64L70210

アドバイス

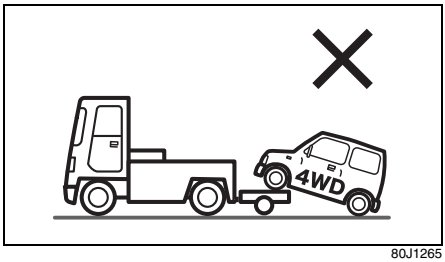
オートマチック車 、マニュアル車 ともエンジンスイッチを START の位置で保持してスターターをまわすことにより、車を動かすことはできません。

けん引してもらうときは

- レッカー車でけん引するとき、4WD車は必ず４輪を持ち上げてください。2WD車は4輪または駆動輪である前輪を持ち上げてください。
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- エンジンがかかっていても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。
  けん引する前に、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

⚠警告

●レーザーレーダー装備車をけん引するときは、レーダーブレーキサポート（RBS）OFFスイッチを操作して作動停止（OFF）にしてください。急にRBSが作動して思いがけない事故につながるおそれがあります。
●4WD車は、前輪だけまたは後輪だけを台車に載せた（車輪が回転できない）状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛び出すなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。



80J1265

ロープけん引

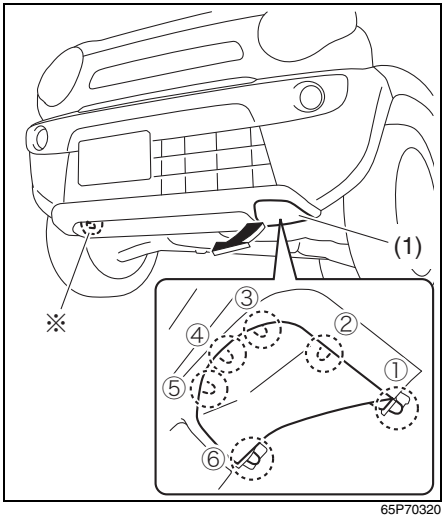
ロープをかける位置は

ロープは、けん引フックにかけます。

1 けん引フックカバー（1）を外します。
- カバーのつめを図の番号順に手前に引いて外します。このとき、カバーには落下防止のひもがついているため勢いよく引かないでください。

注記

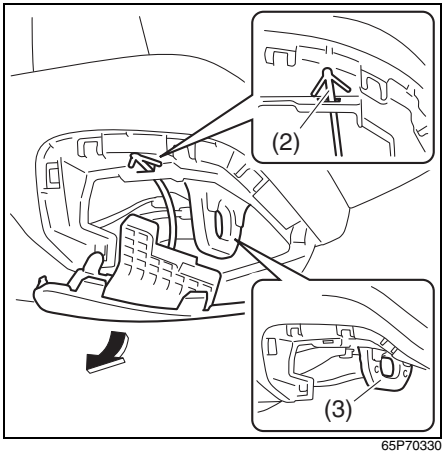
けん引フックカバーを勢いよく引くと、落下防止のひもが破損するおそれがあります。



65P70320

2 バンパーから落下防止のひも（2）を外します。

- 取り外したカバーは、車内で保管してください。



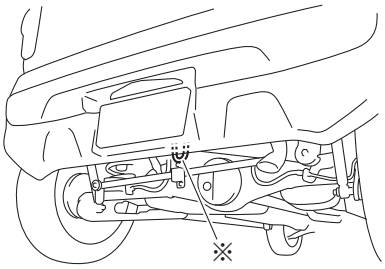
65P70330

(3) けん引フック

注 記

●この車で他車をけん引することはできません。

●フロント側およびリヤ側に装備されている※印のフックは、車を輸送するときの固定用フックです。けん引には使用しないでください。フックや車体が破損するおそれがあります。



65P70340

ロープでけん引してもらうときは

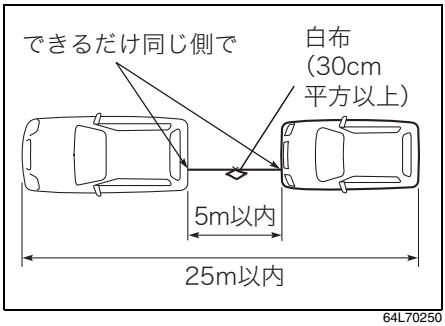
1 けん引フックにロープをかけます。

- ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。

注 記

けん引中に、ロープがバンパーを傷つけるおそれがあるときは、あらかじめバンパーを外してください。

2 ロープの中間に白い布（30cm 平方以上）を付けます。



64L70250

3 エンジンはかけたままにします。

- エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを LOCK (OFF) 以外の位置にします。
- ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。
- レーザーレーダー装備車は、エンジンスイッチ位置が ON のときは、レーダーブレーキサポート（RBS）OFF スイッチを操作して作動停止（OFF）にしてください。

⚠警告

エンジンがかからない車の運転

- **キーを抜いたりエンジンスイッチを LOCK（OFF）の位置にしたりしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。**
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。**

⚠注意

故障や鉛バッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

4 オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れます。
マニュアル車 はチェンジレバーをN（ニュートラル）に入れます。

アドバイス

オートマチック車 の場合、故障や鉛バッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを ON にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーの位置を P からほかの位置へ動かせないときは、**4-18 ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

5 けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

- 後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅表示灯を点滅させてください。

⚠警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

注記

- **けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。**
- **オートマチック車 を、やむをえずロープでけん引してもらうときは、トランスミッション保護のため、速度30 km/h以下、走行距離30 km以内にしてください。**

万一、事故が起きたときは

処置のしかた

1 事故の続発を防ぐため、ほかの交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。

2 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。

3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。

4 相手方、事故の状況をメモします。

5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

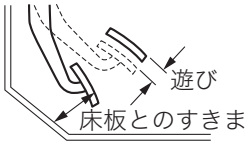
外傷がなくても医師の診断を受けましょう

後遺症が出るおそれがあります。

項　　目		データ		
燃料	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン		
	タンク容量	27 L		
エンジンオイル（※）	グレード	ターボなし車	スズキエクスターF SM/GF-4 0W-20	
		ターボ車	スズキエクスターF SL 5W-30	
	規定量	オイル交換時		2.6 L
		オイル、オイルフィルター同時交換時		2.8 L
トランスミッションフルード（CVT車）	グレード	スズキCVTF グリーン2		
	規定量	5.7 L		
トランスミッションオイル（MT車）	グレード	スズキ4輪ギヤオイル　75W-80（SAE 75W-80、API GL-4相当）		
	規定量	2.3 L		
トランスファーオイル（4WD車）	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 75W-85（SAE 75W-85、API GL-5相当）		
	規定量	0.5 L		
リヤデファレンシャルオイル（4WD車）	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 75W-85（SAE 75W-85、API GL-5相当）		
	規定量	1.0 L		
冷却水	グレード	スズキ純正スーパーロングライフクーラント（青色）		
	規定量	ターボなし車	MT車	2.9 L
			CVT車	3.0 L
		ターボ車		3.4 L
ウォッシャー液	グレード	スズキ純正ウインドーウォッシャー液		
	タンク容量	1.5 L		
ブレーキ液	グレード	スズキ純正ブレーキフルード（DOT-3）		

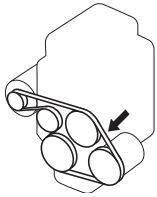
※適切なオイルのご使用方法については、**2-35 ページ**の「**エンジンオイルの規格／粘度**」をお読みください。

- 油脂類などの交換時期、規定の冷却水濃度は、「**メンテナンスノート**」をご覧ください。
- 指定外のトランスミッションフルード、ブレーキ液は絶対に入れないでください。

項目		データ		
スパークプラグ	タイプ	NGK: ILMAR7A8（イリジウム）		
	電極のすきま	0.7～0.8 mm		
バッテリー	タイプ	鉛バッテリー	アイドリングストップシステム非装備車	38B19R
			アイドリングストップシステム装備車	K-42R
		リチウムイオンバッテリー	点検不要（※1）	
フロントブレーキ	ディスク厚さ（※2）	ソリッドディスク	基準値（新品時）	11.0 mm
			限度値	10.0 mm
		ベンチレーテッドディスク	基準値（新品時）	17.0 mm
			限度値	15.0 mm
リヤブレーキ	ドラム内径（※2）	基準値（新品時）		165 mm
		限度値		166 mm
ブレーキペダル	遊び	1～8 mm		
	床板とのすきま	54 mm以上〔踏み込み力 300 N（31 kgf）〕		
パーキングブレーキペダル	踏みしろ	6～8 ノッチ〔踏み込み力 300 N（31 kgf）〕		
パーキングブレーキレバー	引きしろ	4～9 ノッチ〔操作力 200 N（20 kgf）〕		
クラッチペダル	遊び	15～20 mm		
	床板とのすきま	56～76 mm（クラッチが切れたとき）		
	 65P80020			

※1 リチウムイオンバッテリーの交換または廃棄については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

※2 点検して限度値に達していたら、ディスクやドラムを新品に交換してください。なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターやキャリパーゲージによる測定が必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

項目		データ		
ドライブベルト	たわみ量〔100N(10kgf)で押したとき〕	エネチャージ非装備車	新品時	3.7～4.3 mm
			再張時	5.2～6.0 mm
		エネチャージ装備車	新品時	3.4～3.8 mm
			再張時	4.5～5.2 mm
		 50M0167		
ハンドル	遊び	0～30 mm（ホイール外周）		
タイヤ	ローテーション	5,000 km走行ごと		

■ 電球の容量

● 交換方法については、参照先の内容をお読みください。

名　　称			ワット数（型式）	参照先
ヘッドライト	ハロゲン仕様車		60/55W(H4)	**7-26ページ**
	ディスチャージ仕様車		35W(D4S)	※1
フォグランプ			35W(H8)	**7-27ページ**
車幅灯	標準車		5W(W5W)	**7-29ページ**
	ディスチャージ仕様車		LED	※2
方向指示器／非常点滅表示灯	前面		21W(WY21W)	**7-29ページ**
	側面	フェンダー	5W	※2
		ドアミラー	LED	※2
	後面		21W(WY21W)	**7-29ページ**
制動灯／尾灯			LED	※2
ハイマウントストップランプ			LED	※2
後退灯			16W(W16W)	**7-29ページ**
番号灯			5W(W5W)	**7-29ページ**
前席室内灯			10W	
荷室室内灯			10W	

● 表に記載されている次の電球の場合、点検・交換の際はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

※1 高電圧の電球を使用しているため、感電のおそれがあります。

※2 非分解式のランプのため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。

■ タイヤ／ホイール

指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。

タイヤの空気圧

タイヤの種類	タイヤサイズ	空気圧
標準タイヤ	165/60R15 77H	250 kPa （2.5 kgf/cm^2）
応急用スペアタイヤ（別売り）	T135/70D15	420 kPa （4.2 kgf/cm^2）

ホイールのサイズ

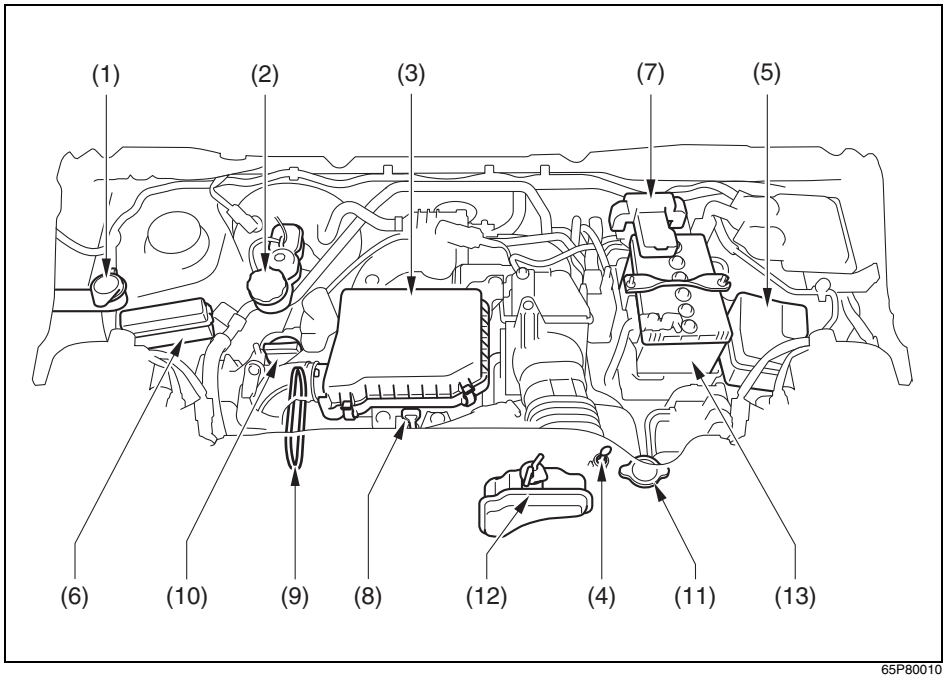
タイヤ	適合ホイール		
	リムサイズ	インセット	取り付けピッチ円直径（PCD）
165/60R15 77H	15 × 4 1/2J	45 mm	100 mm

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

エンジンルームをのぞいて

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



65P80010

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) **ウォッシャータンク**
(2) **ブレーキフルードリザーバータンク**
(3) エアクリーナー
(4) CVTフルードレベルゲージ
(5) リレーボックスNo.1
(6) リレーボックスNo.2
(7) メインヒューズボックス
(8) **エンジンオイルレベルゲージ**
(9) ドライブベルト
(10) エンジンオイルフィラーキャップ
(11) ラジエーターキャップ
(12) **冷却水リザーバータンク**
(13) **鉛バッテリー**

次の機能は、必ず初期設定してください

項目	機能	初期設定が必要なとき
パワーウインドー → **3-20ページ**	はさみ込み防止機能 → **3-22ページ**	鉛バッテリー端子やヒューズ（**7-20ページ**参照）を外すなどしたとき

こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

次の機能以外の設定切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- セキュリティアラーム
- リモート格納ミラー（タイプ別装備）

■ 全車共通

項目	機能	初期設定（工場出荷時）	設定切替え時
アンサーバック機能 → **3-6ページ**	非常点滅表示灯／室内灯による合図	非常点滅表示灯/室内灯	室内灯のみ
	車外ブザーによる合図（キーレスプッシュスタートシステム装備車のみ）	あり	なし
セキュリティアラーム → **3-17ページ**	セキュリティアラームモード	警報モード	警報なしモード

■ タイプ別装備

項目	機能	初期設定 (工場出荷時)	設定切替え時
キーレスプッシュスタートシステム（タイプ別装備）	車室内、荷室、前席／バックドアにある発信機の機能 → **2-12ページ**	あり	なし
	携帯リモコン電池消耗警告の表示（約15秒間） → **3-9ページ**	あり	なし
	携帯リモコン検出範囲外警告ブザーの吹鳴（1回） → **4-7ページ、4-11ページ**	なし	あり
リモート格納ミラー（タイプ別装備） → **3-27ページ**	ドアの施錠やエンジンスイッチ操作による連動動作	あり	なし
エコドライブアシスト照明（タイプ別装備） → **3-64ページ**	スピードメーター上部に点灯する色が青、緑、白に変化	あり	なし

数字

4WD車の運転 ····· 2-31

A

ABS
（アンチロックブレーキシステム）
警告灯 ····· 3-67、4-30
装置 ····· 4-27

E

ESP® ····· 4-32
ESP® OFFスイッチ ····· 4-34
ESP® OFF表示灯 ····· 4-35
ESP®作動表示灯 ····· 4-33

I

ISOFIX ····· 3-61
ISOFIX対応チャイルドシート
固定専用金具 ····· 3-61

R

Rポジション警告ブザー ···· 2-27、4-20

S

S（スポーツ）モード表示灯 ····· 3-73
SRSエアバッグ警告灯
····· 3-45、3-53、3-66
SRSエアバッグシステム ···· 2-28、3-46

U

USB/HDMI/VIDEOソケット ····· 5-18

ア

アームレスト（ひじ掛け） ····· 5-20
アームレストボックス ····· 5-16
アイドリングストップ時間 ····· 4-65
アイドリングストップシステム ··· 4-52
アイドリングストップシステム
OFFスイッチ ····· 4-63
アイドリングストップシステム
OFF表示灯 ····· 3-75
アイドリングストップ節約燃料 ··· 4-65
アイドリングストップ表示灯
····· 3-75
アクセサリーソケット ····· 5-19
アシストグリップ ····· 5-20
アルミホイール
タイヤ交換の準備 ····· 7-10
タイヤチェーン ····· 6-17
アンサーバック機能 ····· 3-6
アンテナ ····· 5-38

イ

イベントデータレコーダー（EDR）
····· 3-53
イモビライザー警告灯 ····· 3-71、4-4
イモビライザーシステム ····· 4-4
インパネアンダートレー ····· 5-9
インパネトレー ····· 5-9
インパネポケット ····· 5-9
インパネボックス（助手席） ····· 5-10

ウ

ウインドー
ウインドーロックスイッチ ····· 3-21
パワーウインドー ····· 3-20
フロントガラスの手入れ ····· 6-3
ウォッシャー液 ····· 6-12、8-1、8-6
ウォッシャースイッチ ····· 3-108
運転支援機能 ····· 4-41
運転席シートヒータースイッチ ··· 3-32

エ

エアクリーナーフィルターの
交換 …… 6-7
エアコン、ヒーター
オートエアコン …… 5-28
吹出し口 …… 5-23
マニュアルエアコン …… 5-24
エアフィルター …… 5-37
エコ運転表示機能 …… 3-86、4-65
エコクール …… 4-64
エコスコア …… 3-83、4-65
エコドライブ …… 2-36
エコドライブアシスト照明 …… 4-64
エネチャージ …… 4-64
エネチャージ表示 …… 3-84
エマージェンシーストップシグナル
(ESS) …… 4-31
エンジンオイル …… 2-35、3-70、8-1
エンジン回転計(タコメーター) … 3-82
エンジンキー …… 3-2
エンジン警告灯 …… 3-69
エンジンスイッチ …… 4-2
エンジンスイッチ照明 …… 4-8、4-46
エンジンスイッチもどし忘れ
警告ブザー …… 4-13
エンジンのかけかた …… 4-9
エンジンの止めかた …… 4-11
エンジンフード(ボンネット) …… 5-3
エンジンブレーキ …… 2-18
エンジンルームをのぞいて …… 8-6
エンジンを止めるときは …… 4-11
エンスト …… 7-32

オ

オイル(エンジンオイル)
…… 2-35、3-70、8-1
応急用スペアタイヤ
取扱い …… 7-9
オーディオ …… 5-39
オートエアコン …… 5-28
オートマチック車
運転…… 4-22
セレクトレバー…… 4-16
オートライトシステム…… 3-103
オートレベリング警告灯…… 3-68
オーバーヒート…… 7-30
お子さま用シートの
シートベルトによる固定…… 3-59
お子さま用シートの
選択について…… 3-54
お子さまを乗せるときは…… 2-7
オドメーター…… 3-81

カ

外気導入
(エアコン、ヒーター)…… 5-26、5-32
外装のお手入れ…… 6-2
ガソリン(燃料)…… 2-26、8-1
仮眠するときは…… 2-23
ガレージジャッキ…… 7-13
冠水した場所…… 2-20
寒冷時の取扱い…… 6-12

キ

キー(エンジンキー)…… 3-2
キーインターロック…… 4-19
キースイッチ(エンジンスイッチ)…… 4-2
キーナンバープレート…… 3-4
キー抜き忘れ警告ブザー…… 4-13
キーレスエントリー…… 3-4
キーレスプッシュスタート
システム…… 4-5
キックダウン…… 4-19、4-23
給油…… 2-25、5-2、8-1

ク

空気圧…… 8-5
くもり取り
(デフロスター)…… 5-23、5-34
くもり取り(リヤデフォッガー)… 5-35

クラッチスタートシステム・・・・・・・・・4-9
クリープ現象・・・・・・・・・・・・・・2-26、4-19
グリップコントロール・・・・・・・・・・・・ 4-38
グリップコントロールスイッチ・・・ 4-39
車のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6-2
グローブボックス・・・・・・・・・・・・・・・ 5-11

ケ

警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1-10
警告灯・表示灯の見かた・・・・・・・・・・ 3-65
警告ブザー
　エンジンスイッチもどし忘れ
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-13
　キー抜き忘れ警告ブザー・・・・・・・・ 4-13
　警告ブザーが鳴ったときは・・・・・ 1-16
　携帯リモコン検出範囲外
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・ 4-7、4-11
　シートベルト警告ブザー・・・・・・・ 3-40
　パーキングブレーキ解除忘れ
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-15
　ハンドルロック未作動警告ブザー
　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-13
　ライト消し忘れ警告ブザー・・・・ 3-104
　リクエストスイッチ未作動
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-11
　R(リバース)ポジション
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・ 2-27、4-20
携帯電話・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-17
携帯リモコン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-7
携帯リモコン車外持ち出し警告・・・・・4-8
携帯リモコン電池消耗警告・・・・・・・・・3-9
携帯リモコン閉じ込み防止機能・・・ 3-11
警報装置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-17
けん引・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-33

コ

工具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-2
光軸調整ダイヤル・・・・・・・・・・・・・・ 3-106
後席シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-33
航続可能距離・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-82
故障したときは・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-31
誤発進抑制機能・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-46

サ

サービスデータ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-1
サンバイザー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-5

シ

シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-30
シートアンダーボックス
　（助手席）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-17
シートヒーター(運転席)・・・・・・・・・ 3-32
シートベルト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-40
シートベルト可変
　フォースリミッター・・・・・・・・・・・・ 3-45
シートベルト警告灯・・・・・・・・・・・・・ 3-66
シートベルト警告ブザー・・・・・・・・・ 3-40
シートベルトプリテンショナー・・・ 3-44
事故が起きたときは・・・・・・・・・・・・・ 7-36
室内灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-7、8-4
シフトダウンの上限速度
　マニュアル車・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-27
シフトロック・・・・・・・・・・・・・・4-17、4-25
ジャッキ(収納場所)・・・・・・・・・・・・・ 7-2
ジャッキアップ
　（タイヤチェーン）・・・・・・・・・・・・・ 6-18
ジャッキアップ
　（パンクしたとき）・・・・・・・・・・・・・ 7-11
集中ドアロック
　（パワードアロック）・・・・・・・・・・・ 3-16
充電警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-70
樹脂部品などの手入れ・・・・・・・・・・・・ 6-4
出発の前に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-2
ジュニアシート・・・・・・・・・・・・・2-8、3-55
瞬間燃費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-81
照明コントロール表示・・・・・・・・・・・ 3-84
助手席シートバックテーブル・・・・・ 5-20
ショッピングフック・・・・・・・・・・・・・ 5-18

9

ス

水温警告灯 ····· 3-68、7-30
スタック(立ち往生) ····· 2-20
ステアリングオーディオ
　スイッチ ····· 5-40
スノーブレード ····· 6-12
スピードメーター(速度計) ····· 3-64
スペアタイヤ(応急用スペアタイヤ)
　取扱い ····· 7-9
スポーツモードスイッチ ····· 4-18
スライドレバー ····· 3-30、3-33

セ

積算アイドリングストップ時間 ··· 3-82
積算アイドリングストップ
　節約燃料 ····· 3-83
セキュリティアラーム
　インジケーター ····· 3-76
セレクトレバー
　位置表示 ····· 3-79
　操作 ····· 4-16
洗車 ····· 6-2
前照灯(ヘッドライト)
　····· 3-103、7-25、8-4
前席シート ····· 3-30
センターインパネトレー ····· 5-9
センターロアポケット ····· 5-9

ソ

走行中の注意 ····· 2-16
速度計(スピードメーター) ····· 3-64

タ

ターボ車の運転 ····· 2-31
タイマーロック機能 ····· 3-7
タイヤ
　応急修理したあとは ····· 7-9
　応急修理のしかた ····· 7-5
　空気圧 ····· 8-5
　交換したあとは ····· 7-15
　交換するときは ····· 6-6
　交換の準備 ····· 7-10
　チェーン ····· 6-17
　パンク応急修理セット ····· 7-2
　冬用タイヤ ····· 6-13
　ホイールサイズ ····· 8-5
　ローテーション ····· 6-5
　輪止め ····· 2-22、6-13
タコメーター(エンジン回転計) ··· 3-82
立ち往生 ····· 2-20
暖機運転 ····· 2-36

チ

チェーン(タイヤチェーン) ····· 6-17
チケットホルダー
　(サンバイザー) ····· 5-5
チャイルドシート ····· 3-55
チャイルドプルーフ ····· 3-17
駐車するときは ····· 2-22、4-25、6-16
チルトステアリング ····· 3-29

テ

停止表示板 ····· 7-31
低水温表示灯 ····· 3-75
ディスチャージ
　ヘッドライト ····· 7-25、8-4
デフロスター
　(エアコン、ヒーター) ····· 5-23
デフロスタースイッチ ····· 5-34
電球
　電球の交換(ランプ類) ····· 7-25
　電球の点検 ····· 7-25
　ワット数(ランプ類) ····· 8-4
点検 ····· 2-2、8-1
電源が切り替わらないときは ····· 4-7
電源の切替え ····· 4-6
電池交換(リモコンキー) ····· 6-8

ト

ドア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-12
ドアの開閉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-2
ドアポケット・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-16
ドアミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-25
ドアミラー角度調節スイッチ・・・・・ 3-25
ドアミラー格納スイッチ・・・・・・・・・ 3-26
ドアミラーヒータースイッチ・・・・・ 3-29
ドアロック解除機能・・・・・・・・・・・・・ 3-16
凍結防止剤・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-16
凍結路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-15
登降坂変速制御・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-19
トランスミッション警告灯・・・・・・・ 3-70
トリップメーター・・・・・・・・・・・・・・・ 3-81
ドリンクホルダー・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-12

ナ

内気循環
（エアコン、ヒーター）・・・・・ 5-26、5-32
内装のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6-4
長い荷物を積むとき
（助手席シート）・・・・・・・・・・・・・・・ 3-37
鉛バッテリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-4

ニ

日常点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-2

ネ

燃費
瞬間燃費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-81
平均燃費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-81
燃料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-26、8-1
燃料給油口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-2
燃料計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-79
燃料残量警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-67
燃料タンク容量・・・・・・・・・・・・・・・・・・8-1

ハ

パーキングブレーキ
寒冷時の取扱い・・・・・・・・・・・・・・・ 6-16
操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-14
ブレーキ警告灯・・・・・・・・・・・・・・・ 3-65
ハイドロプレーニング現象・・・・・・・ 2-19
ハイマウントストップランプ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-28、8-4
はさみ込み防止機構・・・・・・・・・・・・・ 3-22
発炎筒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-31
バックアイカメラ・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-41
バックドアガラスの
室内側の手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-5
バックミラー(ルームミラー)・・・・・ 3-24
バッテリー
鉛バッテリー・・・・・・・・・・・・・・・・・2-4、6-12
鉛バッテリーあがり・・・・・・・・・・・・ 7-16
鉛バッテリーを
交換するときは・・・・・・・・・・・・・・ 7-18
バッテリーについて・・・・・・・・・・・・・ 2-3
リチウムイオンバッテリー・・・・・・ 2-5
バッテリーあがり・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-16
バニティーミラー
（サンバイザー）・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-6
ハロゲンヘッドライト・・・・・・・・7-26、8-4
パワーウインドー・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-20
パワーステアリング警告灯・・・・・・・ 3-69
パワードアロック・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-16
パンク
応急修理のしかた・・・・・・・・・・・・・・ 7-5
タイヤ交換・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-10
番号灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-29、8-4
半ドア警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-71
ハンドルロックが解除できない
ときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-4
ハンドルロック未解除警告・・・・・・・・ 4-4
ハンドルロック未作動
警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-13

ヒ

ヒーター(エアコン) ····· 5-23
　オートエアコン ····· 5-28
　吹出し口 ····· 5-23
非常点滅表示灯 ····· 7-28、7-29、8-4
非常点滅表示灯スイッチ ····· 3-107
必読！ ····· 2-2
ヒューズ切れ ····· 7-20
表示灯 ····· 1-10
日よけ(サンバイザー) ····· 5-5
ヒルディセントコントロール ····· 4-35
ヒルディセントコントロール
　スイッチ ····· 4-36
ヒルディセントコントロール
　表示灯 ····· 4-37
ヒルホールドコントロール ····· 4-66

フ

ブースターケーブル ····· 7-16
フォグランプ ····· 7-27、8-4
フォグランプスイッチ ····· 3-105
フットレスト ····· 5-19
フューエルキャップ ····· 5-2
フューエルリッド ····· 5-2、5-3
フルフラットシート ····· 3-38
ブレーキ
　ブレーキ液 ····· 8-1
　ブレーキ警告灯 ····· 3-65
　ブレーキ倍力装置
　　····· 2-21、4-11、7-35
ブレーキシステム警告灯 ····· 3-72
フロントシート ····· 3-30
フロントワイパー／
　ウォッシャースイッチ ····· 3-108

ヘ

平均燃費 ····· 3-81
ヘッドライト(前照灯)
　····· 3-103、7-25、8-4
ヘッドライト上向き(ハイビーム)
　表示灯 ····· 3-73
ヘッドレスト
　後席 ····· 3-34
　前席 ····· 3-31
ベビーシート ····· 3-55

ホ

ホイールサイズ ····· 8-5
方向指示器 ····· 7-28、7-29、8-4
方向指示器スイッチ ····· 3-107
方向指示器表示灯 ····· 3-73
ホーンスイッチ ····· 3-110
ボンネット ····· 5-3

マ

マスターウォーニング ····· 3-77
マニュアルエアコン ····· 5-24
マルチインフォメーション
　ディスプレイ ····· 3-78
　メッセージ ····· 3-95
万一のとき ····· 7-1

ミ

ミラー
　ドアミラー ····· 3-25
　バニティーミラー
　　(サンバイザー) ····· 5-6
　ルームミラー ····· 3-24

メ

メーター
　マルチインフォメーション
　　ディスプレイ ····· 3-78
メーターの照明 ····· 3-64
メーターの見かた ····· 3-64

ユ

油圧警告灯 ····· 3-70
雪道を走行するとき ····· 6-15

ヨ

よくあるご質問 …… 1-24
横風が強いときは …… 2-19

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー …… 3-104
ライトスイッチ …… 3-103
ライト点灯表示灯 …… 3-73
ラゲッジアンダーボックス …… 5-21
ラジエーターキャップ …… 7-30、8-6
ランプ
　室内灯 ……5-7
　電球の交換(ランプ類) …… 7-25
　ハイマウントストップランプ … 7-28
　番号灯 …… 7-29
　フォグランプ ……3-105、7-27
　ヘッドライト …… 7-25
　方向指示器／非常点滅表示灯
　　…… 7-28、7-29
　リヤコンビネーションランプ … 7-29
　ワット数(ランプ類) ……8-4

リ

リクエストスイッチ ……3-9
リクエストスイッチ未作動
　警告ブザー …… 3-11
リクライニングレバー …… 3-30
リジッドラック …… 7-13
リチウムイオンバッテリー ……2-5
リッド付インパネボックス
　(助手席) …… 5-10
リバース(R)ポジション警告ブザー
　…… 2-27、4-20
リモート格納ミラー …… 3-27
リモコンキーの電池交換 ……6-8
リヤ(後席)シート …… 3-33
リヤコンビネーションランプ …… 7-29
リヤデフォッガースイッチ …… 5-35
リヤワイパー/ウォッシャー
　スイッチ …… 3-109

ル

ルーフアンテナ …… 5-38
ルーフレール …… 5-22
ルームミラー …… 3-24
ルームランプ(室内灯) …… 5-7、8-4

レ

冷却水(ラジエーター液)
　寒冷時の取扱い …… 6-12
　規定水量 …… 8-1
レーザーレーダー …… 4-50
レーダーブレーキサポート
　(RBS) …… 4-41
レーダーブレーキサポート
　(RBS)OFFスイッチ …… 4-49
レーダーブレーキサポート
　(RBS)OFF表示灯 …… 3-76
レーダーブレーキサポート
　(RBS)作動表示灯 …… 3-77

ワ

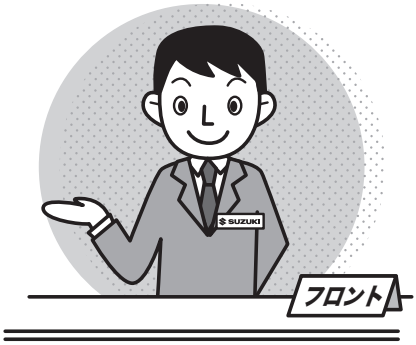
ワイパー
　寒冷時の取扱い …… 6-12、6-13、6-16
　ワイパースイッチ ……3-108
ワックス …… 6-2

MEMO

お問い合わせ、ご相談は

お車のことや、車検・点検などのアフターサービスについてのお問い合わせやご相談がございましたら

まずは、お買い上げいただきましたスズキ販売店またはスズキ代理店にお尋ねください。



スズキ代理店にお問い合わせやご相談をいただくときは、別冊の「スズキ4輪車サービスネットワーク」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご連絡ください。
お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめ、お手元に車検証をご準備いただき、次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。

①車名、車台番号、ナンバープレートの番号など
②ご購入年月日
③走行距離
④ご相談内容
⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号